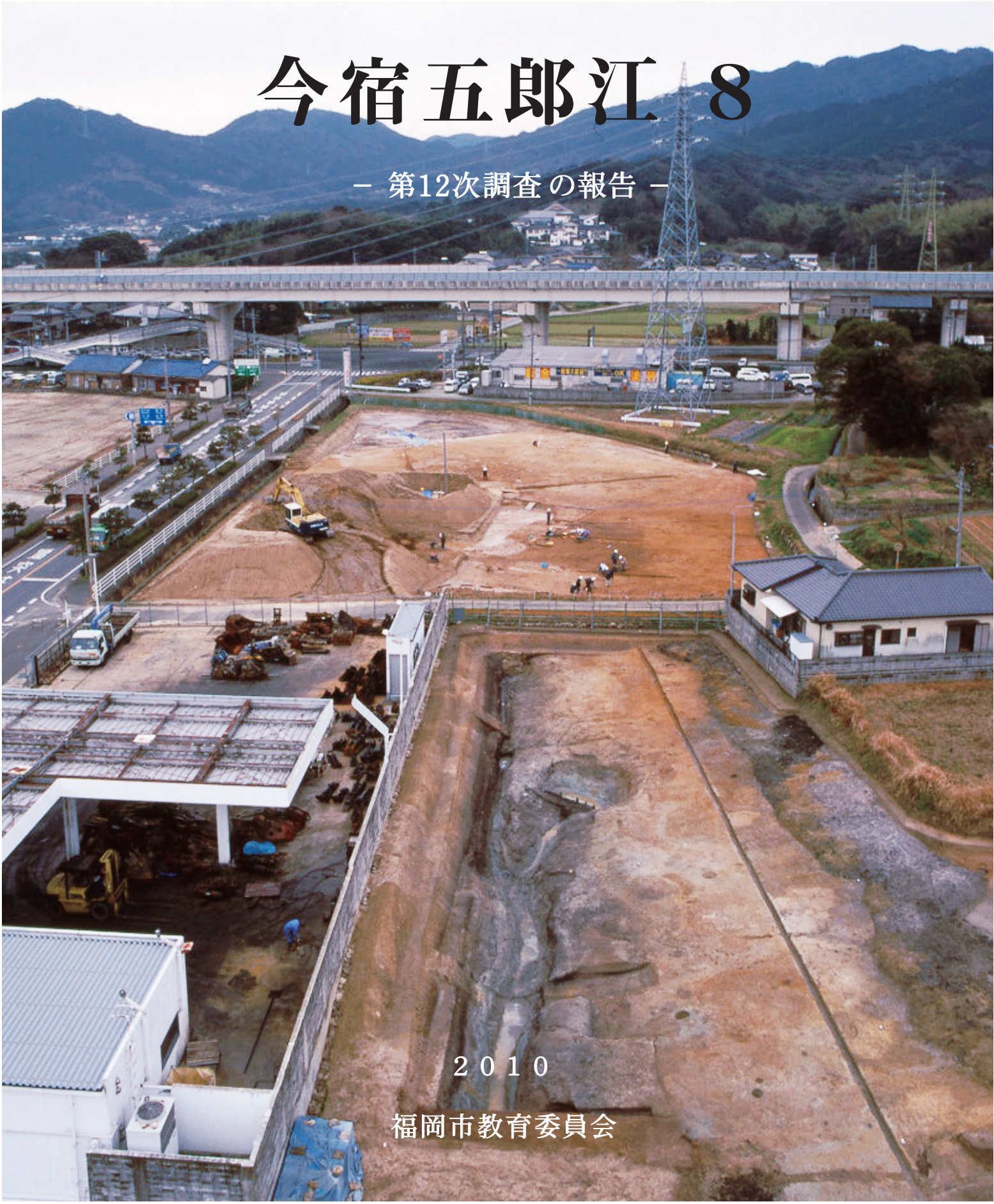
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第１０６６集

今宿五郎江 8

－ 第12次調査の報告 －



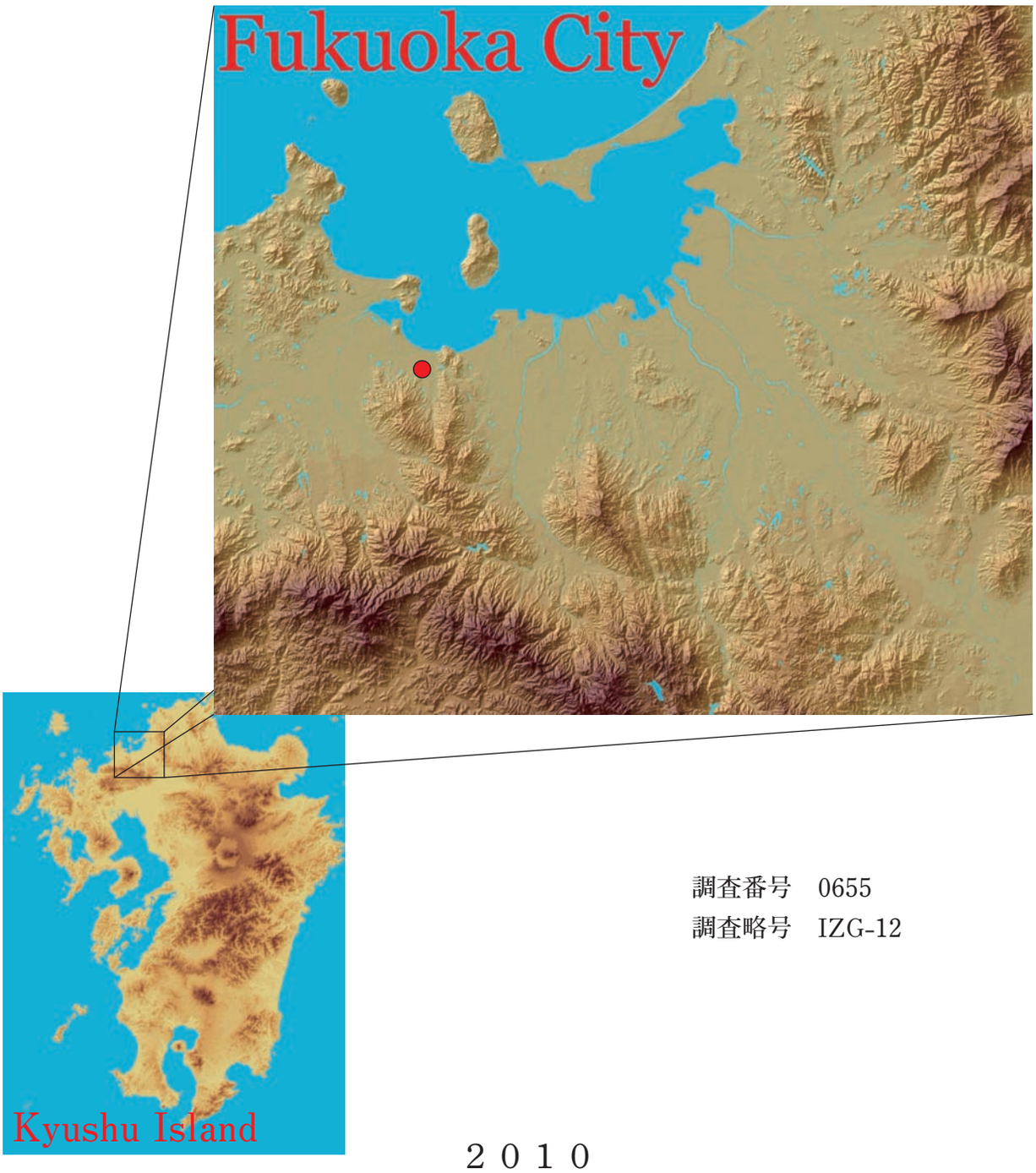
２０１０

福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第１０６６集

Imajukugoroue

今宿五郎江 8



調査番号　0655
調査略号　IZG-12

２０１０

福岡市教育委員会

調査地と志摩半島を望む（伊都区画整理事務所 提供）

今宿五郎江遺跡第12次調査区全景（北から）

今宿五郎江遺跡第12次調査環濠掘削状況（北から）

今宿五郎江遺跡第12次調査出土漆塗筒形容器

W153

0

20cm

W188

序

福岡市は、豊かな自然環境と地理的条件に恵まれ、古くから大陸の先進文化を受け入れる窓口として栄えてきました。市内には最古の稲作の村である板付遺跡、古代の迎賓館である鴻臚館、貿易都市博多などをはじめとする貴重な文化財が残されています。福岡市教育委員会では、開発工事に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し記録による保存と保護を行うなど、その保護に努めています。

本書で報告する今宿地区周辺では、これまでに弥生時代から中世にかけての集落跡などが調査されており、当時の生活用具である土器や石器など多くの遺物が出土しています。

今回報告する伊都区画整理事業に伴う調査では、弥生時代の環濠が発見され、多くの木製遺物が見つかり、この地域の歴史を解明する上でたいへん貴重な発見となりました。

本書の刊行が、市民の皆様の埋蔵文化財に対するご理解を深める一助となりますとともに、学術研究の分野でも役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の発掘調査に際しご理解と多大なご協力をいただいた地元住民の方々をはじめ、事業関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

平成22年１月27日

福岡市教育委員会
教育長　山田 裕嗣

例 言

（１）　本書は、福岡市教育委員会が2006（平成18）年度に福岡市西区今宿地内において伊都土地区画整理事業に伴い行った埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

（２）　発掘調査は福岡市教育委員会が行い、調査担当は加藤隆也である。

（３）　遺構実測・撮影は加藤が行い、空中写真は写測エンジニアリング㈱が行った。

（４）　出土遺物の実測は西堂将夫、加藤が行い、写真撮影は加藤、製図は西堂、加集和子、大久保玲子が行った。出土遺物480の実測とFig.2の作成は杉山富雄の協力を得た。

（５）　今回の調査・報告に係る座標は伊都土地区画整理事業に伴い設置された基準点（日本測地系）を使用しており、図中に使用した方位は国土座標の座標北である。真北から0°19′西偏している。

（６）　出土木製品の樹種同定はパリノ・サーヴェイ㈱が行い、出土動物遺存体については同文化財部の屋山 洋が行い、その報告もあわせて依頼した。扉に使用した画像は、福岡市史編さん室宗 達郎氏の協力を得た。出土木製品の整理においては、出土木器研究会各位にご指導をいただいた。

（７）　遺構の呼称は略号化し、掘立柱建物－ＳＢ、土壙－ＳＫ、溝－ＳＤ，柱穴－ＳＰとした。

（８）　今回の調査に伴う出土資料および記録類は埋蔵文化財センターで収蔵保管し、利用に供する予定である。

遺跡調査番号	０６５５	遺 跡 略 号	ＩＺＧ-１２
地　　番	福岡市西区今宿町地内	分布地図番号	112（今宿）
調査対象面積	130ha（工事面積）	調 査 面 積	1,340㎡
調 査 期 間	平成18年12月1日～平成19年3月9日		

本 文 目 次

第Ⅰ章　はじめに
　1．調査に至る経緯 …… 1
　2．調査の組織 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の立地と歴史的環境 …… 3
第Ⅲ章　調査の記録 …… 6
　1．調査の概要 …… 6
　2．遺構と遺物 …… 6
　3．まとめ …… 129
第Ⅳ章　出土遺物の科学分析
　1．今宿五郎江遺跡第12次出土動物遺存体について　屋山 洋 …… 130
　2．今宿五郎江遺跡第12次出土木製品の樹種　パリノ・サーヴェイ株式会社 …… 131～142

挿 図 目 次

Fig.1　周辺遺跡分布図（1/25,000） …… 2
Fig.2　今宿五郎江遺跡調査地点位置図（1/2,000） …… 4
Fig.3　今宿五郎江遺跡第12次調査遺構配置図（1/300） …… 5
Fig.4　今宿五郎江遺跡第12次調査台地上遺構配置図（1/250） …… 7
Fig.5　SB-01，02，03，04遺構実測図（1/60） …… 9
Fig.6　SB-05，06遺構実測図（1/60） …… 10
Fig.7　SB-07，08遺構実測図（1/60） …… 11
Fig.8　SK-01，02，03遺構実測図（1/40） …… 12
Fig.9　SP、SK出土遺物実測図（1/3） …… 13
Fig.10　SD-02出土遺物実測図（1/3） …… 14
Fig.11　SD-01北壁土層堆積状況図　（1/40） …… 15
Fig.12　SD-01(A),(B)位置図（1/200） …… 16
Fig.13～24　SD-01（A）出土遺物実測図 …… 19～30
Fig.25～27　SD-01（B）出土遺物実測図 …… 31～33
Fig.28，29　井泉裏ごめ出土遺物実測図 …… 34，35
Fig.30　井泉検出状況実測図（1/40） …… 35
Fig.31～35　第３区井泉内出土遺物実測図 …… 36～40
Fig.36～39　第４区土器溜まり出土遺物実測図 …… 41～44
Fig.40～53　黒色土 出土遺物実測図 …… 45～58
Fig.54～56　SD-01出土のその他遺物実測図 …… 59～61
Fig.57　SD-01出土木製品分布状況図（1/200） …… 80
Fig.58～101　SD-01出土木製品実測図 …… 81～124

表１　第12次調査出土土器観察表 …… 63～76
表２　第12次調査出土石製品他遺物観察表 …… 77～79
表３　第12次調査出土木製品観察表 …… 125～128

図版目次

カラー図版　調査地と志摩半島を望む（伊都区画整理事務所 提供）
今宿五郎江遺跡第12次調査区全景（北から）
今宿五郎江遺跡第12次調査環濠掘削状況（北から）
今宿五郎江遺跡第12次調査出土漆塗筒形容器
今宿五郎江遺跡第12次調査出土木製短甲

PL. 1　1）第12次調査区全景（北から）　2）SB-04完掘状況（東から）
3）SK-01完掘状況（北東から）　4）SK-02調査状況（北東から）
5）SD-02調査状況（東から）

PL. 2　1）SD-01調査状況（北から）　2）SD-01黒色土掘削状況（西から）
3）SD-01井泉掘削状況（南から）　4）SD-01掘削状況（南東から）
5）SD-01掘削状況（南東から）

PL. 3　1）SD-01土器溜まり状況（南から）　2）SD-01土器溜まり状況（東から）
3）SD-01土器溜まり状況（北東から）　4）SD-01土器溜まり掘削状況（南から）
5）SD-01土器溜まり状況（北から）

PL. 4　1）SD-01掘削状況（南から）　2）SD-01掘削状況（南から）
3）SD-01木製品検出状況（南から）　4）SD-01木製品検出状況（南から）
5）井泉上層木製品検出状況（南東から）　6）井泉上層木製品検出状況（西から）
7）SD-01木製品出土状況（北から）　8）SD-01木製品出土状況（西から）

PL. 5　1）SD-01（B）完掘状況（北から）　2）SD-01（B）完掘状況（南から）
3）SD-01、井泉完掘状況（南から）　4）SD-01土層堆積状況（南東から）
5）SD-01土層堆積状況（南東から）

PL. 6　1）井泉掘削開始状況（南から）　2）井泉掘削状況（西から）
3）井泉上層遺物出土状況（南から）　4）井泉掘削状況（南から）
5）井泉完掘状況（西から）

PL. 7　1）井泉完掘状況（北東から）　2）井泉完掘状況（北から）
3）井泉完掘状況（北西から）　4）井泉完掘状況（南西から）
5）井泉完掘状況（南西から）

PL. 8　1）井泉完掘状況（南西から）　2）井泉構築状況（南西から）
3）井泉構築状況（北西から）　4）井泉横木切り込み状況（南西から）
5）井泉裏貨泉出土状況（西から）

PL. 9　1）SD-01（A）遺物出土状況（北東から）　2）SD-01（A）遺物出土状況（北から）
3）SD-01完掘状況（南から）　4）SD-01完掘状況（北から）
5）SD-01完掘状況（北東から）

PL. 10　1）現地説明会解説状況（西から）　2）現地説明会遺物展示風景
3）現地説明会遺物展示風景　4）現地説明会解説状況（南から）
5）大塚遺跡側現地説明会解説状況（南から）

PL. 11～PL. 56　出土遺物（縮尺不同）

第Ⅰ章　はじめに

1. 調査に至る経緯

今回報告する発掘調査は、伊都土地区画整理事業に伴う造成に先立つものである。伊都土地区画整理事業は福岡市西部、今宿平野の東半部を対象に計画された区画整理事業である。施工面積は約130haである。その範囲はかつての潟湖である今宿砂丘後背地を中心とし、高祖山麓の台地を含む範囲に及んでいる。今宿平野には、国指定史跡の大塚古墳を含む今宿古墳群をはじめとする多くの埋蔵文化財が周知されている。

1996（平成8）年11月、都市整備局伊都区画整理事務所から区画整理地内の埋蔵文化財について確認調査の依頼があった。福岡市教育委員会埋蔵文化財課では、計画地が、周知の埋蔵文化財包蔵地および隣接地を含むことから、事業地全体について遺跡の遺存状態の確認のため試掘調査が必要と判断し、区画整理事務所と協議を重ね、試掘可能な地点について調査を実施することとした。試掘調査は1996年12月から1997年2月にかけて計68箇所の地点に及んだ。

試掘の成果を受け、今宿五郎江遺跡内では2002（平成14）年度より第8次調査を開始した。2003（平成15）年度には第9次調査、2004（平成16）年度には第10次調査、2005（平成17）年度には第11次調査と毎年継続して発掘調査を行ってきている。また、隣接する谷遺跡、大塚遺跡においては、現在も継続して発掘調査が行われている。

今回報告する今宿五郎江遺跡第12次調査は、第11次調査地点の南側隣接地にあたり、2006（平成18）年12月1日に着手し、翌年3月9日に終了した。そして、調査途中の2月24日には遺跡現地説明会を開催し、市民の方々をはじめ多くの見学者にお集まりいただいた。

2. 調査の組織

調査の体制は以下のとおりである。

調査委託	伊都土地区画整理		
調査主体	福岡市教育委員会	教育長	植木とみ子（調査時）
			山田 裕嗣
調査総括	文化財部埋蔵文化財第2課	課長	力武 卓治（調査時）
			田中 壽夫
	埋蔵文化財課第2課	調査第1係長	池崎 譲二（調査時）
			杉山 富雄
庶務担当	文化財管理課	管理係	後藤 泰子（調査時）
			古賀とも子
事前協議	埋蔵文化財第1課	事前審査係長	濱石 哲也（調査時）
		事前審査係	星野 恵美（調査時）
調査担当	埋蔵文化財第2課	調査第1係	加藤 隆也
整理作業	西堂 将夫　加集 和子　山口とし子　川田 京子　田中 由紀　鈴木 美樹		
	菊田 律子　長井 リサ　大久保玲子　森迫 理枝		

Fig.1　今宿平野遺跡分布（1/25,000）

1　今宿五郎江遺跡　2　谷遺跡　3　周船寺遺跡群　4　山崎遺跡　5　蓮町遺跡　6　丸隈山遺跡群　7　丸隈山古墳　8　飯氏引地遺跡　9　飯氏遺跡群　10　飯氏古墳群Ａ群　11　兜塚古墳　12　飯氏古墳群Ｂ群　13　飯氏Ｂ14号墳　14　飯氏古墳群Ｃ群　15　飯氏古墳群Ｄ群　16　飯氏古墳群Ｅ群　17　飯氏古墳群Ｆ群　18　飯氏古墳群Ｇ群　19　飯氏古墳群Ｉ群　20　飯氏古墳群Ｊ群　21　千里中原遺跡　22　千里深谷Ｂ遺跡　23　徳永Ａ遺跡　24　徳永Ｂ遺跡　25　徳永古墳群Ａ群　26　徳永古墳群Ｃ群　27　徳永古墳群Ｄ群　28　徳永古墳群Ｇ群　29　徳永古墳群Ｈ群　30　女原上ノ谷製鉄跡　31　山ノ鼻１号墳　32　山ノ鼻２号墳　33　若八幡宮古墳　34　下谷古墳　35　女原遺跡　36　女原笠掛遺跡　37　女原古墳群Ａ群　38　女原古墳群Ｂ群　39　女原古墳群Ｃ群　40　女原古墳群Ｄ群　41　女原古墳群Ｅ群　42　今津古墳群Ｈ群　43　今山遺跡　44　今宿遺跡群　45　今宿田尻遺跡　46　大塚遺跡　47　大塚古墳　48　新開古墳群Ｂ群　49　新開古墳群Ｃ群　50　新開古墳群Ｄ群　51　新開古墳群Ｅ群　52　新開古墳群Ｆ群　53　新開窯跡　54　新開製鉄遺跡　55　谷上古墳群Ａ群　56　谷上古墳群Ｂ群　57　谷上Ｂ1号墳　58　谷上古墳群Ｃ群　59　青木城跡　60　相原古墳群Ａ群　61　相原古墳群Ｂ群　62　相原古墳群Ｃ群　63　相原古墳群Ｄ群　64　相原古墳群Ｅ群　65　相原古墳群Ｆ群　66　相原古墳群Ｇ群　67　相原古墳群Ｈ群　68　相原古墳群Ｊ群　69　相原製鉄Ａ遺跡　70　相原製鉄Ｂ遺跡　71　相原製鉄Ｃ遺跡　72　本村遺跡　73　本村古墳群Ａ群　74　焼山製鉄遺跡　75　焼山古墳群Ｂ群　76　堀ノ内製鉄遺跡　77　堀ノ内遺跡　78　青木遺跡群　79　鋤崎古墳　80　鋤崎製鉄Ａ遺跡　81　鋤崎製鉄Ｂ遺跡　82　鋤崎古墳群Ａ群　83　鋤崎古墳群Ｂ群　84　鋤崎遺跡　85　ショウガ谷製鉄跡　86　油坂古墳群Ａ群　87　油坂古墳群Ｂ群　88　長垂山古墳群

第Ⅱ章　遺跡の立地と歴史的環境

今宿五郎江遺跡の位置する今宿平野は、糸島平野の東側の小平野である。東側を背振山系より北側に派生する飯盛山塊や、国の天然記念物に指定されている含紅雲母ペグマタイト岩脈のある長垂山塊によって早良平野と画され、南・西は高祖山の山塊により区切られている。北側の今津湾沿岸には、博多湾内海流の左流転による砂丘が早くから発達し、その後背地にはラグーンが拡がる。瑞梅寺川の河口部には、かつて古今津湾と呼称される内海がひろがっていたが、江戸時代に大規模な干拓事業が行われ現在の景観となっている。本遺跡は、高祖山麓から今宿平野を今津湾に向かって北伸する丘陵の末端にあたる。

当該地周辺には、各時代にわたる多くの遺跡が位置している。旧石器時代遺物は、周船寺遺跡にて三稜尖頭器がみつかるなど遺物の散布が確認されている。また、今宿五郎江遺跡においても石器の出土が報告されている。

縄文時代遺物も埋没谷などから見つかっている。近年、隣接する徳永Ｂ遺跡の調査により、中期後半の阿高式の埋甕が出土したとの情報がよせられている。

弥生時代では、博多湾に面した砂丘上に立地する今宿遺跡群では、前期から後期にいたる遺物が出土しており、特に前期から中期にかけての甕棺墓、土壙墓群は全域に広がっている。そして、その砂丘の北西端に連なる今山遺跡は、前期に生産が開始され、中期には大分県、熊本県域まで供給された玄武岩製太型蛤刃石斧の原産地であり、かつ加工地である。この石斧は樹木伐採用のもので、当時の人が積極的に森林を切り開き集落と耕地の拡大を急速に進めた証である。また、その流通範囲の広さから弥生社会のネットワーク状況が推測できる考古学上重要な遺跡である。青木遺跡では弥生時代中期から後期の集落が調査され、大塚遺跡では弥生時代後期後半から終末にかけての掘立柱建物や溝が確認されている。

古墳時代では、国指定史跡の大塚古墳、山の鼻古墳、若八幡宮古墳、丸隈山古墳など丘陵末端部台地上に大型の前方後円墳が前期から後期にかけて継続して造営されている。さらに、山麓部には後期の群集墳が濃密に分布する。女原遺跡では竪穴住居群が確認されているが、全体的に集落の調査例は多くない。

近年、新聞等でも報道されたように「寶」の字が刻まれた銅印が今宿五郎江遺跡第13次調査で出土し、隣接する大塚遺跡では戦国期の屋敷跡が調査されるなど古代以降の遺物、遺跡も多く発見されている。

今宿五郎江遺跡の発掘調査は、1984年度に今宿小学校校舎建築に伴い行ったのが第1次調査である。Ａ・Ｂ区あわせて261㎡の調査区からは大量の土器が堆積した溝が確認され、大規模集落の存在を示唆する調査となった。翌1985年、小学校の西側を南北方向に貫く新設道路建設計画に伴う第2次調査が行われた。約6,000㎡の調査により、今宿五郎江遺跡の内容と規模が明らかとなった。また、この調査では小型銅鐸が出土し、遺跡の存在が広く知られるところとなった。

その後、給油所建設、送電線仮鉄塔建設、今宿小学校プール改築工事、共同住宅建築に伴う発掘調査が行われてきたが、小規模調査であったため全体的な様相の把握までには至らなかった。しかし、2002年度から開始された伊都土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査により大規模調査が行われるようになり、環濠の存在をはじめ遺構の遺存状態や分布状況等が急速に明らかになりつつある。

Fig.2　今宿五郎江遺跡調査地点位置図(1/2,000)

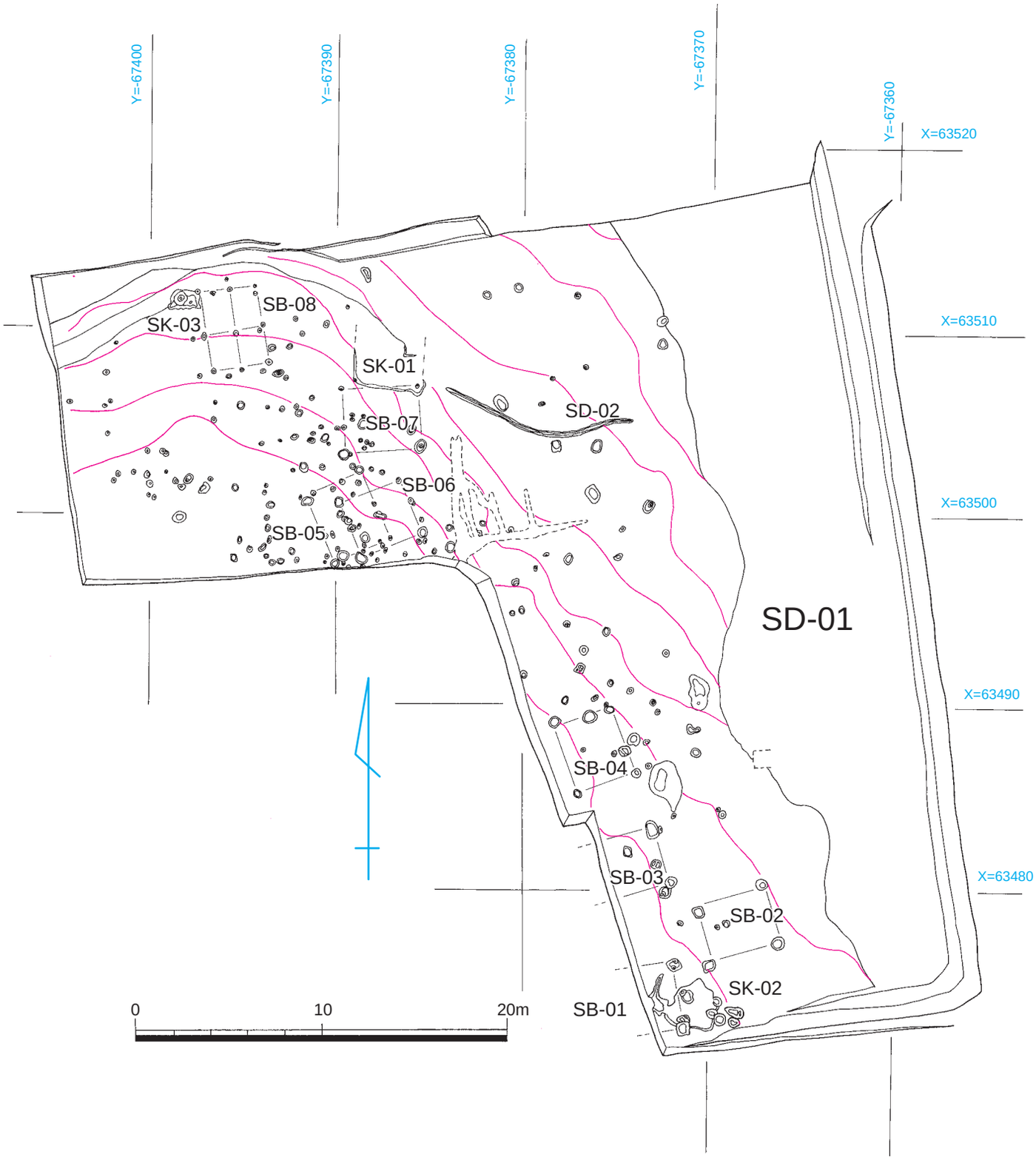


Fig.3　第12次調査遺構配置図（1/300）

第Ⅲ章　調査の記録

1　調査の概要

今回報告する第12次地点の調査着手時以前に、北側隣接地を第11次（2005年7月8日～2006年11月30日）にて調査が行われており、既に大溝が調査されていた。その大溝は、南側の第12次調査予定地へと伸びていた。ただ、調査時にこの大溝が環濠であるという理解は無く、後に行われた大塚遺跡第11次調査により東側を巡る溝と繋がることが確認されるのを待たねばならない。調査区表土剥ぎ作業を進める過程では、溜まり（井泉）の存在が明らかになると同時に大溝が調査区南側では東側調査区外に伸びており、溝の東側立ち上がりの調査が行えないことが明らかとなった。よって、今回報告する第12次調査地点内の環濠調査では、内側の集落遺構と溝の状況を確認することができていない。

調査は、環濠の外側にあたる西側の台地上に土壙や柱穴などの遺構が展開していることから、まず西側の台地上の遺構調査を先行して行い、その後大溝の掘削を行う計画とした。

2　遺構と遺物

掘立柱建物（ＳＢ）

今回の調査では、200穴以上のピット状の遺構を検出し、約150穴から遺物が出土している。この内、建物として復元できたのは可能性を含めて以下の8軒である。

SB-01（Fig.5）

調査区南側、西端にて検出された。確認された柱穴は2穴のみで、調査区西側に展開すると考えられる。方位をN-9°- W（座標北）にとり柱間は芯々で約3.4mである。柱穴の平面プランは略円形であり、長軸約60cm、遺存する深さは約20～50cmである。柱穴146の底面には、直径約15cmの柱を立てた痕跡と思われる凹みが残る。両柱穴からは弥生土器の小破片が出土している。

SB-02（Fig.5）

調査区南側にて検出された。方位をN-17°- W（座標北）にとる1間×1間の建物である。柱間は略南北方向3.7～3.8m、東西方向3.0～3.3mである。柱穴の平面プランには、略方形と楕円形を呈する2種類がみられる。柱穴の平面プランが略円形を呈するものが北側に位置しており、直径約60～70cm、残存深さは18～28cmである。南側の平面プランが略方形を呈する柱穴は長軸55～65cm、残存深さは27～45cmである。141・142・148からは弥生土器の小片が出土しており、147からは凸レンズ底の甕底部片と器台の上部破片**001**（**Fig.9**、**PL.11**）が出土している。柱穴の掘削時期は、出土遺物から弥生時代後期後半頃と考えられる。

SB-03（Fig.5）

調査区南側、西端にて検出された。確認された柱穴は平面プランが長楕円形と略円形を呈する2穴のみで、調査区西側に展開すると考えられる。方位をN-20°- W（座標北）にとり柱間は芯々で約3.0mである。平面プランが長楕円形を呈する137の規模は長軸90cm、短軸65cmであり遺存する深さは約30cmである。略円形を呈する139の直径は約60cm、残存深さは27cmである。137からは土師質の高台付坏の破片が出土しており、掘削時期は古代以降と考えられる。

Fig.4　台地上遺構配置図(1/250)

SB-04（Fig.5、PL.1）

調査区南側にて確認された。方位をN-18°-W（座標北）にとる1間×1間分の建物であるが、西側調査区外へ展開する可能性がある。柱間は芯々で略南北方向3.7～4.0m、東西方向3.1～3.4mである。柱穴の平面プランは不定形を呈しており、その規模は長軸45～60cm、残存深さは9～22cmである。126・135からは、弥生土器の小片が出土している。

SB-05（Fig.6）

調査区中央部西寄りにて検出され、**SB-06**と切り合う。方位をN-27°-E（座標北）にとる1間×1間の建物である。柱間は芯々で略南北方向3.8～4.0m、東西方向3.1～3.3mである。柱穴の平面プランは略円形と不定形であり、直径約20～60cm、残存深さは約15～35cmである。050・062からは土師器の小片が出土しており、古墳時代以降の掘削と考えられる。

SB-06（Fig.6）

調査区中央部西寄りにて検出され、**SB-05**と切り合う。方位をN-22°-E（座標北）にとる1間×1間の建物である。柱間は芯々で略南北方向3.1～3.2m、東西方向3.5～3.6mである。柱穴の平面プランは略円形、略方形と不定形があり、直径約30～60cm、残存深さは約15～30cmである。各柱穴からは弥生土器の小破片が出土している。

SB-07（Fig.7）

調査区中央部北寄りにて検出され、**SK-01**と切り合う。方位をN-3°-E（座標北）にとる1間×1間の建物である。柱間は芯々で略南北方向3.1～3.5m、東西方向4.0～34.1mである。柱穴の平面プランは略円形と不定形があり、直径約20～60cm、残存深さは約15～30cmである。柱穴087からは土師器と思われる土器小片が出土しており、遺物から**SK-01**を切ると考えられる。

SB-08（Fig.7）

調査区北側西寄りにて検出され、**SK-03**と切り合う。方位をN-9°-E（座標北）にとる2間×2間の総柱建物である。柱間は芯々で略南北方向1.9～2.4m、東西方向1.4～1.8mである。柱穴の平面プランは略円形が主体であり、直径約20～30cm、残存深さは約5～25cmである。柱穴028、026の底面には小礫がみられた。柱穴027からは須恵器の甕胴部片が出土している。

柱穴（ＳＰ）

上述したように約150穴から遺物の出土がみられたが、その多くが小破片である。弥生土器が最も多くみられた。図化した**出土遺物（Fig.9、PL.11）**では、SP-042からは砥石片**002**が出土している。また、時代の幅を示す資料として、**SP-156**からは弥生時代後期後半の高坏**003**、**SP-136**からは滑石製石錘**004**と須恵質高台付坏片が出土しており、各時代の建物の存在がうかがわれる。

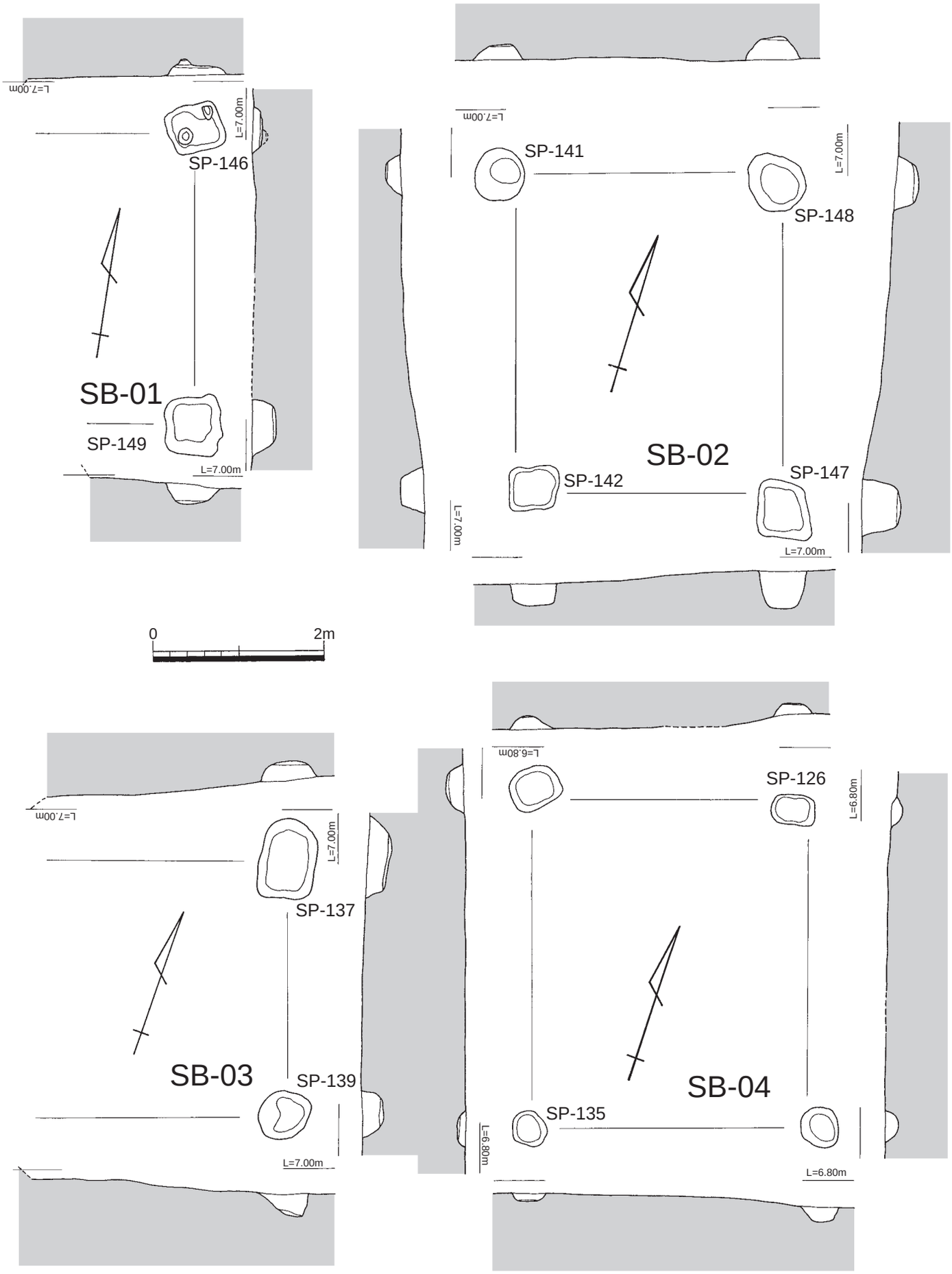


Fig.5　SB-01,02,03,04遺構実測図（1/60）

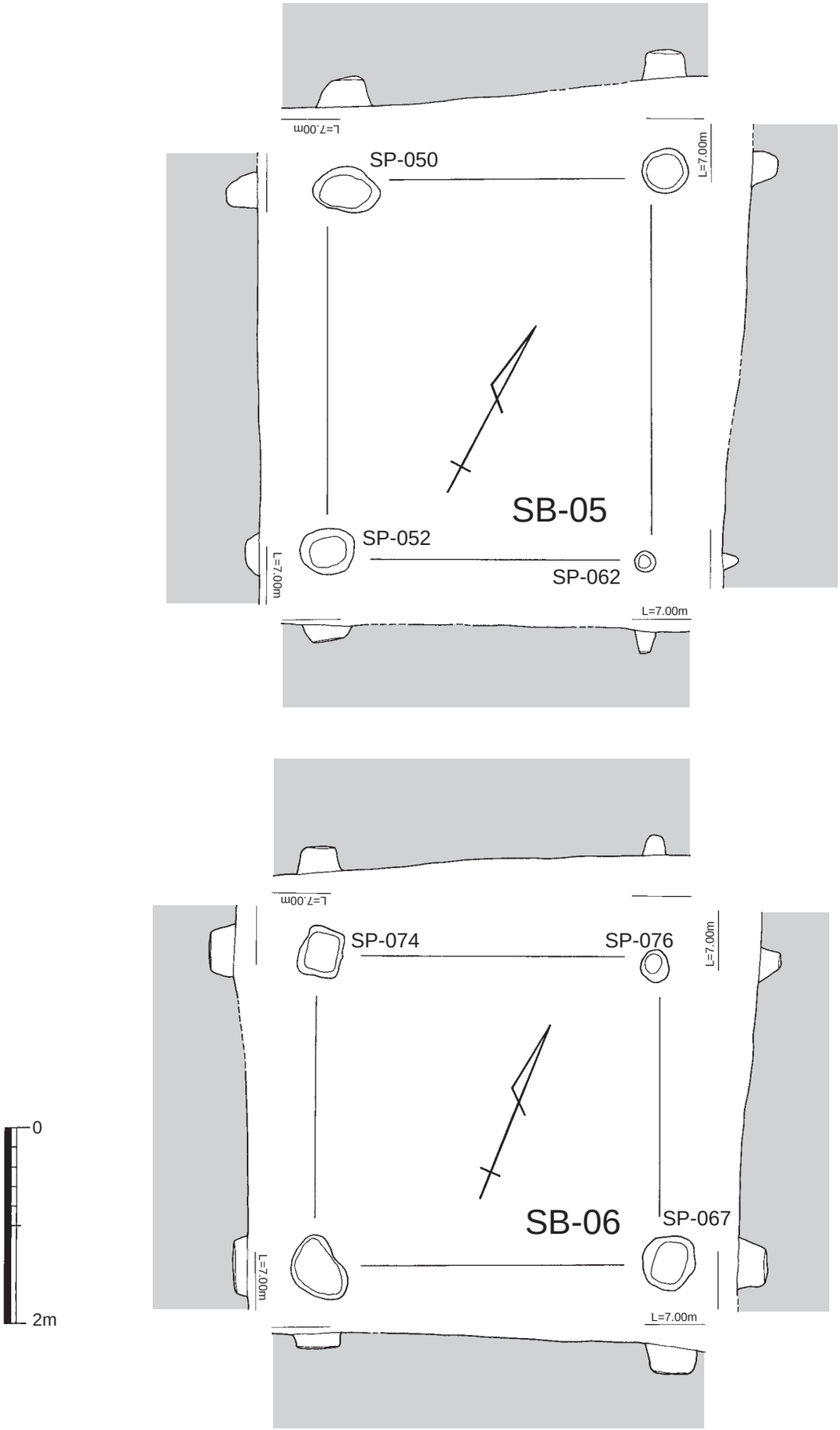
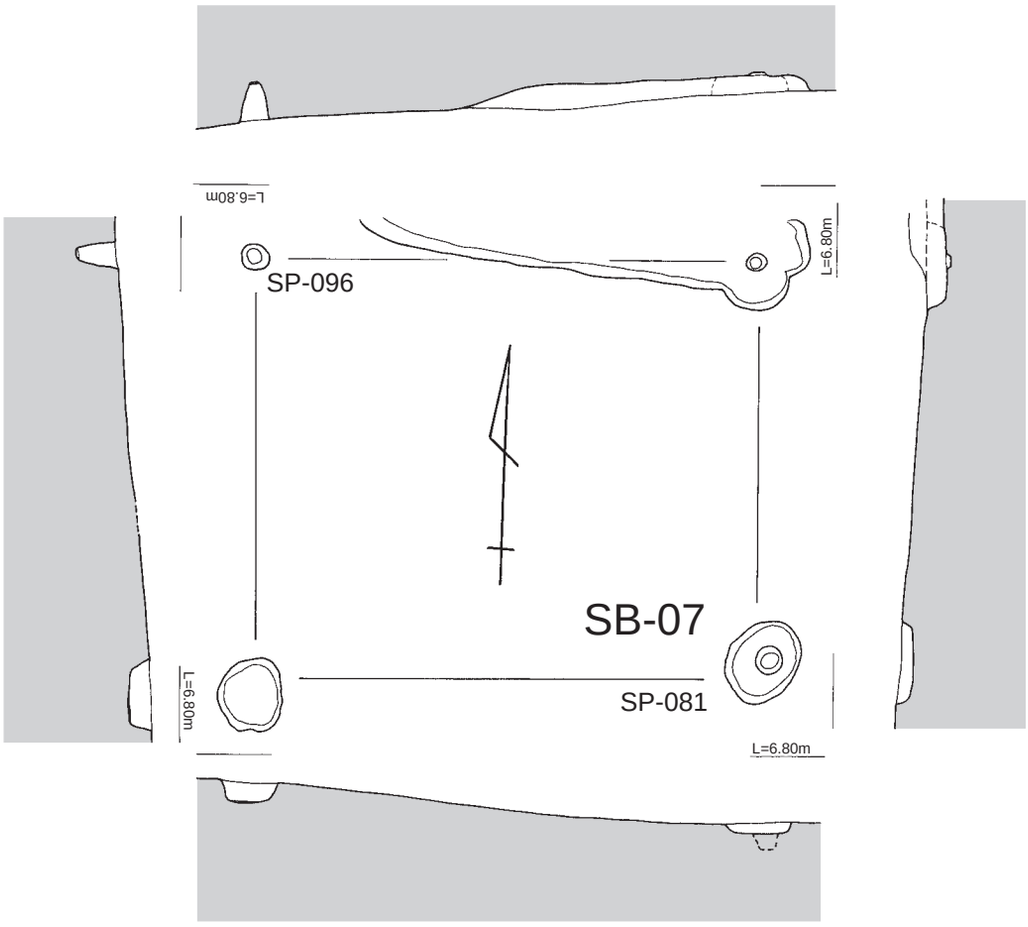


Fig.6　SB-05,06遺構実測図（1/60）



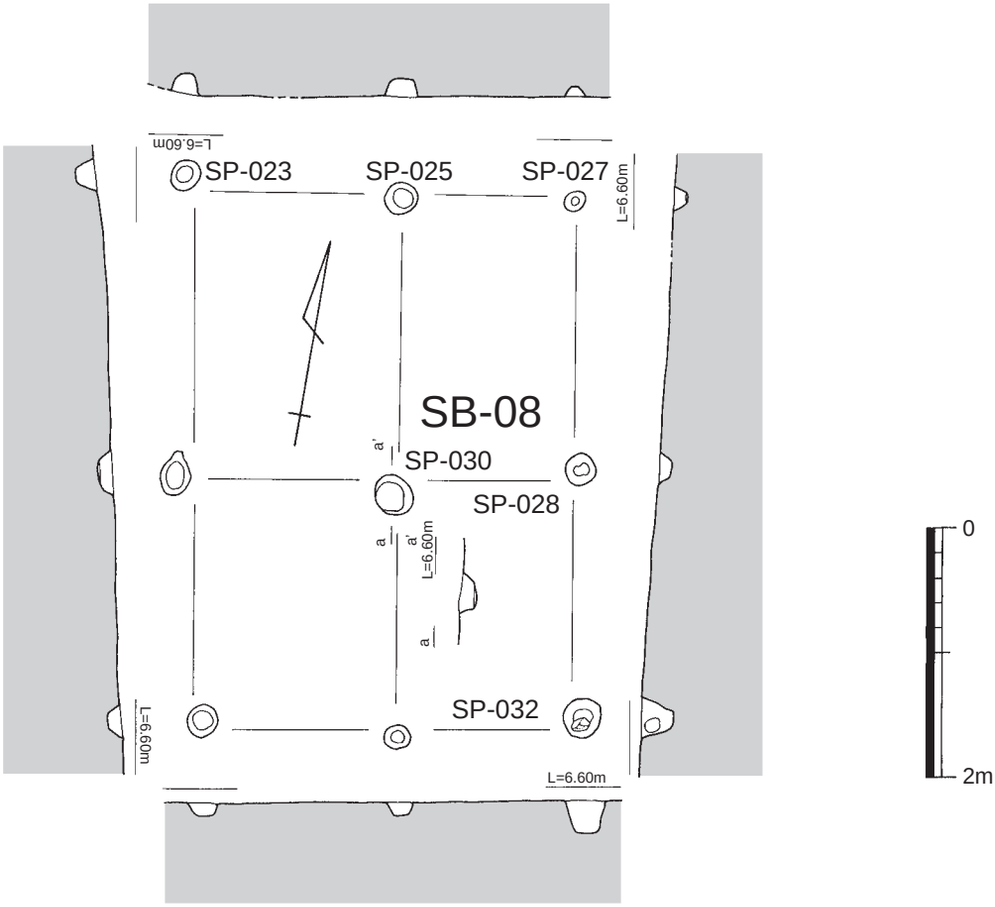


Fig.7　SB-07,08遺構実測図（1/60）

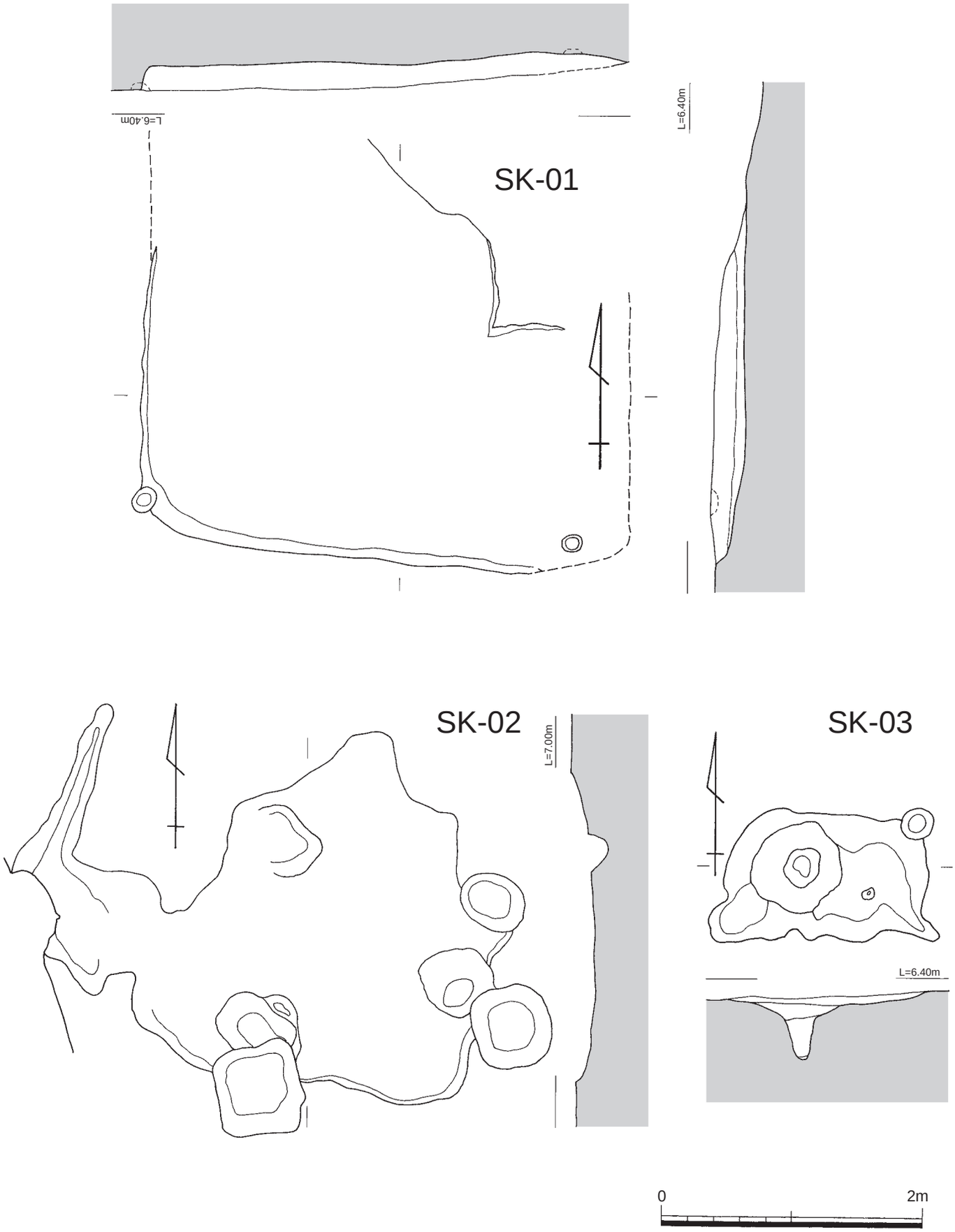


Fig.8　SK-01,02,03遺構実測図（1/40）

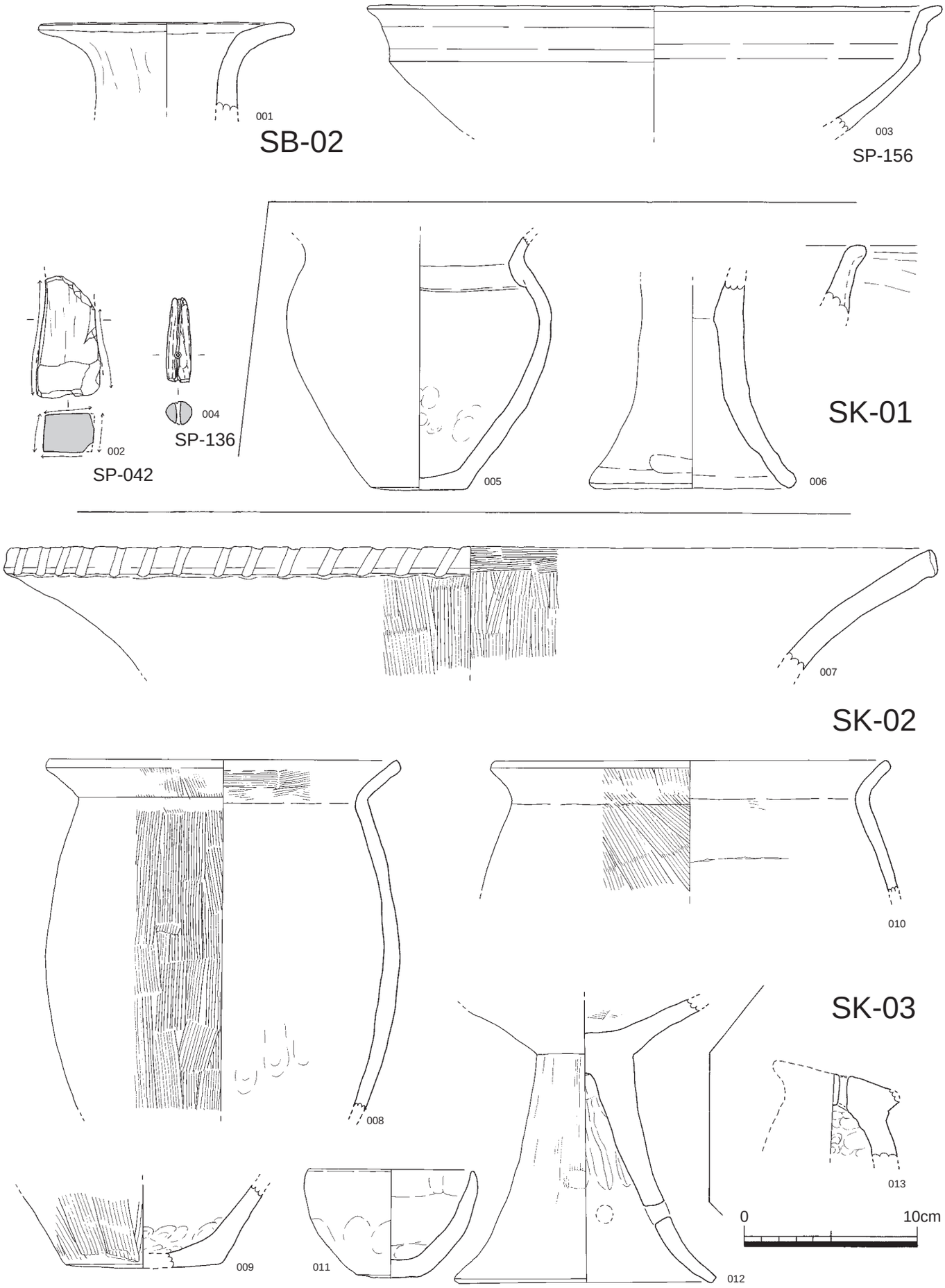


Fig.9　SP、SK出土遺物実測図（1/3）

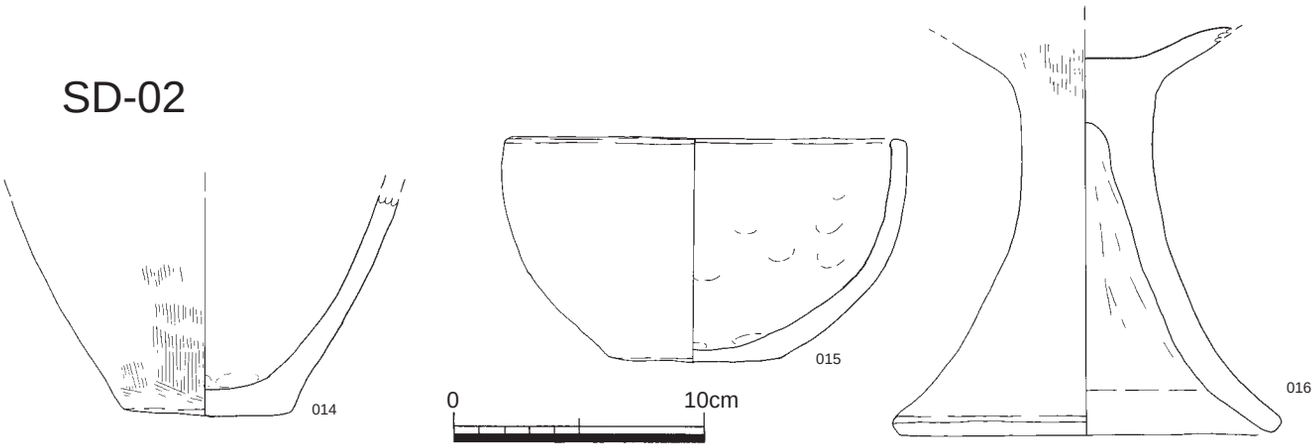


Fig.10　SD-02出土遺物実測図（1/3）

土壙（ＳＫ）

今回の調査では、遺構検出作業において一定の範囲で地山と異なる土壌が確認された部分を土壙と呼称して掘削をおこなった。よってその中には決して人為的ではない、ある時期の地表面の窪みのような性格のものも含まれる。この項では3基の土壙状の遺構を取り上げる。

SK-01（Fig.8）

調査区やや北寄りにて検出し、**SB-07**と切り合う。遺構の平面形は略方形を成すと考えられ、調査ではその一隅を確認した。残存深さは約25cmで底面もほぼ平坦であり、住居址の可能性を有する。しかし主柱穴など構造に関わる遺構は確認されなかった。**出土遺物（Fig.9、PL.11）**には小型甕**005**、と支脚の破片**006**があり、これらから弥生時代後期前半頃の埋没と考えられる。

SK-02（Fig.8）

調査区南端にて確認された平面不定形を呈する土壙である。長軸約3.5、短軸約3mの規模をもつ。遺構の底面も凹凸があり、残存する深さは約30cmである。**出土遺物（Fig.9、PL.11）**は壺口縁片**007**、甕の各部破片**008～010**、鉢**011**、高坏下部片**012**などがあり遺構の埋没時期は弥生時代後期後半から終末頃と考えられる。

SK-03（Fig.8）

調査区北側、西寄りにて検出され、**SB-08**と切り合う平面不定形を呈する土壙である。長軸約1.5、短軸約1mの規模を有し、遺構西よりが一部ピット状に深くなっており残存する深さは約40cmである。**出土遺物（Fig.9、PL.11）**は沓形支脚の破片**013**が出土しており、**SB-08**に切られると考えられる。

溝（ＳＤ）

台地上にて確認された溝状遺構は1条のみである。

SD-02（PL.1）

調査区北寄りにて検出認された。**SK-01**から谷方向へ蛇行しながら緩やかに流れる。確認できた長さは約11m、残存幅は最大25cm、残存する深さは約20cmで、断面はＵ字形を呈する。**出土遺物（Fig.10、PL.11）**には甕底部片**014**、鉢**015**、高坏脚**016**がある。遺構の埋没時期は遺物から弥生時代後期後半頃と考えられる。隣接する大塚遺跡の調査では、弥生時代後期後半から終末期にかけての同様な溝が竪穴住居や建物を囲むように複数確認されており、その性格の解明が待たれる。

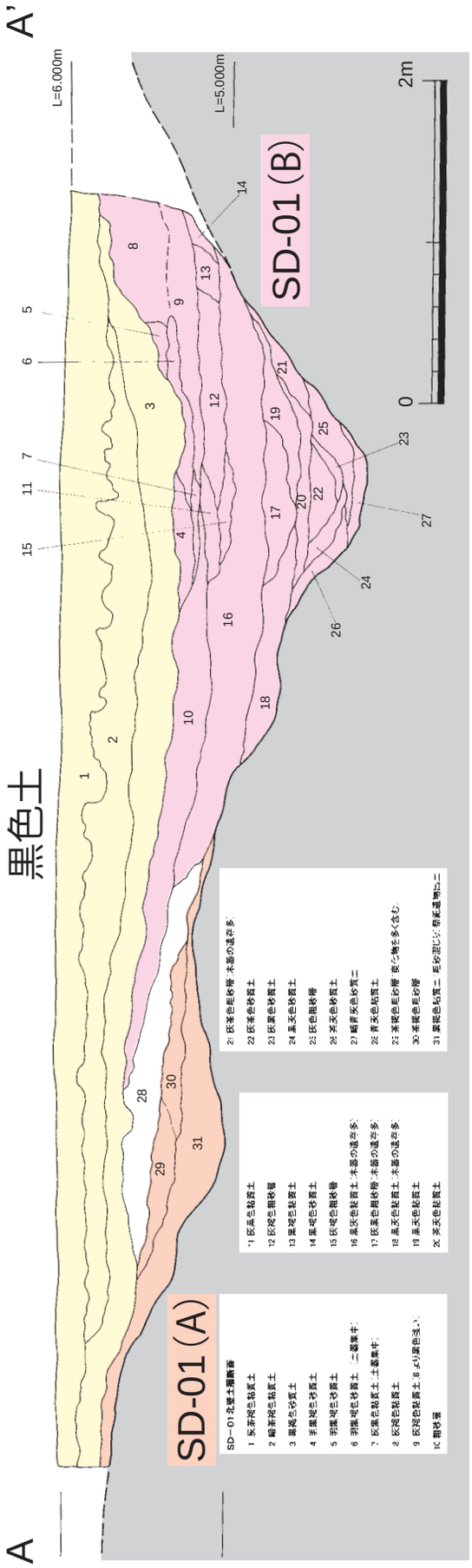


Fig.11　SD-01北壁土層堆積状況図（1/40）

環濠（SD－01）

調査区の東端を南北方向に走る溝である。長さ約40mを検出した。この溝は北側で調査された第11次調査区において調査されており、複数の構が重複していることは第11次調査の土層断面観察から明らかであった。小規模な溝の掘り返しはあろうが基本的には、ほぼ直線的に北流していた溝状遺構SD-01（A）を大規模に掘削しなおしてSD-01（B）を巡らせる構造をしている。その掘削は、集落の外周を緩やかに巡らせるかのように東側に湾曲させ、更に外周側に井泉を敷設させている。この溝SD-01（B）掘削時に溝底面の地山である青灰色粘土が掘削され、前の溝を埋め込んでいることから溝の掘削が深くにまで及んだことが分かり、その土木工事の大規模な様相をうかがうことができる。

当初の溝SD-01（A）には祭祀用の土器が出土しており、その埋没時には既に五郎江遺跡には集落が存在していた。ただし、その溝が自然地形に起因する谷部の利用なのか、計画的に掘削された溝なのか、どの程度人為的な管理がされていたのかなど、環濠として機能していたかどうかを含めて、今区の調査成果では不明である。

最終的には、溝全面を黒色土が覆い完全に埋没している。特にSD-01（B）と全体を覆う黒色土との間には、大量の遺物の集中がみられた。調査時、SD-01（A）からは弥生時代中期末の遺物が含まれることより「弥生中期層」と呼称し遺物の取り上げを行ったが、後期の土器も含んでおり誤解を招くことを危惧し、この報告ではSD-01（A）と呼称する。また、SD-01（B）を調査時はSD-01と呼称していたものを呼びかえるものである。

溝の基本的層序は北側調査区壁のみの確認である。それ以外の箇所では環濠の本体であるSD-01（B）が東側調査区外へと振っているため、確認できていない。だが、掘削に伴う土質の変化から判断してSD-01（A），SD-01（B），黒色土の基本的な層位関係に変化はみられないと考える。ただ、溝という遺構の性格もあり、各層位内の砂層と粘質層などその堆積変化は著しい。

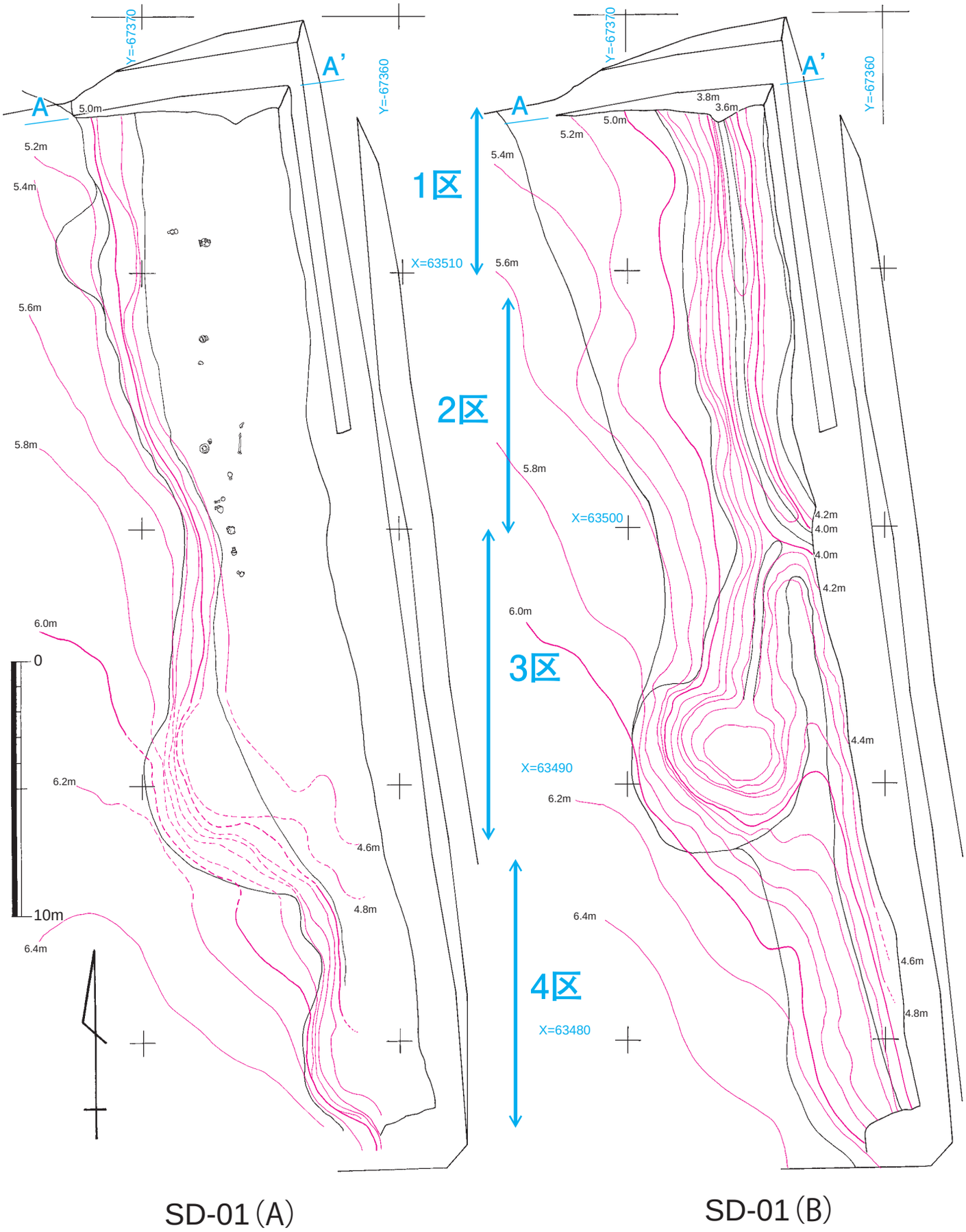


Fig.12　SD-01 (A), (B) 位置図 (1/200)

SD-01（A）

断面の観察で確認された最も古い溝状の遺構である。人為的に掘削されたものか、自然の谷状のものかは判断できていない。SD-01（B）に切られ、西側肩部を検出するのみで、当初の深さや幅などの規模は不明である。（A）の上面には（B）掘削時に跳ね上げられたと考えられる地山下層にみられる青灰色粘土の層が確認された。

出土遺物（Fig.13～24、PL.11～16）　017～022は鋤先口縁の壺である。丹塗りの範囲には、外面全体に及ぶものと外面上部のみに限られるなど差異が見られる。023は丹塗りの広口壺で、頸部外面に縦方向の研磨調整が見られる。024は素口縁の壺である。頸部と胴部の境に断面三角形の突帯が巡る。025～029は丹塗磨研の長頸袋状口縁壺である。030は頸部が短く太い袋状口縁壺である。頸部にはハケメ調整が見られ、丹塗りは施されていない。031～034は丹塗磨研の甕である。031は外面にのみ丹塗りを施し、胴部に外側からの穿孔が見られる。035～040は器壁外面にハケメ調整が見られる甕である。035の底部には外面からの焼成後穿孔が見られる。041～052は蓋形土器である。052は小型で歪みが著しい。053、054は甕で、後者には内外面丹塗りがされている。055～065は鉢、埦形土器である。059,061,062は丹塗りが施され、063の底部は穿孔されている。066～070は高坏である。066の口縁部は打ち欠きか。069は内外面丹塗りで脚上部は中実である。071,072は丹塗りの蓋であり、2対計4穴の穿孔が見られる。073,074は丹塗りの短頸壺であり、073の口縁部には2対計4穴の穿孔が見られる。075は丹塗りの脚付短頸壺である。口縁部に穿孔が見られる。076は注口付き鉢、半島系か。077は長胴の甕である。底部が外に張り出す器形を呈しており、生産地や時期は不明である。078は半島の影響がある甕か。079は鉢、080,081は壺の底部、082,083は埦、084,085は壺。086の外面には格子目タタキ痕が見られ、三韓系土器の広口壺または甕の破片と考えられる。087は脚付土器の脚部破片、088,089は手づくねミニチュア土器、090は滑石製の投弾、091は土製の投弾、092は土器の転用による紡錘車の未製品と考えられる。093～100は支脚である。101～105は器台である。106、107は打ち欠きの石錘。108,109は中央に円形孔をもつ石錘である。110は太型蛤刃石斧片、111は敲石、112は磨製石鎌の破片と考えられる。113は縄文時代の石匙、114は磨製石包丁の破片、115は紡錘車。116は用途不明の球形を呈する磨石、117は手持ち用の砥石、118は磨製石剣の破片と考えられる。

調査時には、西肩部に壺017,018,020,024、袋状口縁壺025,026,027、高坏066、脚付短頸壺075、鉢079の各遺物が廃棄された状態で確認された（Fig.12,PL.9）。丹塗磨研の祭祀土器が主体となって出土している。

SD-01（B）

今宿五郎江遺跡を囲むように巡り、環濠と考えられている溝である。今回の調査範囲内では、SD-01（B）の本体が東側調査区外へと延びるため、その全容は不明である。敷設されている井泉との関係は、堤をオーバーフローした井泉内の水は排水路を通って環濠に流れ込み、水は環濠内を北方向にスムーズに流れるようにつくられており、環濠の掘削下端は井泉の排水路が連結する部分を意識して屈曲させていることからも、井泉はSD-01（B）掘削当初から計画的に敷設させていたものと考えられる。

出土遺物（Fig.25～27、PL.16～18）　SD-01（B）と井泉からは多くの木製遺物が出土している。木製品については別項を設ける。119,120は甕の底部片、121は下層から出土した丹塗り素口縁壺である。122は長胴の壺、123,124は下層から出土した小型甕、125,128は鉢、126の甕内外面には丹塗りの痕跡が見られる。127は口縁下に穿孔がある下層出土の短頸壺である。129,130の鉢底部に穿孔が見られる。129は焼成前、130は焼成後の穿孔である。131～139は鉢・埦である。133は内外面丹塗りである。140は台付き甕、141,142は高坏である。142の脚上部は中実になっている。143,144は壺である。145,146は器台、147は支脚である。148～158は蛇文岩、滑石製の石錘である。滑石を素材に小型で精緻につくるもの、博多湾型と呼称される長卵形につくるもの

などが見られる。159,160は打ち欠きの石錘である。161は砥石、162～164は石製紡錘車、165は石包丁片、166は用途不明の骨角器である。179は暗緑色を呈するガラス管玉である。

井泉

井泉の内側上面には多くの土器が堆積しており、中下層には土器に混じって多くの木製品が出土している。その様相は、SD-01（B）が埋没を始めた後もその機能を失わず、幾度かの掘り返しが行われ存続していたと考えられる。堤状遺構の構造は強固なもので、4枚以上の大型板状アカガシ材を数本の縦杭により立たせ、その裏ごめには粗砂をもって構築していた。また、水の流れに平行して堤を補強するかのように先を杭状に尖らせた部材が数本配置されていた。その裏ごめ部からはガラス小玉、鉄鎌、貨泉が出土しており、祭祀に伴う埋納の可能性が考えられる。

ここでは井泉の堤状遺構の裏ごめから出土した遺物と井泉内から出土した遺物を分けて記述する。また、井泉内出土の木製品については別項にて記述する。

井泉裏ごめ出土遺物（Fig.28,29、PL.19）　167は鋤先口縁の壺、168は広口の壺でどちらも丹塗りが施されている。169は口縁が屈曲し、ハケメ調整が見られる甕である。170,171は器台であり、170は口縁端部が内湾する。172は大型鉢である。173～175は紡錘形、長卵形の石製錘、176は石錘の未製品と考えられるもので、荒加工のままである。177は中央に円孔をもつ石錘である。178は濃紺色を呈するガラス製小玉である。180は貨泉、181は鉄鎌である。刃を下にして基部を左側から巻き上げる方法でつくられている。井泉敷設には大きな掘削を伴ったはずであり、前時代遺物の混入が容易であったと考えられる。

井泉内出土遺物（Fig.31～35、PL.20～22）182,183は大型甕である。182は口径52.0cm、183の口径は44.2cm、器高61.0cmである。184～190は甕である。底部の形状には平底のものと、凸レンズ状を呈するものがある。191の丹塗り磨研小型甕と192の無頸壺は井泉下層から出土した。193～197は壺である。198は小型甕、199は鉢、200の高坏脚部には3ヶ所の穿孔がある。北四国地域からの搬入品か。201～203は脚付き土器である。脚部の径はそれぞれ16.5、19.0、12.8cmである。204は多孔式甑の破片、205は水銀朱の付着する広片口皿の破片である。（p62参照）206は器高10.2cmの鉢、207は直径7㎜のガラス玉、208は安山岩製石包丁、209,210は石製紡錘車とその未製品と考えられる。211は緻密なミガキと凹線文が見られる搬入品と思われる高坏脚である。212～219は器台である。器面調整には指圧痕、ハケメ、平行タタキなどが見られる。器高は12.5～23.5cmである。220～224は支脚である。器高は8.3～16.4cmである。225,226は沓形支脚である。226の外面には平行タタキによる調整が見られる。

4区土器溜まり

SD-01（B）と全体を覆う黒色土の間に、土器が面的に集中堆積している部分がみられた。

出土遺物（Fig.36～39、PL.22,23）　227は大型甕である。口径39.0、器高51.4cmである。228～231は甕である。口径はそれぞれ36.7、29.0、22.7、19.0cmである。232は器壁が直立する鉢、233は底部内面から焼成前穿孔がされた有孔鉢。234はミニチュアの壺形土器、235～238は鉢・埦である。238の鉢は丸底である。239は台付き甕で、口径21.7、器高27.8、脚部径18.0cmである。240は口縁部に凹線文と円形浮文がみられる広口壺である。畿内からの搬入品と考えられる。241,242は高坏である。242は破片であるが注口付きか。243は台付き鉢、口径19.0、脚径12.8、器高12.4cmである。244は水銀朱精製に関わると考えられている広片口皿の把手部である。器壁からは水銀朱が検出された（p62参照）。245の外面調整には細かい縦方向のタタキの後、細い凹線が見られる。半島系の土器片と考

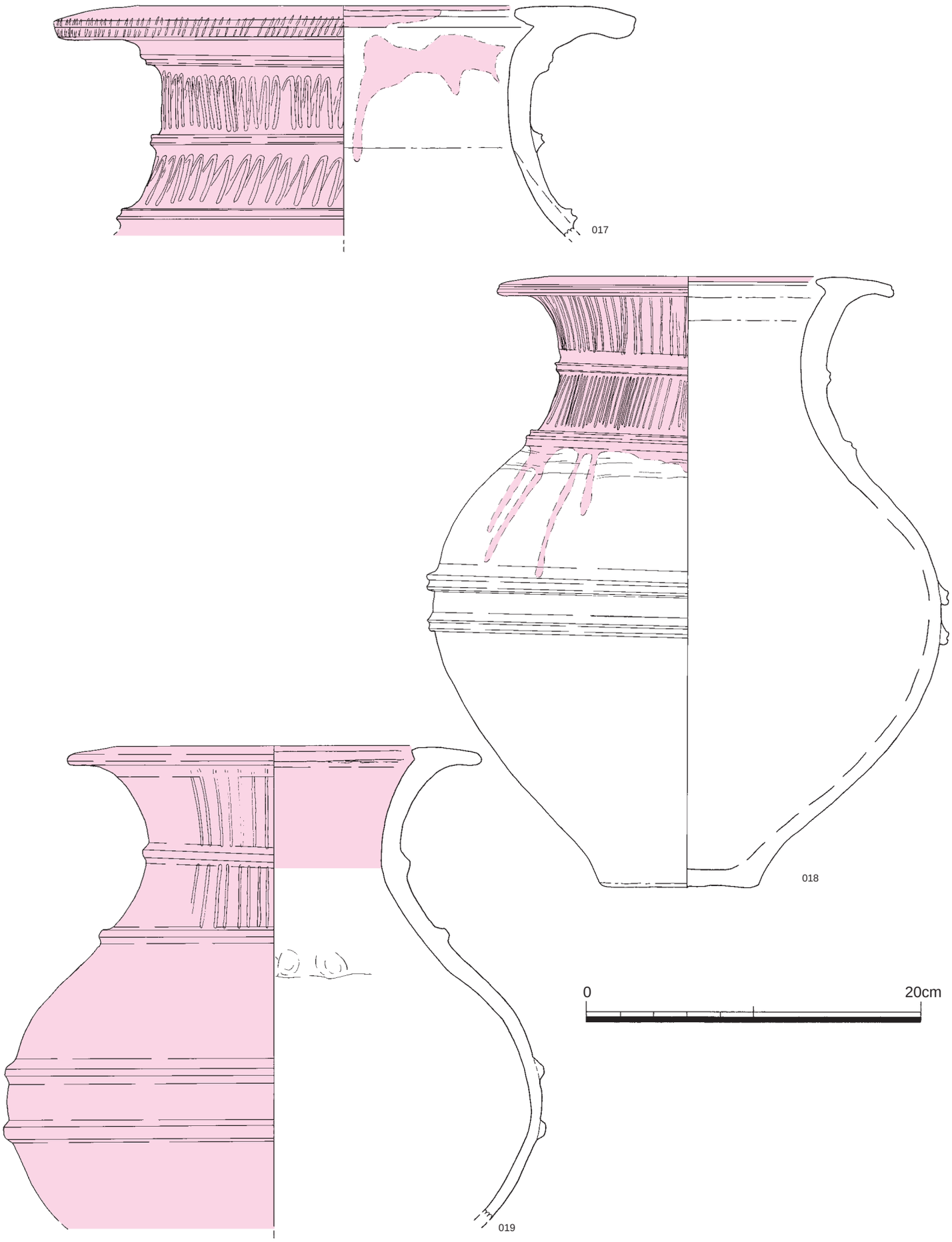
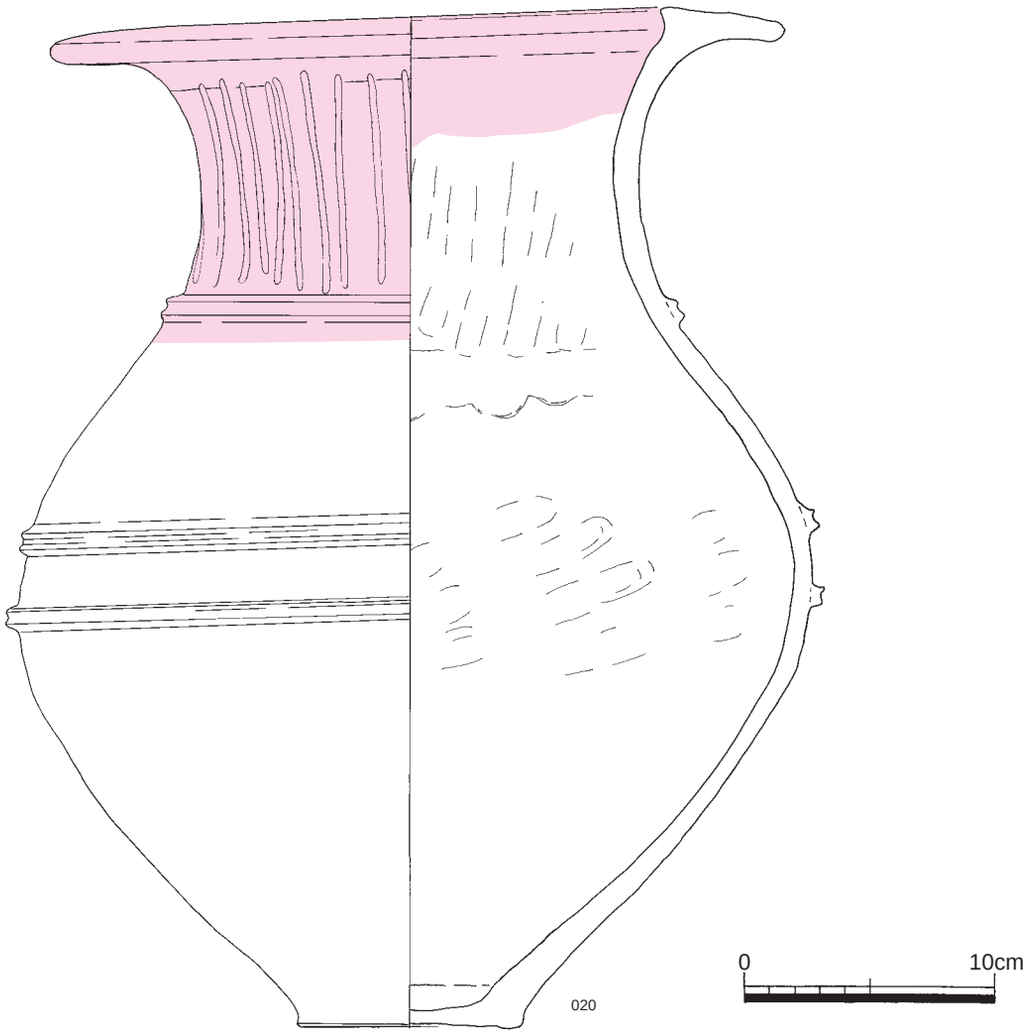


Fig.13　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）



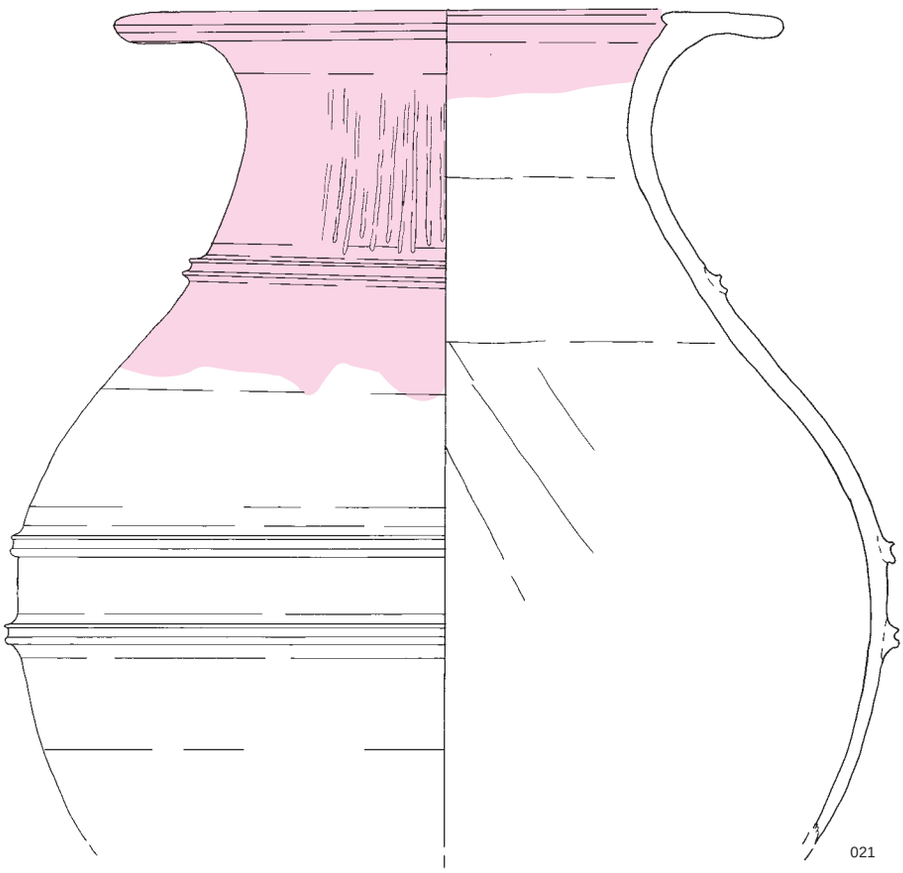


Fig.14　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

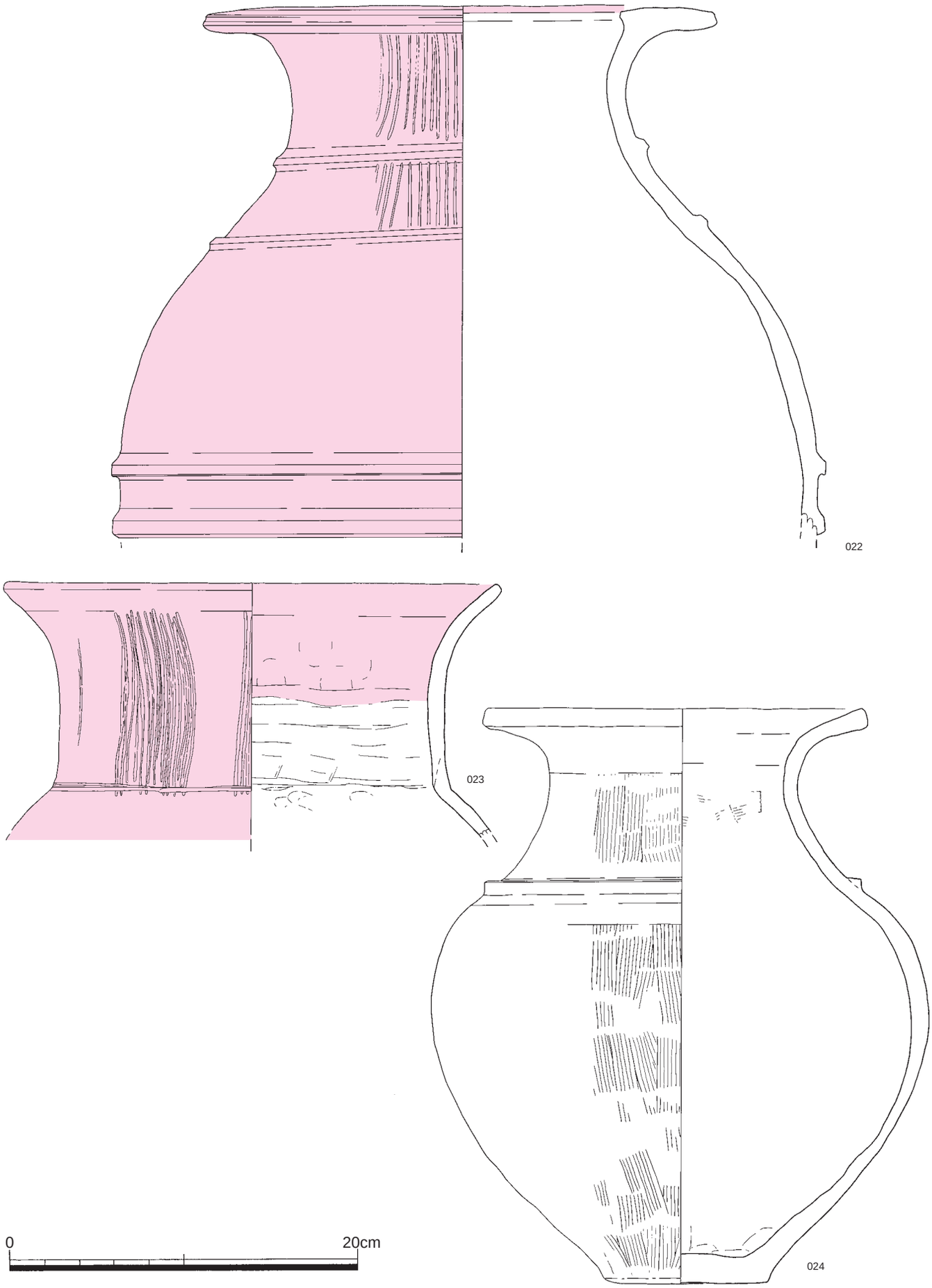


Fig.15　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

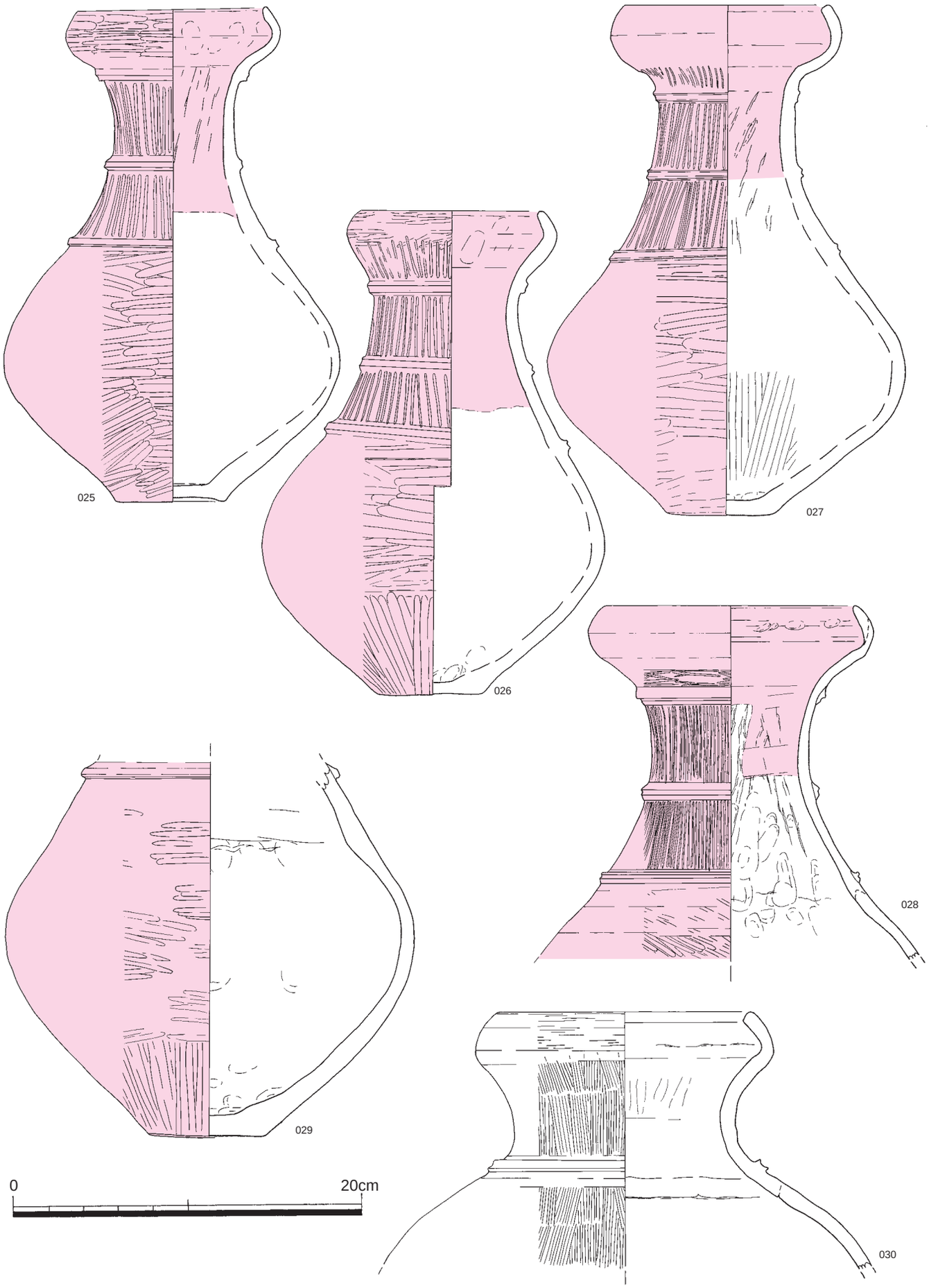


Fig.16　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

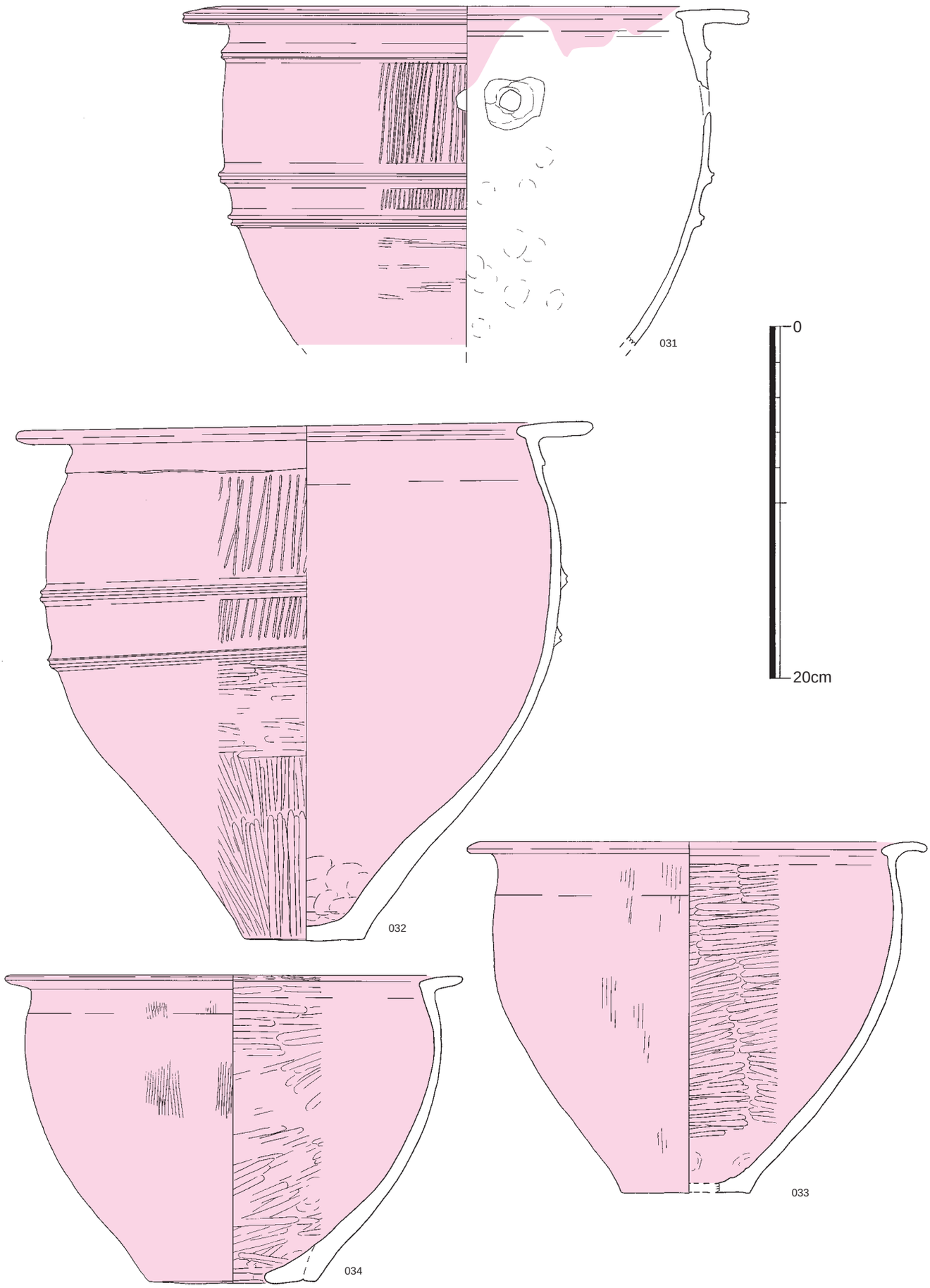


Fig.17　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

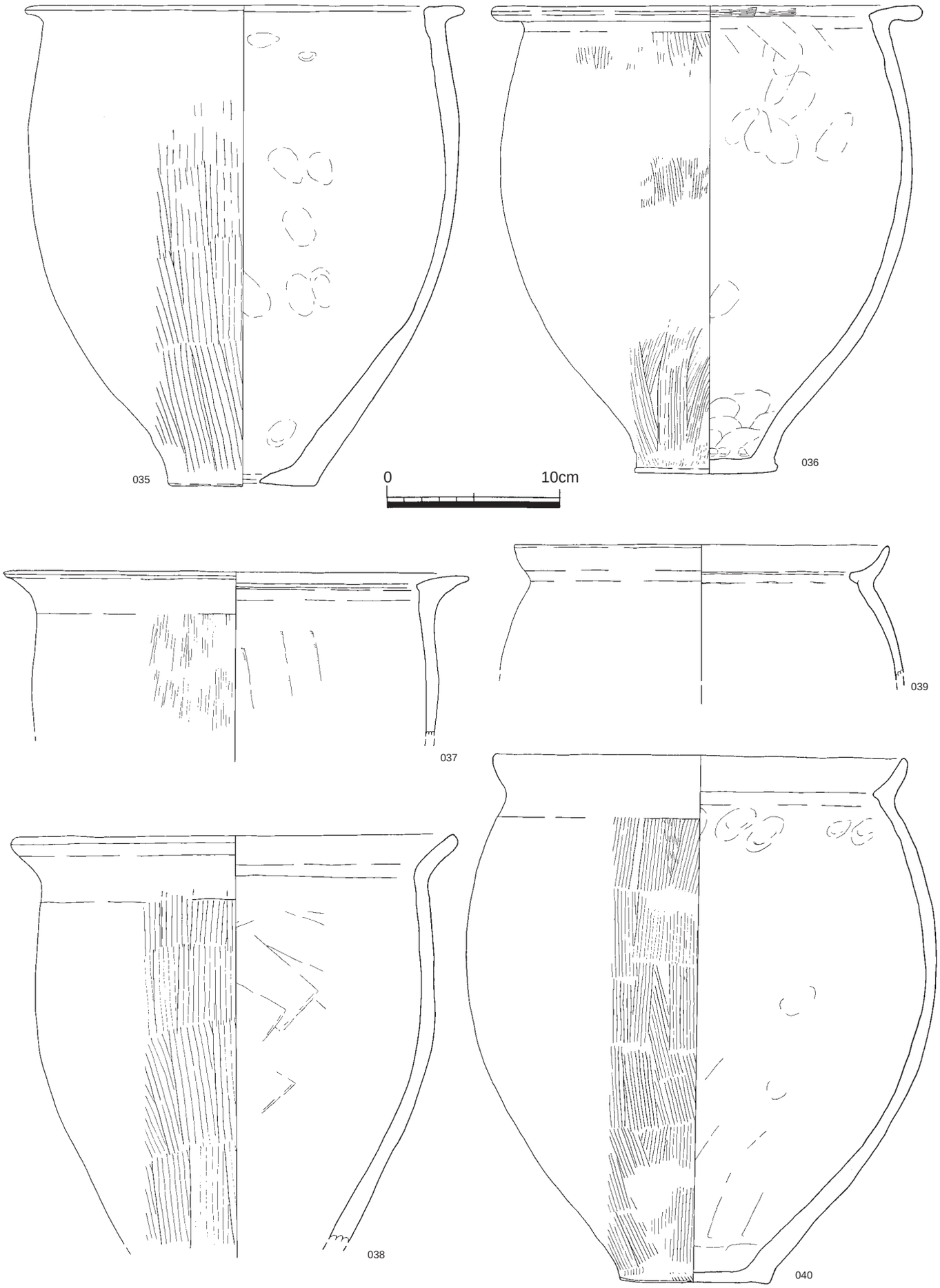


Fig.18　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

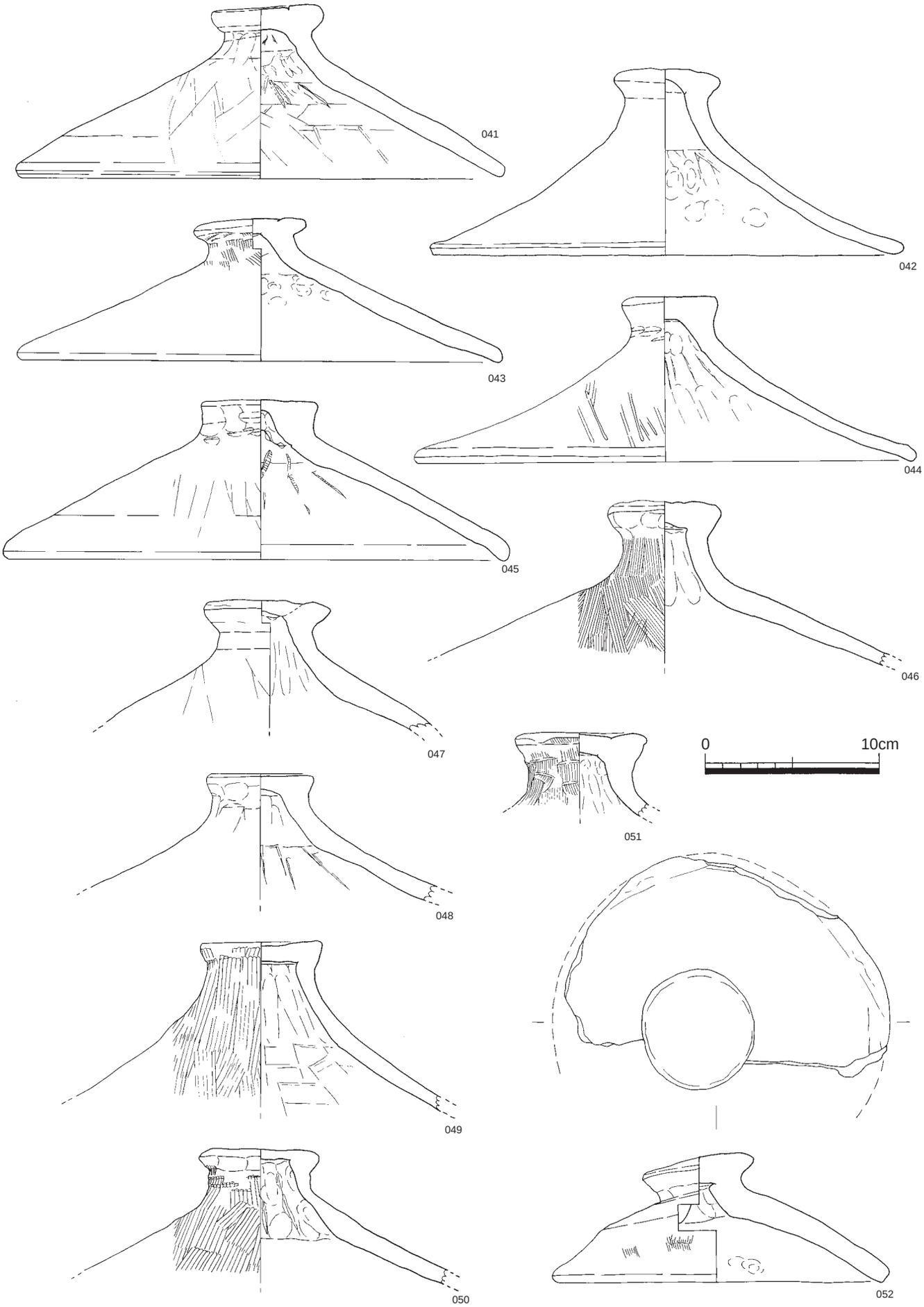


Fig.19　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

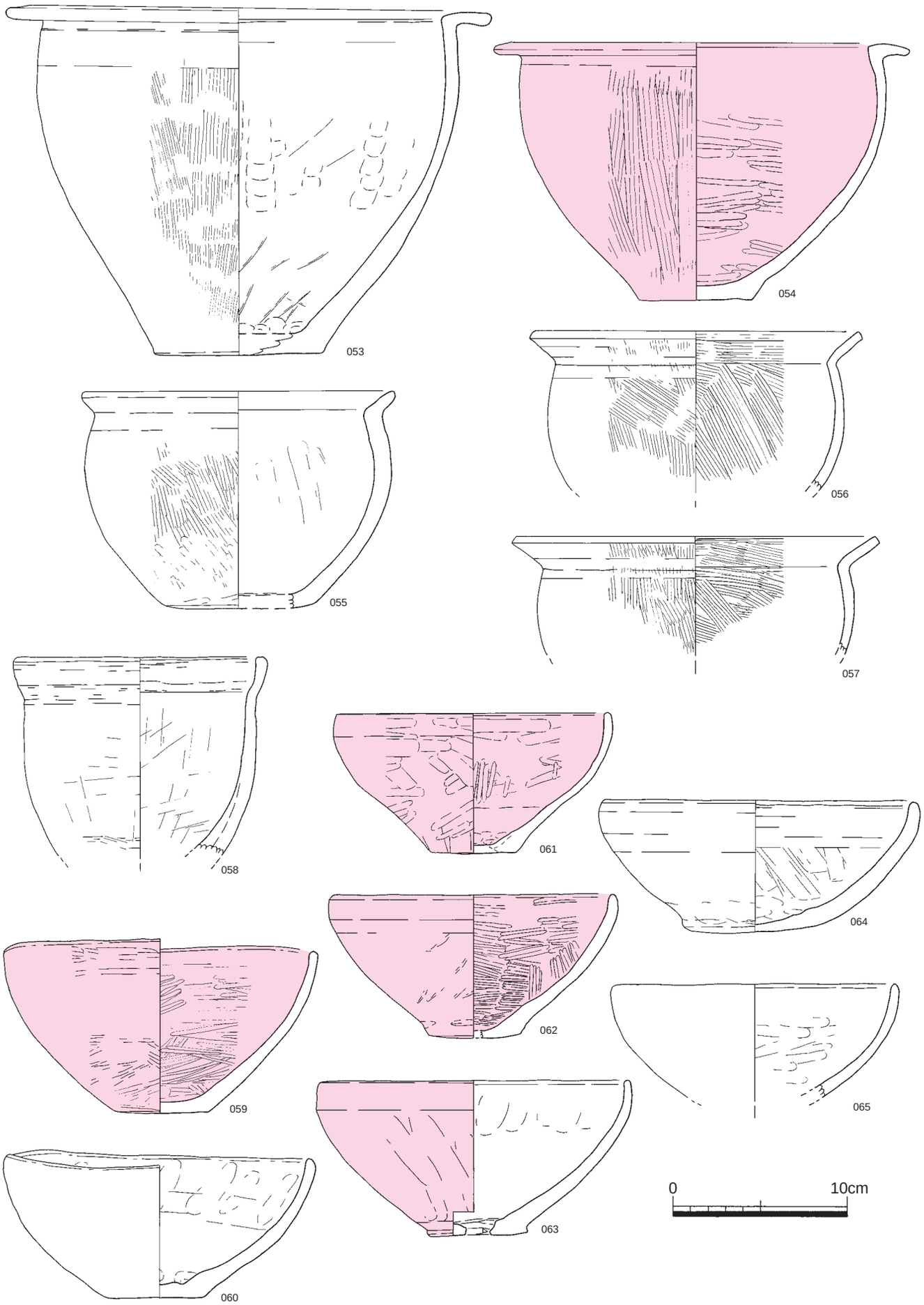


Fig.20　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

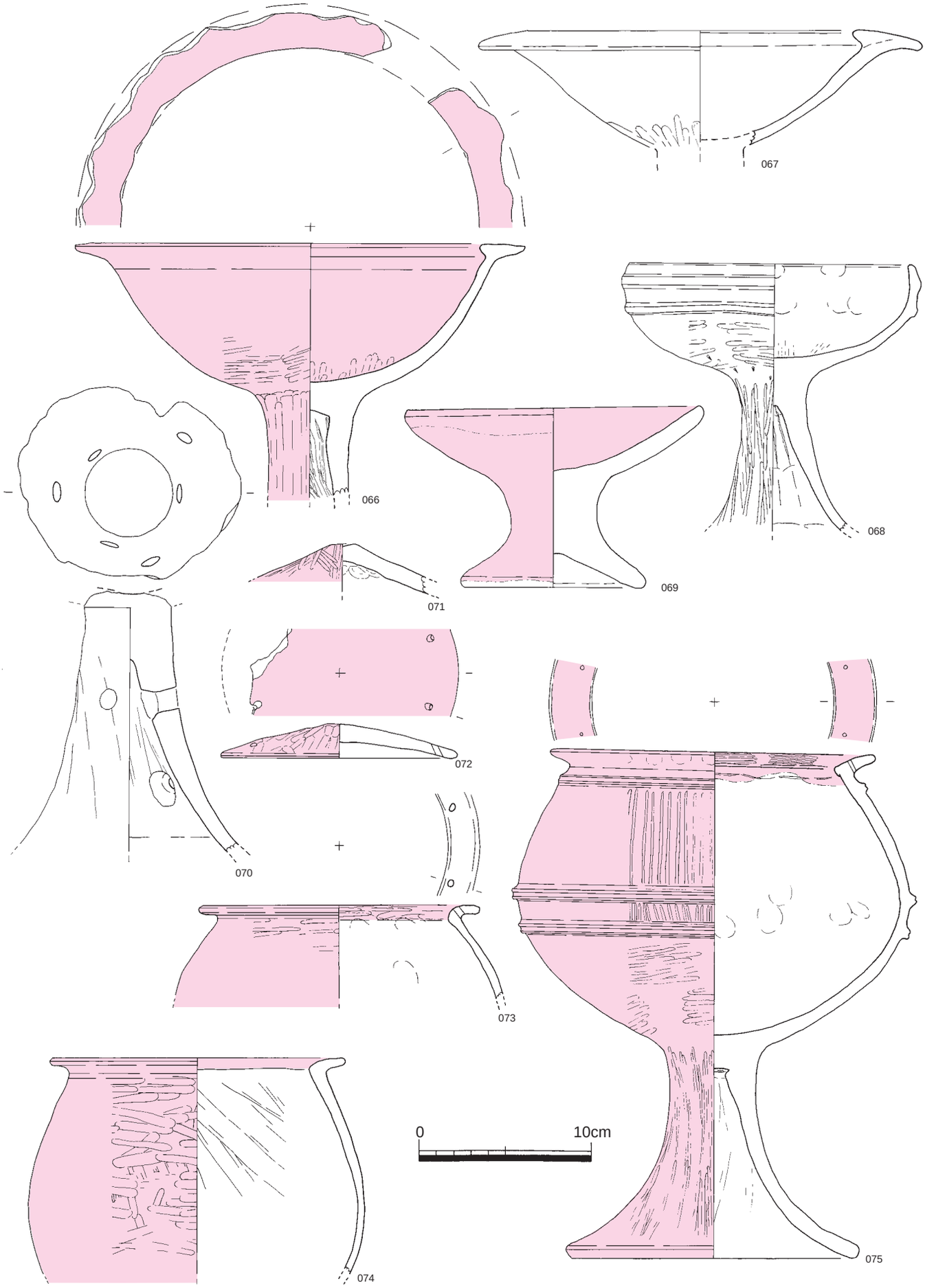


Fig.21　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

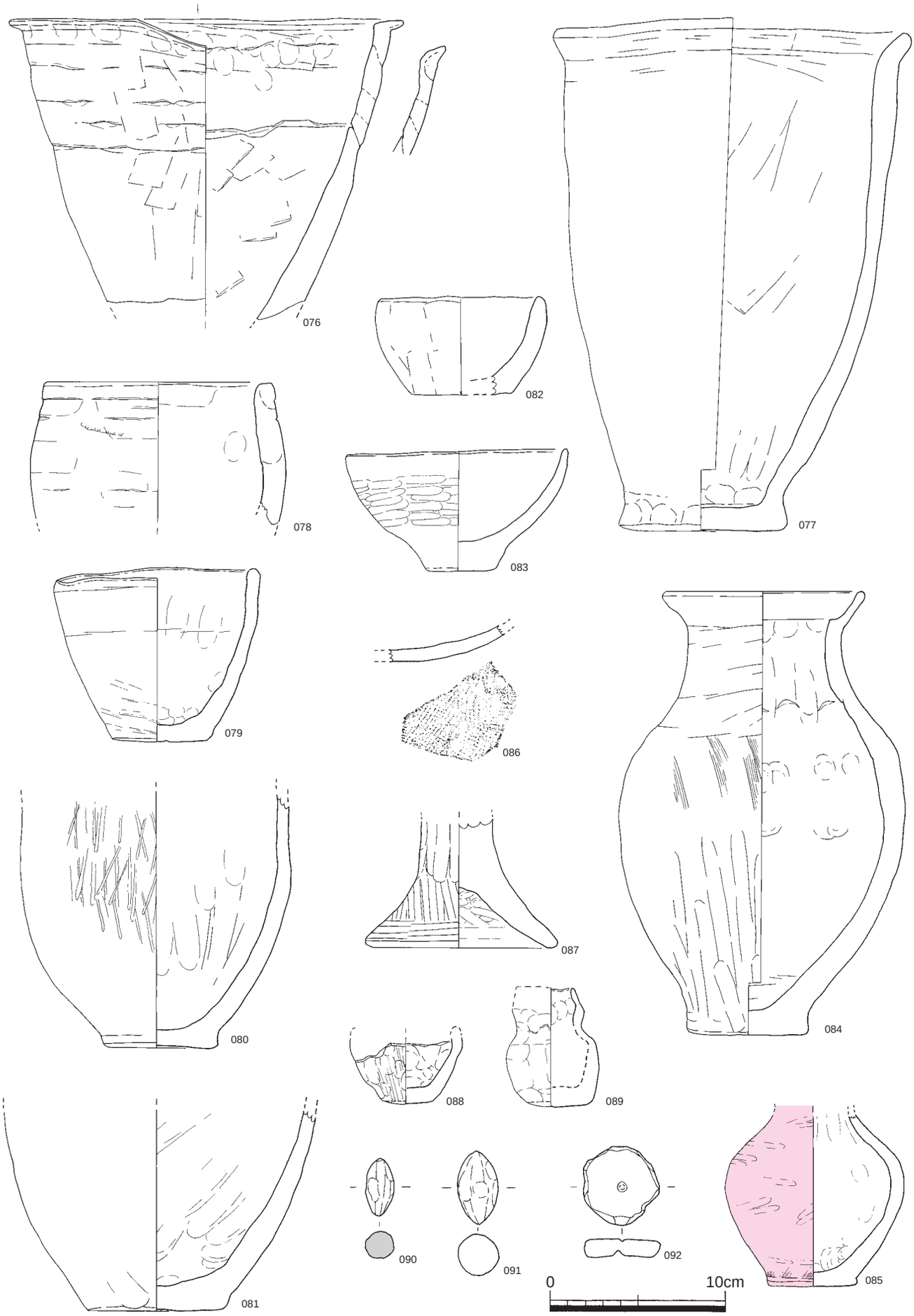


Fig.22　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

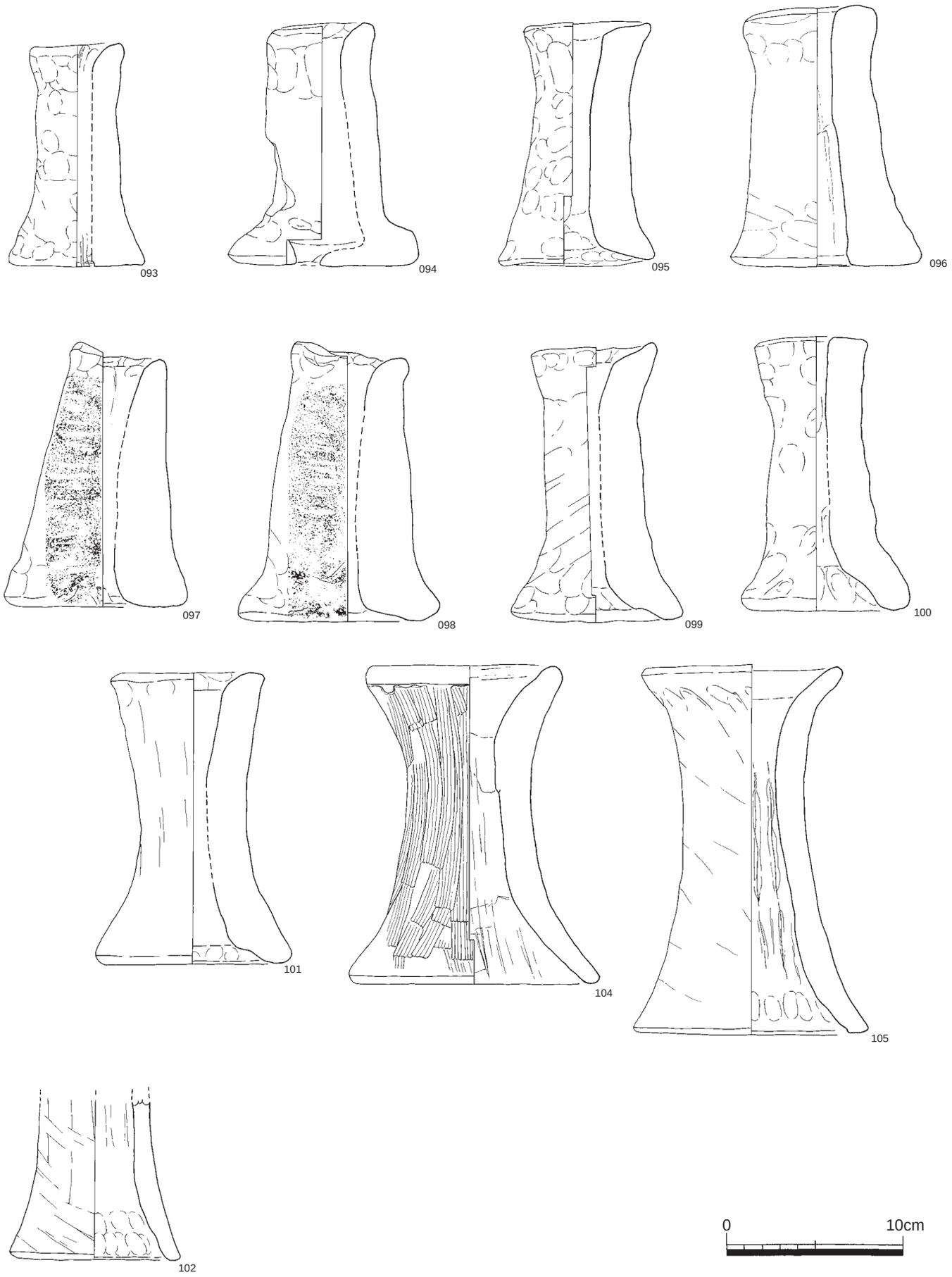


Fig.23　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

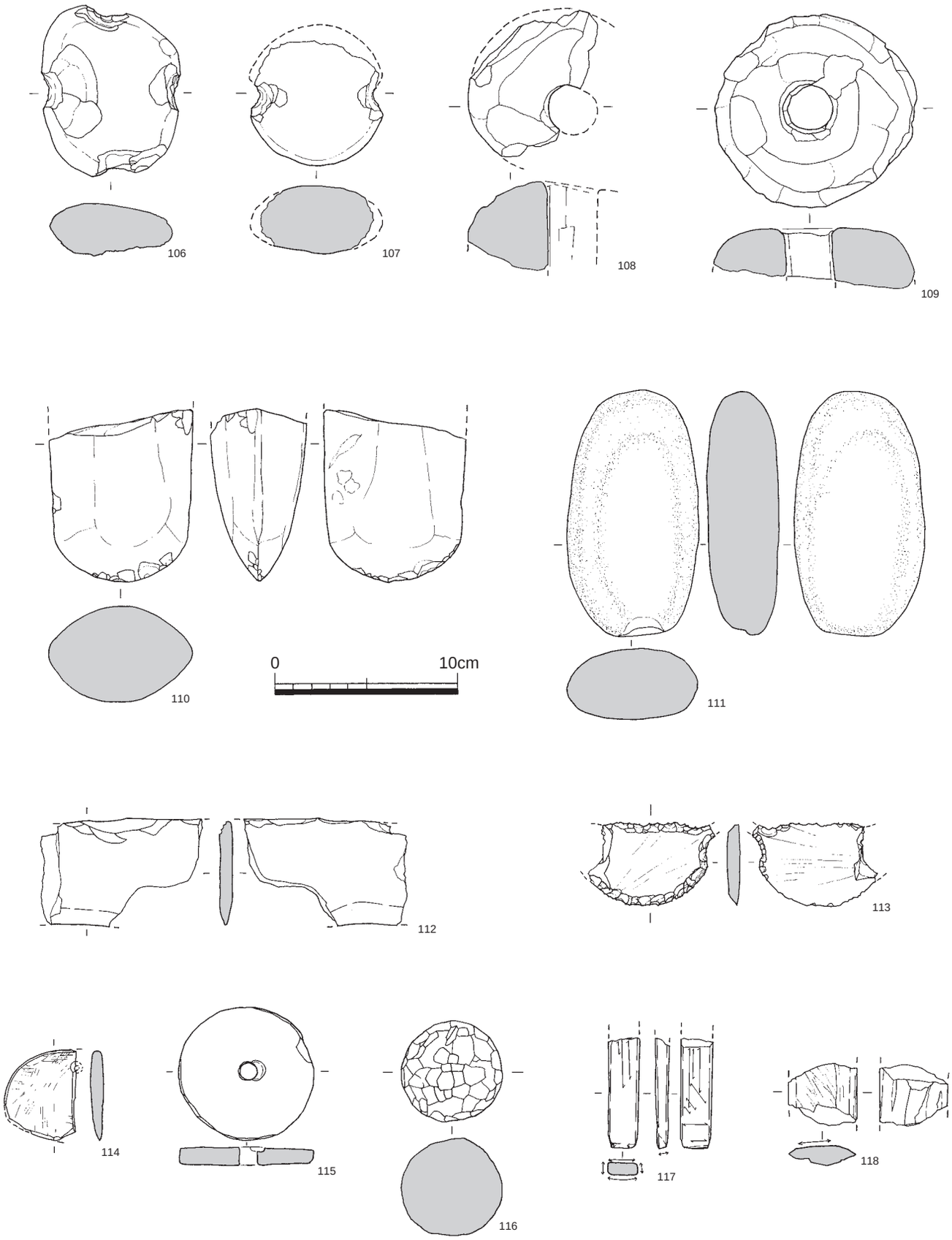


Fig.24　SD-01（A）出土遺物実測図（1/3）

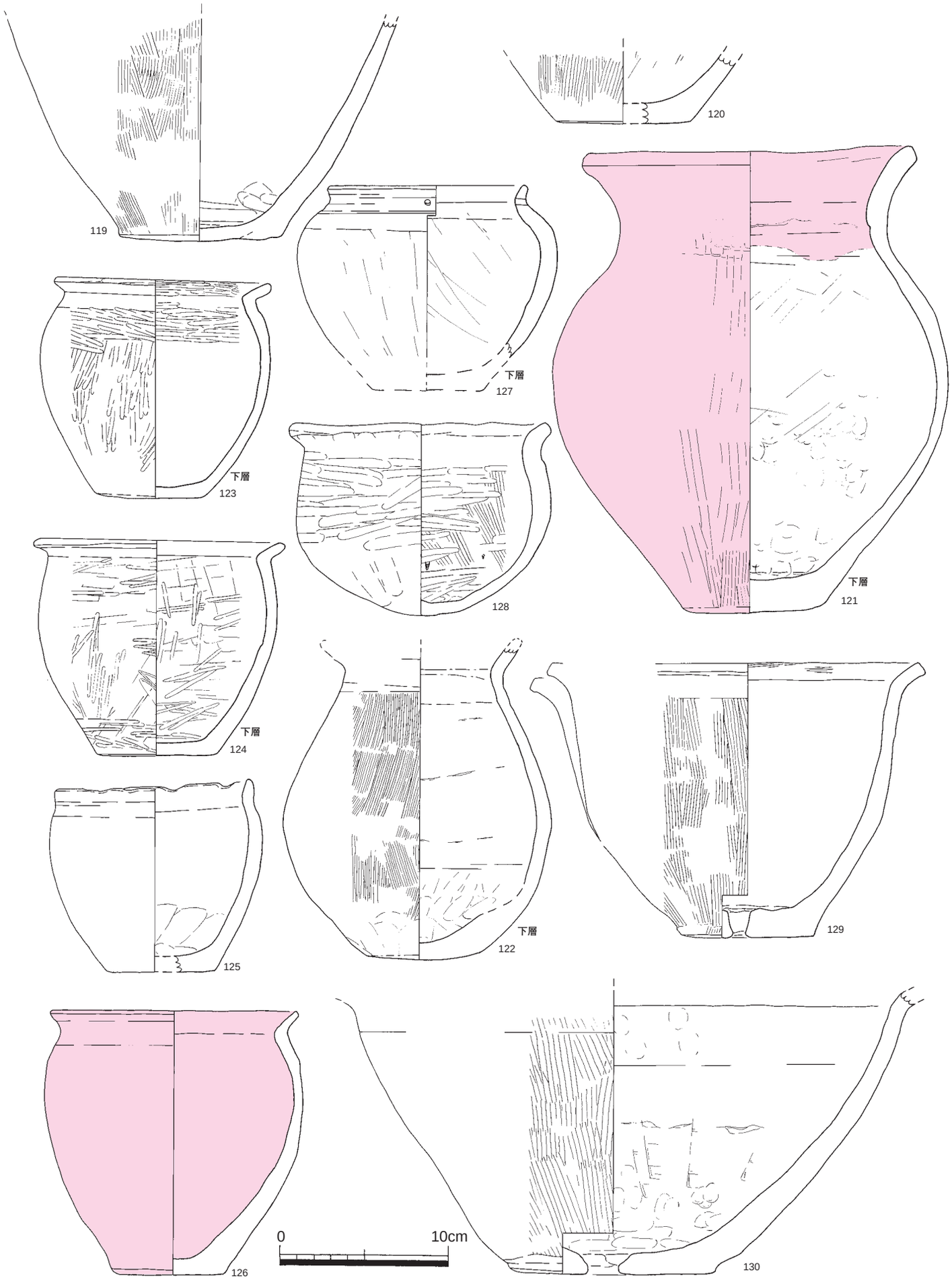


Fig.25　SD-01（B）出土遺物実測図（1/3）

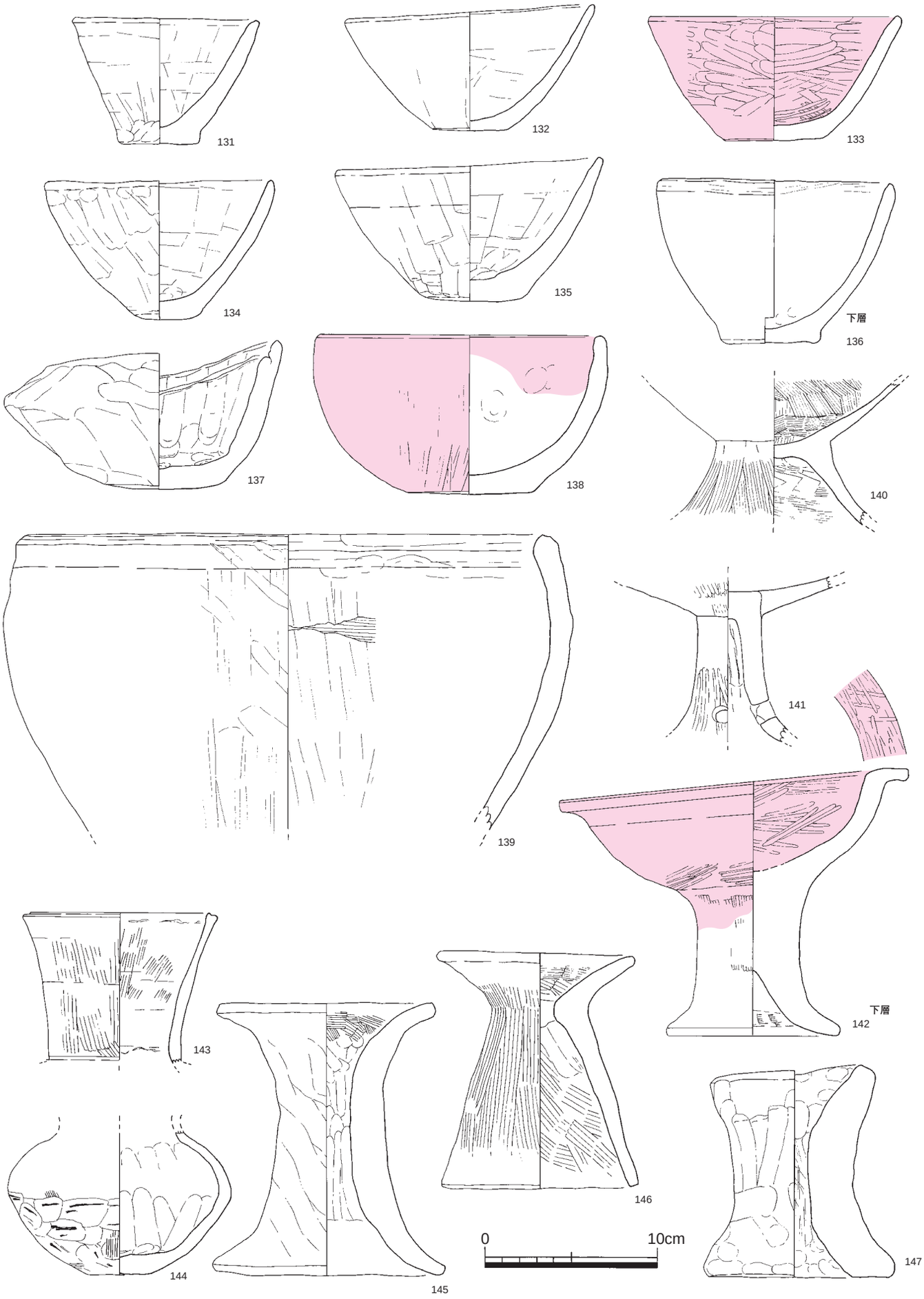


Fig.26　SD-01（B）出土遺物実測図（1/3）

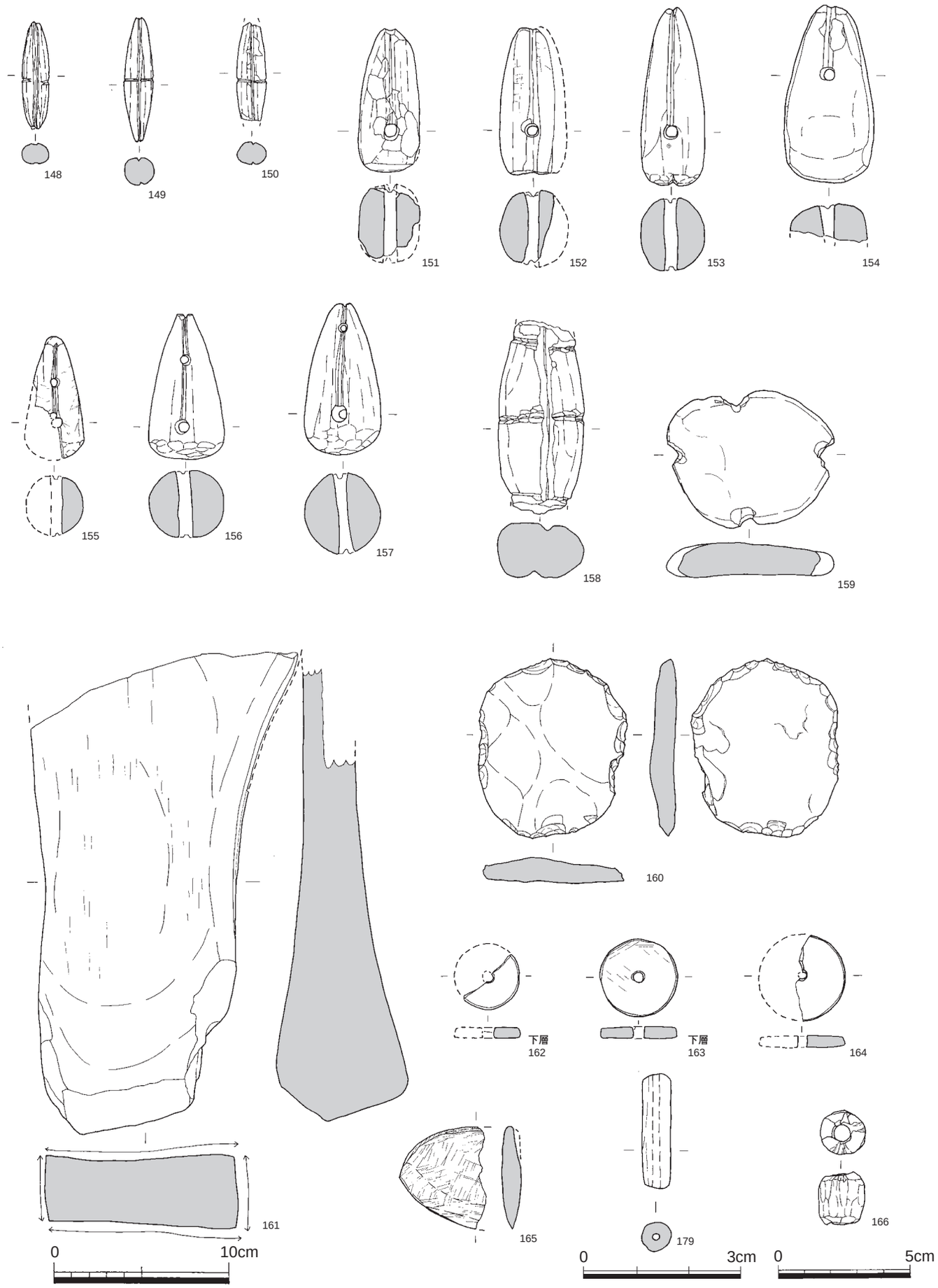


Fig.27　SD-01(B)出土遺物実測図 (1/1),(1/2),(1/3)

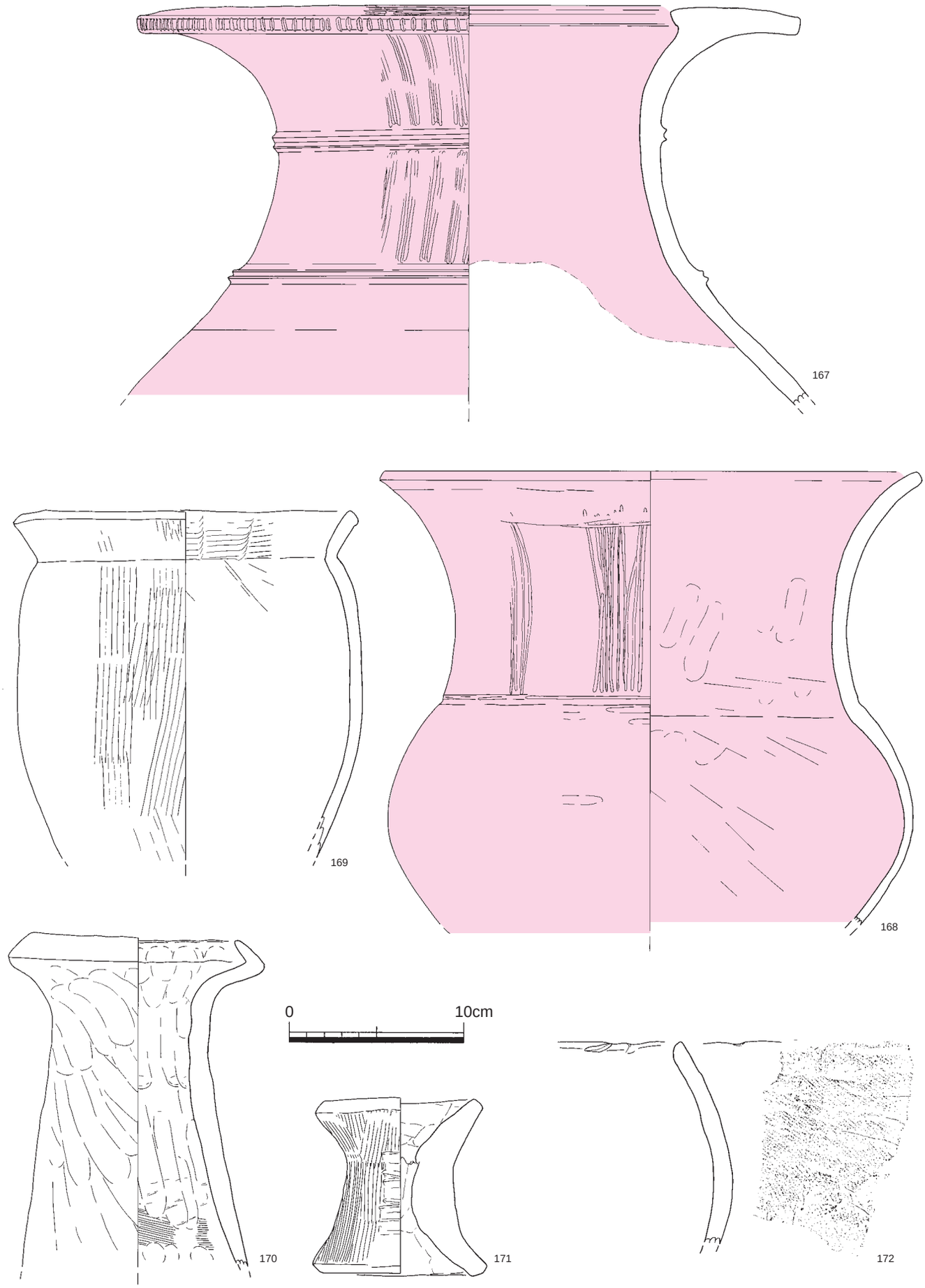


Fig.28　井泉裏ごめ出土遺物実測図(1/3)

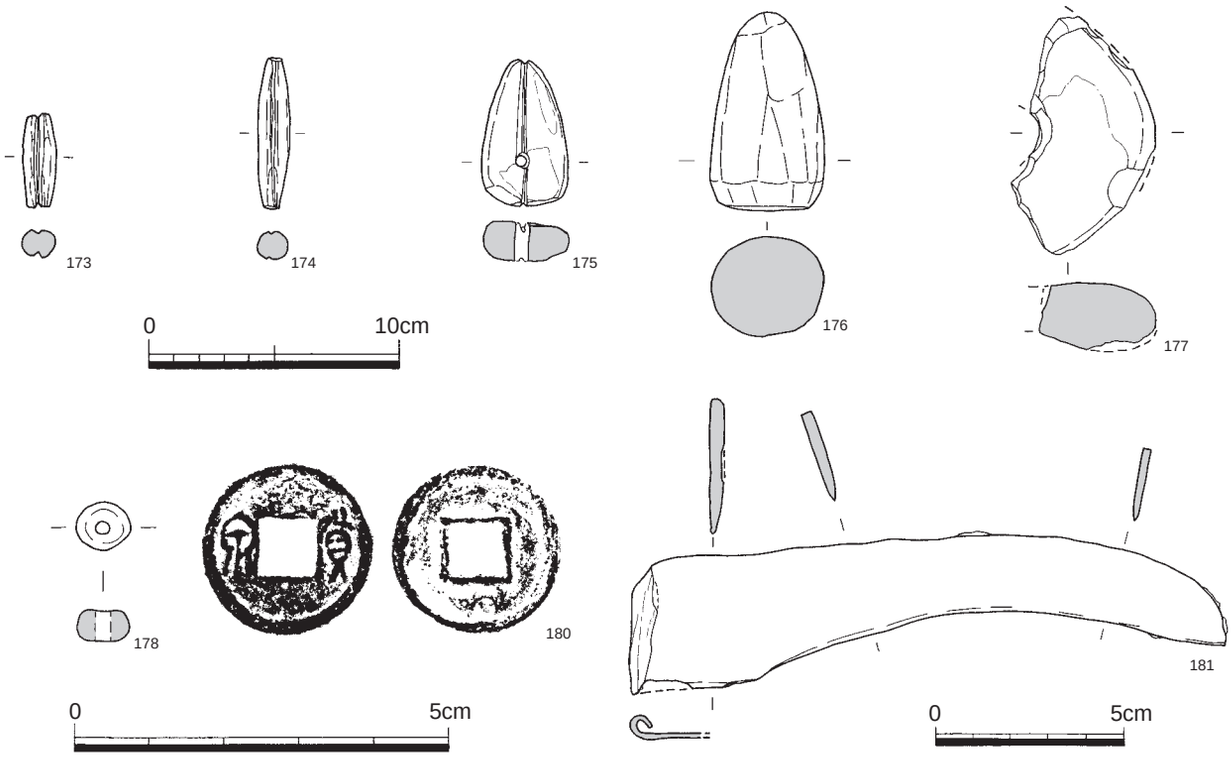


Fig.29　井泉裏ごめ出土遺物実測図(1/1),(1/2),(1/3)

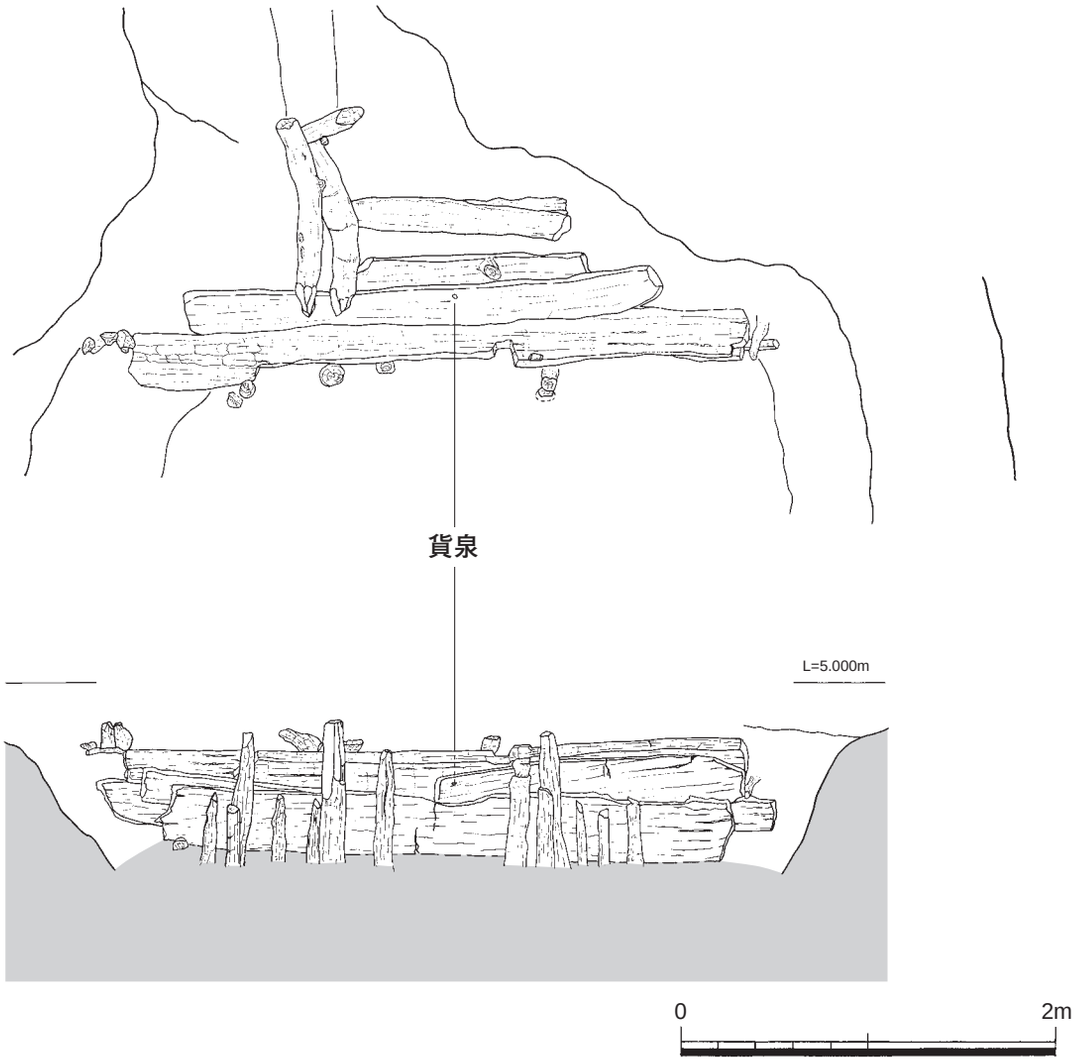


Fig.30　井泉検出状況実測図(1/40)

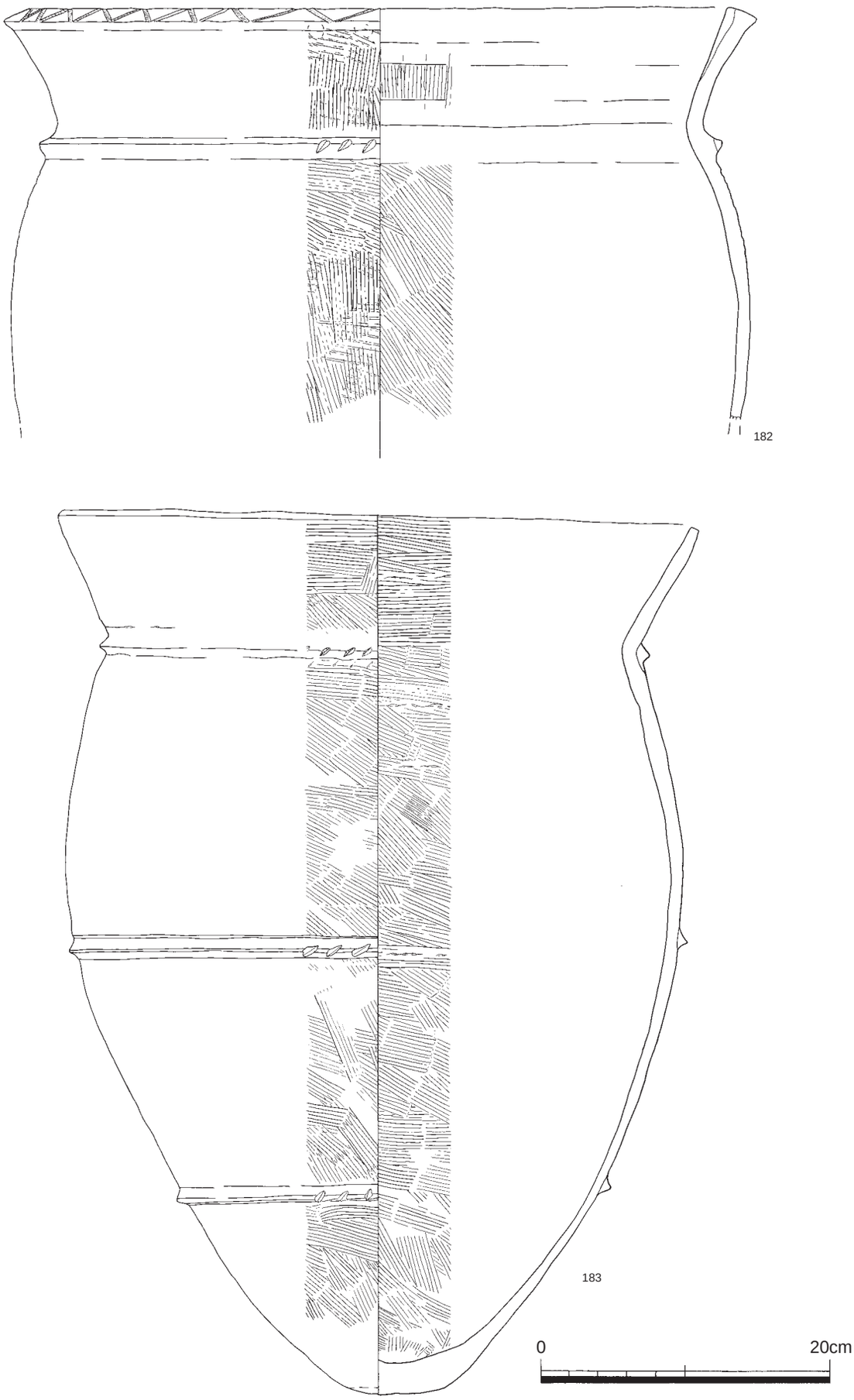


Fig.31　第3区井泉内出土遺物実測図(1/4)

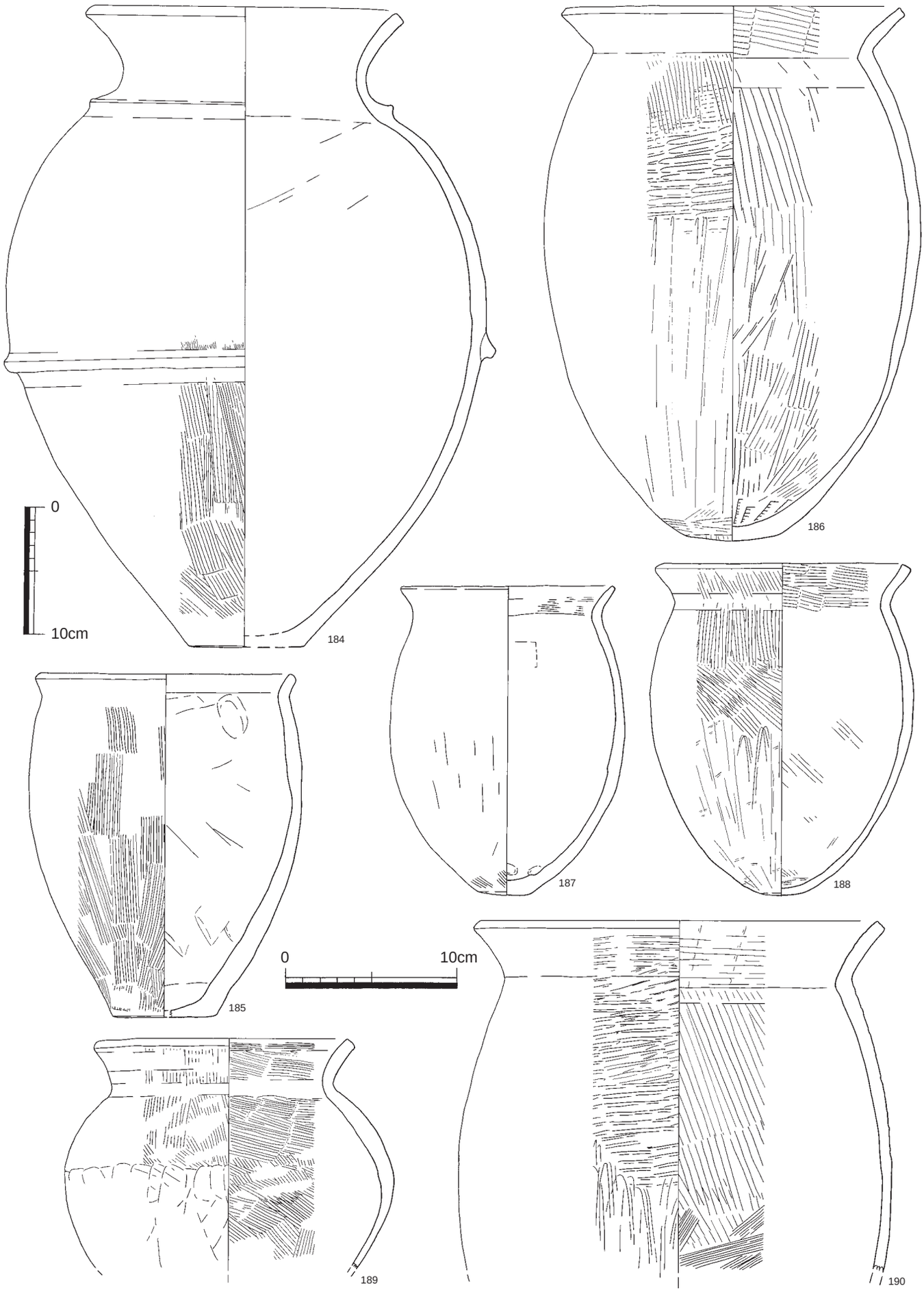


Fig.32　第3区井泉内出土遺物実測図(1/3),(1/4)

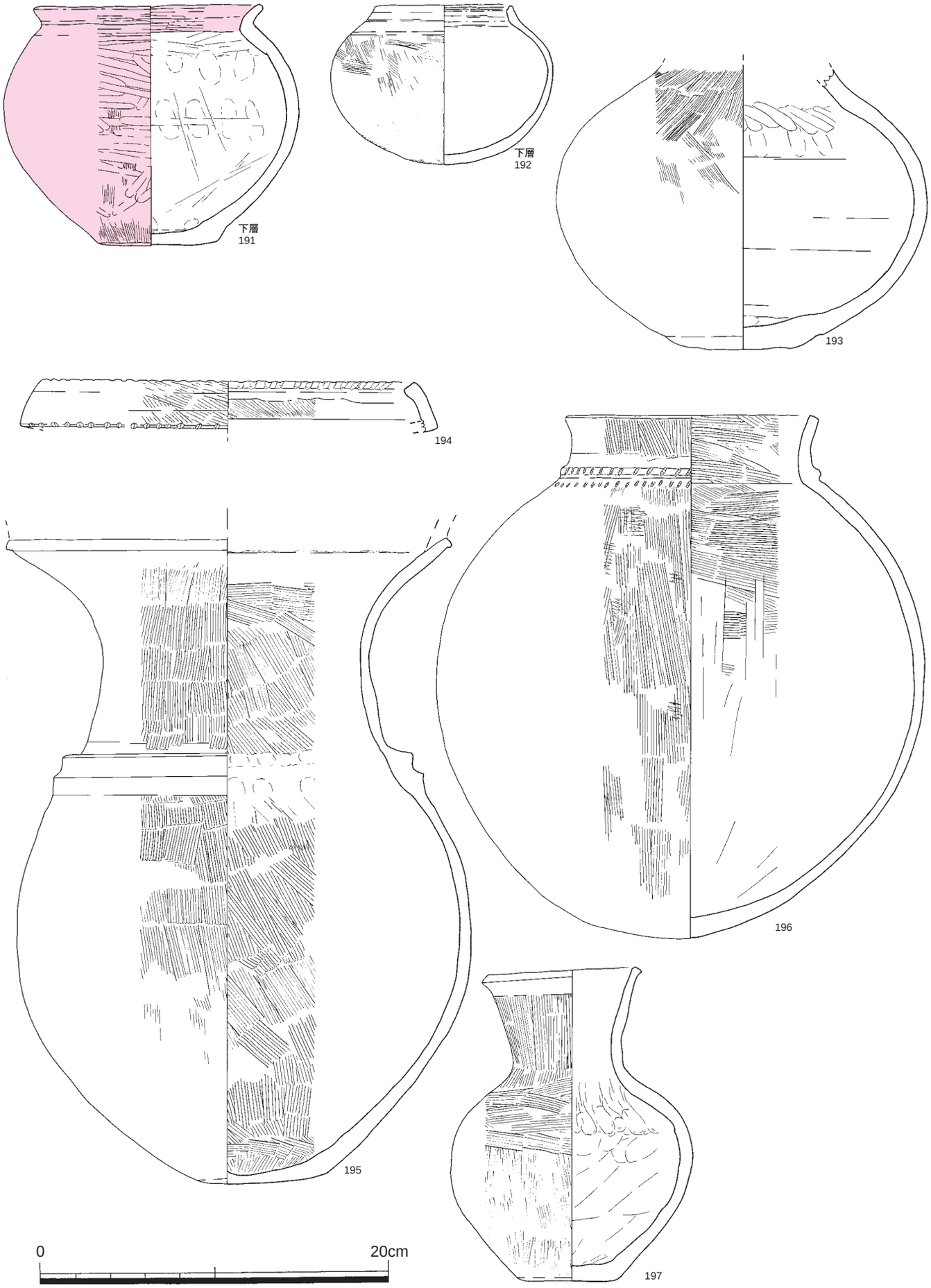


Fig.33　第3区井泉内出土遺物実測図(1/3)

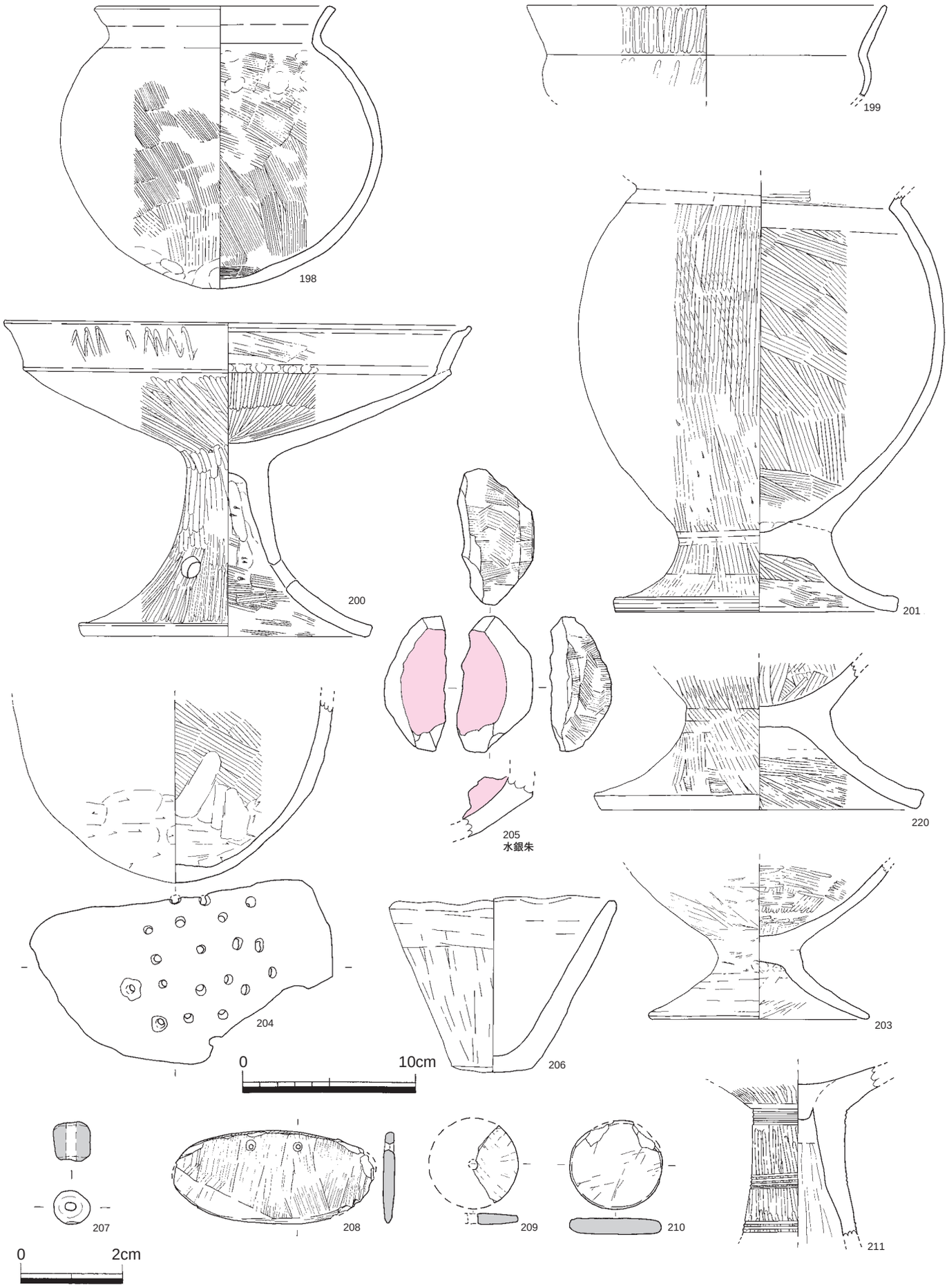


Fig.34　第3区井泉内出土遺物実測図(1/1),(1/3)

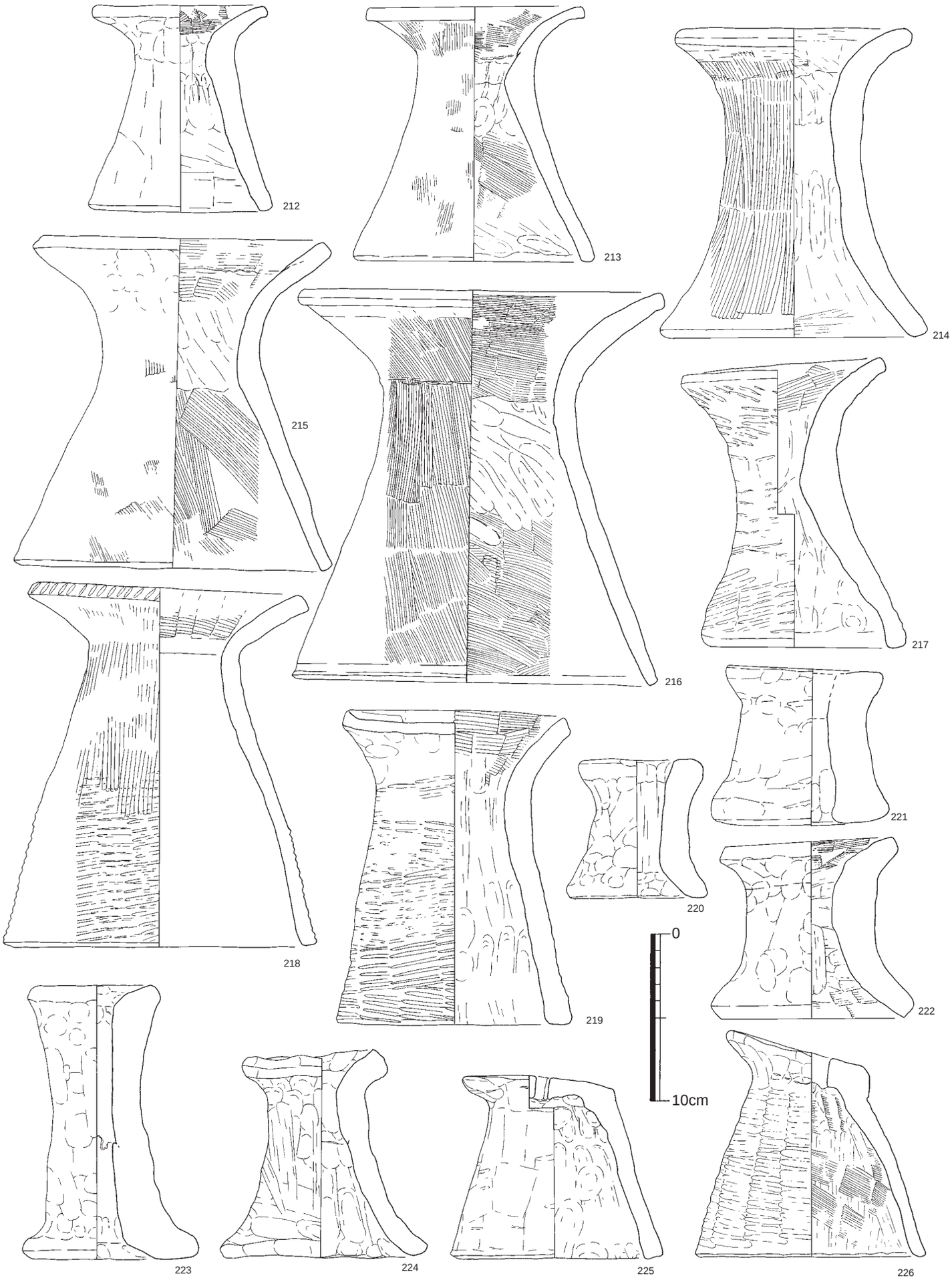
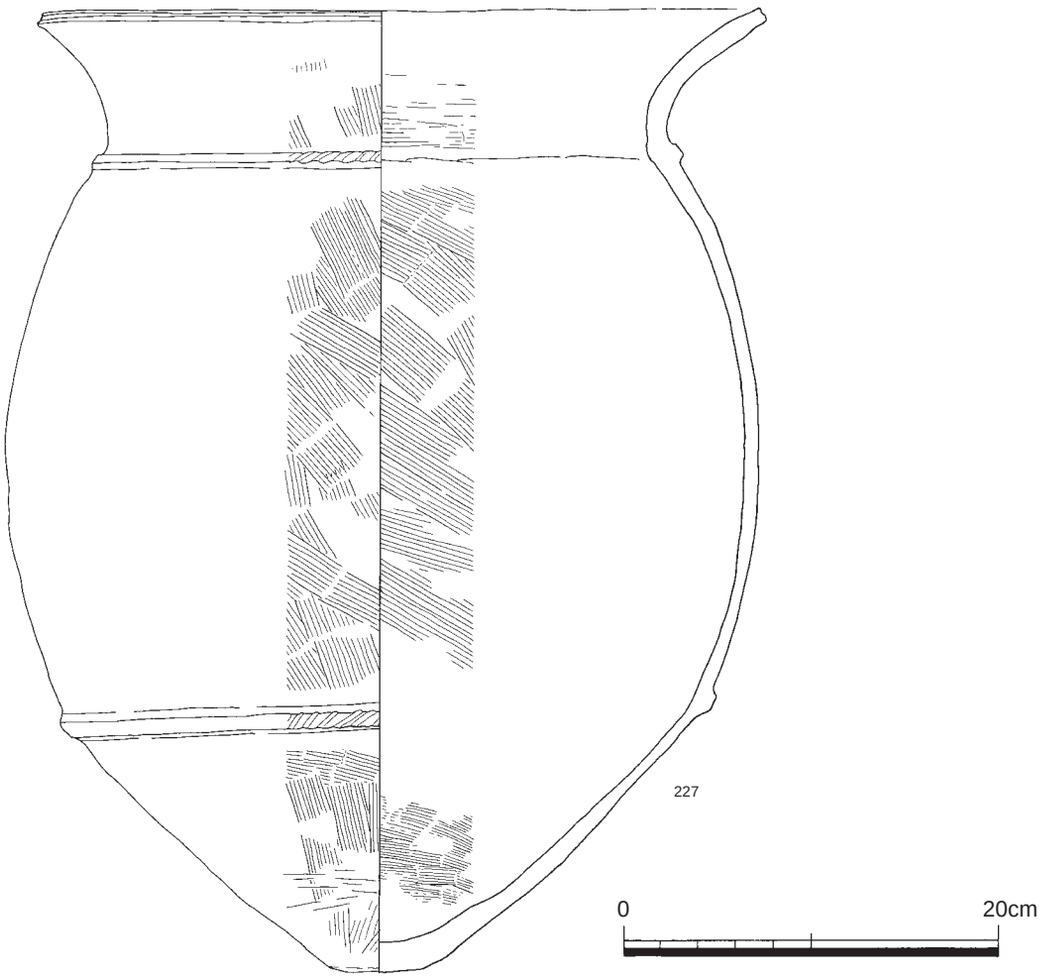


Fig.35　第3区井泉内出土遺物実測図(1/3)



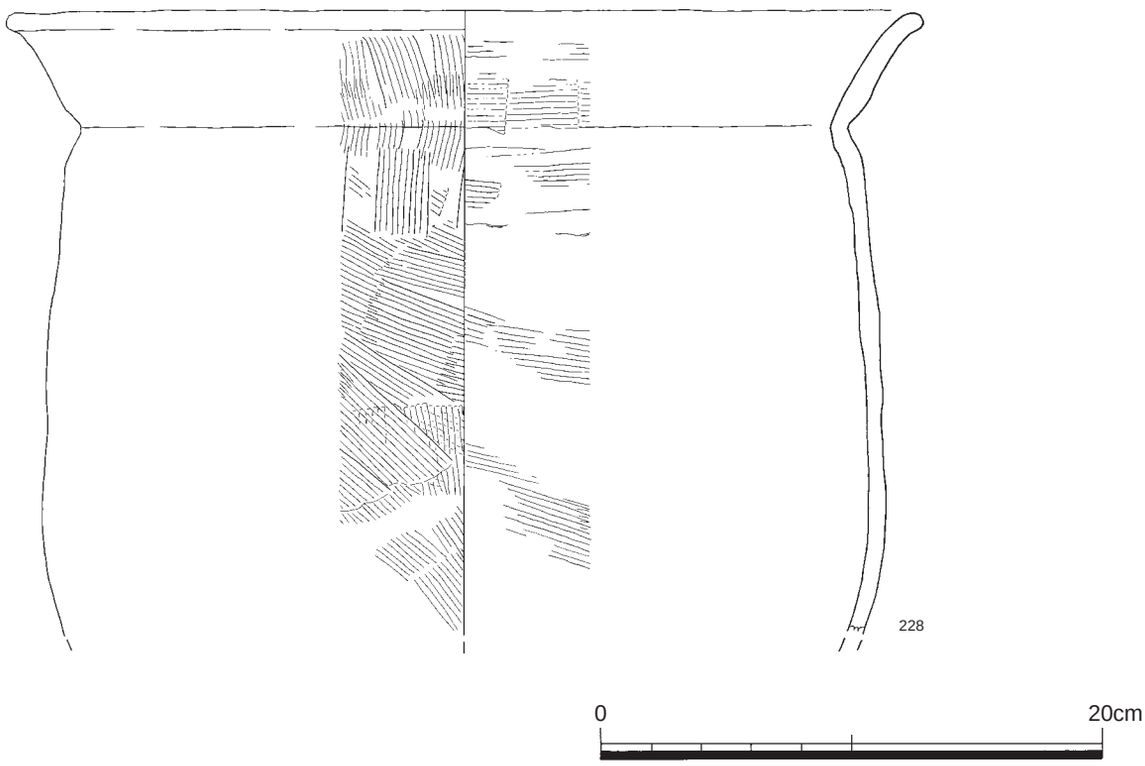


Fig.36　第4区土器溜まり出土遺物実測図(1/3),(1/4)

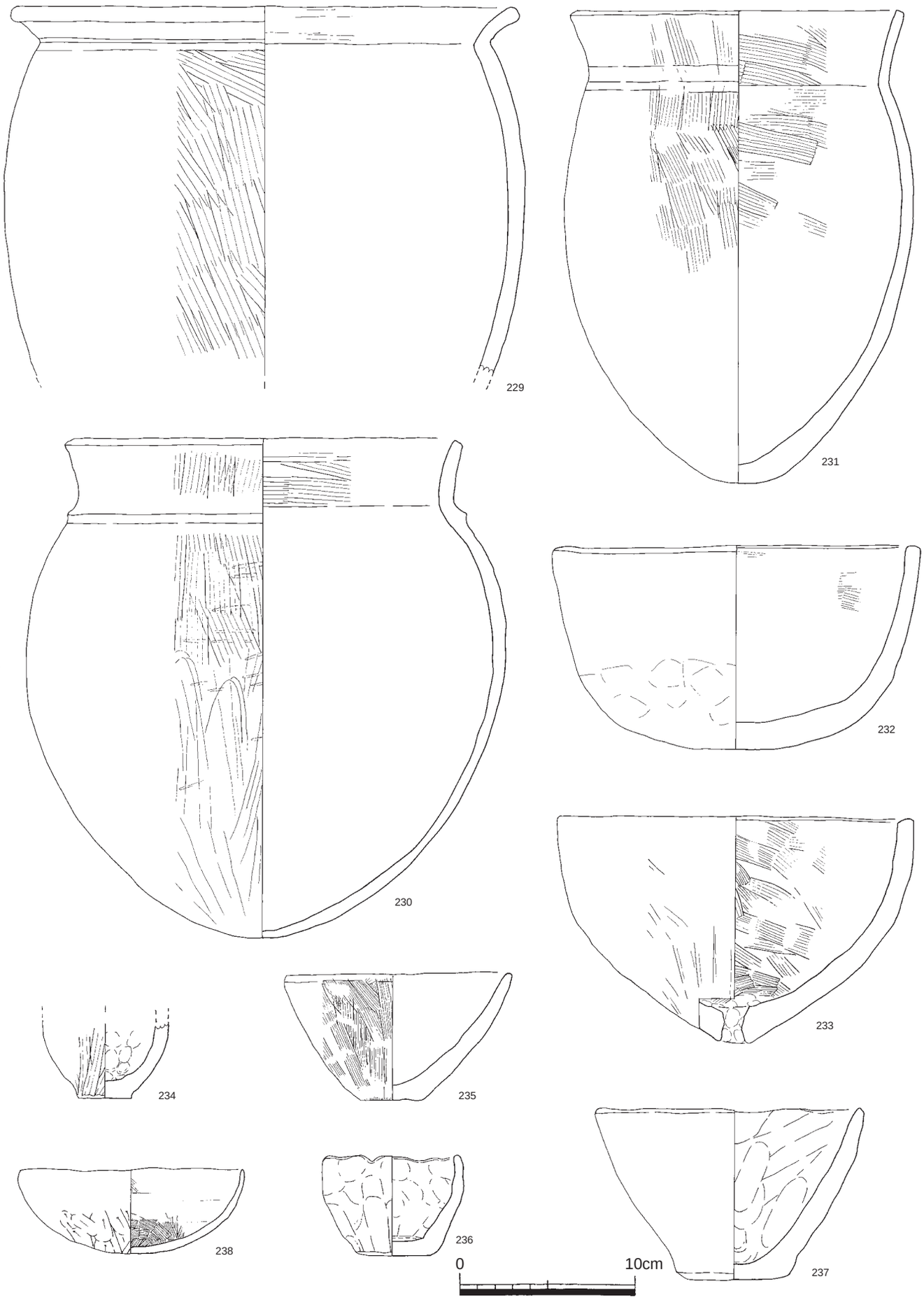


Fig.37　第4区土器溜まり出土遺物実測図(1/3),(1/4)

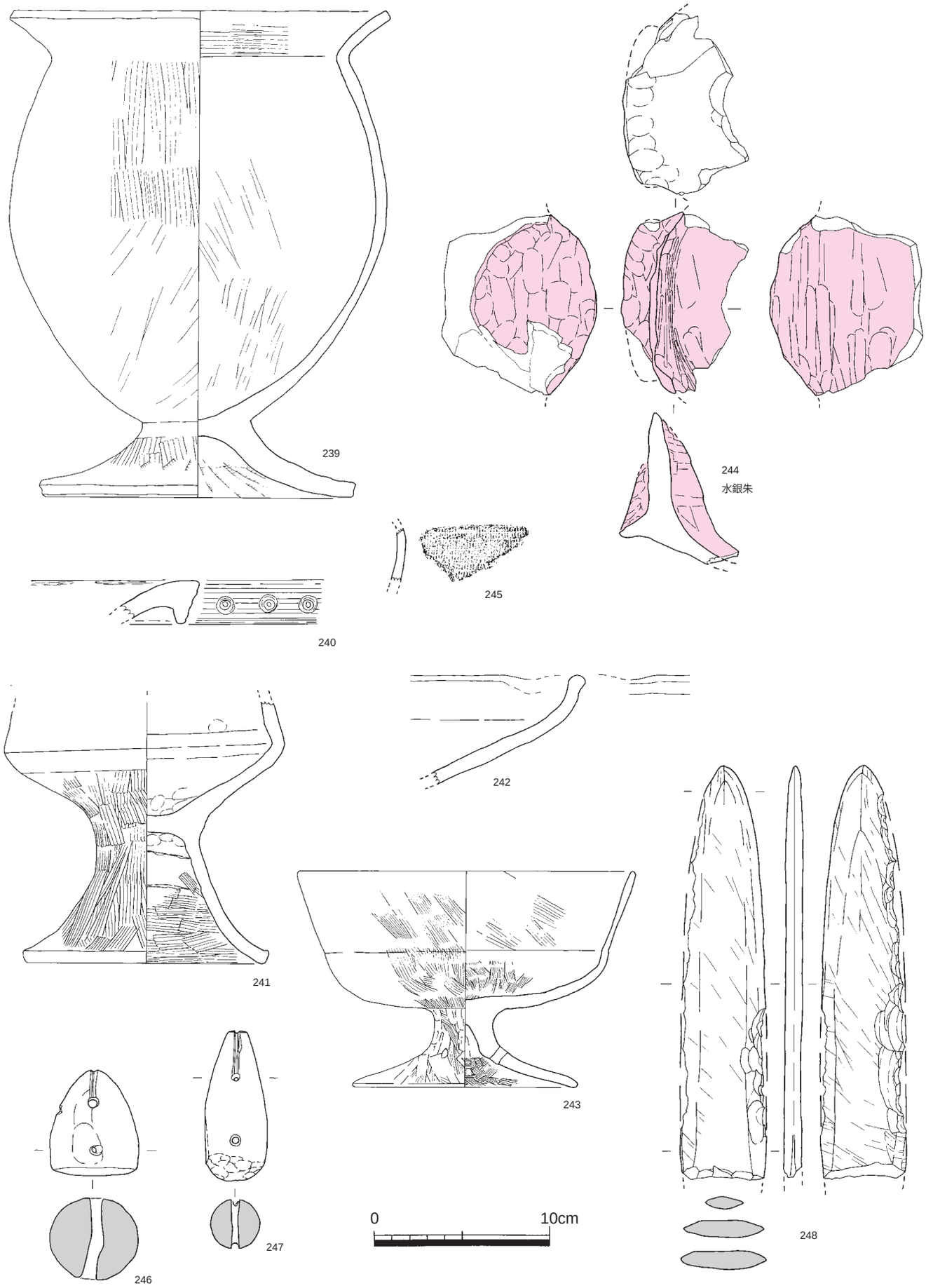


Fig.38　第4区土器溜まり出土遺物実測図（1/3）

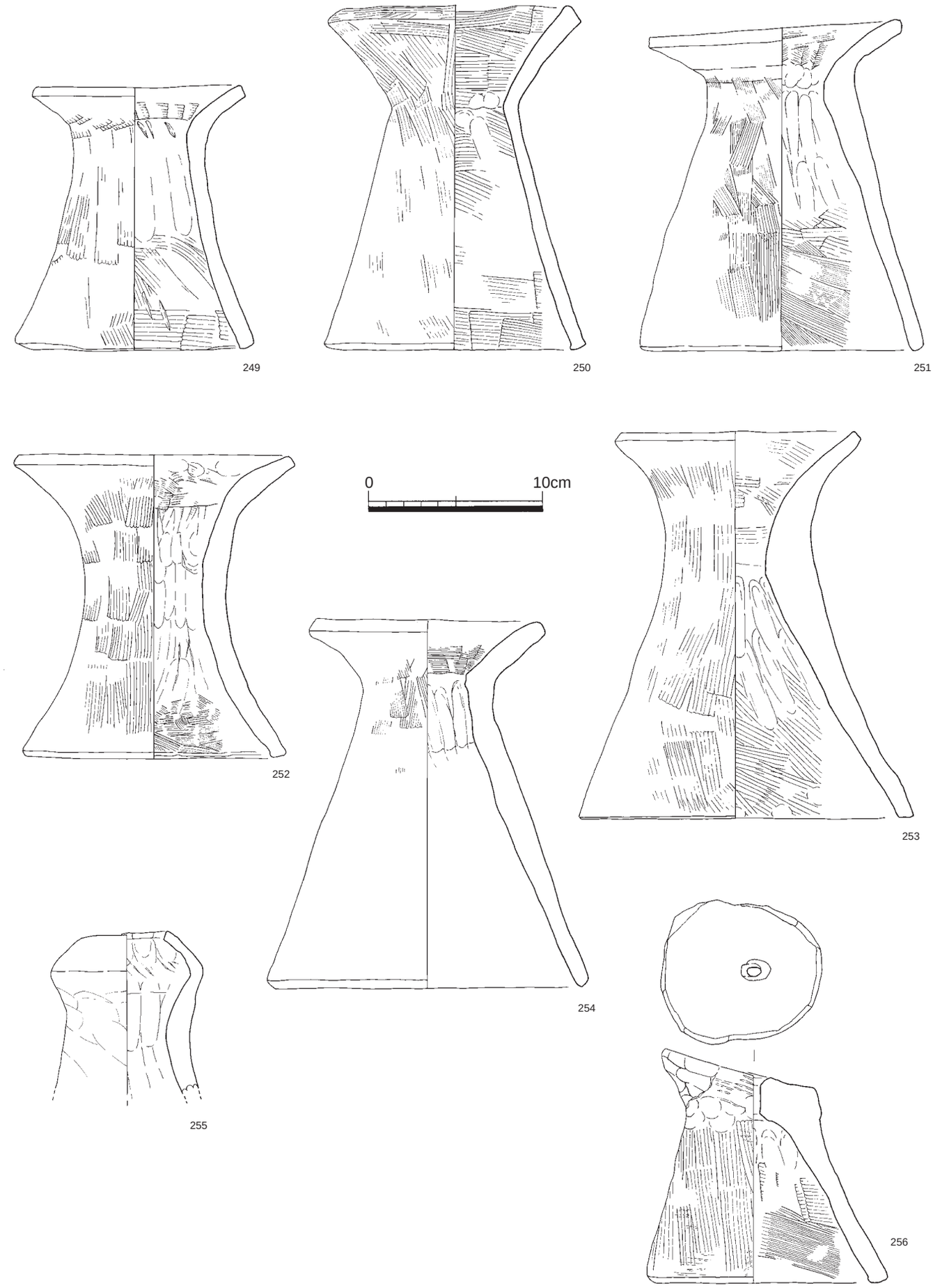


Fig.39　第4区土器溜まり出土遺物実測図（1/3）

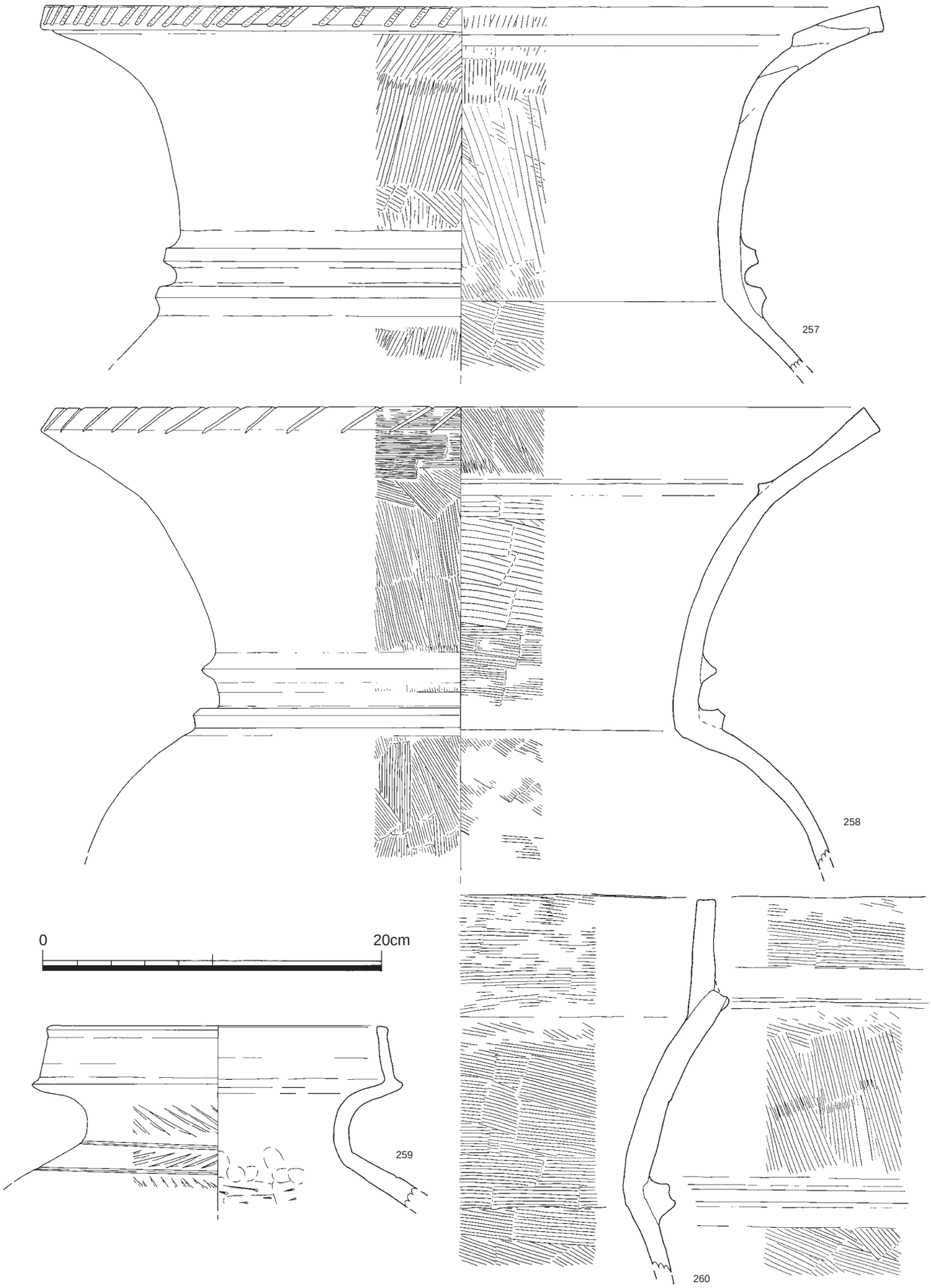


Fig.40　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

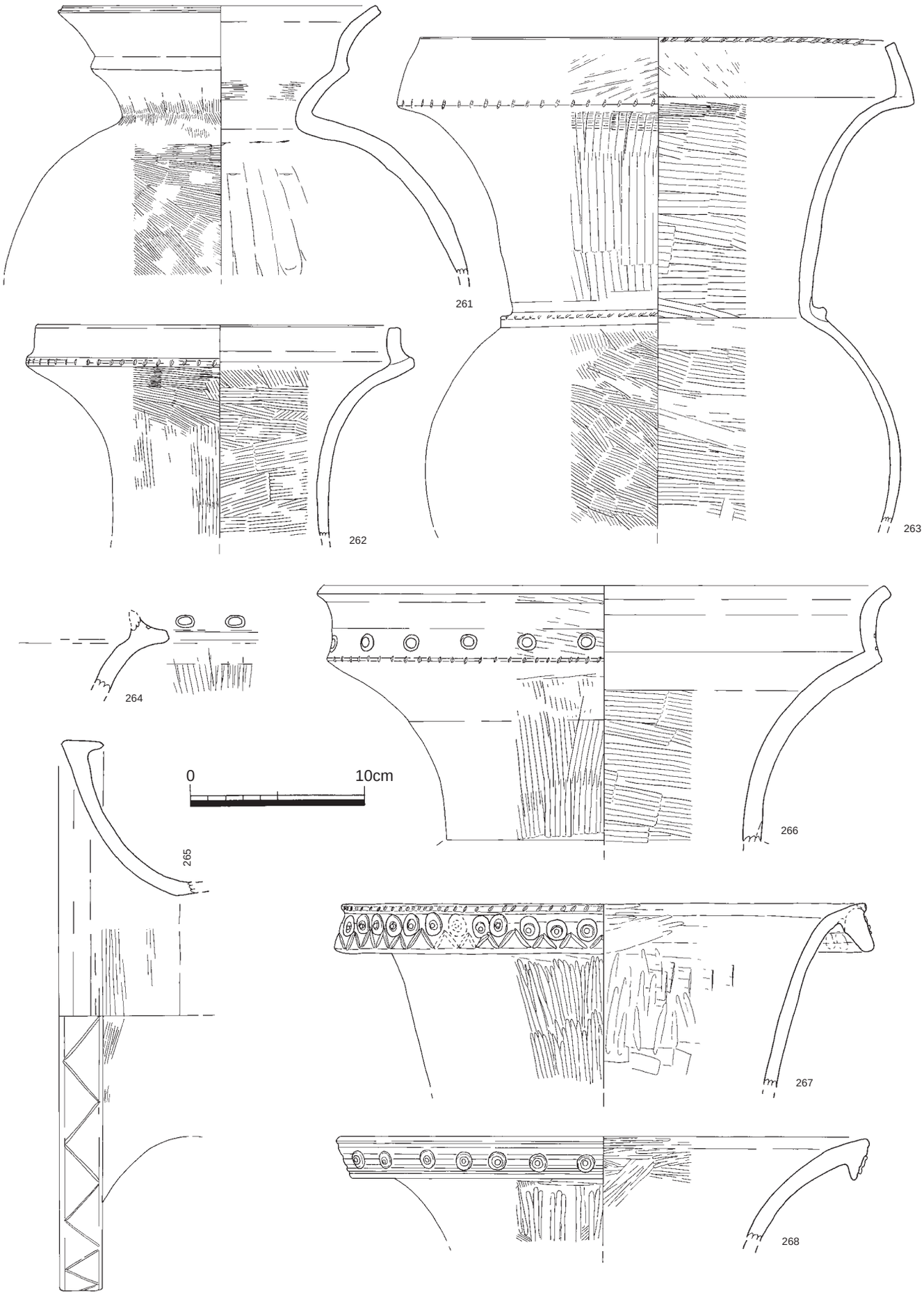


Fig.41　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

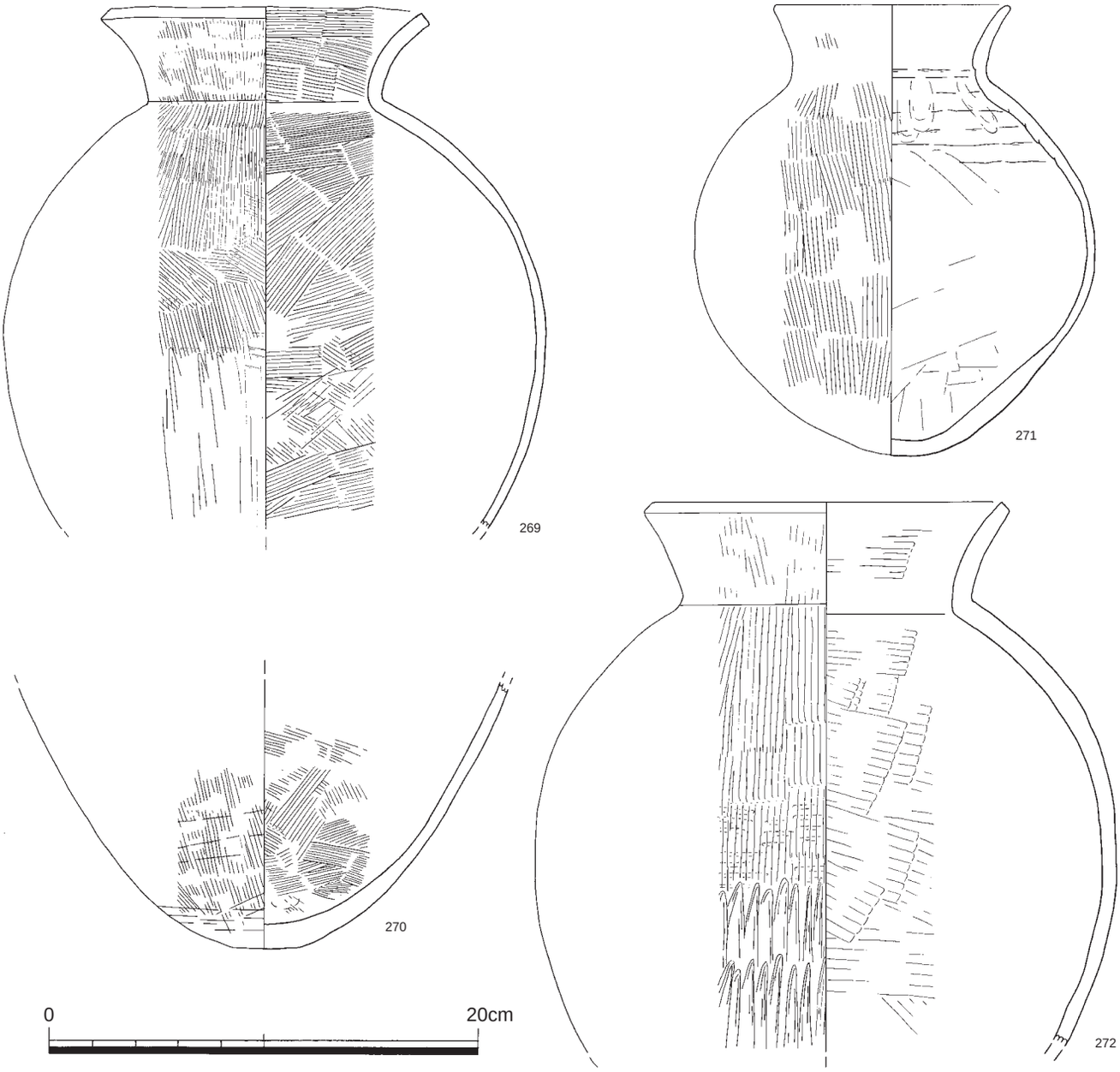


Fig.42

えられる。246,247は石錘である。246は底部が平坦につくられる糸島型と呼称されていたもので、247は底を丸くつくり長卵形を呈する博多湾形と呼称されてきたものである。重量はそれぞれ196、171ｇである。248は石剣である。鎬は無く、断面形も平坦である。石材は砂岩質ホルンフェルスで、残存長23.6cm、最大幅4.9cm、最大厚1.05cmである。249～254は器台である。器面調整には基本的にハケメ調整が行われている。器高は15.2～22.2cmである。255は口縁端部が内湾する器台の破片である。口径は5.0cmである。256は沓形支脚で、器面調整にはハケメ調整が行われている。

最上層黒色土

出土遺物（Fig.40～53、PL.23～30） 257,258,260は大型甕である。257の口縁端部にはハケメ原体小口によると考えられる刺突文が施文される。口径49.8cmである。258も同様に口縁端部に刺突文が見られる。口径49.5cm。260は口径が約90cmに復元される。259は二重口縁の壺で、口径20.2cmであ

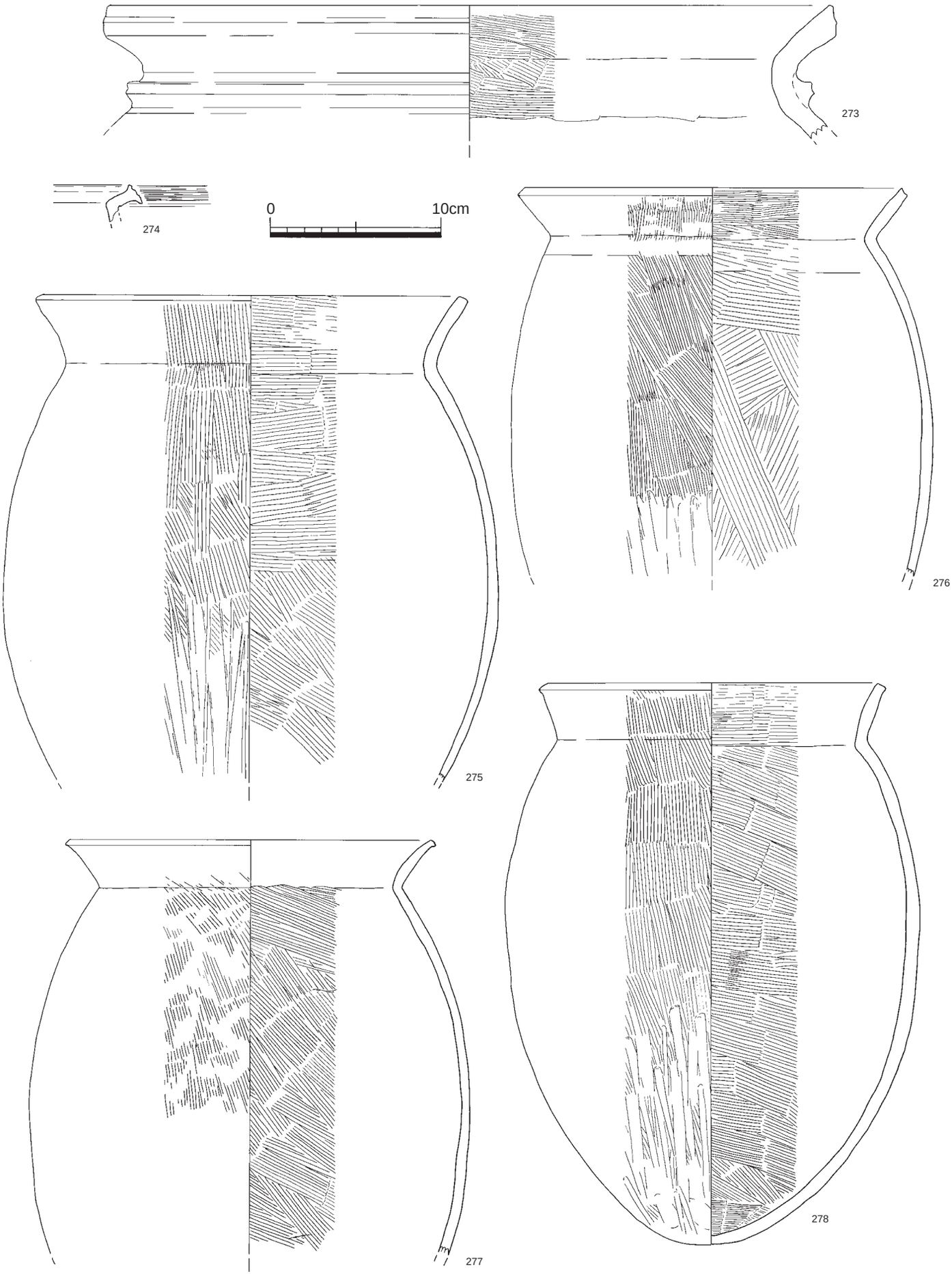


Fig.43　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

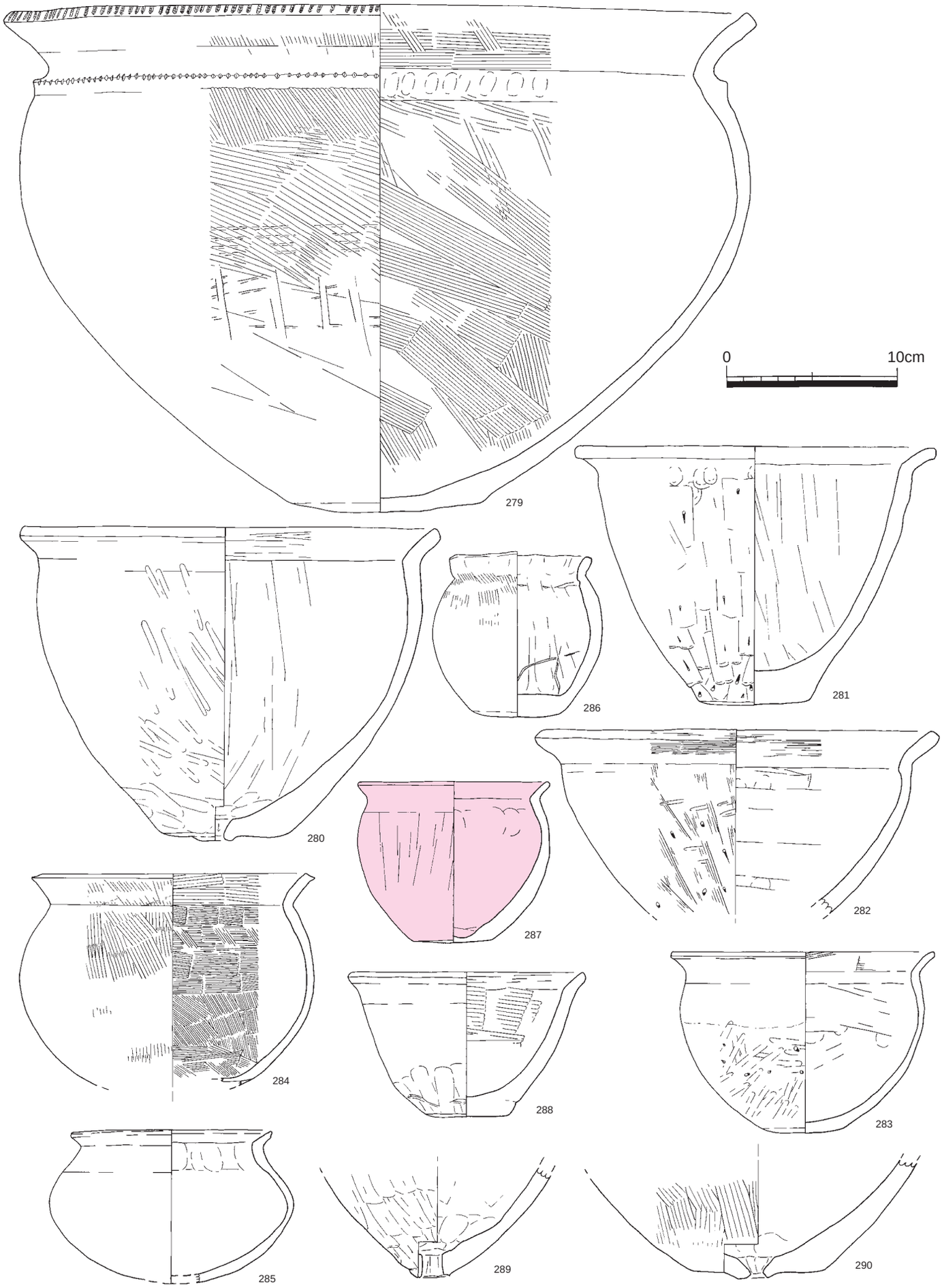


Fig.44　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

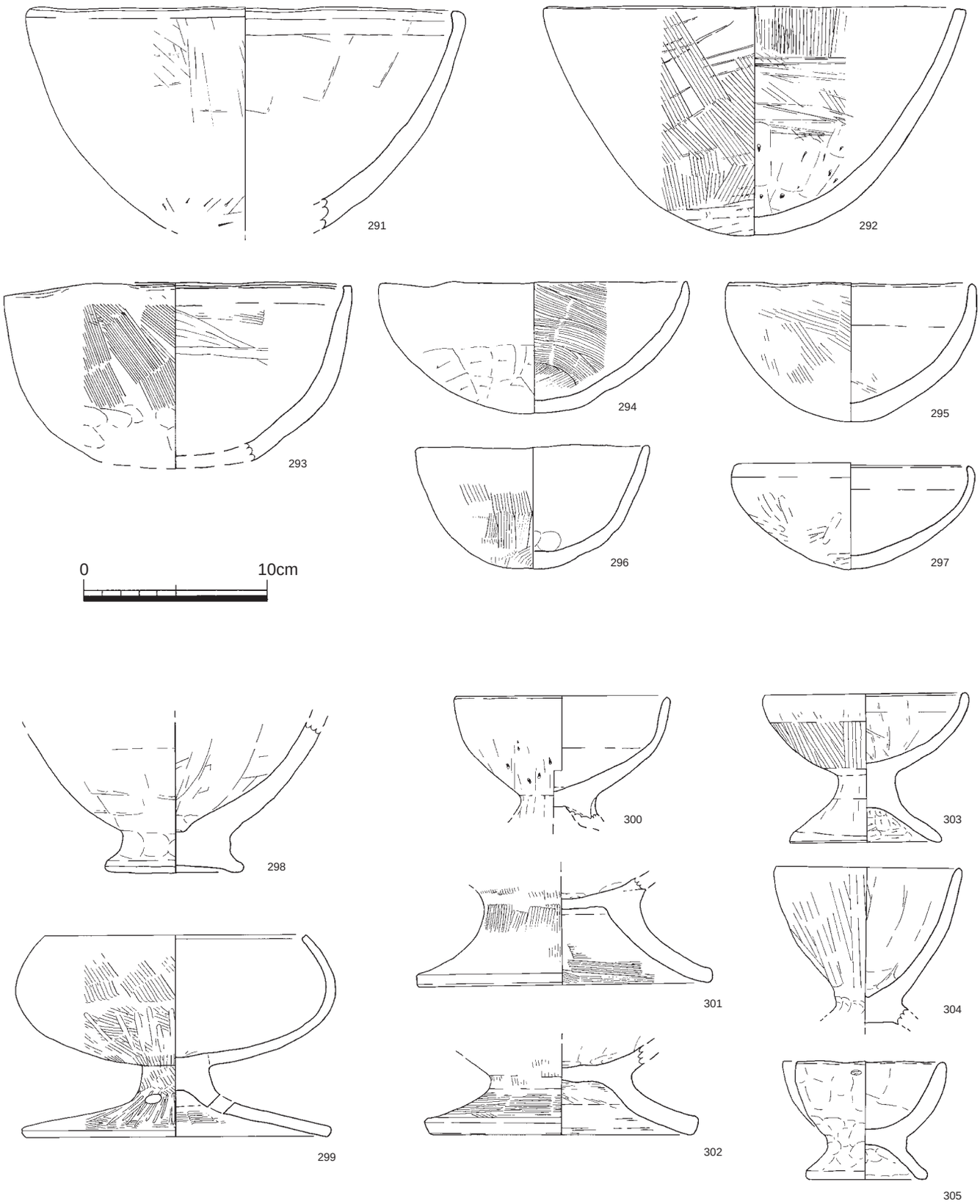


Fig.45　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

る。**261**～**272**は壺である。**263**の口縁端部にもハケメ原体小口によると考えられる刺突文が施文される。口径27.3cm。**264**の壺口縁部破片には竹管文が見られる。**265**の壺口縁端部は下垂させ、鋸歯状の刻目文が施文される。口径31.7cm。**266**は**264**同様に口縁端部下に竹管文が見られる。口径33.0cm。**267**は口縁端部を下垂させ、円形浮文の貼り付け、鋸歯状の刻目文が見られる。口径

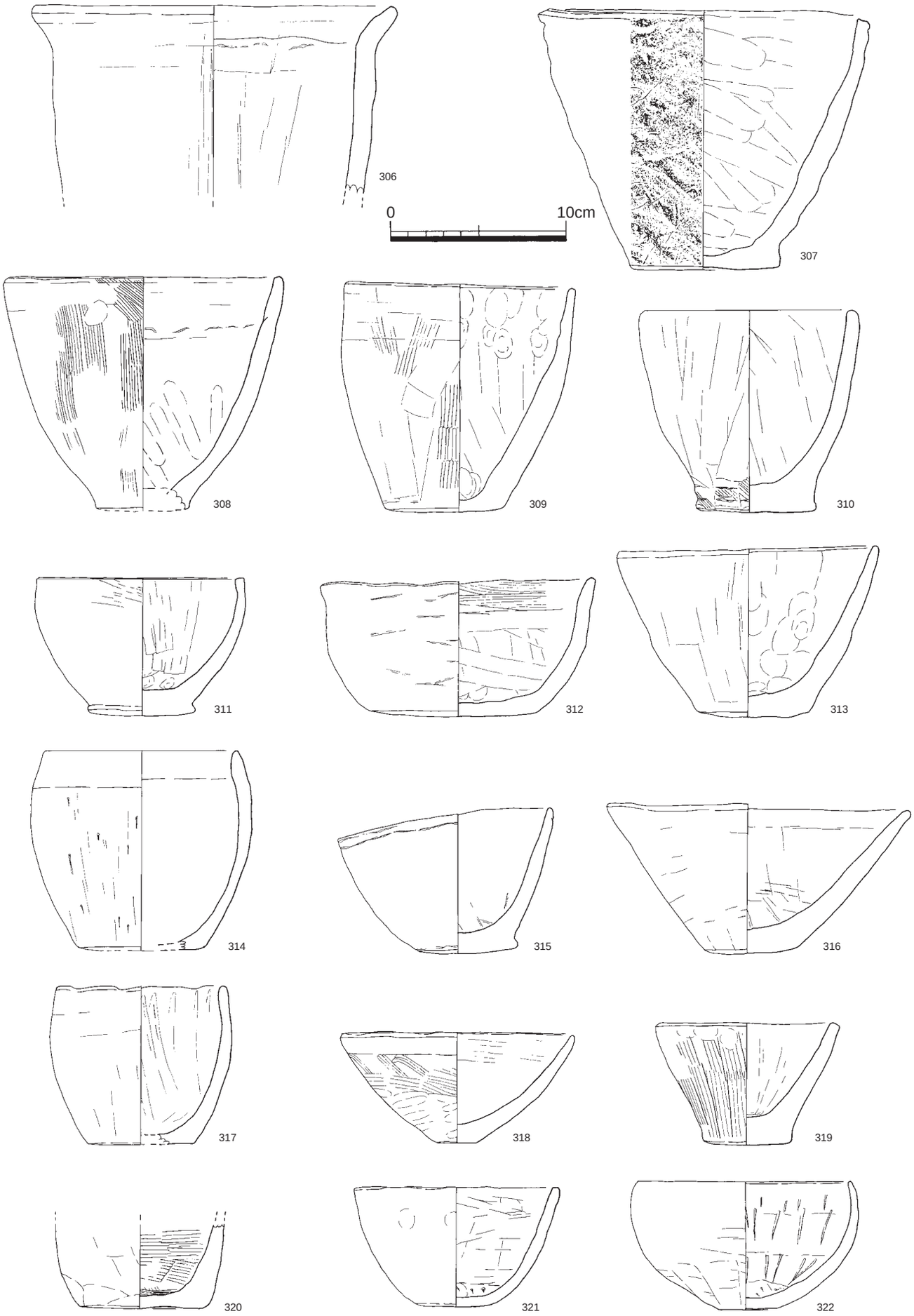


Fig.46　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

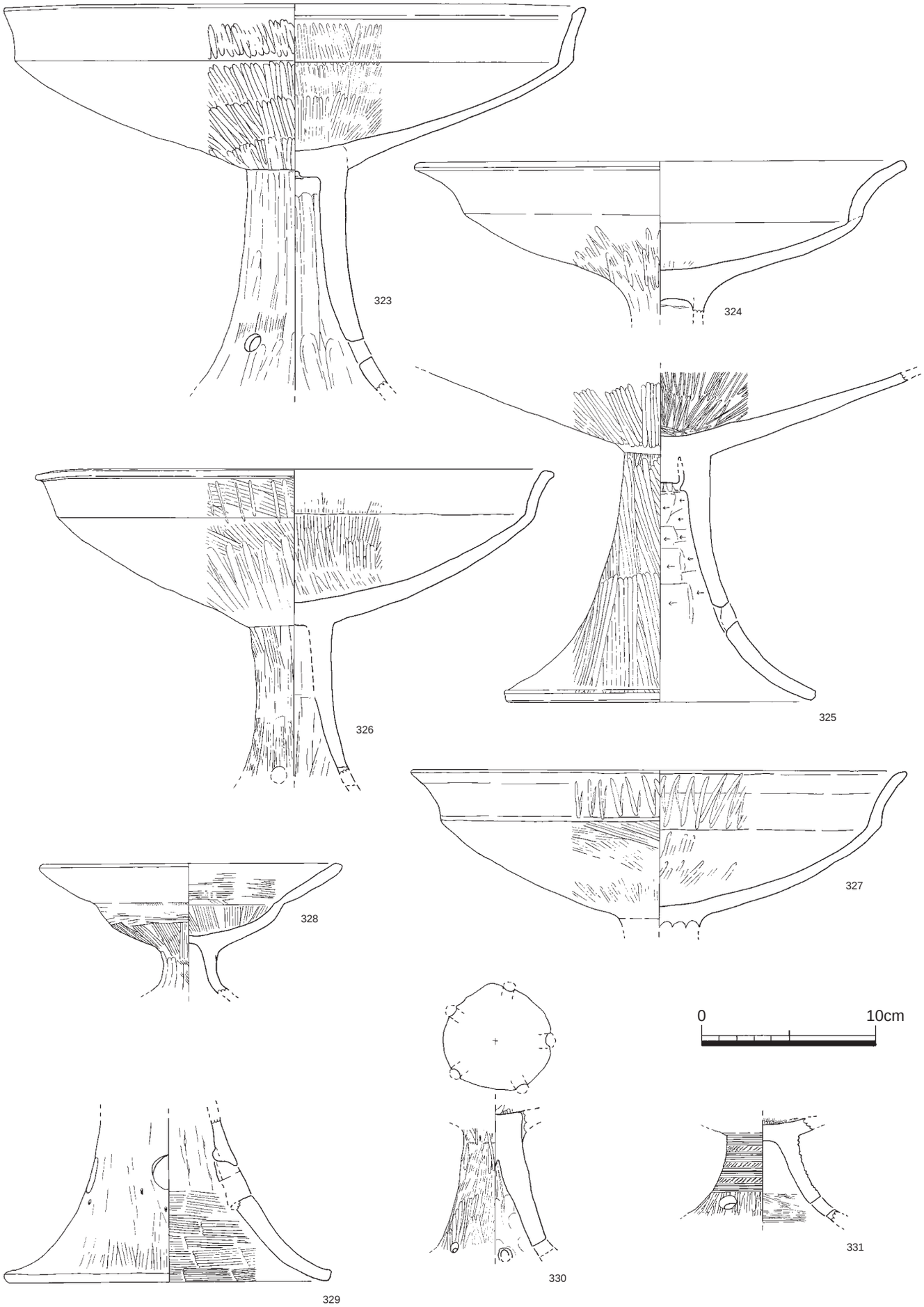


Fig.47　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

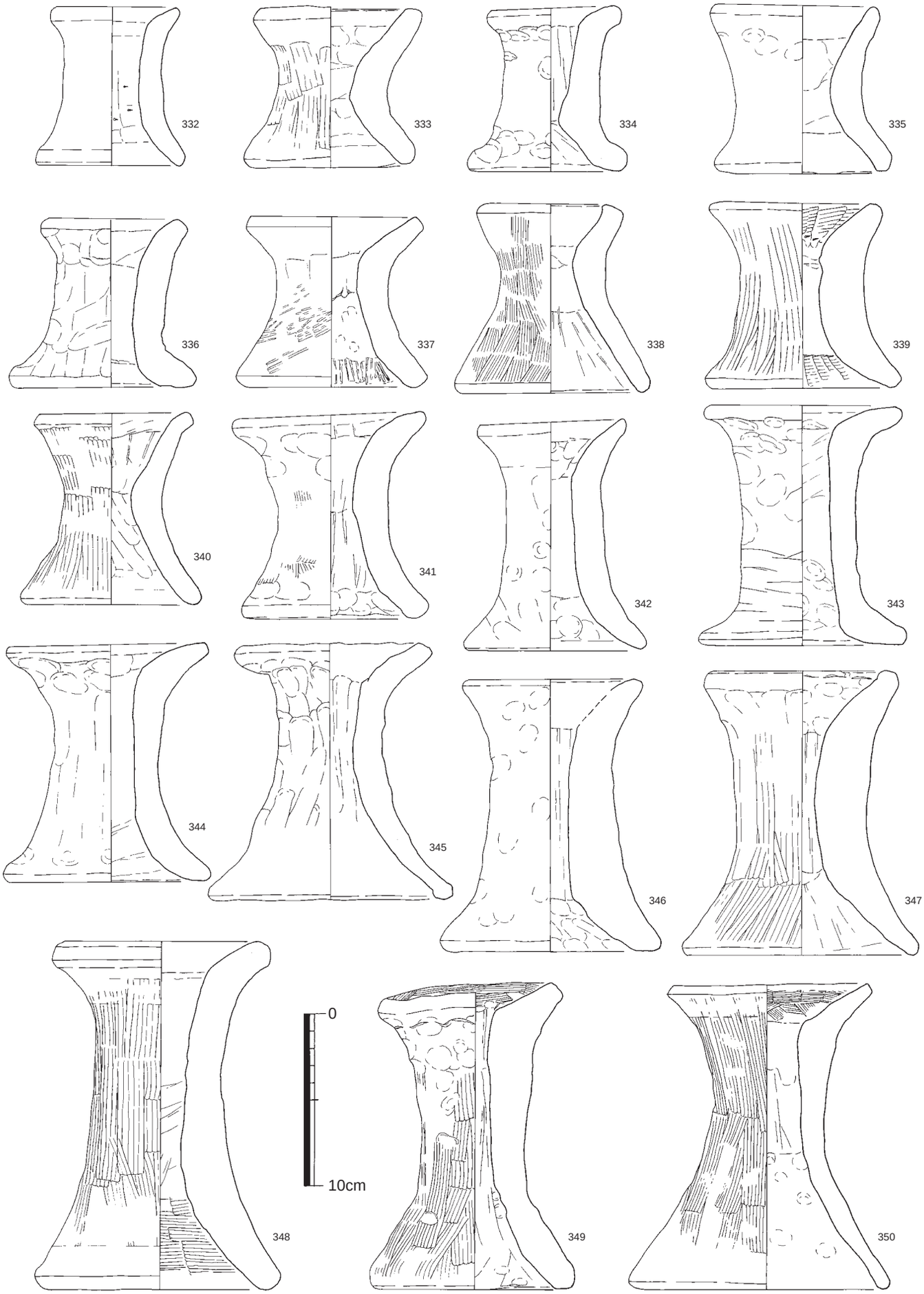


Fig.48　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

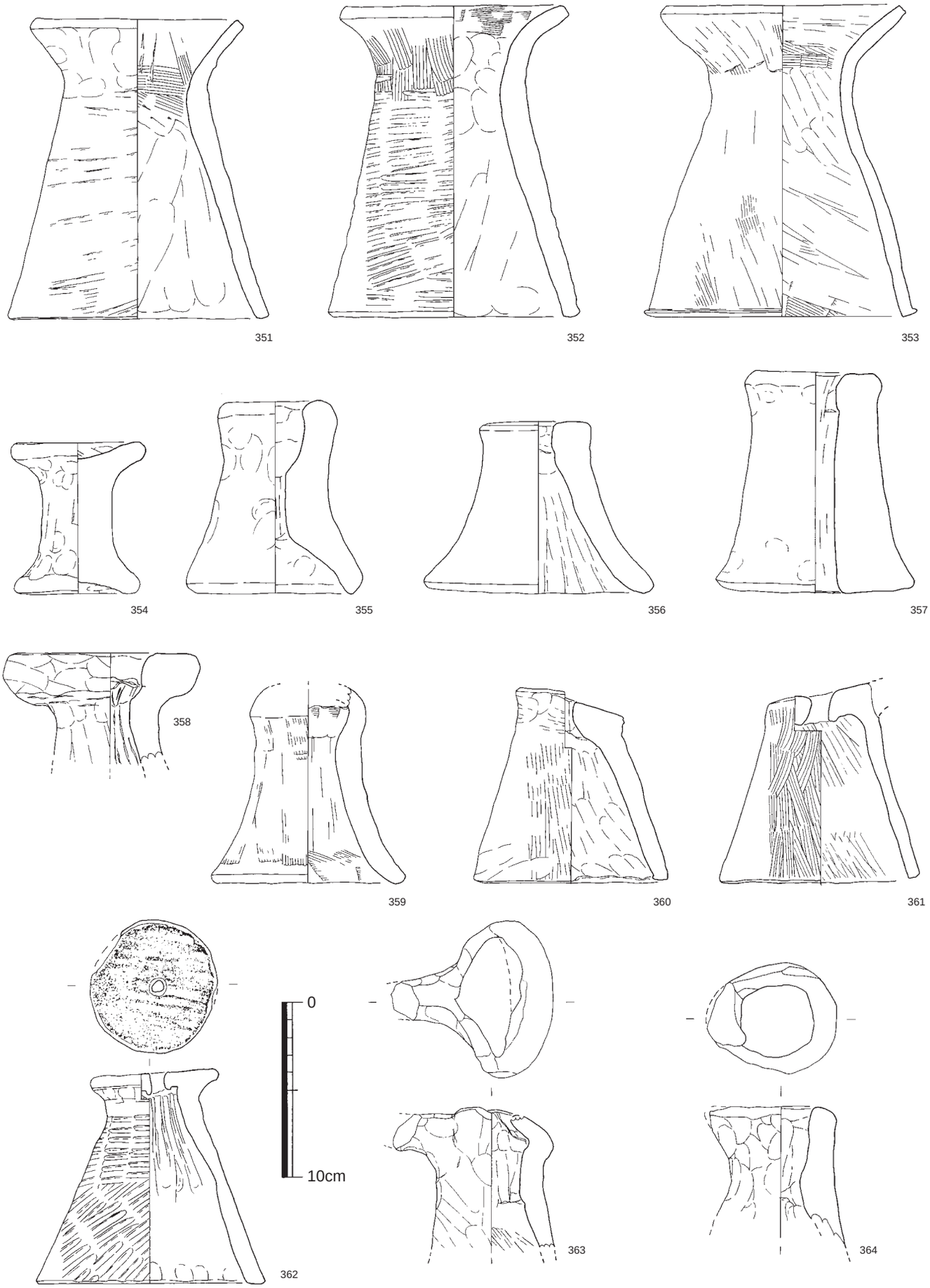


Fig.49　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

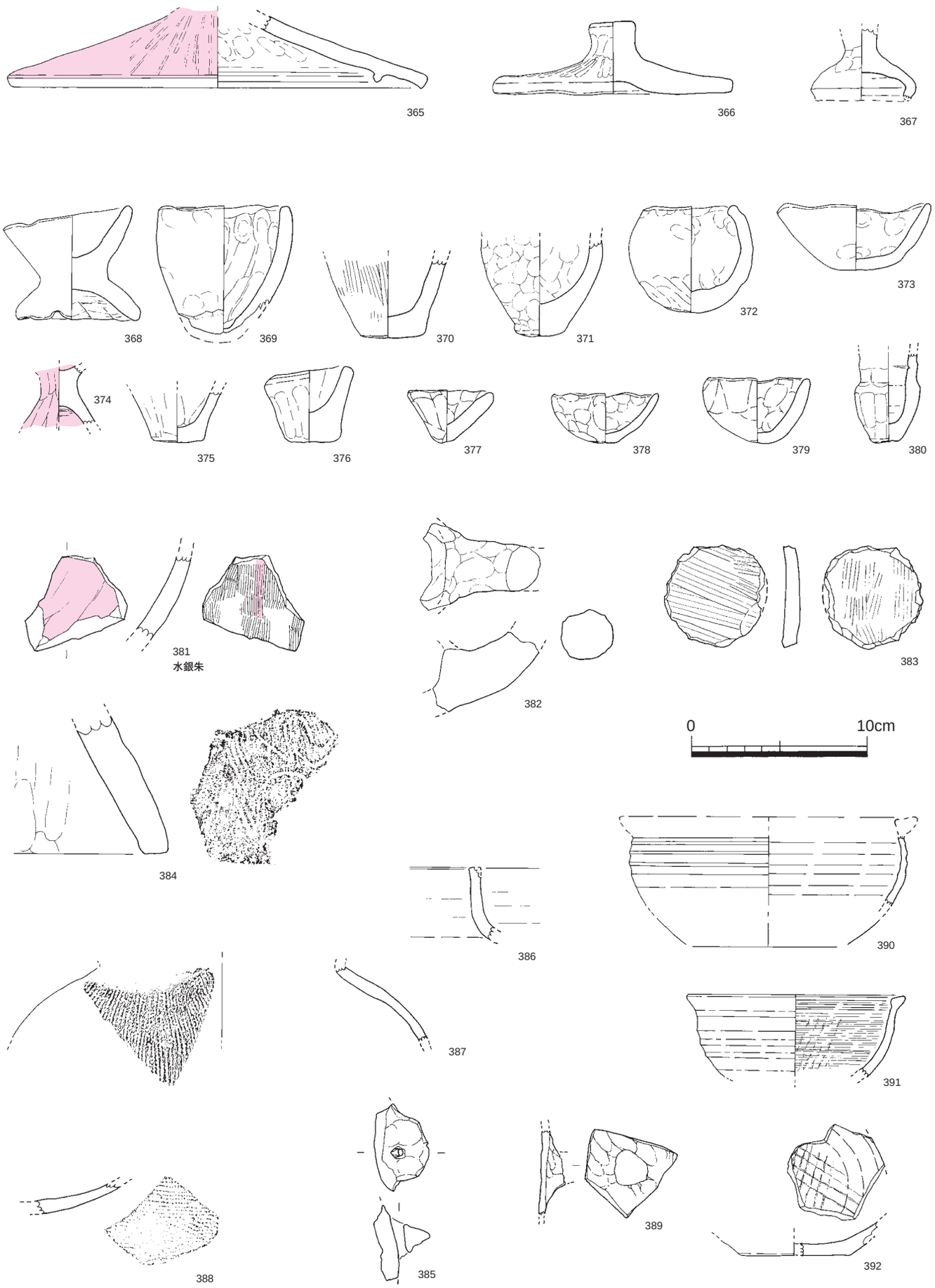


Fig.50　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

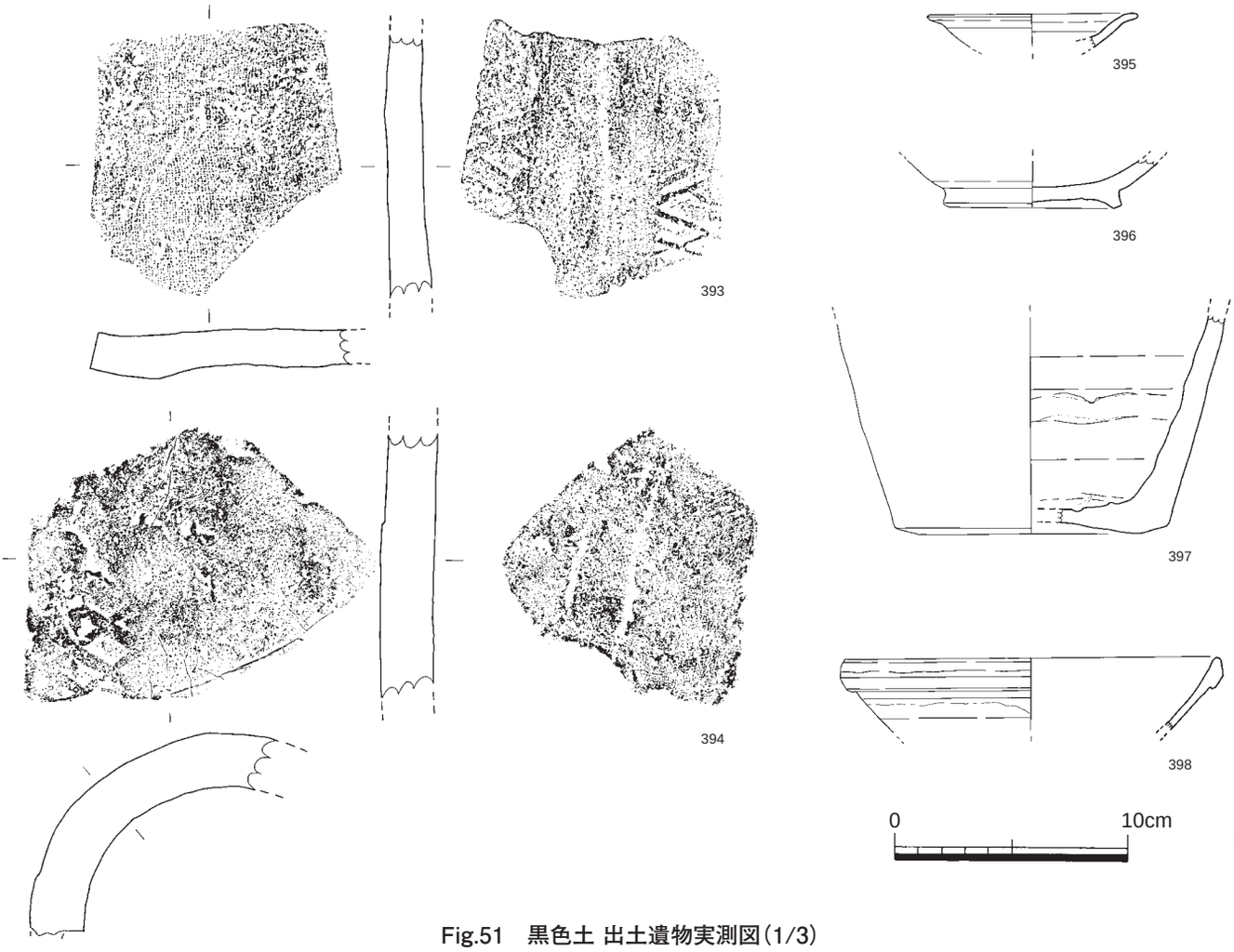


Fig.51　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

30.0cm。**268**の下錘した口縁部には凹線文と円形浮文の貼り付けが見られる。口径は30.6cmである。**264～268**は搬入された土器と考えられる。**273～278**は甕である。**273**は大型の甕で口径は42.6cmに復元される。**274**は口縁端部に面をつくり、凹線を施文する。瀬戸内地域からの搬入品と考えられる**275～278**は口縁を外反させるもので、口径はそれぞれ25.3、22.8、21.6、20.2cmである。**279**は大型の鉢。口縁端部と突帯に刻目文が見られる。口径44.7、器高29.8cmである。**280～290**は鉢,小型甕,椀類である。**280,289,290**の鉢底部にはそれぞれ焼成前に穿孔が見られる。**287**は内外面に丹塗りが施されている。**291～297**は鉢、椀である。口径はそれぞれ24.0,23.0,19.2,16.7,13.5,12.6,13.0cmである。**298～305**は台付土器である。口径は8.3～20.8cmである。**306～322**は小型甕,鉢,椀である。**323～331**は高坏である。口径は17.5～33.4cmである。**331**は脚部に3ヶ所の穿孔を持つもので、東海地域からの搬入品と考えられる。**332～353**は器台である。器高は9.3～20.2cmである。**354～364**は支脚,沓形支脚である。筒状を呈するもの、中実のもの、上面を面的につくり沓形を呈するもの、上部をつまみ出すものなどが見られる。**365～367**は蓋形土器である。**365**は上面に丹塗りが施され、内面には返りを有する。**368～380**はミニチュア土器である。**374**の高坏形土器は全面に丹塗りが施されている。**381**は水銀朱精製に関わると考えられている広片口皿の破片。外器壁には液垂れが見られ、水銀朱が検出された（p62参照）。**382**は匙形土器、**383**は円盤状土器、**384**は表面に線刻を有する器台である。**385～392**は半島系土器である。**390～392**は楽浪系土器である。全て椀の破片であり、胎土は精良な泥質である。**390**は体部の破片。**391**の口径は12.4cmに復元され、内面には平行の暗文が残る。**392**は底径6.0cmに復元される破片で、内底部には斜格子の暗文が見られる。**393,394**は瓦であ

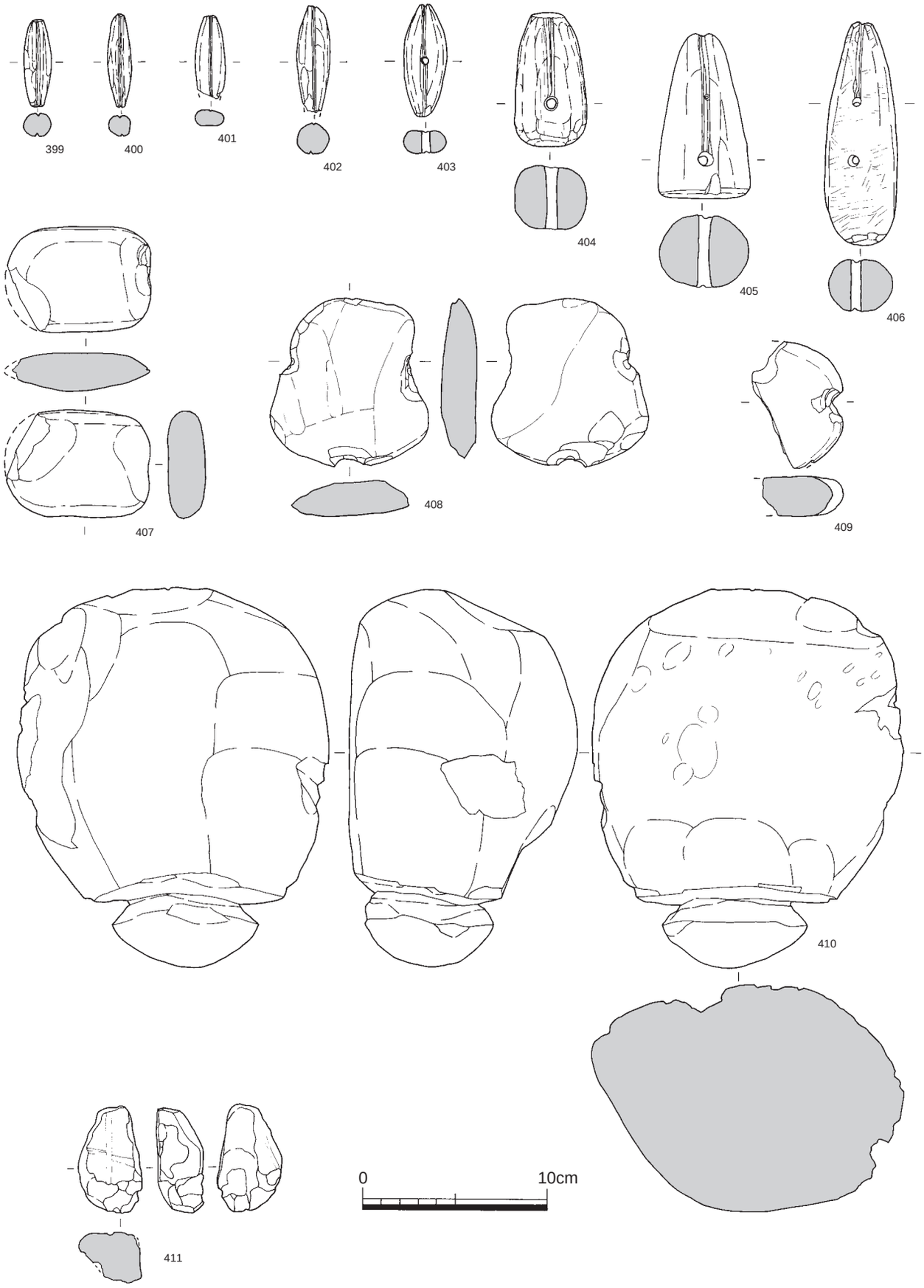


Fig.52　黒色土 出土遺物実測図(1/3)

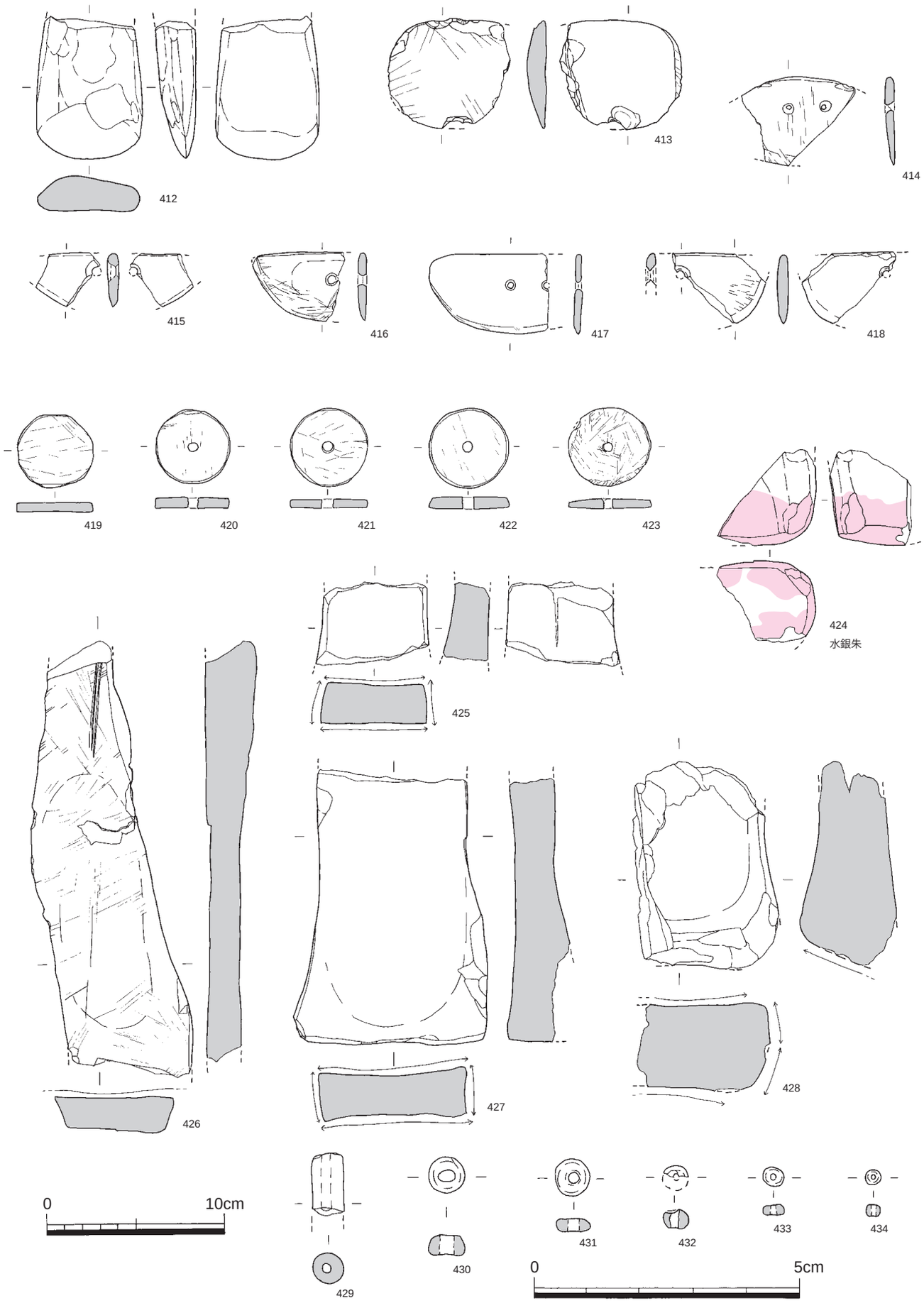


Fig.53　黒色土 出土遺物実測図(1/1),(1/3)

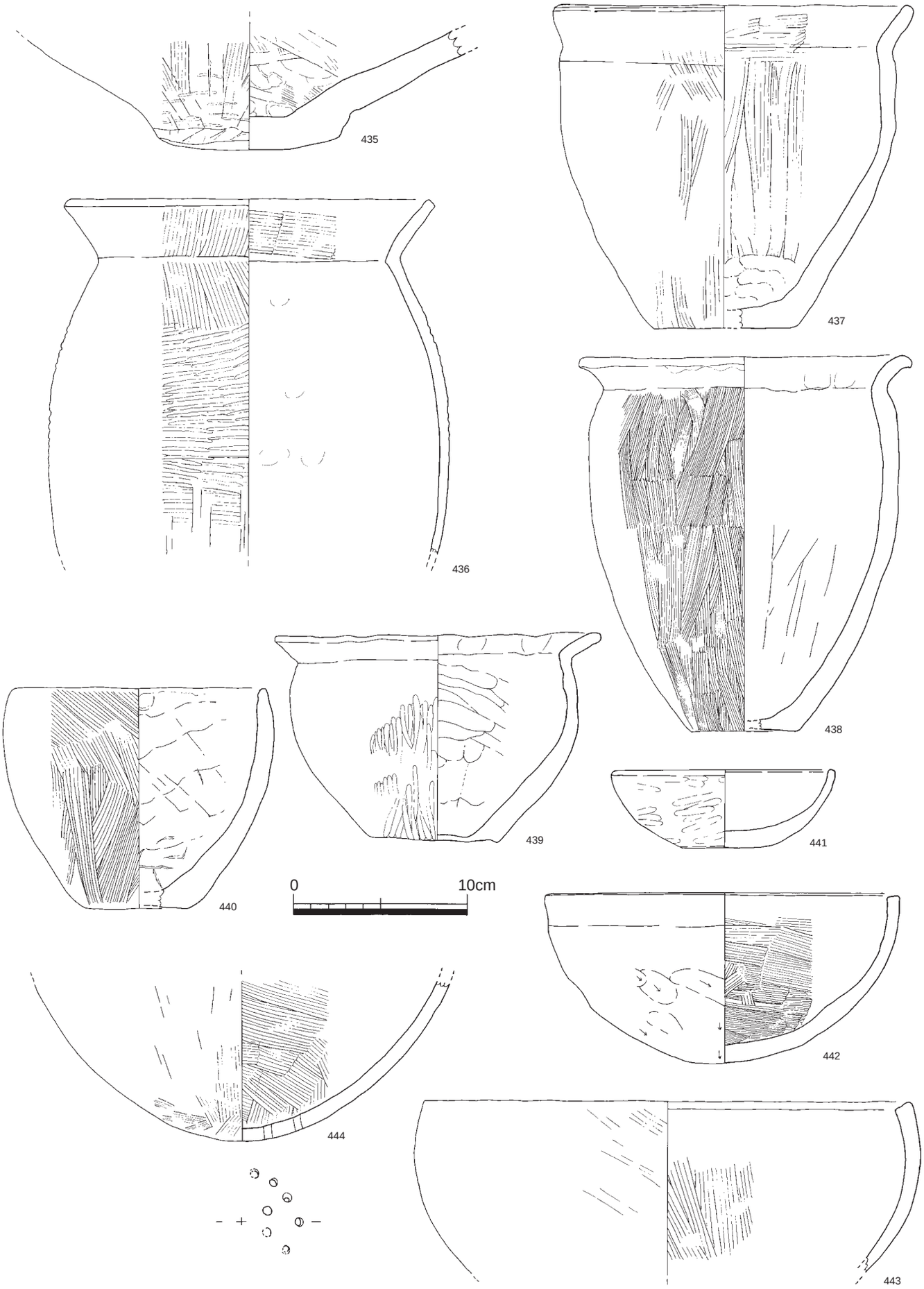


Fig.54　SD-01出土のその他遺物実測図（1/3）

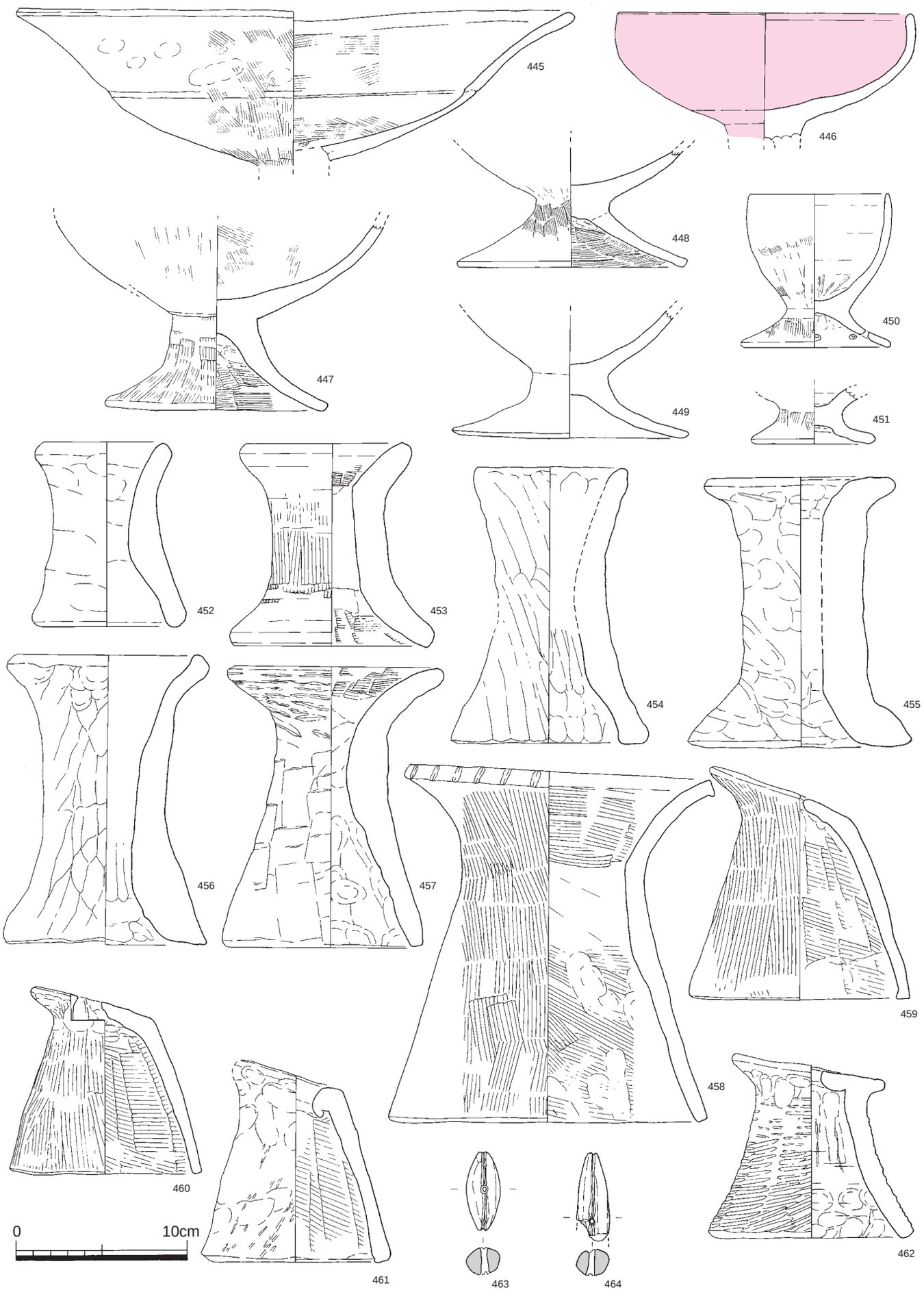


Fig.55　SD-01出土のその他遺物実測図（1/3）

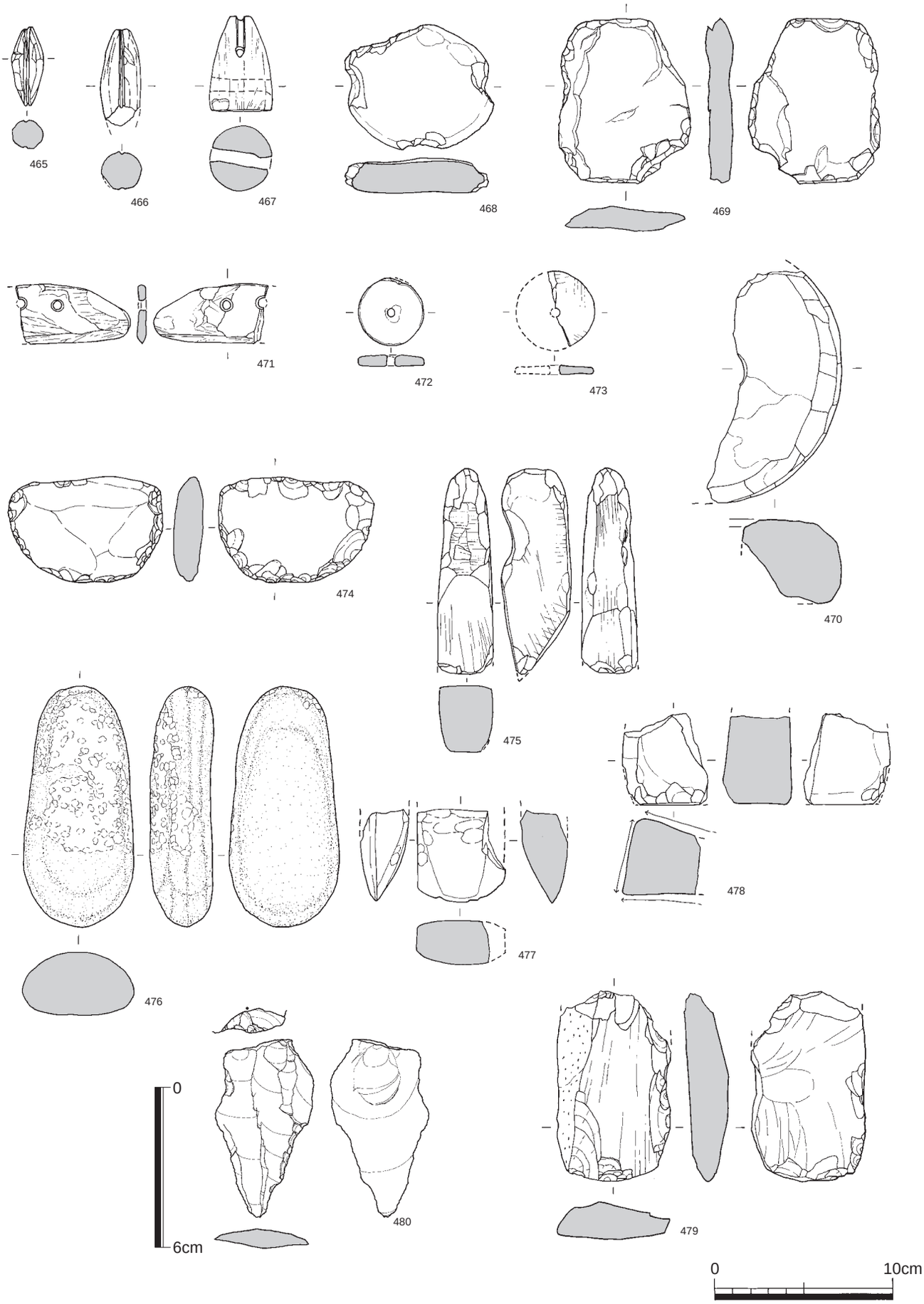
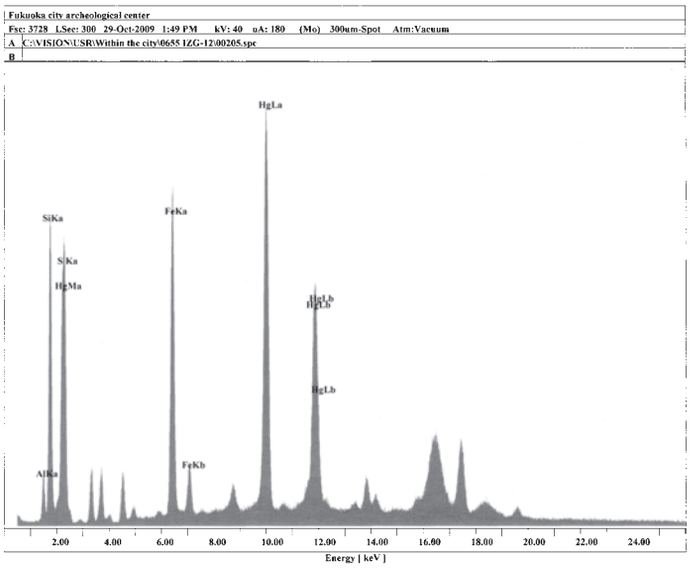


Fig.56　SD-01出土のその他遺物実測図(1/2),(1/3)

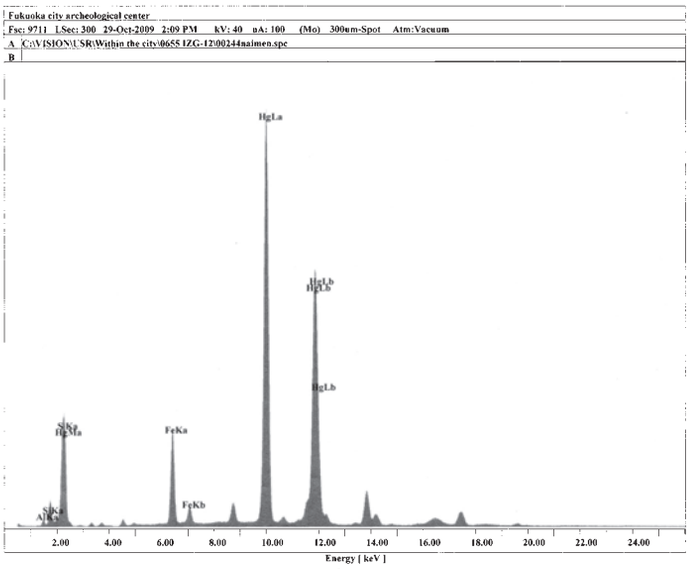
る。396は土師質埦、397は須恵質壺、395,398は白磁の皿と碗である。399～409は紡錘形、長卵形、打ち欠きの石錘である。410,411の素材は軽石である。410には顕著な加工痕が見られ、浮子に使用するためのものと考えられる。412,413は石斧、414～418は石包丁である。419～423は紡錘車。424は石杵である。石杵も水銀朱精製に関わると考えられており、表面からは水銀朱が検出された（p62参照）。広片口皿とセット関係になるものである。425～428は砥石、429～434はガラス小玉である。

その他の遺物（Fig.54～56、PL.30～32）

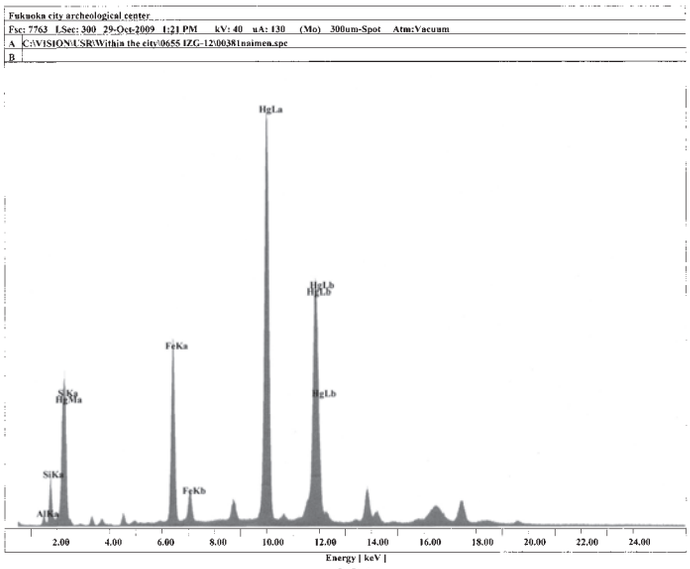
435～439は壺、甕である。440～443は鉢である。口径は13.0～28.0cmである。444は多孔式の甑である。445～451は高坏、脚付土器である。452～462は器台、支脚である。463～470は石錘である。471は石包丁、472,473は紡錘車、474は石包丁未製品、475,477は石斧、476は敲石、478は砥石、479は打製石斧である。480は先土器時代の剥片である。



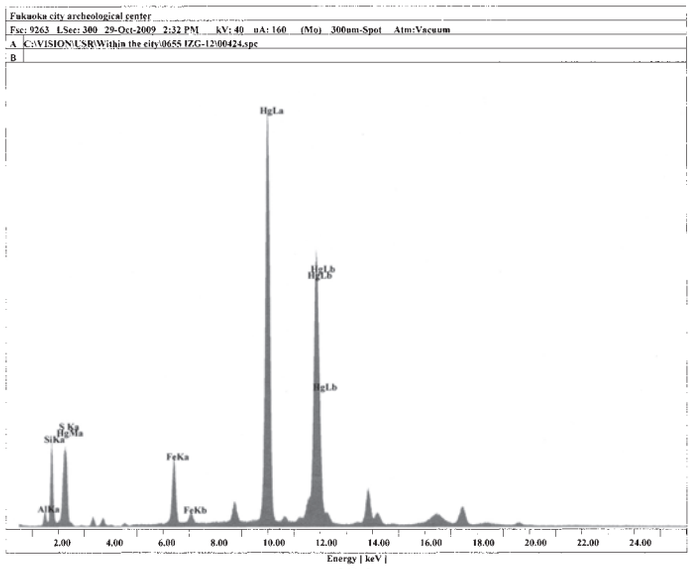
205



244



381



424

赤色顔料蛍光X線分析表

表1　第12次出土土器観察表

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
001		SB-02 SP-147	器台	(14.7)	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：明赤褐色2.5YR5/6～橙色7.5YR6/6　内面：橙色5YR6/8	受部1/5	
003		SP-156	高坏	(33.0)	—	—	密。径9㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外面：灰白色7.5Y R8/2～にぶい橙色7.5Y R7/4　内面：浅黄橙色7.5Y R8/4	坏部の一部	
005		SK-01	甕	—	5.6	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外面：灰白色7.5Y R8/2 内面：明褐灰色7.5Y R7/2	2/1	
006		SK-01	支脚	—	12.0	—	密。径5㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：橙色5Y R6/6～灰褐色5Y R5/2　内面：にぶい橙色7.5Y R7/3～7/4	2/3	外面は被熱による変色
007		SK-02	甕棺	(54.0)	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色7.5YR7/3 内面：褐灰色7.5YR5/1	口縁部1/6	
008		SK-02	甕	(20.5)	—	—	密。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：褐灰色7.5YR4/1～橙色7.5YR6/6　内面：にぶい橙色7.5YR7/3	口縁部1/8 胴部1/4	
009		SK-02	甕	—	(9.0)	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい褐色7.5YR6/3 内面：灰白色7.5YR8/2	底部1/4	
010		SK-02	甕	(23.0)	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色7.5YR7/4 内面：浅黄橙色7.5YR8/4	口縁～肩部1/5	
011		SK-02	埦	(10.0)	4.0	6.2	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：明赤褐色5YR5/8～にぶい橙色5YR7/4　内面：にぶい褐色7.5YR6/3	上半1/4 下半3/5	
012		SK-02	高坏	—	(15.0)	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	坏部内面：橙色5YR7/8 その他：にぶい橙色5YR7/4	坏部わずか 脚裾部1/8 その他完存	脚部に穿孔あり
013		SK-03	杏形支脚	—	—	—	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：明赤褐色5YR5/8～橙色5YR6/8　内面：にぶい橙色5YR7/3	受部1/2	
014		SD-02	甕	—	6.8	—	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外面：褐灰色7.5Y R6/1 内面：灰褐色7.5Y R5/2～橙色7.5Y R6/8	胴部下半のみ	
015		SD-02	鉢	(16.1)	7.0	9.0	密。径5㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5Y R7/4～灰褐色7.5Y r 5/2　内面：明褐灰色7.5Y R7/1～7/2	3/4	
016		SD-02	高坏	—	(15.5)	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石多量に含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	外面：灰白色7.5Y R8/2 内面：灰白色7.5Y r 8/2～浅黄橙色7.5Y R8/4	1/2	
017		SD-01(A)	鋤先口縁壺	35.0	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量に含む。径2㎜以下の黒色砂粒を微量含む。	良好	外面：丹塗り。明赤褐色5YR5/8～橙色5YR6/6 内面：にぶい橙色7.5YR7/6	口縁から頸部ほぼ完存	X=63503.21 Y=-67367.65 L=4.91
018		SD-01(A)	鋤先口縁壺	(23.7)	9.6	26.8	密。径3㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外面：丹塗り。明赤褐色5YR5/6～5/8、黒色10YR2/1 内面：にぶい褐色7.5YR6/3～橙色7.5YR6/6	口縁部2/5 その他ほぼ完存	胴部外面に一部黒塗りか？ X=63500.02 Y=-67366.68 L=4.89
019	4区	SD-01(A)	鋤先口縁壺	(24.9)	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：橙色5YR6/6、2.5YR6/8（丹の溜まり）　内面：にぶい橙色7.5YR6/4	口縁1/6 頸部1/2 胴上~中位2/5	外面全体に丹塗り
020		SD-01(A)	鋤先口縁壺	29.3	9.0	40.8	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/3、明赤褐色2.5YR5/8（丹塗り）	口縁部3/4 頸部1/1 胴部2/3	頸部内外面に丹塗り（磨研なし） X=63511.25 Y=-67367.50 L=4.74
021	4区	SD-01(A)	壺	26.7	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：明褐灰色7.5YR7/2 内面：にぶい褐色7.5YR6/3 丹塗り：明赤褐色2.5YR5/8	口縁部3/4 頸部～胴上半3/5 胴下半1/3	口縁～頸部の両面に丹塗り。胴部径最大の辺りに9cm大の黒斑あり
022	4区	SD-01(A)	鋤先口縁壺	29.7	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	外面：橙色5YR6/6～明赤褐色2.5YR5/8　内面：にぶい褐色7.5YR6/3～橙色7.5YR6/8	口縁~頸部2/3 胴上半1/3	外面全体に丹塗り（磨研なし）
023	3区	SD-01(A)	広口壺	(28.6)	—	—	精良。径1㎜以下の石英・長石を少量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：丹塗り。明赤褐色2.5Y R5/8～橙色5Y R6/8 内面：にぶい橙色7.5Y R7/3	口頸部の1/3	
024		SD-01(A)	壺	(22.1)	9.6	33.2	密。径4㎜以下の石英・長石を多量に含む。径1㎜以下の雲母を微量に含む。	良好	内外面：にぶい橙色7.5YR7/3～橙色7.5YR6/6	口縁部1/10 その他ほぼ完存	X=63501.34 Y=-67367.09 L=4.82
025		SD-01(A)	袋状口縁壺	10.9	6.4	28.5	密。径2㎜以下の石英・長石を少量含む。1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：丹塗り。明赤褐色5YR5/8～赤褐色5YR4/8　内面：にぶい黄褐色10YR7/2～明黄褐色10YR6/6	ほぼ完存	X=63498.32 Y=-67366.36 L=4.72
026		SD-01(A)	袋状口縁壺	10.5	6	28.2	密。径3㎜以下の石英・長石・雲母を多量含む。	良好	外面：丹塗り。橙色5YR6/8～にぶい赤褐色5YR4/4　内面：にぶい橙色7.5YR7/4～橙色5YR6/8	ほぼ完存	胴部に剥離あり X=63502.16 Y=-67366.66 L=4.63
027		SD-01(A)	袋状口縁壺	11.7	6.4	29.4	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。1㎜以下の雲母を少量含む。	良好	外面：丹塗り。明赤褐色5YR5/8～にぶい赤褐色5YR4/4 内面：丹塗り。	口縁部1/4 胴部ほぼ完存	内外面、丹塗り X=63499.18 Y=-67366.58 L=4.74
028	3区	SD-01(A)	袋状口縁壺	(14.4)	—	—	精良。径2㎜以下の石英・長石を少量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：丹塗り。赤褐色5Y R4/6～4/8　露胎：灰褐色7.5Y R6/2	肩から頸部2/5	
029		SD-01(A)	壺	—	6.7	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の黒色砂粒を微量含む。	良好	外面：橙色5YR7/6、明赤褐色2.5YR5/8　内面：橙色5YR6/6	胴上半2/5 胴下半2/3	底部外面以外は丹塗磨研

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
030	4区	SD-01(A)	袋状口縁壺	14.4	—	—	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/4	口縁～肩部1/1	頸部が短く詰まっている
031	3区	SD-01(A)	甕	(32.3)	—	—	密。径1㎜以下の石英・長石を多く含む。	良好	外面：丹塗り。明赤褐色2.5YR5/8　内面：一部丹塗り。にぶい橙色7.5YR6/4	1/3	暗文の後に丹塗り
032	4区	SD-01(A)	甕	(32.8)	6.9	29.4	密。径4㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	橙色5YR6/8	口縁部2/5 胴上半3/5 胴下半1/1	底部外面以外は丹塗磨研
033	2区	SD-01(A)	甕	26.0	(7.4)	20.0	精良。径5㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：灰褐色7.5YR5/2～明赤褐色5YR5/6　内面：赤褐色5YR4/8～明赤褐色5YR5/8	口縁部3/4 胴部4/5 底部1/4	内面全体に丹塗磨研。胴部外面上半に煤付着
034	4区	SD-01(A)	甕	(26.0)	(9.6)	17.5	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい橙色5YR7/4 内面：丹塗り。明赤褐色2.5YR5/8～暗赤褐色2.5YR3/6	1/3	内面全体に丹塗磨研。底部に外面から焼成後穿孔
035	1区	SD-01(A)	甕	25.4	8.4	28.2	密。径3㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：橙色7.5YR6/6～6/8 内面：明赤褐色5YR5/6～5/8	口縁～胴部1/2 底部1/1	底部に外面からの焼成後穿孔あり
036	1区	SD-01(A)	甕	(25.0)	8.4	27.2	やや粗。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：灰褐色7.5YR6/2～にぶい褐色7.5YR5/3　内面：にぶい橙色7.5YR6/4～黒褐色7.5YR3/2	口縁～胴部中位1/3 その他完存。	
037	4区	SD-01(A)	甕	26.9	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	口縁～胴部上半1/3	
038	4区	SD-01(A)	甕	(25.9)	—	—	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：灰褐色7.5YR5/2 内面：にぶい褐色7.5YR6/3～5/4	口縁～胴下位1/3	
039	4区	SD-01(A)	甕	(21.8)	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3～4/4	口縁部2/5 胴部上位1/3	
040	2区	SD-01(A)	甕	24.0	8.7	30.6	密。径7㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：明褐灰色7.5YR7/2～橙色7.5YR6/6　内面：にぶい褐色7.5YR5/3～にぶい橙色7.5YR6/4	口縁部1/3 胴部1/4 その他完存	
041	3区	SD-01(A)	蓋形土器	5.8～6.4	28.2	10.0	密。径2㎜以下の石英・長石を多量に含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	黄褐色10YR5/6～灰褐色7.5YR6/2	一部欠損	
042	1区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.1	(27.3)	10.8	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい黄橙色10YR6/3～6/4	つまみ部分1/1 体部1/3	脚裾部の両面に黒斑
043	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.4	(28.0)	8.3	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	橙色7.5YR6/6	つまみ部1/1 体部1/5	裾端部内面に火を受ける（灰褐色7.5YR5/2）
044	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ5.5	(28.9)	9.5	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：浅黄橙色7.5YR8/3 内面：にぶい橙色7.5YR7/3	つまみ部1/1 体部1/4	
045	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.8	(29.2)	9.25	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	つまみ部1/1 体部1/5	
046	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.5	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/3	つまみ部1/1 体部上半1/3	
047	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ7.3	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/4 内面：にぶい褐色7.5YR5/3～6/3	上半1/1	
048	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.2	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/3 内面：にぶい褐色7.5YR6/3	つまみ部1/1 体部上半1/3	
049	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ7.1	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR6/3～5/3 被熱：橙色5YR6/8　煤：黒褐色5YR2/1～灰褐色5YR4/2	つまみ部1/1 体部上半1/3	脚裾部外面を円周に沿って被熱。そのちょうど裏に煤付着
050	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.9	—	—	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：橙色7.5YR6/6 内面：にぶい褐色7.5YR5/3	つまみ部1/1 体部上半1/6	
051	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ7.5	—	—	やや粗。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色7.5YR6/4 内面：灰褐色7.5YR5/2～黒褐色7.5YR3/1	つまみ部1/1	
052	1区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.5	(19.5)	7.5	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	灰褐色7.5YR5/2～橙色7.5YR6/6	上半1/2 下半1/6	形が歪んでいる
053	3区	SD-01(A)	甕	27.8	9.8	20.1	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR6/3～5/3　内面：明赤褐色5YR5/8～にぶい橙色5YR6/4	3/4	
054	1区	SD-01(A)	甕	23.7	6.6	14.8	密。径2㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：橙色5YR7/6～7/8 内面：丹塗り。明赤褐色2.5YR5/8	ほぼ完存	内面全体に丹塗磨研
055	4区	SD-01(A)	鉢	(18.0)	(8.5)	12.4	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母を少量含む。	やや不良	外面：にぶい褐色7.5YR5/3 内面：褐灰色7.5YR5/1	口縁～胴部1/4 底部1/1	
056	4区	SD-01(A)	鉢	(19.0)	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：煤付着。黒褐色7.5YR3/1 内面：にぶい褐色7.5YR5/4	口縁部わずか 胴部上～中位1/8	

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
057	4区	SD-01(A)	鉢	(21.1)	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2	口縁～胴部上半1/10	
058	3区	SD-01(A)	小型甕	(14.6)	—	—	精良。径1㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5ＹＲ6/3～灰褐色7.5ＹＲ4/2　内面：灰褐色7.5ＹＲ6/2～にぶい褐色ＹＲ6/3	1/3	X=63506.58 Y=-67367.72 L=4.65
059		SD-01(A)	埦形土器	18.1	5.4	10.0	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：丹塗り。赤褐色2.5ＹＲ4/6～にぶい橙色5ＹＲ6/4 内面：丹塗り。明赤褐色2.5ＹＲ5/8～5ＹＲ5/8	体部上半一部欠け	
060		SD-01(A)	埦形土器	18.0	5.8	8.5	密。径3㎜以下の石英・長石を多量に含み、径1㎜ほどの褐色土粒を多量に含む。	良好	にぶい橙色7.5ＹＲ6/4～にぶい褐色7.5ＹＲ5/4	ほぼ完存	
061	3区	SD-01(A)	鉢	(15.7)	4.8	8.1	密。径2㎜以下の石英・長石を少量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	内外面：丹塗り。明赤褐色2.5ＹＲ5/8～明赤褐色2.5ＹＲ3/4	1/3	
062	3区	SD-01(A)	鉢	(16.6)	(5.3)	8.3	密。径3㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：丹塗り。にぶい橙色7.5ＹＲ7/3　内面：丹塗り。明赤褐色2.5ＹＲ5/6	1/3	内面丹塗り
063	3区	SD-01(A)	鉢	17.9	5.8	8.9	密。径5㎜以下の石英・長石を多量に含み、径1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	外面：丹塗り。にぶい赤褐色2.5ＹＲ4/4　内面：にぶい橙色7.5ＹＲ6/4	2/3	底部に外面からの穿孔あり
064	3区	SD-01(A)	鉢	(18.1)	7.5～8.0	7.6	密。径2㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：灰褐色7.5ＹＲ6/2 内面：にぶい褐色7.5ＹＲ6/3	1/3	
065	1区	SD-01(A)	埦	(16.6)	—	—	やや粗。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：褐色7.5YR4/3　内面：にぶい黄褐色10YR5/4～黒褐色10YR3/1	体部1/3	内面は黒色磨研。（外面にも煤痕跡あり）
066	4区	SD-01(A)	高坏	(16.0)	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色5YR6/3、明褐灰色2.5YR5/8（丹塗り）	坏部1/2 脚柱部1/1	坏部・外面全体に丹塗り（磨研なし）。口縁端部は打ち欠きか
067	1区	SD-01(A)	高坏	25.8	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：灰黄褐色10YR5/2 内面：にぶい黄橙色10YR7/4	坏部1/2	
068	4区	SD-01(A)	高坏	(16.5)	—	—	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色5ＹＲ6/4～明褐色5YR5/6	坏上半2/5 坏下半～脚柱部1/1	口縁直下に低い突帯
069	1区	SD-01(A)	低脚高坏	17.0	10.6	10.8	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面・坏部内面：丹塗り。橙色5YR6/8～明褐灰色5YR7/2脚部　内面：にぶい橙色5YR7/4	坏部1/4 その他完存	丹塗り（磨研なし）。脚内面全体に黒斑
070	4区	SD-01(A)	高坏	—	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	脚部のうち裾部以外は残存	脚柱部に3カ所、脚裾部に3カ所穿孔。裾部との接合面残る
071	4区	SD-01(A)	蓋	頂部径1.2	—	—	精良。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3　丹塗り：赤褐色2.5YR4/6	上半1/4	外面全体に丹塗磨研
072	4区	SD-01(A)	蓋	—	13.8	2.0	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：丹塗り。赤褐色5YR4/8 内面：橙色7.5YR6/6	3/5	紐孔あり
073	4区	SD-01(A)	短頸壺	(16.4)	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	口縁～外面全体：丹塗り。赤褐色5YR4/8　その他：にぶい橙色7.5YR6/4	口縁～胴上半1/6	紐孔あり
074	3区	SD-01(A)	小型甕	(17.2)	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：丹塗り。明赤褐色5ＹＲ5/8～にぶい橙色7.5ＹＲ6/4 内面：にぶい褐色7.5ＹＲ6/3	口縁から胴部1/3	
075		SD-01(A)	脚付短頸壺	19.0	17.1	29.8	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：明赤褐色2.5YR5/8 内面：にぶい橙色5YR7/4	脚裾部4/5 その他完存	口縁～外面全体に丹塗り（丹塗り以前にヘラ磨き）。胴部上半に暗文。
076	4区	SD-01(A)	注口付き鉢	22.6	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR6/3～褐灰色7.5YR5/1　内面：にぶい褐色7.5YR6/3	体部1/3	外傾接合が明瞭。半島系
077		SD-01(A)	甕	(20.5)	9.7	29.3	粗。径10㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR6/3、褐灰色7.5YR4/1（噴きこぼれ痕） 内面：にぶい橙色7.5YR7/4	上半2/5 下半1/1	異質な器形。外面上半に吹きこぼれ痕あり
078	4区	SD-01(A)	甕	(13.2)	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	口縁～胴部上半1/5	半島影響か？（外傾接合で、口縁は折り返し）
079		SD-01(A)	鉢	11.7	5.6	9.9	密。径3㎜以下の石英・長石を多量に含む。径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：明褐灰色7.5YR7/1～橙色7.5YR6/6　内面：にぶい橙色7.5YR6/3～橙色7.5YR6/6	完存	
080	4区	SD-01(A)	袋状口縁壺	—	6.6	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4 黒斑：7.5YR3/1	胴部下半完存	外面の片側半分が黒斑
081	4区	SD-01(A)	壺	—	7.8	—	やや粗。径12㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色5YR6/4 内面：にぶい橙色2.5YR6/3	胴部下位完存	
082	4区	SD-01(A)	埦	(8.9)	(5.7)	5.6	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	底部外面：黒斑。黒褐色7.5YR3/1 その他：灰褐色.5YR6/2	体部1/5	
083	4区	SD-01(A)	埦	(12.7)	4.1	7.1	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：黒褐色7.5YR3/1 内面：褐灰色7.5YR5/1	体部1/3 底部1/1	

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	法量cm(復元) 口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
084	4区	SD-01(A)	壺	(11.6)	6.9	25.4	密。径8㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:にぶい橙色5YR6/4～橙色7.5YR6/6　内面:灰褐色5YR6/2～明赤褐色5YR5/8(丹塗り)	口縁～胴部1/2 底部1/1	
085	1区	SD-01(A)	壺	—	5.1	—	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面:にぶい橙色7.5YR7/4、明赤褐色2.5YR5/8(丹塗り) 内面:褐灰色7.5YR6/1～5/1	胴上半2/5 胴下半3/4	外面全体に丹塗磨研
086	4区	SD-01(A)	広口壺 または甕	—	—	—	精良。径1㎜以下の石英・長石を微量含む。	良好(瓦質)	外面:灰色N5/　内面:灰白色10YR7/1	胴部下位？の破片	半島系
087	4区	SD-01(A)	脚付き 器種	—	11.0～ 11.4	—	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:橙色7.5YR6/6　内面:明褐色7.5YR7/2	脚柱部1/1 脚裾部1/2	粗製
088	3区	SD-01(A)	ミニチュア 埦形土器	—	2.9	—	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	にぶい褐色7.5ＹＲ5/4～明黄褐色10ＹＲ6/8	2/3	
089	1区	SD-01(A)	ミニチュア 壺形土器	3.5	3.8	6.9	密。径3㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	明褐灰色7.5ＹＲ7/1～7/2	ほぼ完存	丹塗りか？
091	3区	SD-01(A)	投弾	長さ4.2、 最大幅2.3			密。径2㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	にぶい褐色7.5ＹＲ6/3～褐灰色7.5ＹＲ4/1	完存	重量18.52ｇ
092	3区	SD-01(A)	紡錘車 (未成品)	直径 4.3～4.5		厚さ 1.0	密。径3㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	にぶい橙色7.5ＹＲ6/3	完存	土器の転用
093	3区	SD-01(A)	支脚	5.5	7.8	12.7	密。径1㎜以下の石英・長石・雲母を少量含む。	良好	にぶい赤褐色5YR5/4	ほぼ完存	
094	4区	SD-01(A)	支脚	6.2	10.8	13.8	粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を少量含む。	不良	外面:にぶい橙色7.5YR6/4～明褐色7.5YR5/8　内面:褐灰色7.5YR6/1	上半3/4 下半1/1	
095		SD-01(A)	支脚	7.2	8.9	13.9	密。径４㎜以下の石英・長石を多量含む。１㎜以下の雲母・黒色砂粒を少量含む。	良好	明褐色7.5YR5/6～にぶい褐色YR6/3	完存	X=63501.13 Y=-67367.20 L=4.74
096	4区	SD-01(A)	支脚	7.6	10.8	14.85	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を少量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR5/4	裾部2/3 その他1/1	
097	4区	SD-01(A)	支脚	5.5	10.4	15.0	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	にぶい橙色7.5YR6/4～褐灰色7.5YR4/1	ほぼ完存	幅2～2.5㎝の板状工具圧痕あり
098	4区	SD-01(A)	支脚	6.7	11.4	16.0	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3～5/4	ほぼ完存	幅2㎝の板状工具圧痕あり
099	2区	SD-01(A)	支脚	7.2	9.8	15.8	やや粗。径8㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/3～6/4	脚裾部2/3 その他完存	
100	4区	SD-01(A)	支脚	6.4	9.6	15.6	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	裾部1/2 その他1/1	
101	4区	SD-01(A)	器台	(8.8)	(11.1)	16.6	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/4	受部1/3 柱状部1/1 裾部2/5	
102		SD-01(A)	器台	—	9.7	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	下半1/1	
104	3区	SD-01(A)	器台	11.0	14.2	18.1	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5ＹＲ6/4～灰褐色7.5ＹＲ5/2	2/3	
105	4区	SD-01(A)	器台	11.4	13.3	21.0	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	受部・脚裾部4/5 脚注部1/1	
119		SD-01(B)	甕(下部)	—	9.6	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量に含み、径1㎜以下の黒色砂粒を微量に含む。	良好	外面:橙色7.5ＹＲ4/3～明褐灰色7.5ＹＲ7/2　内面:にぶい褐色7.5ＹＲ6/3～にぶい橙色7.5ＹＲ7/4	胴部下半1/3	
120	1区	SD-01(B)上層	甕	—	(8.0)	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:煤付着。黒色7.5YR2/1 内面・底部:にぶい褐色7.5YR5/3	底部1/4	
121		SD-01(B)下層	素口縁壺	19.8	8.5	27.7	密。径9㎜以下の石英・長石を多量に含む。径2㎜以下の透明砂粒を少量含む	良好	外面:丹。明褐色5YR5/8～暗赤褐色5YR3/6,明褐色10YR6/6　内面:にぶい黄褐色10YR7/2～明黄褐色10YR6/6	完存	
122		SD-01(B)下層	壺	—	6.0	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	灰褐色7.5ＹＲ4/2～にぶい褐色7.5ＹＲ5/3	口縁端と胴部下半の一部を欠損	X=63515.80 Y=-67366.45 L＝4.16
123	2区	SD-01(B)下層	小型甕	12.9	6.2	13.1	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:褐色7.5YR4/3～4/6 内面:にぶい黄橙色10YR6/3～にぶい黄褐色10YR5/4	口縁～胴部上半2/3 その他完存	X=63155.32 Y=-67366.30 L＝4.05
124	2区	SD-01(B)下層	小型甕	15.0	7.2	12.9	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:褐色7.5YR4/4～明赤褐色5ＹＲ5/6　内面:にぶい黄橙色10YR6/3～褐色7.5YR4/4	口縁～胴部上半3/4 その他完存	
125	1区	SD-01(B)上層	鉢	11.7	(6.2)	11.4	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を少量含む。	良好	外面:褐灰色7.5YR5/1 内面:にぶい褐色7.5YR6/3	胴部2/3 底部1/4	

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
126	2区	SD-01(B)上層	甕	(14.7)	7.0	15.7	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：褐灰色7.5YR4/1～明赤褐色2.5YR5/8　内面：黒褐色7.5YR3/1～明赤褐色2.5YR5/8	口縁～肩部1/4 胴部中位2/3 その他完存	丹塗り（特に内面に残る。磨研はない）
127	2区	SD-01(B)下層	小型甕	(11.9)	—	—	やや粗。径1㎜以下の石英・長石・黒色砂粒を少量含む。	やや不良	黒褐色7.5YR3/1～2/2	口縁～胴部中位1/5	口縁部に径3㎜ほどの穿孔が１ヶ所残る。内外面とも煤付着
128	3区	SD-01(B)上層	鉢	15.5	—	11.5	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/3 煤（外面）：黒褐色7.5YR3/1 コゲ（内面）：暗褐色7.5YR3/4	完存	外面の1/3周分に火を受け、その部分の内面にコゲ付着
129	3区	SD-01(B)上層	有孔鉢	22.5~23.5	8.0	16.4	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を少量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/4～橙色7.5YR6/8	口縁部わずか 体部上半1/3 下半1/1	底部内面から焼成前穿孔
130	1区	SD-01(B)上層	有孔鉢	—	12.2~13.1	—	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	外面：褐灰色7.5YR6/1 内面：にぶい褐色7.5YR6/3	口縁部わずか 体部1/3 底部3/4	底部付近に横長の黒斑あり。底部に穿孔あり。
131	3区	SD-01(B)上層	埦	(10.9)	4.8	7.4	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい橙色5YR7/4 内面：橙色5YR7/6	上半1/3 下半2/3 底部1/1	
132	3区	SD-01(B)上層	埦	(14.6)	4.5	7.25	密。径4㎜以下の石英・長石を少量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	橙色７.５ＹＲ７/６～明褐色7.5YR5/8	体部1/4 底部1/1	
133	2区	SD-01(B)上層	鉢	14.7	5.8	7.2	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：灰褐色7.5YR6/2～明赤褐色5YR5/6　内面：にぶい赤褐色5YR4/4～黒褐色5YR2/1	体部上半2/3 その他完存	底部外面以外は丹塗磨研。内面下半にはさらに黒塗り（暗文の溝に溜まっている）
134	3区	SD-01(B)上層	埦	13.3	4.0	8.1	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	外面：明褐灰色7.5YR7/1～褐色7.5YR4/3　内面：にぶい褐色7.5YR5/4	体部2/3 底部1/1	
135	3区	SD-01(B)上層	鉢	15.6	5.7	8.3	密。径5㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5ＹＲ7/3～褐灰色7.5ＹＲ5/1　内面：にぶい褐色7.5ＹＲ6/3～灰褐色7.5ＹＲ5/2	ほぼ完存	
136	1区	SD-01(B)下層・壁	埦	13.9	5.7	9.6	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	褐色7.5YR4/4	1/2	
137	3区	SD-01(B)上層	埦	16.4~17.4	—	8.6	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	にぶい橙色7.5YR7/4～橙色7.5YR6/6	体部2/3 底部1/1	内面に外面調整時の指当て痕あり。両面に黒斑
138	1区	SD-01(B)上層	鉢	(16.7)	7.4	9.2	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	丹塗り。灰褐色7.5YR5/2～赤褐色5YR4/6	上半1/5 下半1/2	内外面とも一部に丹が残る。磨研ではない
139	2区	SD-01(B)上層	鉢	(31.4)	—	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/3～明褐色7.5YR5/6　内面：灰褐色7.5YR6/2～褐色7.5YR4/3	口縁～体部中位1/3	
140	1区	SD-01(B)上層	台付き甕	—	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	甕底部1/6 脚部上半1/1	
141	1区	SD-01(B)上層	高坏	—	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	坏部内面：明赤褐色5YR5/8 その他：橙色5YR6/6	坏部下半1/4 脚柱部1/1	脚部に3ヶ所穿孔
142	2区	SD-01(B)下層	高坏	20.3	9.7	14.8	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい黄橙色10YR6/3 内面：にぶい橙色5YR6/4～明赤褐色5YR5/6	口縁部・脚裾部2/3 その他完存	丹塗磨研（半島の影響か？）
143	3区	SD-01(B)上層	長頸壺	(11.3)	—	—	密。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	灰白色7.5YR8/1～にぶい褐色7.5YR5/3	長頸部上半2/5 下半1/1	
144	4区	SD-01(B)上層	壺	—	3.4	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外面：橙色7.5ＹＲ6/6～明褐灰色7.5ＹＲ7/1　内面：灰褐色7.5ＹＲ6/2～褐灰色7.5ＹＲ5/1	胴部のみほぼ完存	胴部外面に黒斑あり
145	1区	SD-01(B)灰砂層	器台	12.4	13.5	15.7	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	明褐灰色５ＹＲ７/２～橙色5YR7/8	受部1/2 脚裾部2/3 その他完存	
146	3区	SD-01(B)南端	器台	(11.6)	(11.4)	13.8	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、5㎜以下の軽石を少量、1㎜以下の雲母・褐色土粒を微量含む。	やや不良	外にぶい橙色5YR6/4	受部・脚下半1/3 脚上半1/1	
147		SD-01(B)	支脚	9.6	11.1	12.3	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を少量含む。	良好	橙色7.5ＹＲ6/6～暗褐色7.5ＹＲ3/3	ほぼ完存	
167	3区	SD-01中州	鋤先口縁壺	38.0	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：明赤褐色5YR5/8～橙色5ＹＲ6/6　内面：にぶい橙色7.5YR6/4～明赤褐色5YR5/8	口縁部2/3 頸部1/1 肩部1/5	口縁端部に刻目文。丹塗りの後に頸部外面に暗文
168	3区	SD-01中州	広口壺	(31.0)	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：明赤褐色2.5YR5/8～赤褐色2.5YR4/6　内面：にぶい橙色7.5YR6/4～褐色7.5YR4/6	口縁～胴部上半1/4	内外面とも全面丹塗り。暗文は8～10本を一単位として、数単位が巡る
169	3区	SD-01分岐	甕	19.7	—	—	密。径5㎜以下の石英・長石を少量含み、2㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	外面：明褐灰色7.5YR7/2～黒褐色7.5YR3/1　内面：にぶい褐色7.5YR6/3～暗褐色7.5YR3/3	口縁～胴上位1/1 胴中位1/3	外面に煤、内面にコゲ付着
170	3区	SD-01分岐	器台	受部最大14.7	—	—	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を少量含む。	良好	橙色5YR6/6	受部2/3 脚は裾部以外完存	受部端部は不整円形
171	3区	SD-01分岐部	器台	9.6	9.9	10.2	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：明赤褐色5YR5/8～にぶい橙色7.5YR7/3　内面：灰褐色7.5YR6/2	完存	

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
172	3区	SD-01上層	大型鉢	—	—	—	やや粗。径8㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/3～橙色7.5YR7/8　内面：褐色7.5YR4/4	体部上半破片	体部最大径は30cm前後か
182	3区	井泉内上層	大型甕	(52.0)	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：灰白色7.5YR8/2～にぶい褐色7.5YR5/4　内面：明褐色7.5YR5/6	口縁～胴部上半1/4	口縁端部に鋸歯文。頸部三角突帯に刺突文。口縁内面上半が剥離
183	3区	井泉内上層	大型甕	44.2	—	61.0	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、3㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：明褐灰色7.5YR7/2 内面：にぶい褐色7.5YR6/3	口縁~胴上半1/2 胴下位2/3 底部1/1	頸部、胴部中・下位の三角突帯にそれぞれ工具小口の刺突文が巡る。胴外面に黒斑あり
184	3区	井泉内上層	大型甕	(24.8)	(9.0)	50.0	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：褐色7.5YR4/3～4/4 内面：黒褐色7.5YR3/2～褐色7.5YR4/4	口縁部1/2 胴部上半1/1 下半3/4　底部1/6	
185	3区	井泉内上層	甕	(15.3)	6.1	21.0	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	上半1/3 下半1/1 底部2/3	
186	3区	井泉内上層	甕	(20.0)	(5.5)	31.2	密。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：褐色7.5YR4/4 内面：にぶい橙色7.5YR7/4	1/3	
187	3区	井泉内上層	甕	(12.5)	3.1	18.1	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/3～明褐色7.5YR5/6　内面：にぶい橙色7.5YR7/3～にぶい褐色7.5YR6/3	上半1/4 下半1/3 底部1/1	外面に黒斑や煤付着
188	3区	井泉内上層	甕	(14.9)	2.5	19.4	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3～にぶい橙色7.5YR6/4	上半1/3 下半2/3	外面に黒斑
189	3区	井泉内上層	小型甕	15.3	—	—	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/3～7/4　内面：明褐灰色7.5YR7/2～にぶい褐色7.5YR6/3	口縁～胴部中位のみ完存	
190	3区	井泉内上層	甕	24.0	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR6/3～褐色7.5YR4/3　内面：にぶい橙色7.5YR6/4～褐色7.5YR4/4	口縁部3/5 胴部上半3/4	胴部外面に黒斑。内外面に炭化物付着
191	3区	井泉内下層	小型甕	13.2	7	13.85	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：明赤褐色5YR5/8～赤褐色5YR4/8　内面：にぶい褐色7.5YR6/3～黒褐色7.5YR3/2	胴部のみ完存	丹塗り X=63490.97 Y=-67365.72 L=4.24
192	3区	井泉内下層	無頸壺	7.7～8.0	—	9.2	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：灰褐色7.5YR4/2～暗褐色7.5YR3/3　内面：褐色7.5YR4/3～4/4	完存	X=63490.77 Y=-67364.65 L=4.30
193	3区	井泉内	壺	—	7.7	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量に含み、径2㎜以下の角閃石・雲母を少量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR5/3～褐色7.5YR4/3　内面：褐色7.5YR4/4～暗褐色7.5YR3/4	胴部のみ完存	胴部外面に黒斑あり X=63490.40 Y=-67364.07 L=4.46
194	3区	井泉内上層	複合口縁壺	(21.3)	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR4/2	二次口縁部1/10	一次口縁部が大きく外反する傾向がある糸島地域の複合口縁壺の特徴に似る
195	3区	井泉内上層	二重口縁壺	—	7.5	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母・黒色砂粒を少量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	一次口縁部1/4 頸部~胴部中位3/4 その他完存	二次口縁部は剥離
196	3区	井泉内上層	壺	14.5	—	30.2	密。径5㎜以下の石英・長石を少量含み、微細な雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	明褐灰色7.5YR7/2～にぶい橙色7.5YR6/4	口縁部2/3 胴上位9/10 その他2/3	平底が微妙に残る
197	3区	井泉内上層	長頸壺	9.2	5.9	18.1	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR5/3～褐色7.5YR4/4　内面：にぶい褐色7.5YR5/3	頸部1/2 胴部上半1/1 胴部下半3/4	
198	3区	井泉内上層	小型甕	(13.9)	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	明褐灰色7.5YR7/2～明褐色7.5YR5/6	口縁部1/4 その他2/3	
199	3区	井泉内上層	鉢(脚付きか)	(20.8)	—	—	水漉し精良。微細な石英・長石・黒色砂粒を少量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/3～灰褐色7.5YR5/2　内面：にぶい橙色7.5YR7/4	口縁部～胴部上半1/3	外面に煤付着
200	3区	井泉内上層	高坏	(27.0)	17.0	18.3	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母・黒色砂粒を少量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3～灰褐色7.5YR4/2	坏部上半1/2 坏部下半・脚裾部3/4 その他完存	脚部に3ヶ所穿孔。北四国からの搬入品か
201	3区	井泉内上層	台付甕	—	16.5	—	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	褐色7.5YR4/4	胴上半3/4 胴下半1/2 台部1/1	
202	3区	井泉内上層	台付甕	—	19.0	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR5/4	台部4/5	
203	3区	井泉内上層	低脚高坏	—	(12.8)	—	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量に含み、径1㎜以下の雲母を少量含む。	良好	坏部内面：にぶい橙色7.5YR7/3～6/4　その他：灰褐色7.5YR5/2～にぶい褐色7.5YR6/3	坏上部以外遺存	
204	3区	井泉内上層	甑	—	—	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/3～にぶい褐色7.5YR5/4　内面：にぶい褐色7.5YR6/3～橙色7.5YR6/6	底部のみ	多孔式
205	3区	井泉内上層	把手付広片口皿	—	—	—	粗。径9㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：煤付着。黒色5YR2/1～灰褐色5YR4/2　内面：水銀朱。赤色10R5/8	尾部近くの破片	水銀朱がヒビの奥まで染み込んでいる
206	3区	井泉内上層	埦	(13.2)	4.8	10.2	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色7.5YR6/4～褐色7.5YR4/3　内面：にぶい橙色7.5YR6/4～橙色7.5YR6/6	上半1/4 下半1/2	底部外面は剥離が顕著
211	3区	井泉内上層	高坏	—	—	—	密。径7㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/2～浅黄橙色7.5YR8/3	1/3	搬入品か

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
212	3区	井泉内上層	器台	(10.4)	(11.0)	12.45	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰褐色5YR5/2～明赤褐色5YR5/6	受部1/4 脚柱部1/1 脚裾部1/2	
213	3区	井泉内上層	器台	(13.1)	(14.5)	15.25	やや粗。径9㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	外面：褐灰色7.5YR5/1～橙色7.5YR6/6　内面：橙色5YR6/8～にぶい赤褐色5YR5/4	受部2/5 脚柱部2/3 脚裾部1/6	
214	3区	井泉内上層	器台	14.2	16.0	18.5	やや粗。径8㎜以下の石英・長石を多量含み、径2㎜以下の雲母を少量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/3～橙色5YR7/6　内面：にぶい褐色7.5YR6/3～橙色5YR6/6	受部2/3 脚柱部1/1 脚裾部1/5	内面が被熱変色して橙色化
215	3区	井泉内上層	器台	(17.9)	19.0	19.8	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	やや不良	外面：褐灰色7.5YR5/1～橙色7.5YR6/6　内面：橙色5YR6/8～にぶい赤褐色5YR5/4	受部1/4 脚柱部1/1 脚裾部2/5	
216	3区	井泉内上層	器台	(22.0)	(21.8)	23.5	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2～橙色7.5YR6/6	受部1/4 脚部1/3	
217	3区	井泉内上層	器台	12.3	11.8~12.3	17.4	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の黒色砂粒・雲母を微量含む。	良好	外面：橙色7.5YR6/6～明褐灰色7.5YR7/2　内面：橙色5YR7/6～6/6	脚裾部3/4 その他完存	
218	3区	井泉内上層	器台	16.8	18.8	21.9	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/4～6/4	脚裾部1/1 その他3/4	受部の刺突文はハケメ工具の小口を使用
219	3区	井泉内上層	器台	13.6	14.0	18.85	密。径5㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR5/3～灰褐色7.5YR4/2　内面：灰褐色7.5YR4/2	完存	
220	3区	井泉内上層	支脚	7.4	8.0~8.4	8.3	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2～明褐色7.5YR5/7	ほぼ完存	
221	3区	井泉内上層	支脚	9.5	10.65	9.6	やや不良。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：明赤褐色5YR5/8～にぶい橙色7.5YR7/3 内面：灰褐色7.5YR6/2	受部3/5 その他完存	
222	3区	井泉内上層	支脚	10.6	12.2	10.8	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量に含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/3～明褐色7.5YR5/6	裾一部欠損	
223	3区	井泉内上層	支脚	7.9	10.6	16.4	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量に含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	1/2	
224	3区	井泉内上層	器台	8.8	12.4	12.4	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：橙色7.5YR6/8 内面：にぶい橙色7.5YR7/4 煤：黒褐色7.5YR3/1	受部2/3 その他完存	全体に火を受け煤付着（容易に表面剥離する状態）。脚裾部に噴きこぼれ？が付着
225	3区	井泉内上層	沓形支脚	—	12.7~13.7	11.0	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量に含み、径1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	外面：褐灰色7.5YR6/1～橙色5YR6/8　内面：灰褐色7.5YR6/2～明褐色7.5YR5/6	ほぼ完存	
226	3区	井泉内上層	沓形支脚	—	13.8	13.5	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：明褐色7.5YR5/8～灰褐色7.5YR5/2　内面：明赤褐色5YR5/8～にぶい褐色7.5YR5/3	ほぼ完存	
227	4区	SD-01土器集中	大型甕	39.0	5.1	51.4	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を少量含む。	良好	外面：にぶい橙色5YR7/4～6/4　内面：橙色5YR6/6	口縁部1/2 胴上～中位3/4 胴下位1/1	頸部、胴部下位の台形突帯にそれぞれ工具小口の刺突文が巡る。胴外面に大きな黒斑が2カ所
228	4区	SD-01土器集中	甕	(36.7)	—	—	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR6/3	口縁～胴上位1/3 胴中位1/6	
229	4区	SD-01土器集中	甕	(29.0)	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色7.5YR6/3～5/4　内面：明褐色7.5YR5/6～褐色7.5YR4/3	口縁部1/4 胴部上～中位1/3	
230	4区	SD-01土器集中	甕	22.7	—	28.6	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：灰褐色7.5YR5/2～4/2 内面：橙色7.5YR6/6	口縁部4/5 底部1/2 その他完存	
231	4区	SD-01土器集中	甕	19.0	—	26.95	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面上半：褐灰色7.5YR4/1 外面下半：にぶい褐色7.5YR6/3 内面：灰褐色7.5YR4/2	口縁部1/2 胴部上～中位2/3 その他完存	
232	4区	SD-01土器集中	鉢	20.6	—	11.6	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい褐色7.5YR6/3 内面：橙色5YR7/6	1/2	
233	4区	SD-01土器集中	有孔鉢	(20.2)	—	13.0	粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色5YR7/3～橙色5YR6/6　内面：橙色5YR6/6～6/8	上半1/4 下半1/1	底部内面から焼成前穿孔
234	4区	SD-01土器集中	ミニチュア壺形土器	—	3.0	—	やや粗。径1㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/4 内面：にぶい橙色7.5YR6/4	下半1/3 底部1/1	
235	4区	SD-01土器集中	鉢	17.8	3.4	7.2	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	1/2	
236	4区	SD01土器集中	埦形土器	(7.8)	4.5	5.8	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色7.5YR6/4～橙色7.5YR6/6　内面：にぶい褐色7.5YR5/3～5/4	上半1/4 下半完存	
237	4区	SD-01土器集中	埦	14.8~15.4	6.6	9.8	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含む。	不良	明褐灰色7.5YR7/2～明赤褐色5YR5/6	完存	
238	4区	SD-01土器集中	鉢	12.7	—	4.8	密。径1㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3～5/3	口縁部3/4 その他完存	特に底部内面はハケメを螺旋状に丁寧に施す

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
239	4区	SD-01土器集中	台付甕	(21.7)	18.0	27.75	やや粗。径9㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母・褐色土粒を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	口縁部1/5 胴部上～中位2/3 その他完存	
240	4区	SD-01土器集中	広口壺	—	—	—	やや粗。砂質。径2㎜以下の雲母・角閃石、5㎜以下の石英・長石を共に多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/4	口縁部破片	口縁部に凹線文、円形浮文、機内より搬入
241	4区	SD-01土器集中	高坏	—	14.1	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	坏部内面：黄橙色7.5YR7/8 その他：灰褐色7.5YR6/2～橙色7.5YR7/6	坏上半わずか 坏下半1/5　脚柱部1/1　脚裾部1/3	
242	4区	SD-01土器集中	注口付高坏か	—	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を少量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2～褐色7.5YR4/6	坏部破片	
243	4区	SD-01土器集中	脚付鉢	19.0	12.8	12.4	密。径1㎜以下の石英・長石を少量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR6/3	坏部上半・脚裾部1/2 その他完存	脚部に3カ所穿孔
244	4区	SD-01土器集中	把手付広片口皿	—	—	—	やや粗。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	内面・尾部立ち上がり外面・把手上面：水銀朱。赤橙色10R6/8～赤褐色10R4/4　その他：煤。黒色7.5YR2/1	尾部立ち上がり3/4 尾部把手2/3 体部わずか	
245	4区	SD-01土器集中	炉形土器	—	—	—	精良。径2㎜以下の石英・長石を微量含む。	やや不良	外面：灰白色N8/～灰色N4/ 内面：灰白色10YR7/1	胴部中位破片	
249	4区	SD-01土器集中	器台	12.3	13.8	15.2	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	明褐灰色7.5YR7/2～にぶい橙色7.5YR6/4	受部3/4 脚部1/1	
250	4区	SD-01土器集中	器台	14.5	15.0	19.8	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母・黒色砂粒を少量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/3～7/4　内面：橙色5YR7/6～6/8	受部3/4 脚部1/3	脚部の欠損は外面のみが大きく剥離しているもの
251	4区	SD-01土器集中	器台	14.3	15.8	18.5	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	灰白色10YR8/2～にぶい黄橙色10YR7/3	受部2/3 脚裾部3/4 その他完存	
252	4区	SD-01土器集中	器台	(16.1)	15.0	17.4	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：褐灰色5YR5/1～橙色5YR6/8　内面：褐灰色5YR4/1～にぶい橙色5YR6/4	受部1/4 その他2/3	
253	4区	SD-01土器集中	器台	(14.2)	19.3	22.2	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母・黒色砂粒を少量含む。	やや不良	灰白色7.5YR8/2～橙色7.5YR6/6	受部1/5 脚部1/2	外面のみが大きく剥離している
254	4区	SD-01土器集中	器台	(13.6)	(18.4)	21.25	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：明褐灰色7.5YR7/1～橙色7.5YR6/6　内面：橙色7.5YR6/6	受部1/3 脚部下半1/4 その他完存	
255	4区	SD-01土器集中	器台	5.0	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	明赤褐色5YR5/8～にぶい橙色5YR7/3	口縁～頸部完存	
256	4区	SD-01土器集中	杏形支脚	7.8～8.9	13.9	13.4	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR6/3～5/4　内面：明褐色7.5YR5/6	上半完存 下半1/2	上半外面は被熱している
257	4区	SD-01黒色土	大型甕	(49.8)	—	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	褐色7.5YR4/3～4/6	頸部上半3/5 頸部下半1/3 肩部わずか	口縁端面にハケメ小口の刺突文を巡らす
258	4区	SD-01黒色土	大型壺	49.5	—	—	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	橙色7.5YR6/6～6/8	頸部1/2 肩部1/8	口縁端面に刺突文
259	1区	SD-01黒色土	二重口縁壺	(20.2)	—	—	やや粗。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色7.5YR7/3～7/4　内面：褐灰色5YR5/1～にぶい褐色7.5YR5/3	二次口縁1/6 一次口縁1/4　頸部1/1　肩部1/3	ハケメ小口の刺突による肩部文様
260	4区	SD-01黒色土	大型甕	—	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/3～明褐色7.5YR5/8	破片	口径は90cm位か
261	4区	SD-01黒色土	二重口縁壺	18.6	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	胴部内面：黒褐色7.5YR3/1 その他：橙色7.5YR7/6	二次口縁1/8 一次口縁1/2 胴上位7/8	肩部外面に黒斑
262	4区	SD-01黒色土	二重口縁壺	21.0	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	橙色7.5YR7/6	口縁～頸部上半1/1 頸部下半1/3	口縁屈曲部に刺突文が巡る
263	4区	SD-01黒色土	二重口縁壺	27.3	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/3～にぶい褐色7.5YR5/3	二次口縁3/4 頸部5/6 胴上半1/6	口縁端面・口縁屈曲部・頸部突帯にハケメ小口で刺突文を巡らす
264	3区	SD-01黒色土	壺	—	—	—	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	口縁部破片	搬入土器
265	4区	SD-01黒色土	壺	31.7	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母（金・銀色）を少量含む。	やや不良	外面：にぶい褐色7.5YR5/3 内面：にぶい橙色7.5YR6/4	頸部3/4	口縁部の文様はハケメ工具による。搬入土器
266	4区	SD-01黒色土	複合口縁壺	(33.0)	—	—	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母を少量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	口縁～頸部1/4	二次口縁部に竹管文、刻目文。搬入土器。
267	4区	SD-01黒色土	壺	(30.0)	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	頸部1/4	口縁部に列点文、円形浮文（竹管文）、鋸歯文。搬入土器
268	3区	SD-01黒色土	広口壺	(30.6)	—	—	やや粗。砂質。径2㎜以下の雲母・角閃石を多量含み、5㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	灰褐色7.5YR4/2	口縁～頸部2/5	口縁端部に凹線文、円形浮文。搬入土器。

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
269	4区	SD-01黒色土	壺	15.3	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、3㎜以下の雲母を微量含む。	良好	褐色7.5YR4/3～4/6	口縁～胴上位3/4 胴中位1/5	
270	4区	SD-01黒色土	壺	—	3.3	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5ＹＲ7/4～灰褐色ＹＲ4/2	胴部下半のみ	黒斑２ヶ所あり
271	4区	SD-01黒色土	壺	11.1	—	21.0	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	橙色5YR7/6～にぶい橙色5YR7/3	口縁～胴上半3/4 胴下半1/2	胴部内面下半に黒斑
272	4区	SD-01黒色土	壺	17.0	—	—	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	口縁部7/8 胴上半3/5 胴下半1/8	
273	4区	SD-01黒色土	大型甕	(42.6)	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	褐色7.5YR4/3	口縁～頸部1/6	
274	1区	SD-01黒色土	甕	—	—	—	密。径1㎜以下の角閃石・長石を少量含む。	良好	黒褐色7.5ＹＲ3/1	一部	瀬戸内より搬入
275	4区	SD-01黒色土	甕	(25.3)	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/4～6/4	口縁部1/3 胴上位1/2 胴下位1/4	胴部下半外面に煤付着
276	4区	SD-01黒色土	甕	22.8	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：褐色7.5ＹＲ4/4～黒色7.5YR2/1　内面：にぶい褐色7.5YR5/4～褐灰色7.5YR4/1	口縁～胴上半3/4	外面全体に煤付着
277	4区	SD-01黒色土	甕	(21.6)	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：灰白色7.5YR8/1～8/2 内面：灰白色7.5YR8/2～にぶい橙色7.5YR6/4	口縁～胴上位2/5 胴中位1/6	外面全体に煤付着
278	4区	SD-01黒色土	甕	(20.2)	—	33.0	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む	良好	外面：褐色7.5YR4/3 内面：褐灰色7.5YR4/1	口縁部1/5 胴上半3/5 胴下半1/3	
279	1区	SD-01黒色土	鉢	43.4~44.7	11.0	29.8	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、3㎜以下の雲母を少量含む。	良好	明褐灰色7.5YR7/2～明褐色7.5YR5/6	口縁部9/10 胴部下半3/4 その他完存	口縁部と底部付近に大きな黒斑あり
280	1区	SD-01黒色土	有孔鉢	(24.7)	7.4	18.4	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色5ＹＲ5/2～明褐色5YR5/6	上半1/8 下半1/1	底部に内面からの焼成前穿孔
281	3区	SD-01黒色土	鉢	(21.2)	6.4	15.2	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3～灰褐色7.5YR4/2	口縁部わずか 体部1/6 底部1/1	体部下半に黒斑
282	1区	SD-01黒色土	鉢	10.8	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/4 内面：にぶい褐色7.5ＹＲ6/3～5/4	口縁～体部3/4	
283	1区	SD-01黒色土	甕	(15.5)	5.0	10.7	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	橙色2.5ＹＲ6/6～灰褐色5YR4/2	口縁～胴上半1/4 胴下半1/1	
284	4区	SD-01黒色土	甕	16.6	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：灰白色7.5YR8/1～橙色7.5YR7/6　内面：にぶい橙色5YR7/4～明赤褐色5YR5/8	底部以外完存	胴部黒斑が剥離面まで及ぶ。底部に脚台が付くか
285	4区	SD-01黒色土	小型甕	11.8	—	(9.0)	密。径2㎜以下の石英・長石・雲母を少量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3	3/4	
286	2区	SD-01黒色土	小型甕	8.4	5.2	9.7	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	灰褐色7.5ＹＲ5/2～明褐色7.5YR5/8	口縁部1/2 胴部1/1	
287	3区	SD-01黒色土	小型甕	(11.3)	4.6	9.45	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	明赤褐色5YR5/8（丹塗り）、にぶい橙色7.5YR6/4	上半1/3 下半1/1	全面丹塗り（磨研なし）
288	4区	SD-01黒色土	埦	(14.0)	5.0	8.5	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：浅黄橙色7.5YR8/4 内面：にぶい橙色7.5YR7/4	口縁部1/4 体部2/5 底部1/1	
289	1区	SD-01黒色土	有孔の埦？甕？壺？	—	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/3 内面：にぶい橙色7.5YR7/4	底部1/4	底部有孔
290	1区	SD-01黒色土	有孔の埦？甕？壺？	—	7.8	—	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：明褐色7.5YR5/6～灰黄褐色10ＹＲ6/2　内面：褐色7.5YR4/6～灰黄褐色10YR6/2	底部完存	底部内面から焼成前穿孔
291	4区	SD-01黒色土	鉢	(24.0)	—	—	密。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：褐色7.5YR4/4 内面：にぶい褐色7.5YR5/4	体部1/3	
292	4区	SD-01黒色土	鉢	(23.0)	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	灰褐色7.5ＹＲ5/2～褐色7.5YR4/3	1/4	黒斑が剥離面まで及ぶ
293	4区	SD-01黒色土	鉢	18.0~19.2	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3～明褐色7.5YR5/6	体部2/3 底部わずか	
294	1区	SD-01黒色土	鉢	16.7	—	7.1	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	黄灰色2.5Ｙ4/1～灰黄色2.5Y6/2	2/3	
295	4区	SD-01黒色土	埦	(13.5)	—	7.6	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	橙色7.5YR6/6	体部3/4 底部1/1	

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
296	1区	SD-01黒色土	鉢	12.6	—	6.6	やや粗。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：灰白色2.5Y7/1～灰黄色2.5YR6/2　内面：灰白色2.5Y7/1	7/8	
297	1区	SD-01黒色土	鉢	(13.0)	—	5.8	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：明褐灰色7.5YR7/1～にぶい橙色7.5YR7/4 内面：黒褐色7.5YR3/1	上半1/3 下半1/1	作りは雑
298	3区	SD-01黒色土	鉢？	—	7.7	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/4～褐灰色7.5YR5/1　内面：にぶい褐色7.5YR5/3～褐色7.5YR4/4	体部下半1/4 底部4/5	
299	1区	SD-01黒色土	脚付埦	(14.2)	(16.9)	11.0	密。径3㎜以下の石英・長石・黒色砂粒などを少量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3～明褐色7.5YR5/6	埦部・脚裾部1/3 脚柱部1/1	脚部に３カ所穿孔
300	4区	SD-01黒色土	低脚高坏	11.8	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3～5/4	坏上半2/3 坏下半1/1 脚部わずか	
301	3区	SD-01黒色土	台付き器種	—	(16.1)	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を少量含む。	良好	灰褐色7.5YR6/2	台上半1/1 台下半1/8	
302	4区	SD-01黒色土	台付甕	—	14.9	—	密。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	台部3/5	
303	4区	SD-01黒色土	低脚高坏	(11.3)	8.3	8.1	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2～にぶい褐色7.5YR5/4	坏上半1/5 脚裾部3/5 その他完存	
304	4区	SD-01黒色土	脚付埦	10.3	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/3～にぶい褐色7.5YR5/4	埦部上半1/2 下半1/1	
305	3区	SD-01黒色土	台付埦	8.3~8.9	(6.6)	6.5	密。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR6/2	埦部上半3/4 台部1/8 その他完存	外面に籾圧痕あり
306	4区	SD-01黒色土	甕	(20.8)	—	—	やや粗。径9㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR5/3～黒褐色7.5YR3/1　内面：橙色7.5YR6/6	口縁～胴上半1/3	外面に煤付着
307	2区	SD-01黒色土	甕	18.2~18.9	8.5	14.8	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：灰褐色7.5YR5/2～橙色7.5YR6/6　内面：褐色7.5YR4/3～4/4	口縁部2/3 その他ほぼ完存	外面に2ヶ所黒斑あり
308	1区	SD-01黒色土	（有孔?）埦	(16.0)	(5.4)	13.3	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/4～橙色7.5YR6/6	1/4	
309	3区	SD-01黒色土	埦	(13.2)	7.0	13.2	やや粗。径10㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	やや不良	外面：にぶい褐色7.5YR5/3 内面：灰褐色7.5YR4/2	1/3	
310	3区	SD-01黒色土	埦	(12.6)	6.8	11.5	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	胴上半1/4 胴下半3/5 底部1/1	
311	3区	SD-01黒色土	埦	11.8	6.1	7.85	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	外面：暗褐色7.5YR5/6～にぶい橙色7.5YR7/3　内面：にぶい橙色7.5YR7/4～褐色7.5YR4/4	体部1/6 底部1/1	
312	4区	SD-01黒色土	鉢	15.8	9.6	7.9	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR5/3 内面：にぶい橙色7.5YR6/4	体部2/3 底部5/6	
313	3区	SD-01黒色土	埦	14.9	6.4	9.8	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	外面：灰褐色7.5YR6/2～黒褐色7.5YR3/1　内面：褐灰色7.5YR4/1～灰褐色7.5YR6/2	体部1/4 底部1/1	
314	1区	SD-01黒色土	埦	(11.0)	(7.2)	11.4	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を少量含む。	やや不良	褐色7.5YR4/4	1/3	
315	1区	SD-01黒色土	埦	12.4	5.8	8.3	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/4	体部上半2/3 その他完存	
316	4区	SD-01黒色土	鉢	(17.4)	5.3	8.6	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	体部1/3 底部1/1	
317	3区	SD-01黒色土	埦	(9.7)	(6.0)	9.0	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：明褐灰色7.5YR7/2～にぶい橙色7.5YR6/4　内面：にぶい橙色7.5YR7/3～にぶい褐色7.5YR5/3	2/5	
318	1区	SD-01黒色土	鉢	13.4	2.0	6.35	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：褐灰色7.5YR6/1～にぶい橙色7.5YR7/4　内面：橙色5YR7/8	体部3/4 底部1/1	
319	1区	SD-01黒色土	埦	(10.5)	5.0	7.0	やや粗。径10㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色5YR6/4～橙色5YR6/8	上半1/6 下半1/1	
320	1区	SD-01黒色土	埦	—	7.0	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい褐色7.5YR5/4 内面：灰褐色7.5YR5/2	体部2/5 底部2/3	
321	1区	SD-01黒色土	埦	11.8	4.5	6.85	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	黒褐色7.5YR3/1～にぶい褐色7.5YR5/4	体部1/4 底部1/2	
322	1区	SD-01黒色土	埦	12.1	3.3	7.3	密。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を少量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR6/3 内面：明褐色7.5YR5/8	口縁部：2/3 その他1/1	

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
323	4区	SD-01黒色土	高坏	33.4	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	坏部内面：にぶい褐色7.5YR5/4～にぶい赤褐色5YR5/3　その他：にぶい褐色7.5YR5/3～5/4	坏～脚柱部1/1	
324	1区	SD-01黒色土	高坏	28.4	—	—	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母を少量含む。	良好	褐色5YR4/4～4/6	坏上半3/5 坏下半1/1	脚柱部内面奥に粘土充填跡が残る
325	1区	SD-01黒色土	高坏	—	17.9	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/4	坏下半1/3 脚柱部1/1 脚裾部2/3	
326	4区	SD-01黒色土	高坏	29.8	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：にぶい赤褐色5YR4/4 内面：にぶい褐色7.5YR5/4	坏部上半2/3 坏部下半～脚柱部1/1	脚部に３ヶ所穿孔
327	1区	SD-01黒色土	高坏	28.5	—	—	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	坏上半11/12 坏下半2/3	坏部上半内外面に暗文
328	4区	SD-01黒色土	高坏	(17.5)	—	—	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を少量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	坏部上半1/4 坏部下半～脚柱部1/1	
329	3区	SD-01黒色土	高坏	—	(18.8)	—	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2～にぶい褐色7.5YR5/3	脚柱部3/4 脚裾部1/3	穿孔が３カ所（おそらく本来は４孔）残る。北四国からの搬入品か
330	3区	SD-01黒色土	高坏	—	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4～にぶい褐色7.5YR5/3	脚柱部1/1	脚部に５カ所穿孔
331	3区	SD-01黒色土	高坏	—	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を少量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3	脚柱部1/1 坏部・脚裾部わずか	脚部に３ヶ所穿孔。東海地域からの搬入品か
332	1区	SD-01黒色土	器台	7.55	8.7	9.25	密。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	明褐灰色5YR7/2～明赤褐色5YR5/8	受部2/3 脚上半1/1 脚下半1/2	
333	3区	SD-01黒色土	器台	9.9	10.0	9.4	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR4/2～明褐色7.5YR5/6	ほぼ完存	
334	2区	SD-01黒色土	器台	7.9	9.4~9.7	9.6	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3～灰褐色7.5YR4/2	受部1/5 脚裾部4/5 その他完存	
335	1区	SD-01黒色土	器台	9.9	10.3	9.85	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/3～7/4	受部3/4 その他完存	
336	4区	SD-01黒色土	器台	8.6	10.9	9.9	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	灰褐色7.5YR5/2～にぶい褐色7.5YR5/4	脚裾部3/4 その他完存	
337	3区	SD-01黒色土	器台	(10.3)	11.2	9.9	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4～灰褐色7.5YR4/2	受部1/3 脚部2/3	
338	3区	SD-01黒色土	器台	8.5	(11.4)	11.1	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3～明褐色7.5YR5/6	受部3/5 脚裾部1/3 その他完存	
339	3区	SD-01黒色土	器台	10.1	11.4	10.9	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR5/3～明褐色7.5YR5/6	受部5/6 脚部7/8	
340	2区	SD-01黒色土	器台	9.3	10.1~10.6	11.2	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	灰褐色7.5YR6/2～明褐色7.5YR5/6	受部2/3 その他完存	
341	3区	SD-01黒色土	器台	11.4	10.9	12.1	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	灰褐色7.5YR5/2～橙色7.5YR6/6	受部1/2 脚部3/5	
342	3区	SD-01黒色土	器台	8.8	10.6	13.5	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3	受部1/2 脚柱部1/1 脚裾部3/5	
343	1区	SD-01黒色土	器台	11.5	12.2	14.0	やや粗。径10㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色7.5YR7/4 内面：灰褐色7.5YR5/2	脚柱部1/1 その他1/2	
344	2区	SD-01黒色土	器台	11.9	12.1	13.9	やや粗。径8㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：灰褐色7.5YR6/2～にぶい褐色7.5YR5/3　内面：明褐灰色7.5YR7/1～7/2	脚裾部8/9 その他完存	
345	2区	SD-01黒色土	器台	11.1~11.5	(14.2)	14.9	粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3～6/3	脚裾部1/3 その他完存	
346	2区	SD-01黒色土	器台	(10.5)	12.9	15.9	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：橙色7.5YR6/6～赤褐色5YR4/6　内面：灰褐色7.5YR6/2	受部わずか その他完存	
347	2区	SD-01黒色土	器台	(11.3)	(13.7)	16.6	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	明褐灰色7.5YR7/2～明褐色7.5YR5/6	受部1/3 脚裾部1/8 その他完存	
348	2区	SD-01黒色土	器台	12.7	14.3	20.2	やや粗。径9㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	受部・脚裾部1/4 その他完存	
349	2区	SD-01黒色土	器台	10.8	(12.0)	17.8	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	橙色7.5YR6/6～灰褐色7.5YR5/2	上半完存 下半2/5	

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
350	2区	SD-01黒色土	器台	11.9	(15.1)	17.7	やや粗。径8㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	にぶい赤褐色5YR5/4～赤褐色5YR4/6	受部2/5 脚裾部1/4 その他完存	
351	4区	SD-01黒色土	器台	(12.1)	(14.9)	17.1	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：灰褐色5YR5/2　内面：にぶい赤褐色5YR5/4～橙色5YR6/6	受部1/5 脚上半1/1 脚下半1/6	
352	4区	SD-01黒色土	器台	13.1	(14.3)	17.7	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を少量含む。	良好	灰褐色5YR6/2～橙色5YR7/8	受部2/3 脚上半4/5 脚下半1/4	
353	1区	SD-01黒色土	器台	14.0	15.6	17.8	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母・角閃石を多量含む。	やや不良	脚部内面：灰褐色7.5YR6/2～褐灰色7.5YR4/1　その他：にぶい褐色7.5YR7/3～7/4	受部：3/4 脚上半1/1 脚下半1/4	
354	3区	SD-01黒色土	支脚	(7.7)	7.2	8.7	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3～5/4	受部1/4 その他1/1	
355	3区	SD-01黒色土	支脚	6.8	(10.0)	11.0	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3～明褐色7.5YR5/6	脚裾部3/5 その他完存	
356	4区	SD-01黒色土	沓形支脚	6.4	13.1	9.8	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	浅黄橙色7.5YR8/3～8/4	3/4	
357	2区	SD-01黒色土	支脚	7.8	10.9~11.3	12.7	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色5YR6/2～にぶい赤褐色7.5YR4/4	ほぼ完存	
358	3区	SD-01黒色土	支脚？	11.2	—	—	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色7.5YR7/4～橙色7.5YR6/8　内面：褐灰色7.5YR4/1	受部～脚部上半3/4	
359	2区	SD-01黒色土	支脚	—	(11.0)	—	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3～5/3	2/5	
360	1区	SD-01黒色土	沓形支脚	6.2	11.0	11.1	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい橙色7.5YR7/4～橙色7.5YR6/8　内面：にぶい橙色7.5YR7/4～明褐色7.5YR5/8	受部：突出部欠損。脚上半1/1 脚下半2/3	
361	1区	SD-01黒色土	沓形支脚	5.9+突出部	11.3	—	やや粗。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/4 内面：にぶい橙色7.5YR7/3	突出部以外完存	
362	3区	SD-01黒色土	支脚	7.3~7.7	(13.0)	12.3	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：灰褐色7.5YR6/2～橙色7.5YR6/8　内面：灰褐色7.5YR6/2	受部：1/1 脚部1/3	
363	3区	SD-01黒色土	支脚	—	—	—	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/4	受部：突出部欠損 脚部上半：2/3	
364	3区	SD-01黒色土	支脚	6.0~7.5	—	—	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR5/4	受部3/4 脚部上半1/1	
365	2区	SD-01黒色土	蓋	—	(24.0)	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を少量含む。	良好	外面：丹塗り。赤褐色2.5YR4/6～4/8　内面：橙色5YR6/6～暗赤褐色5YR3/2	体部1/4 裾部1/8	裾部～内面かえり部分は被熱変色（暗赤褐色化）
366	3区	SD-01黒色土	蓋	つまみ2.7	13.7	4.2	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3～5/4	完存	
367	1区	SD-01黒色土	ミニチュア蓋形土器？	—	5.4	—	やや粗。径1㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR6/3	体部2/3 つまみ上面剥離	
368	3区	SD-01黒色土	器台	(7.4)	(6.5~7.1)	(6.5)	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	褐灰色7.5YR6/1～黒褐色7.5YR3/1	受部1/3 脚部1/4	天地も断定不可
369	1区	SD-01黒色土	甕形土器？	7.3	—	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR5/3	底部外面が剥離 その他は残存	
370	2区	SD-01黒色土	ミニチュア甕形土器	—	3.5	—	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3～灰褐色7.5YR5/2	胴部下位1/3 底部1/1	
371	3区	SD-01黒色土	甕形土器？	—	2.4	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を少量含む。	やや不良	外面：にぶい褐色7.5YR5/3 内面：褐色7.5YR4/3	胴部中位1/4 底部1/1	
372	1区	SD-01黒色土	ミニチュア埦形土器	5.0	—	6.1	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	完存	
373	1区	SD-01黒色土	ミニチュア鉢形土器	8.8	—	3.8	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：浅黄橙色7.5YR8/4～にぶい橙色7.5YR6/4　内面：浅黄橙色7.5YR8/4～褐色7.5YR4/4	口縁部4/5 その他完存	
374	3区	SD-01黒色土	ミニチュア高坏形土器	—	—	—	精良。径4㎜以下の石英・長石を微量含む。	良好	赤褐色5YR4/8	脚柱部1/1	全面丹塗り（磨研もあるか）
375	3区	SD-01黒色土	ミニチュア甕形土器	—	2.8	—	密。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR6/3～にぶい橙色7.5YR6/4	体部下位わずか 底部1/1	
376	3区	SD-01黒色土	ミニチュア埦形土器	5.1	2.3	4.4	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/3	完存	

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	法量cm（復元） 口径	底径	器高	胎　　土	焼 成	色　　調	残存率	備　考
377	4区	SD-01黒色土	ミニチュア鉢形土器	(4.9)	—	3.0	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	橙色7.5YR7/6	口縁部1/3 体部1/1	
378	2区	SD-01黒色土	ミニチュア鉢形土器	6.1	1.7	2.8	やや粗。径2㎜以下の石英・長石・雲母を含む。	良好	外面：黄褐色10ＹＲ5/8～にぶい褐色7.5ＹＲ5/3　内面：灰褐色7.5ＹＲ4/2～暗褐色7.5ＹＲ3/3	ほぼ完存	
379	4区	SD-01黒色土	ミニチュア椀形土器	6.1	—	3.7	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：橙色7.5YR6/6～褐灰色7.5YR4/1　内面：灰褐色7.5YR4/2	口縁部3/4 体部1/1	
380	2区	SD-01黒色土	ミニチュア壺形土器	—	1.8	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5ＹＲ5/3～褐灰色7.5ＹＲ4/1　内面：褐灰色7.5ＹＲ4/1	1/2	
381	3区	SD-01黒色土	把手付広片口皿	—	—	—	粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：煤付着。黒色5YR2/1 内面：水銀朱。赤色10R5/8	口縁部付近の破片	外面に水銀朱が垂れている
382	1区	SD-01黒色土	匙形土製品	—	—	—	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/4	図化部分のみ	
383	3区	SD-01黒色土	円板 (土器片加工品)	—	—	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。(長垂産のトパーズ片を含む)	良好	にぶい橙色7.5YR6/4	ほぼ完存	壺・甕の胴部下位片
384	3区	SD-01黒色土	器台	—	—	—	粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR6/3 内面：褐灰色7.5YR5/1	脚部破片	
385	3区	SD-01黒色土	双耳壺	—	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	褐灰色7.5ＹＲ4/1～灰褐色7.5YR5/2	耳部分1/1(双耳のうち1つのみ)	耳幅4cm前後。半島系土器
386	4区	SD-01黒色土	壺	—	—	—	精良。径1㎜以下の石英・長石を微量含む。	良好(瓦質)	外面：褐灰色10YR6/1 内面：灰白色10YR7/1	口縁部破片	半島系土器
387	1区	SD-01黒色土	壺	—	—	—	精良。泥質。	良好(瓦質)	灰白色	肩部	半島系土器。外面に縄文タタキ
388	4区	SD-01黒色土	広口壺 または甕	—	—	—	精良。径2㎜以下の石英・長石を微量含む。	良好(瓦質)	灰白色10YR7/1	胴部下位？の破片	半島系土器
389	1区	SD-01黒色土	把手付きの器種	—	—	—	精良。泥質。	良好(瓦質)	外面：黒灰色　内面：灰白色	把手部分	半島系土器。外面に縄文タタキらしき痕跡残る
390	1区	SD-01黒色土	椀	—	—	—	精良。微細な砂粒を微量含む。	良好(瓦質)	灰白色10ＹＲ7/1	体部の一部	楽浪系土器
391	3区	SD-01黒色土	椀	(12.4)	—	—	精良。泥質。	良好	黒灰色	体部	内面上部にまで放射状暗文を施す。楽浪系土器
392		SD-01黒色土	椀	—	(6.0)	—	精良。泥質。	良好	外面：黒灰色　内面：灰茶色	底部	内面見込みに格子状の暗文。楽浪系土器
393		SD-01壁清掃	平瓦	—	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	青灰色5B5/1	側面残るが残存率不明	平瓦一枚作り。
394		SD-01壁清掃	丸瓦	—	—	—	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	不良	灰白色10ＹＲ7/1～褐灰色10YR6/1　断面：にぶい褐色7.5YR7/4	側面が残るため、幅3/5は残存	
395		SD-01検出時	白磁皿	(9.0)	—	—	精良。硬質。やや砂味あり。	良好	釉：灰緑色	体部上半1/9	
396		SD-01検出時	土師質椀	—	(7.7)	—	精良。径4㎜以下の石英・長石を少量含む。	良好	外面：にぶい橙色7.5YR7/4～6/4　内面：灰褐色7.5YR6/2	体部下半2/3 高台端部わずか	
397		SD-01壁清掃	須恵質壺	—	(11.7)	—	やや粗。径2㎜以下の石英・長石を少量含み、径1㎜以下の黒色粒子を微量含む。	良好	胴部外面：暗緑灰色10GY4/1 底部外面・内面全体：灰色N6/	胴部下位1/5	胴部外面全体に自然釉
398		SD-01検出時	白磁碗	(16.5)	—	—	精良。硬質。やや砂味あり。	良好	釉：淡緑白色　露胎：白色	口縁～体部上半1/6	
435	1区	SD-01壁	壺	—	10.5	—	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、2㎜以下の雲母を少量含む。	やや不良	にぶい橙色7.5YR6/4	底部完存	大型品
436	2区	SD-01西肩	甕	(21.4)	—	—	密。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：灰白色5YR8/1～橙色5YR7/6　内面：にぶい橙色5YR7/3	口縁～胴部中位1/4	外面に黒斑(径12cm大)
437	1区	SD-01壁面	甕	19.9	7.9	18.6	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：にぶい褐色7.5YR6/3～橙色7.5ＹＲ6/8　内面：明褐色7.5YR5/8～橙色7.5YR6/6	口縁部1/2 胴部完存	外面下半に黒斑
438	1区	SD-01壁面	甕	(19.2)	(6.2)	21.6	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	橙色7.5YR6/6	1/3	焼きひずみあり。外面上半に煤。内面下半にコゲ。
439	1区	SD-01壁面	甕	18.8	7.2	11.8	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面：明褐灰色7.5YR7/2～橙色7.5YR6/6　内面：明褐灰色7.5YR7/2	口縁部1/4 胴部完存	外面下半・内面半周分に黒斑

法量cm（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	口径	底径	器高	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
440	1区	SD-01壁面	鉢	(14.6)	(6.0)	12.6	やや粗。径2㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：灰黄色2.5Y6/2～暗灰黄色2.5Y4/2　内面：にぶい黄色2.5Y6/3	1/2	
441	1区	SD-01壁面	鉢	(13.0)	4.9	4.5	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	橙色5YR6/6～6/8	上半1/8 下半2/3	両面に丹塗りの可能性あり。
442	2区	SD-01西肩	鉢	20.4	—	9.9	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/1～浅黄橙色7.5YR8/4	体部2/3 その他完存	両面に黒斑
443	2区	SD-01壁面	鉢	(28.0)	—	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面：灰白色7.5YR8/1～にぶい橙色5YR7/4　内面：淡橙色5YR8/3～赤褐色5YR4/6	口縁～体部中位1/9	外面に黒斑（径10㎝大）
444	2区	SD-01西肩	甑	—	—	—	やや粗。径6㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	橙色7.5YR6/6～6/8	胴部下位1/4	底部穿孔。底部外面は火熱を受けている。
445	2区	SD-01西肩	高坏	32.5～33.4	—	—	密。径3㎜以下の石英・長石を少量含み、径1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	橙色7.5YR7/6	坏部2/3	口縁端部に黒斑
446		SD-01肩部検出	高坏	(17.3)	—	—	密。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、1㎜以下の雲母を微量含む。	やや不良	にぶい褐色7.5YR6/3 丹塗り：2.5YR5/8	坏部上半1/3 坏部下半2/3	内外丹塗り？ほとんど剥離
447	2区	SD-01西肩	低脚高坏	—	13.0	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、径2㎜以下の雲母を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/2～にぶい橙色7.5YR7/4	坏部下半1/4 脚柱部1/1 脚裾部3/4	
448		SD-01壁面	脚付鉢	—	13.5	—	密。径2㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/4～褐灰色7.5YR6/1	鉢底部はわずか残存 脚部は完存	
449	2区	SD-01西肩	低脚高坏	—	(13.8)	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/2～にぶい橙色7.5YR7/4	坏部はわずか 脚裾部は1/4 その他完存	
450		SD-01壁面	脚付埦	(7.9)	(8.8)	8.95	精良。径1㎜以下の石英・長石・雲母を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/2～にぶい橙色7.5YR7/4	埦体部2/5 埦底部1/1 脚部1/4	脚部に穿孔（おそらく本来は６個）
451	2区	SD-01西肩	低脚付き器種	—	7.3	—	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR7/3～6/4	脚柱部1/1 脚裾部4/5	
452	3区	SD-01西肩	器台	8.1	9.0	10.8	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	橙色7.5YR6/6～6/8	ほぼ完存	
453		SD-01壁面	支脚	10.1	11.9	11.85	やや粗。径8㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色5YR5/2～にぶい褐色5YR5/4	受部7/8 その他完存	
454	1区	SD-01壁面	器台	(8.6)	11.5	16.1	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	灰黄色2.5Y7/2～橙色7.5YR6/6	受部1/5 その他完存	
455	2区	SD-01西肩	器台	(11.1)	13.0	15.75	やや粗。径8㎜以下の石英・長石を多量含む。	良好	にぶい橙色7.5YR6/4～灰褐色7.5YR6/2	受部2/5 脚裾部3/4 その他完存	
456	1区	SD-01壁面	器台	11.8	11.8	16.9	粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面：にぶい黄橙色10YR6/4～橙色7.5YR6/8　内面：にぶい黄橙色10YR7/3	受部2/3 その他完存	
457	2区	SD-01西肩	器台	12.6	11.7	16.5	やや粗。径7㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	浅黄橙色7.5YR8/3～橙色5YR6/8	脚裾部4/5 その他完存	
458	2区	SD-01西肩	器台	17.4	18.6	20.9	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	明褐灰色7.5YR7/2～明赤褐色5YR5/8	脚裾部4/5 その他完存	受部内外面と脚部外面に丹塗り。
459	2区	SD-01西肩	杏形支脚	5.8～8.3	12.9	13.6	やや粗。径3㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	外面：淡橙色5YR8/3～赤褐色2.5YR4/8　内面：灰褐色5YR6/2～赤褐色5YR4/6	脚裾部2/3 その他完存	
460		SD-01壁面	杏形支脚	4.8～7.2	10.5～11.2	11.0	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、径1㎜以下の雲母を微量含む。	良好	外面：褐灰色5YR5/1～明赤褐色5YR5/6　内面：明赤褐色5YR5/6～5/8	脚裾部1/2 その他完存	
461	2区	SD-01西肩	杏形支脚	6.0～6.6	10.4～11.4	11.8	やや粗。径4㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/1～明赤褐色5YR5/8	ほぼ完存	外面の1/3が黒斑
462	2区	SD-01西肩	支脚	9.0	(12.0)	10.8	やや粗。径5㎜以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	外面：明褐灰色7.5YR7/2～橙色7.5YR6/6　内面：にぶい橙色7.5YR7/3～にぶい褐色7.5YR5/4	受部～脚部上半3/4 脚部下半1/4	脚部下半に黒斑

表2　第12次調査出土石製品他遺物観察表

法量cm・g（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	長	幅	厚	重量	石 材	色　　調	残存率	備　考
002		SP-042	砥石（仕上げ砥）	残7.1	—	—	103.34	不明	灰白色10YR8/1～8/2	不明（製品の大きさが不明）	仕上げ研ぎ用。おそらく金属器用。使用による窪みはない。少なくとも4面使用。
004		SP-136	石錘	4.9	1.45	1.3	13.85	滑石	灰色N6/～明オリーブ灰色5GY7/1	完存（一次品の3/4）	紡錘形。破損品の再利用（一次品の欠損面に溝が再度巡る）。
090	2区	SD-01(A)	投弾	3.3	1.6	1.5	9.85	滑石	オリーブ灰色2.5GY4/1	完存	
106	4区	SD-01(A)	石錘	9.35	7.6	3.05	289.73	安山岩	灰白色10Y7/1	完存	打ち欠き石錘。長短辺の両辺を打ち欠く。
107	4区	SD-01(A)	石錘	残6.8	7.3	3.7	194.53	安山岩か	灰白色10Y7/1～明褐灰色7.5YR7/2	3/5	打ち欠き石錘。短辺を打ち欠く。
108	1区	SD-01(A)	石錘	—	—	—	183.14	滑石（かなり軟化）	灰黄色2.5Y6/2	不明	大型でドーナツ状を呈し、中央に円孔をもつ型式。円孔部分にノミ状工具痕あり。他もケズリ成形。
109	1区	SD-01(A)	石錘	直径（11.1～11.5）		残3.4	343.74	滑石（かなり軟化）	灰黄色2.5Y6/2	平面と水平に1/2欠損	穿孔部分にノミ状工具の加工痕残る。
110	3区	SD-01(A)	太型蛤刃石斧	—	7.8	5.2	527.16	玄武岩	灰色10Y6/1	刃部1/1 基部1/2？	全面に仕上げ研磨
111	3区	SD-01(A)	敲石	13.45	7.1	3.8	625.78	不明	灰色5Y6/1～暗オリーブ色5Y4/4	完存	
112	1区	SD-01(A)	磨製石鎌	—	5.9	0.7	57.69	砂岩質ホルンフェルス	灰色N6/～N4/	不明	両刃。全面に仕上げ研磨。体部の窪みに赤色顔料が付着。
113	4区	SD-01(A)	石匙	—	4.5	0.7	31.27	玄武岩	暗灰色N3/	端部を1/4欠損	打撃による成形のみ（両面とも剥離面そのままで、敲打による平滑化や研磨はない）。片刃。
114	4区	SD-01(A)	磨製石庖丁	残3.9	残5.0	0.65	21.74	玄武岩（風化）	明緑灰色10GY7/1～緑灰色10GY6/1	1/3	
115	3区	SD-01(A)	紡錘車	直径7.4		1.0	92.68	雲母変岩	黄灰色2.5Y4/1～暗灰黄色2.5Y4/2	ほぼ完存	全体に仕上げ研磨。軸孔のやり直し跡がある。
116	1区	SD-01(A)	磨石	直径5.3～5.5			253.52	玄武岩	灰色N5/～灰白色10YR8/1		全体に敲打
117	2区	SD-01(A)	砥石	—	1.7	0.8	13.65	粘板岩	灰色N4/	不明	仕上げ研ぎ用。欠損面以外の全５面使用。
118	3区	SD-01(A)	磨製石剣	—	3.75	1.1	16.65	砂岩質ホルンフェルス	暗緑灰色10G4/1	破片	片面のみ鎬をもつ。平坦な方に研磨時の擦痕がよく残っている。
148	3区	SD-01(B)上層	石錘	6.1	1.6	1.15	14.96	頁岩	灰色N4/	ほぼ完存	紡錘形。
149		SD-01(B)	石錘	7.1	1.7	1.5	23.32	滑石	灰色N5/～N4/	完存	紡錘形 X=63513.33 Y=-67366.44 L=4.70
150		SD-01(B)	石錘	残5.7	1.65	1.3	16.86	蛇紋岩	明黄褐色10YR6/6～褐灰色10YR5/1	2/3（両端をそれぞれ1/6欠損）	紡錘形 X=63494.39 Y=-67365.97 L=5.01
151		SD-01(B)	石錘	8.2	3.5	4.6	173.64	滑石	灰色N4/～明オリーブ灰色2.5Y7/1	7/8	長卵形。穿孔口は両面とも欠損。 X=63501.13 Y=-67364.61 L=4.83
152		SD-01(B)	石錘	8.4	残3.2	4.4	153.03	蛇紋岩	灰白色10YR7/1～橙色7.5YR6/6	3/5	底部平坦型。 X=63501.80 Y=-67365.01 L=4.85
153		SD-01(B)	石錘	10.1	3.7	4.2	220.83	滑石	にぶい黄橙色10YR6/3～銀色	完存	長卵形。 X=63496.83 Y=-67364.01 L=4.90
154		SD-01(B)	石錘	10.1	5.1	2.6	177.85	蛇紋岩	灰白色5Y7/1～7/2	1/2（ちょうど縦に半裁）	長卵形。 X=63494.88 Y=-67366.68 L=5.06
155	3区	SD-01(B)	石錘	(7.05)	(3.4)	3.45	73.08	滑石	緑灰色7.5GY6/1～灰色N4/	3/4	長卵形。溝が巡る部分は丁寧な仕上げ研磨。下位の穿孔はやり直した跡あり。
156	3区	SD-01(B)上層	石錘	8.3	4.3	3.85	168.16	滑石	灰色N5/～灰黄色2.5Y6/2	完存	長卵形。
157	3区	SD-01(B)上層	石錘	8.65	4.3	4.6	222.18	滑石	灰色10Y5/1	完存	長卵形。
158		SD-01(B)	石錘	残11.1	5.0	3.1	263.55	蛇紋岩	にぶい黄橙色10YR7/2～黄褐色10YR5/8	長辺両端部を欠損	短辺方向の溝はノミを打ち込んでいる。 X=63514.59 Y=-67365.40 L=4.90
159	4区	SD-01(B)下層	石錘	9.6	7.8	1.9	213.79	滑石	明オリーブ灰色2.5GY7/1～灰色N4/	完存	打ち欠き石錘。長短辺の両辺を打ち欠く。
160	3区	SD-01(B)上層	石錘	10.2	8.4	1.4	187.1	玄武岩	灰色5Y6/1～暗オリーブ色5Y4/4	完存	打ち欠き石錘。長短辺の4辺ともに打ち欠く。
161	3区	SD-01(B)上層	砥石（粗砥）	残27.5	残15.25	7.6	2435	砂岩	褐灰色10YR6/1	おそらく3/4	成形段階用。金属器使用。研いだ方向は主に長辺方向。小口1面が未使用。
162	1区	SD-01(B)下層	紡錘車	直径 3.7		0.6	6.90	滑石	緑灰色7.5GY6/1	1/2	丁寧な仕上げ研磨。軸孔は両面から穿つ。
163	2区	SD-01(B)下層	紡錘車	直径 4.4		0.7	24.18	滑石	緑灰色5G6/1	完存	丁寧な仕上げ研磨。側面も研磨するが、成形時の面取り痕跡が残る。
164	2区	SD-01(B)上層	紡錘車	直径（4.9）		0.65	12.71	滑石	緑灰色10GY6/1	1/2	丁寧な仕上げ研磨
165	3区	SD-01(B)	磨製石庖丁	残5.0	残5.85	1.1	37.70	凝灰岩	暗赤灰色7.5R4/1	2/5	両刃。楕円形。丁寧な研磨。
179	1区	SD-01(B)	ガラス管玉	2.25	0.6		2.02		暗緑色	完存	X=63510.87 Y=-67365.87 L=4.32

法量cm・g（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	長	幅	厚	重量	石 材	色　　調	残存率	備　考
166		SD-01(B)	骨角器	2.0	1.7		2.38	骨	褐色7.5YR4/4	ほぼ完存	外面はケズリ成形、内面は錐など回転運動による穿孔。孔径は0.65cm。X=63514.95 Y=-67365.41 L=4.28
173	3区	井泉裏	石錘	3.8	1.35	1.15	8.03	滑石	灰色N6/～にぶい黄褐色10YR5/4	完存	紡錘形
174	3区	井泉裏	石錘	6.0	1.25	1.1	12.54	蛇紋岩	灰色N5/～にぶい黄褐色10YR5/4	完存	紡錘形。
175	3区	井泉裏	石錘	5.85	3.45	1.6	30.40	粘板岩？	灰色N6/～N5/	完存	丁寧な仕上げ研磨
176	3区	井泉裏	石錘（未成品）	7.85	4.5	3.9	210.99	蛇紋岩	灰色N5/～にぶい黄褐色10YR5/4	完存	底部平坦型。研磨段階まで進んでいる。
177	3区	井泉裏	石錘	—		(2.7)	129.29	流紋岩？（かなり風化）	にぶい黄橙色10YR7/2	1/3	風化が進み、加工痕跡が不明
178	3区	井泉裏込め	ガラス小玉	直径 0.7		0.4	0.22		濃紺色（藍色）	完存	
180	3区	井泉、堰の裏込め	貨泉						—	完存	L=4.46
181	3区	井泉裏込め	鉄鎌	16.0	3.4	0.3	46.09	鋳	—	ほぼ完存	刃部長13.0cm、脊の厚さ2.0mm。基部を折り返す。X=63492.02 Y=-67364.43 L=4.51
207	3区	井泉内上層	ガラス小玉	直径 0.675		0.75	0.43		トルコ青色（緑がかった青色）	ほぼ完存	
208	3区	井泉内上層	磨製石庖丁	11.6	5.5	0.6	61.03	安山岩	褐灰色7.5YR4/1	ほぼ完存	両刃。楕円形。刃部の磨滅部分は少し光沢有り。刃部以外は粗い研磨。
209	3区	井泉内上層	紡錘車	直径（5.2）		0.6	9.10	滑石	緑灰色5G5/1	1/3	全体に仕上げ研磨。
210	3区	井泉内上層	紡錘車（未成品）	直径 5.3～5.5		0.9	41.23	滑石	灰色N4/～明オリーブ灰色2.5GY7/1	一部欠損	丁寧な仕上げ研磨。残り軸孔のみ。
246	4区	SD-01土器集中部	石錘	6.0	5.1	4.7	195.46	滑石	灰色N5/～N6/	完存	底部平坦型。丁寧な研磨。
247	4区	SD-01土器集中部	石錘	8.6	3.6	3.6	170.59	蛇紋岩	緑灰色10GY5/1～灰色N4/	ほぼ完存	長卵形。
248	4区	SD-01土器集中部	磨製石剣	残23.6	(4.9)	1.05	182.56	砂岩質ホルンフェルス	緑灰色5G5/1～暗緑灰色5G4/1	不明	鉄剣形。鎬がなく、断面形も平坦。X=63477.60 Y=-67359.36 L=5.49
399	1区	SD-01黒色土	石錘	4.7	1.5	1.25	11.91	滑石	灰色N6/～オリーブ灰色5GY6/1	ほぼ完存	紡錘形。
400	1区	SD-01黒色土	石錘	5.1	1.3	1.1	9.83	滑石	灰色N5/～緑灰色10GY5/1	完存	紡錘形。
401	1区	SD-01黒色土	石錘	残4.5	1.6	0.9	8.50	頁岩か粘板岩	灰色N5/	4/5	紡錘形。裏面は長辺方向の溝が幅最大部分で途切れ、溝部分の研磨もない。
402	3区	SD-01黒色土	石錘	残5.8	1.8	1.7	21.19	滑石	緑灰色10GY5/1	ほぼ完存	紡錘形。
403	4区	SD-01黒色土	石錘	6.1	2.3	1.25	22.91	頁岩	灰色N4/	完存	紡錘形。
404	1区	SD-01黒色土	石錘	7.25	3.95	3.4	141.40	不明	明褐灰色7.5YR7/1～7/2	完存	長卵形。
405	3区	SD-01黒色土	石錘	8.9	5.0	4.0	231.46	滑石	黄灰色2.5Y6/1～暗灰黄色2.5Y4/2	完存	底部平坦型。
406	4区	SD-01黒色土	石錘	12.1	3.9	3.3	224.54	滑石	灰オリーブ色5Y6/2・暗灰色N3/	7/8	長卵形。
407	1区	SD-01黒色土	石錘	7.8	5.8	2.1	158.05	玄武岩	灰色10Y6/1	ほぼ完存	打ち欠き石錘。打ち欠きは短辺1辺に残る。
408	3区	SD-01黒色土	石錘	9.1	8.6	2.1	215.32	玄武岩？安山岩？	灰色5Y6/1～黄褐色10YR5/6	完存	打ち欠き石錘。打ち欠きは長短辺のうち3辺に残る。
409	1区	SD-01黒色土	石錘	—	—	2.2	95.16	滑石	灰色N5/～灰白色2.5Y7/1	2/5	打ち欠き石錘。
410	4区	SD-01黒色土	浮具（ブイ）	20.5	16.9	12.4	1235.5	軽石	褐灰色5YR6/1	不明	加工面は大きく3面。他に一方を小さく抉り出して、そこに溝を刻んでいる。今宿周辺に軽石採石地はないという。
411	4区	SD-01黒色土	不明軽石	5.8	3.4	2.7	11.41	軽石	褐灰色5YR6/1	不明	加工面は2面のみ。他は自然面が残る。
412	1区	SD-01黒色土	蛤刃石斧	—	5.8	2.3	168.77	玄武岩	灰色5Y6/1	刃部1/1 基部1/2？	全面に仕上げ研磨
413	3区	SD-01黒色土	石斧	—	6.2	1.1	66.55	玄武岩	黄灰色2.5Y5/1～4/1	不明	大型剥片を利用したものか。平面のうち1面は剥離面のままで、もう1面（自然面）に研磨を施す。
414	1区	SD-01黒色土	磨製石庖丁	残6.3	残5.0	0.7	20.11	輝緑凝灰岩	暗赤灰色10R4/1	1/3	概形取り出しや成形段階で薄く剥がれたものをそのまま穿孔、刃部仕上げ、そして若干研磨。
415	1区	SD-01黒色土	磨製石庖丁	—	—	0.6	8.18	粘板岩	緑灰色10GY5/1、褐色7.5YR4/4	不明	全面に仕上げ研磨
416	3区	SD-01黒色土	磨製石庖丁	残5.1	3.8	0.5	14.48	砂岩質ホルンフェルス	暗緑灰色10G4/1	2/5	片刃。外湾刃半月形。刃部先端に光沢部分有り。丁寧な研磨。
417	3区	SD-01黒色土	磨製石庖丁	残6.65	4.5	0.4	20.69	凝灰岩	緑灰色10GY6/1	3/5	片刃

法量cm・g（復元）

遺物番号	地区	遺構・層位	器　種	長	幅	厚	重量	石 材	色　　調	残存率	備　考
418	4区	SD-01黒色土	磨製石庖丁	残5.2	残4.0	0.6	16.54	片岩	暗緑灰色10GY4/1	1/5	両刃。外湾刃半月形。丁寧な研磨。
419	2区	SD-01黒色土	紡錘車	直径 4.3		0.6	18.36	滑石	暗緑灰色10GY4/1～灰白色N7/	完存	未成品。（形を作り出して粗く研磨した段階）
420	4区	SD-01黒色土	紡錘車	直径 4.2		0.65	22.63	何かの変岩（変成岩）	緑灰色10GY5/1～明オリーブ灰色2.5GY7/1	ほぼ完存	丁寧な仕上げ研磨
421	4区	SD-01黒色土	紡錘車	直径 4.3		0.5	20.05	蛇紋岩	明オリーブ灰色2.5GY7/1	ほぼ完存	丁寧な仕上げ研磨
422	4区	SD-01黒色土	紡錘車	直径 4.5		0.7	26.43	蛇紋岩？	にぶい黄橙色10YR6/3～明オリーブ灰色2.5GY7/1	完存	丁寧な仕上げ研磨
423	2区	SD-01黒色土	紡錘車	直径 4.6		0.6	18.41	滑石	暗緑灰色5G3/1	ほぼ完存	丁寧な仕上げ研磨
424	1区	SD-01黒色土	石杵	残5.35	—	—	94.0	砂岩	黄灰色2.5Y6/1～5/1　赤色顔料：赤色7.5R4/8		水銀朱付着
425	3区	SD-01黒色土	砥石（粗砥）	—	6.4	—	108.08	砂岩	灰黄色2.5Y6/2	不明	成形段階用。欠損面以外の全4面使用
426	3区	SD-01黒色土	砥石（仕上げ砥）	残24.6	残9.0	残3.0	580.13	頁岩	暗灰色N3/	概形は残存	仕上げ用。上面のみ使用
427	3区	SD-01黒色土	砥石（粗砥）	残15.5	10.95	残3.5	762.21	砂岩	黄灰色2.5Y6/1～灰黄色2.5Y6/2	おそらく1/2	成形段階用。研いだ方向は不明瞭。金属器に使用。小口1面が未使用。
428	3区	SD-01黒色土	砥石（粗砥）	—	—	5.4	659.57	不明（かなり風化）	灰色10Y6/1	不明	成形段階用。欠損面以外の全4面使用
429	1区	SD-01黒色土	ガラス管玉	残1.15	0.575		0.89		緑色	不明	
430	3区	SD-01黒色土	ガラス小玉	直径 0.7		0.35	0.22		濃紺色（藍色）	完存	
431	2区	SD-01黒色土	ガラス小玉	直径 0.65		0.225	0.15		濃紺色（藍色）	完存	
432	2区	SD-01黒色土	ガラス小玉	直径（0.45）		0.375	0.04		濃紺色（藍色）	2/5	
433	1区	SD-01黒色土	ガラス小玉	直径 0.4		0.2	0.03		濃紺色（藍色）	完存	
434	2区	SD-01黒色土	ガラス小玉	直径 0.275		0.25	0.02		濃紺色（藍色）	完存	
463	3区	SD-01清掃時	石錘	4.6	2.05	1.55	17.91	玄武岩？	緑灰色10GY5/1	完存	紡錘形。
464		SD-01肩部検出	石錘	残5.1	1.9	1.5	18.30	滑石	暗緑灰色10G4/1	1/2	紡錘形。
465	1区	SD-01壁面	石錘	4.5	1.8	1.6	14.13	滑石	明緑灰色7.5GY7/1	完存	紡錘形。成形時のノミ痕跡と溝のみ。研磨待ちの未成品か簡略仕上げかは不明。
466		SD-01	石錘	残5.4	2.2	2.1	34.08	蛇紋岩	にぶい黄橙色10YR7/4～灰色N4/	3/4	紡錘形。
467		SD-01壁面	石錘	5.4	3.5	3.6	92.16	滑石	灰色N6/～黄灰色2.5Y6/1	完存	底部平坦型。
468		SD-01壁面	石錘	8.6	7.0	1.8	158.82	蛇紋岩	緑灰色10GY5/1	ほぼ完存	打ち欠きは長短辺のうち3辺に残る。
469	2区	SD-01西肩	石錘	9.3	7.3	1.5	146.75	玄武岩	灰白色7/	完存	打ち欠きが3カ所に残る。
470		SD-01壁面	石錘	直径（15～16）？		4.7	532.52	滑石	緑灰色10GY6/1	2/5	大型でドーナツ状を呈し、中央に円孔をもつ型式。側面にノミ状工具痕、平面・円孔には研磨痕が多少あり。
471		SD-01遺構検出	磨製石庖丁	残6.5	3.3	0.55	19.12	粘板岩	灰黄褐色10YR5/2	2/3	直線刃半月形。両刃。全面研磨だが少し窪んだ部分には届いていない。
472	1区	SD-01壁面	紡錘車	直径 3.65		0.6	13.00	何かの変岩（変成岩）	灰黄褐色10YR6/2	ほぼ完存	丁寧な仕上げ研磨
473	1区	SD-01壁面	紡錘車	直径 4.4		0.5	8.32	滑石	緑灰色10GY6/1	1/2	丁寧な仕上げ研磨
474	1区	SD-01壁面	石庖丁（未成品）	8.7	5.9	1.6	148.57	玄武岩	灰黄色2.5Y6/2	完存	大型剥片の周囲を打ち欠いた段階で、敲打や研磨はない。
475	2区	SD-01壁面	抉入柱状片刃石斧	11.5	3.1	3.9	216.23	粘板岩	暗オリーブ灰色5GY4/1	ほぼ完存	基端以外には研磨を施す（基部の方には敲打痕が残る）
476		SD-01壁面	敲石	13.5	6.2	3.5	494.84	凝灰岩？火成岩？	灰色5Y5/1～4/1	完存	敲打面以外はまだ整形時の加工痕が残る。
477		SD-01遺構検出	石斧	—	4.9	2.6	89.57	粘板岩	灰色N4/	刃部4/5	整形時の加工痕が残る。
478	1区	SD-01壁面	砥石（仕上げ砥）	—	—	4.25	142.92	砂岩	灰色5Y5/1	不明	仕上げ研ぎ用。少なくとも3面使用。
479	1区	SD-01壁面	打製石斧（未成品）	—	6.4	2.4	246.51	玄武岩	剥離面：灰色N5/ 自然面：灰色5Y6/1	不明（基端側を欠損）	主に刃部側を加工している。大部分が剥片時の剥離面で、自然面も残っている。
480		SD-01	剥片	6.5	3.0	0.6	9.2	頁岩か	砥粉色：9YR 7.5/4.5	完存	打面は薄刃作業面側からの剥離痕があり、調整打面とみえる。頭部調整は行なわれない。側縁に剥離痕が連続する部分があるが、いずれも打点が見えない。破面は鈍い樹脂状光沢をもち細粒状を呈す。

出土木製品（Fig.58～101、PL.33～56）

W001～W023は、起耕具の広鍬である。未製品は見られない。広鍬には肩部が張るものと丸くおさめるものがある。W020～W022は段を有するタイプのもので、W021とW022は整理時に接合したため2個体分出土している（PL.54）。当該期の広鍬は、生活遺跡内から未製品が出土しないため他地域で製作されたものを、流通により入手するとの仮説が説かれている。今回の資料は、規格性を欠くものであり特筆される。広鍬の樹種は、調査担当者の観察によりカシ材と考えられる。W024,W025は狭鍬である。W024の刃部は欠損している。W026～W031は三又鍬である。W032～W039は鍬柄と鍬取付具である。W040～W049は鋤類と鋤柄である。鋤身肩部には、踏み込み部とも思える突起状につくり出すものと、つくり出さないものがある。突起状上部に顕著な削痕や摩滅などは見られない。鋤身に近い柄基部の断面は、ほぼ円形をしており柄が組み合わさることは無いと考えられる。W050～W052は掘棒と考えられる。W052の全長は短く49.6cmである。刀形か？W053,W054は鎌柄である。樹種は異なり、一方の柄は直線的で、もう一方は外側にやや反る。W055～W066は竪杵、横槌、掛矢などと考えられる。W055,W057,W058,W063には先端の顕著な摩滅は見られず、縦杵としての長時間使用は考えられない。W067,W068は臼、W069は横杵である。細身で小型の竪杵W055,056などは、小型臼W068と組合せ調理具としての使用が推測される。W070～W075は沓である。W072とW073は整理時に接合したため（PL.54）、計5個体分の出土である。W071の底部外面には横方向の溝状掘り込みが見られる。沓の形状や底面の製作方法に共通性は少なく、樹種にも多様性がみられる。W076～W093は工具の斧柄である。W085は柄と斧との角度が鈍角であり、内側にだけ金属刃受けの段が見られチョウナとして特化したつくりをしている。

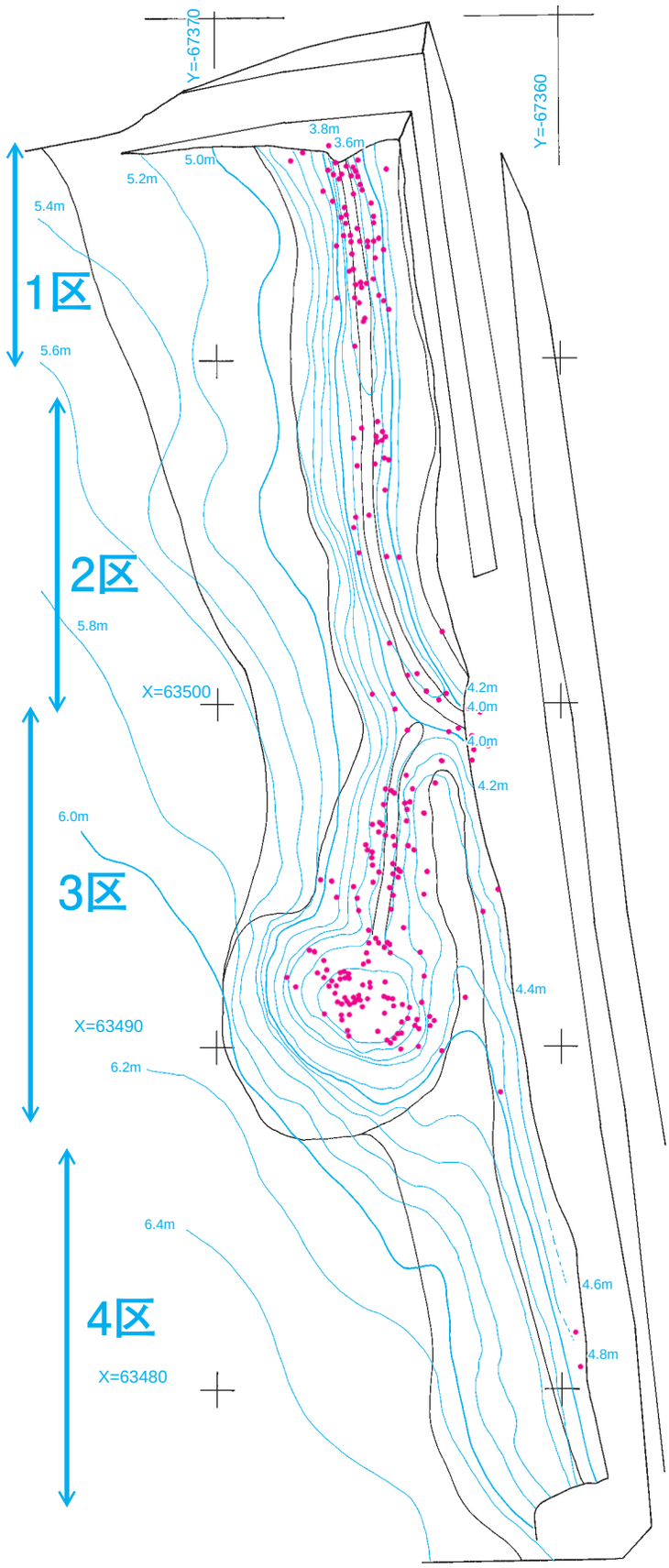


Fig.57　SD-01出土木製品分布状況図（1/200）

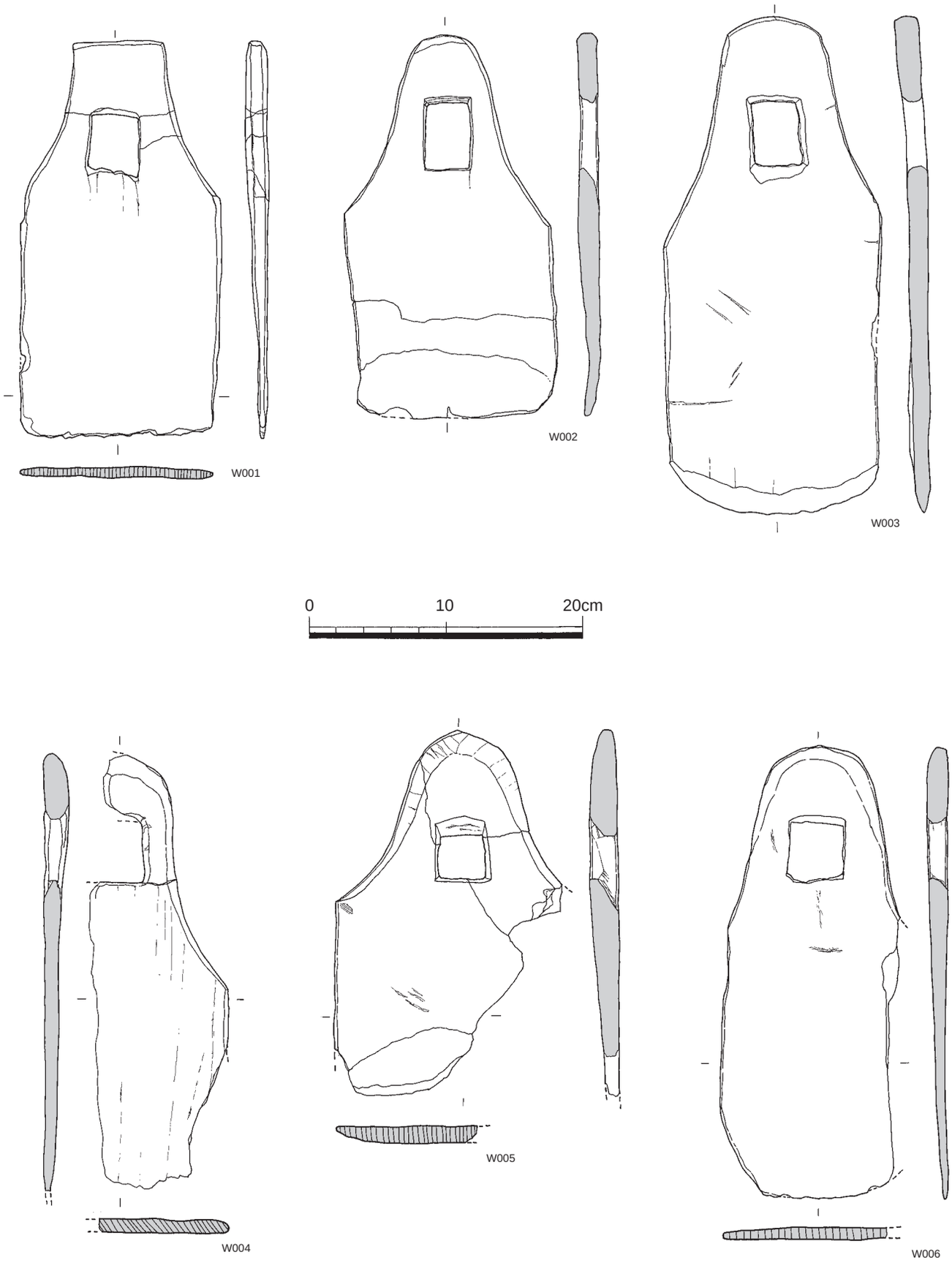


Fig.58　SD-01出土木製品実測図（1/4）

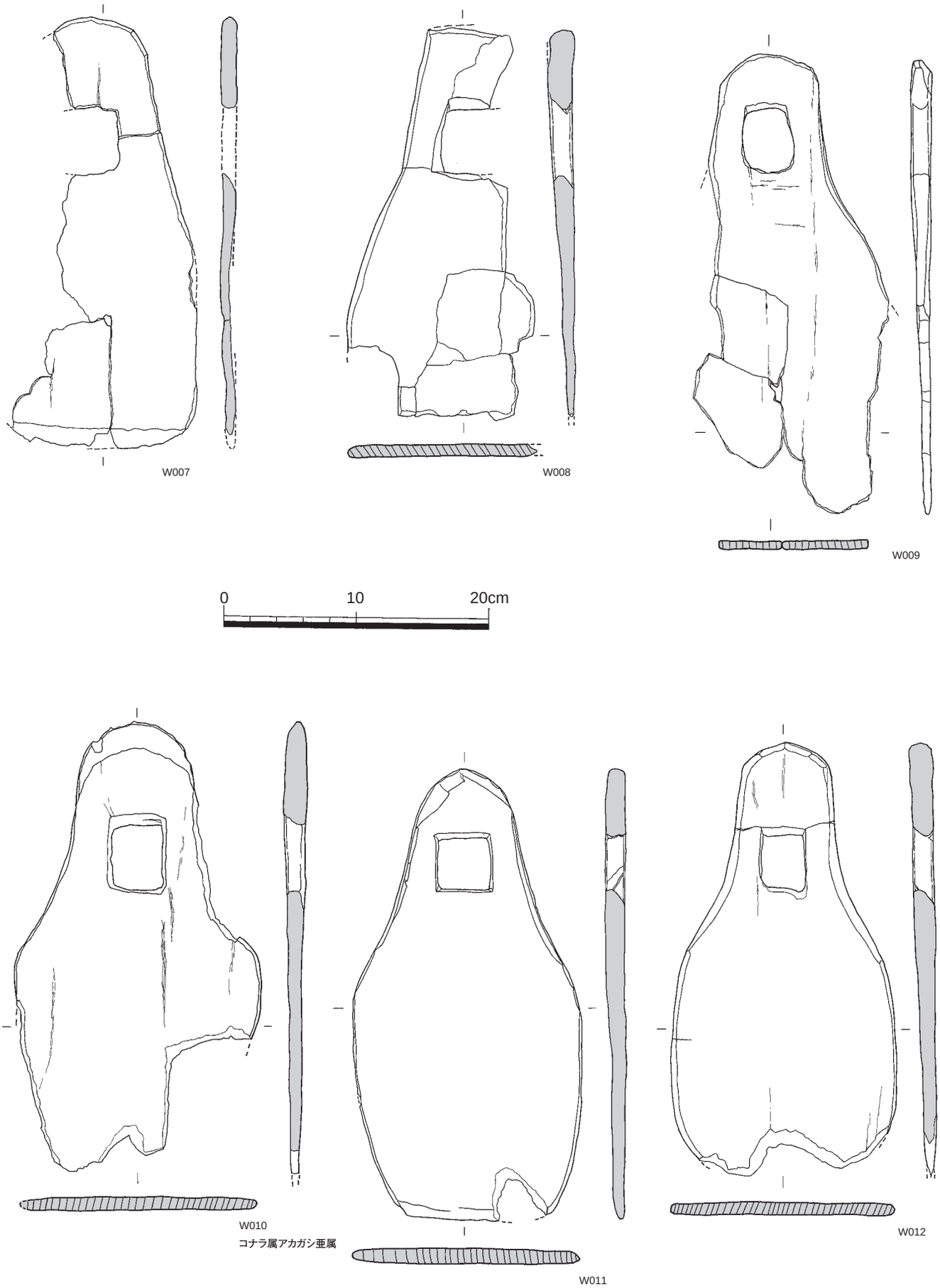


Fig.59　SD-01出土木製品実測図（1/4）

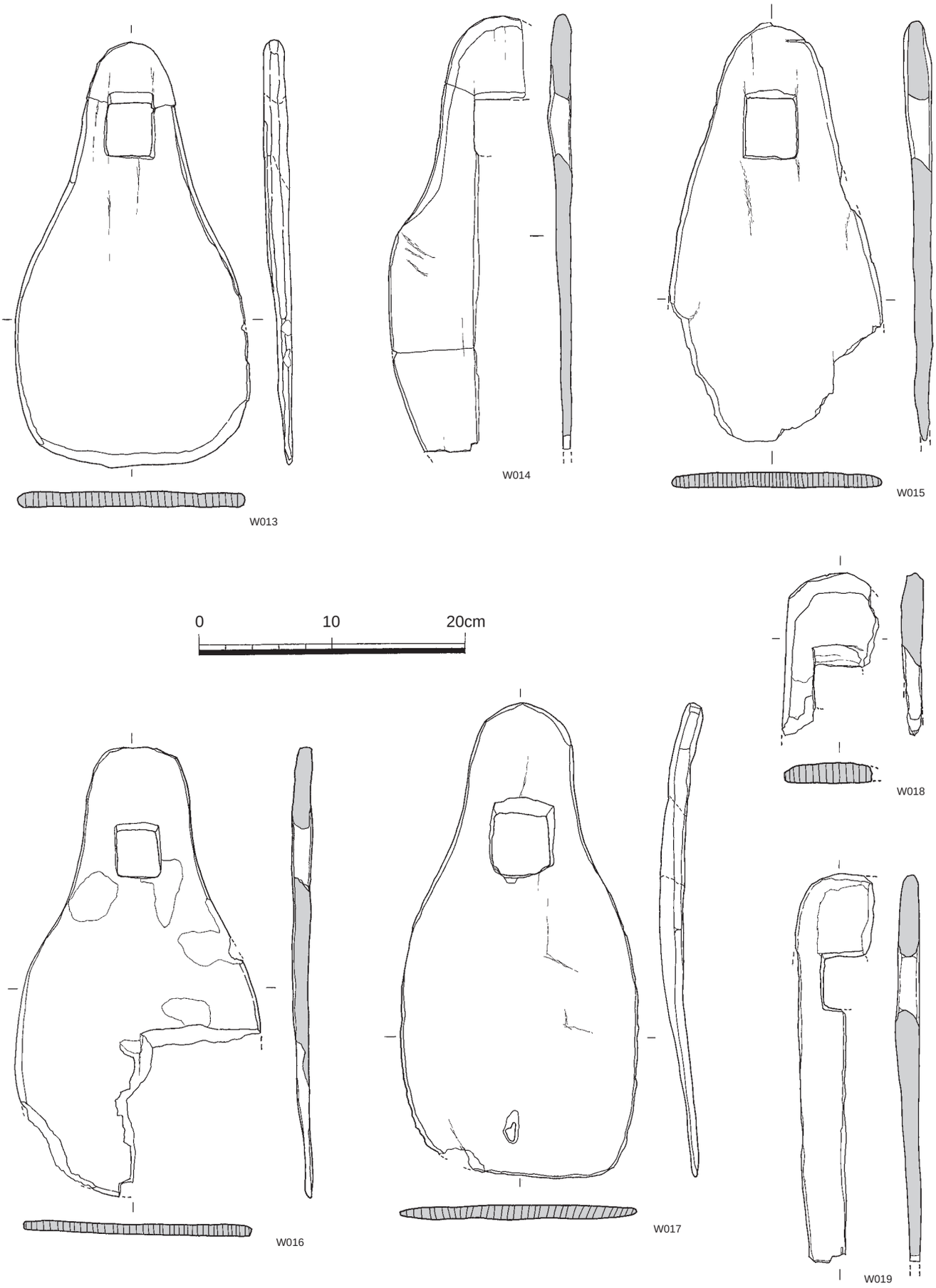


Fig.60　SD-01出土木製品実測図（1/4）

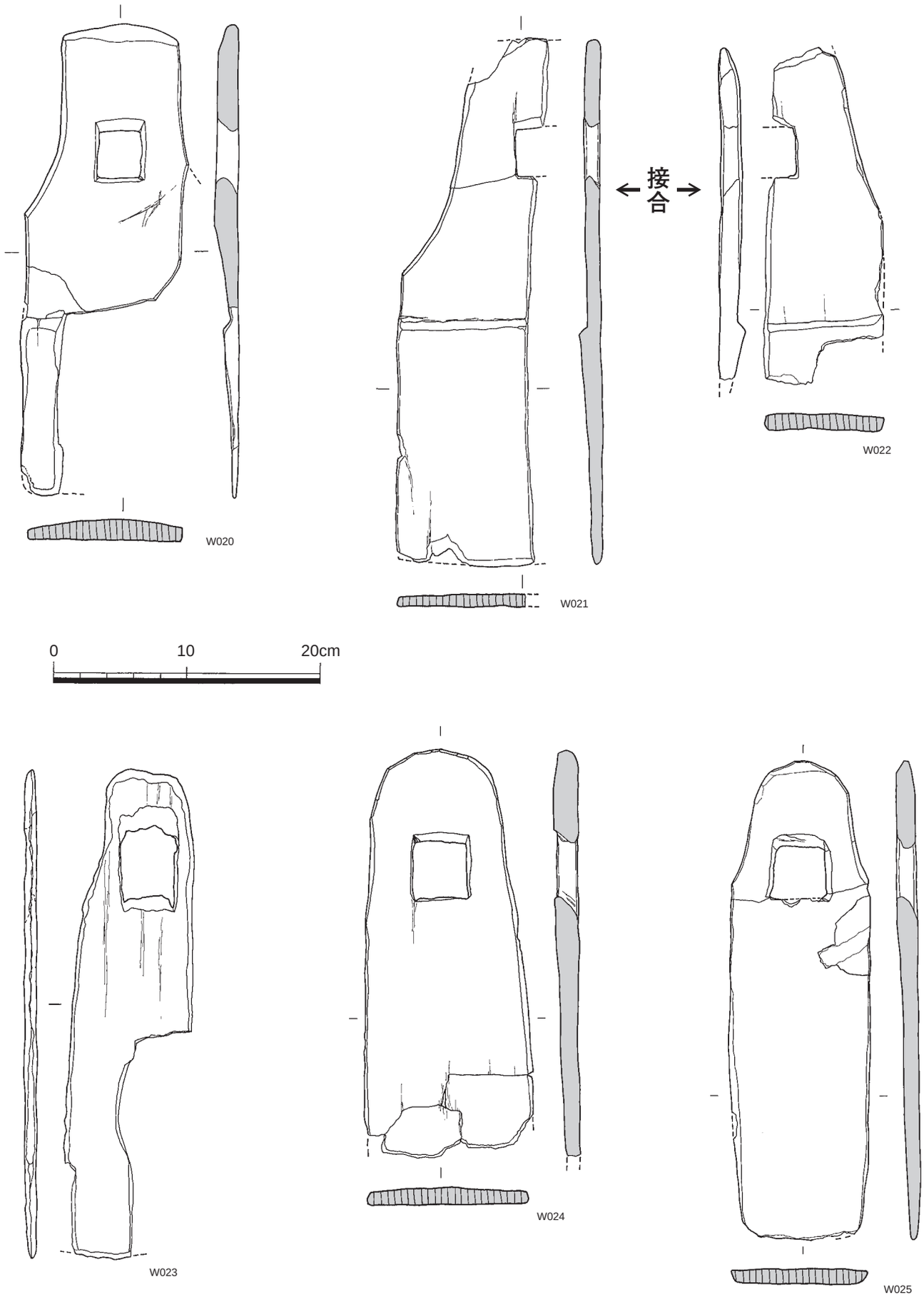


Fig.61　SD-01出土木製品実測図（1/4）

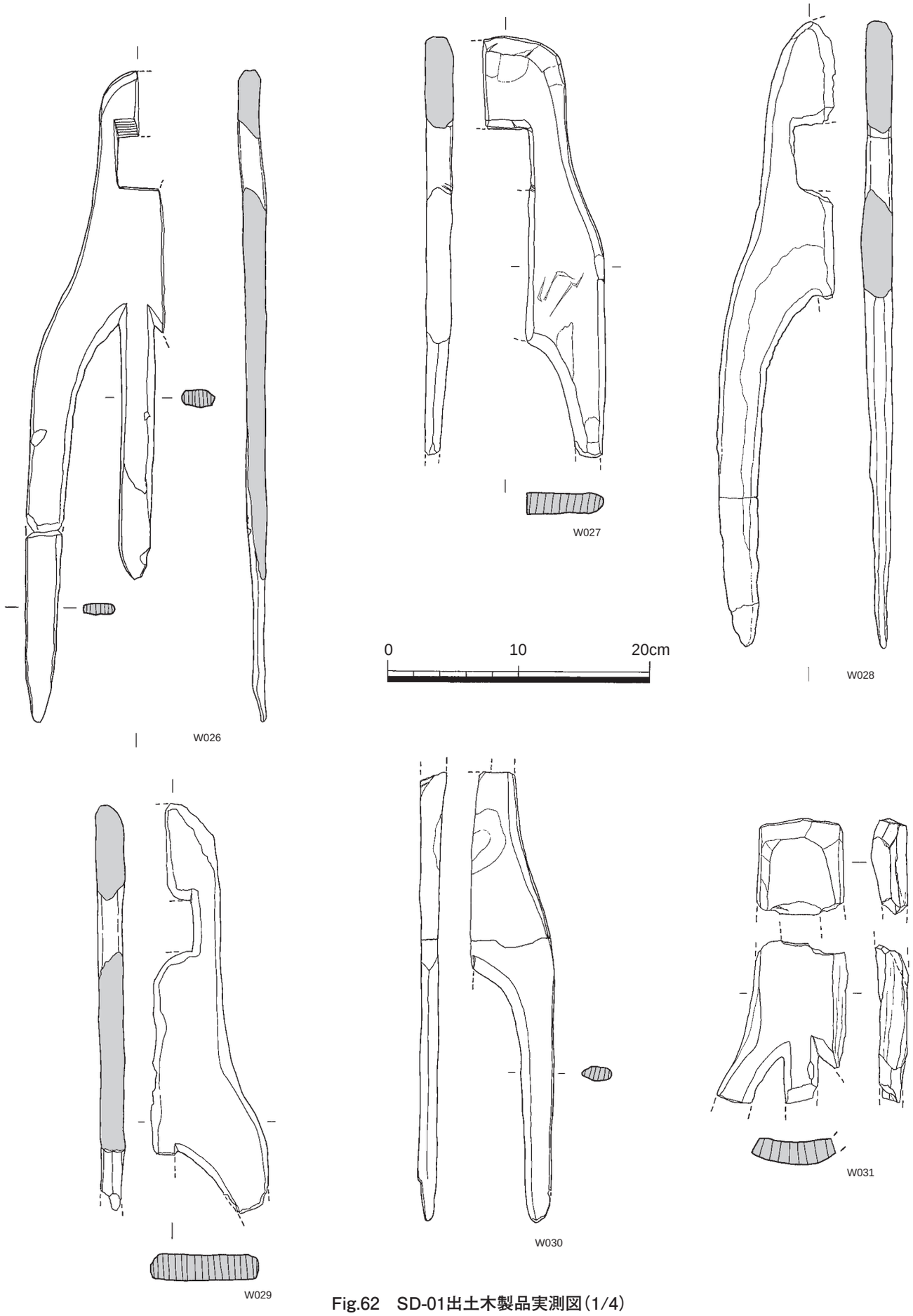


Fig.62　SD-01出土木製品実測図（1/4）

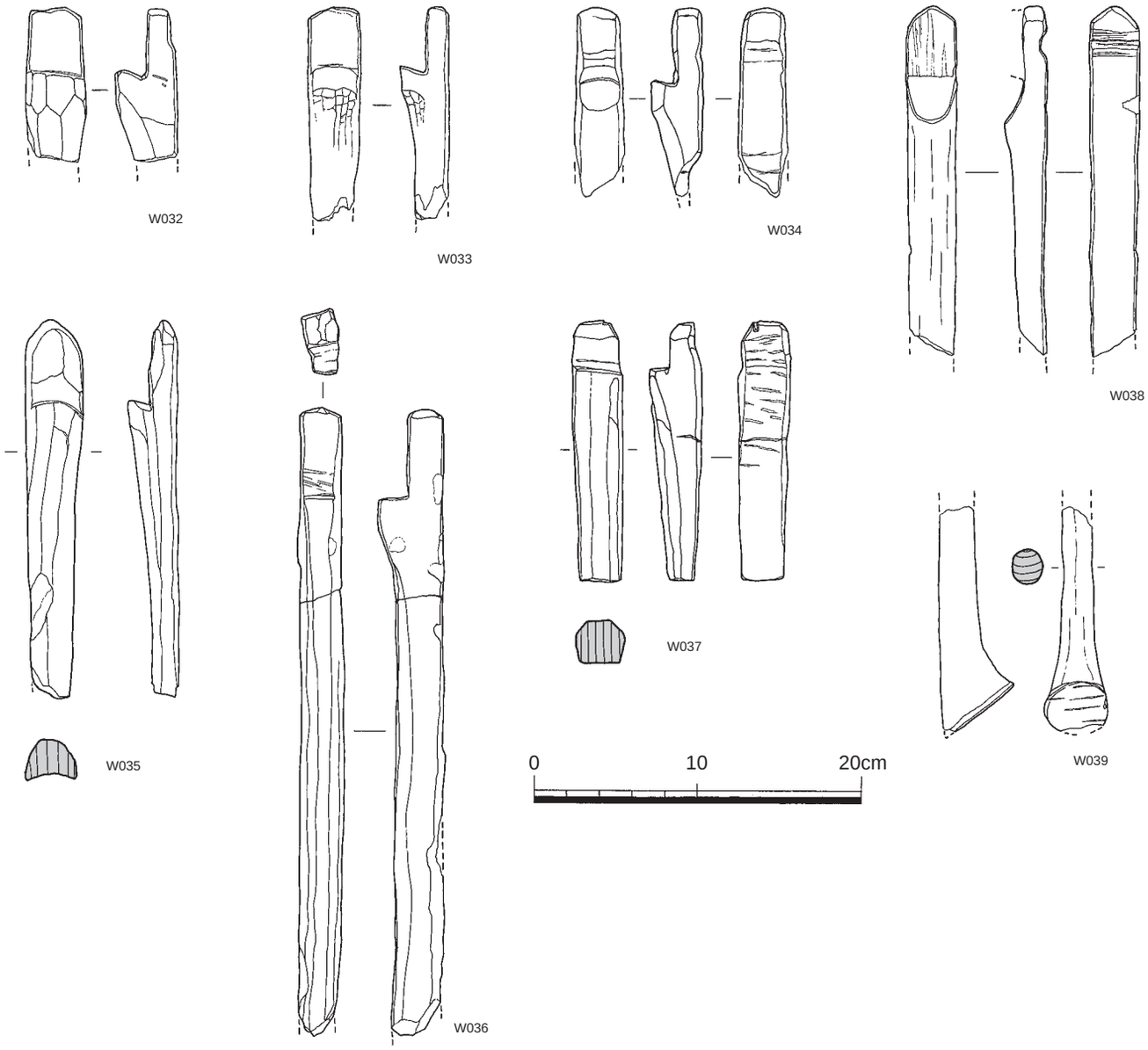


Fig.63　SD-01出土木製品実測図（1/4）

W089は組合せ式のものである。直柄にホゾとホゾ穴により組合せ、更に軸で留めて雇柄としている。他遺跡での出土例もあるようだが、今回は良好な状態で出土し、注目される資料である。W094は円盤外面の摩滅が見られることから塗鏝と考えられる。W095,W096は握手の付く作業台である。W097～W100は漁労具と思われるものである。W098のアカトリには精緻なつくりの把手がつく。W099には鍬のような方形柄孔があり、貝掘り具のような形が想定される。硬質であるイスノキでつくられた銛状木製品W100、実際に漁が可能であるか不明ではあるが、ここでは漁労具に含めておく。W101～W111は匙形・杓文字形木製品である。W112～W117は柄杓と柄杓の柄頭である。W118～W139は未製品を含む槽である。W119は脚部に方形の透かしをもつ高脚のもので、椅子の可能性もある。W132,W135は外皮の付いた未製品のもので、槽の製作過程では、内面の荒削りが外面の加工より先に行われていることが分かる。それに対して、脚付槽の未製品であるW137は、外面脚部の製作後に内面の刳り込み作業に着手している。W140,W141は容器、W142は椀である。W143,W144は脚付盤、W145は容器の一部と考えられる。W146,W147は精製容器の蓋、W148は上げ底で、欠き込みのある樽形容器である。W149,W150は、円形または楕円形の板状製品である。W151,W152は、把手をもち板状を呈するものである。2点とも縁部が炭化していることから、土器煮沸時の蓋と考えている。2点とも同地点から出土している。W153は漆塗筒形容器の破片である。同一個体と考えられる容器（**巻頭カラー**）である。

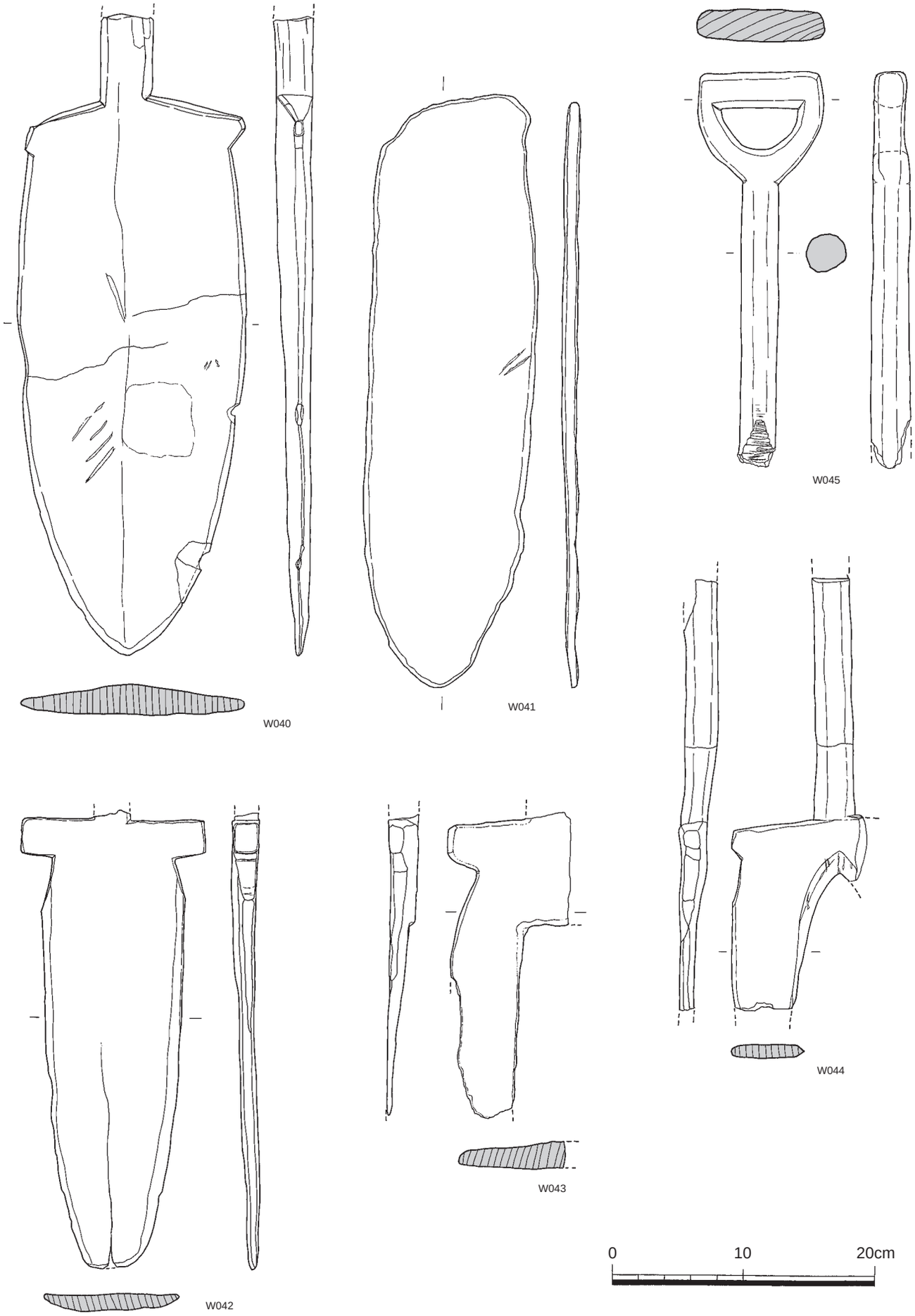


Fig.64　SD-01出土木製品実測図（1/4）

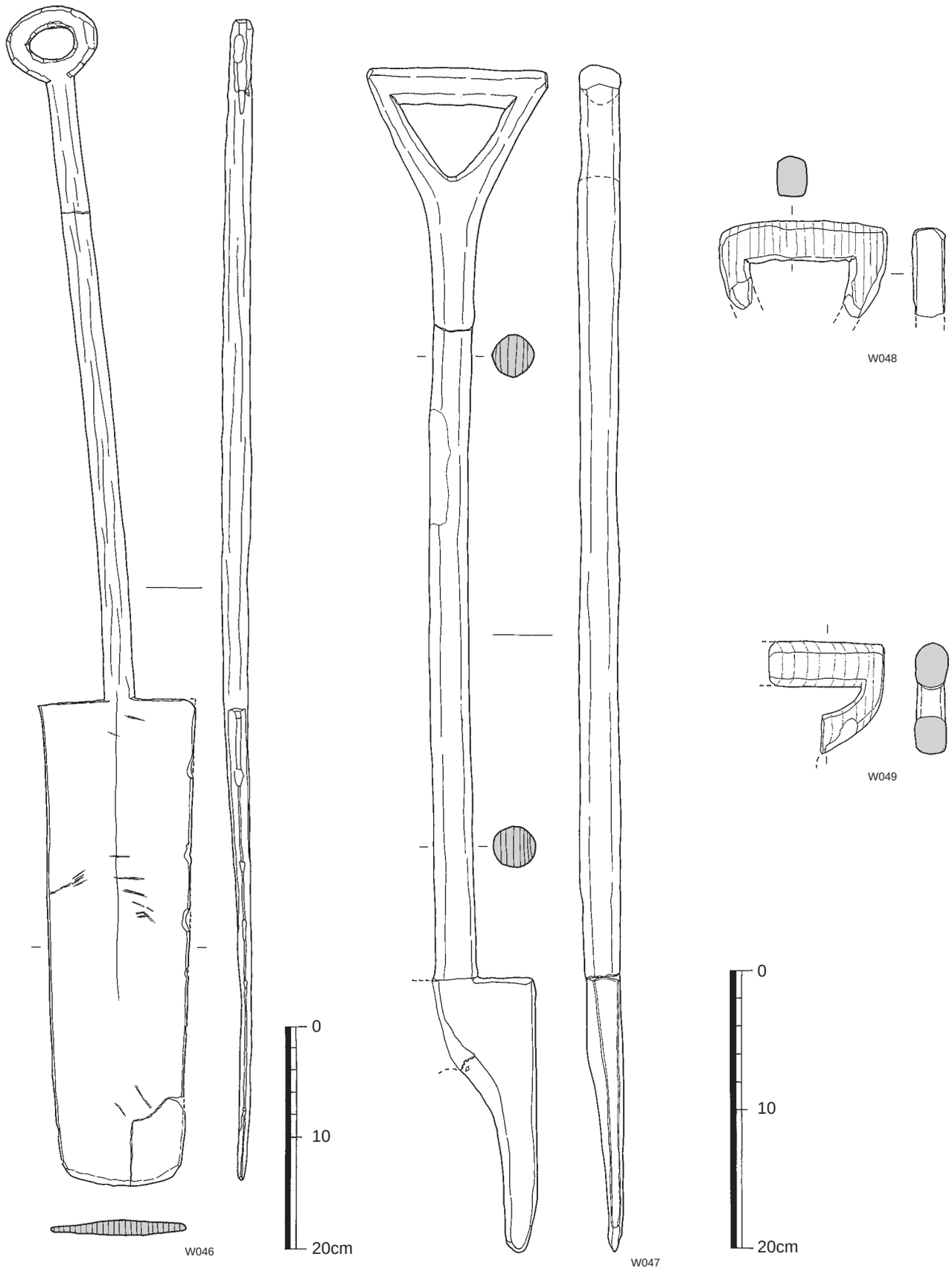


Fig.65　SD-01出土木製品実測図（1/4），（1/5）

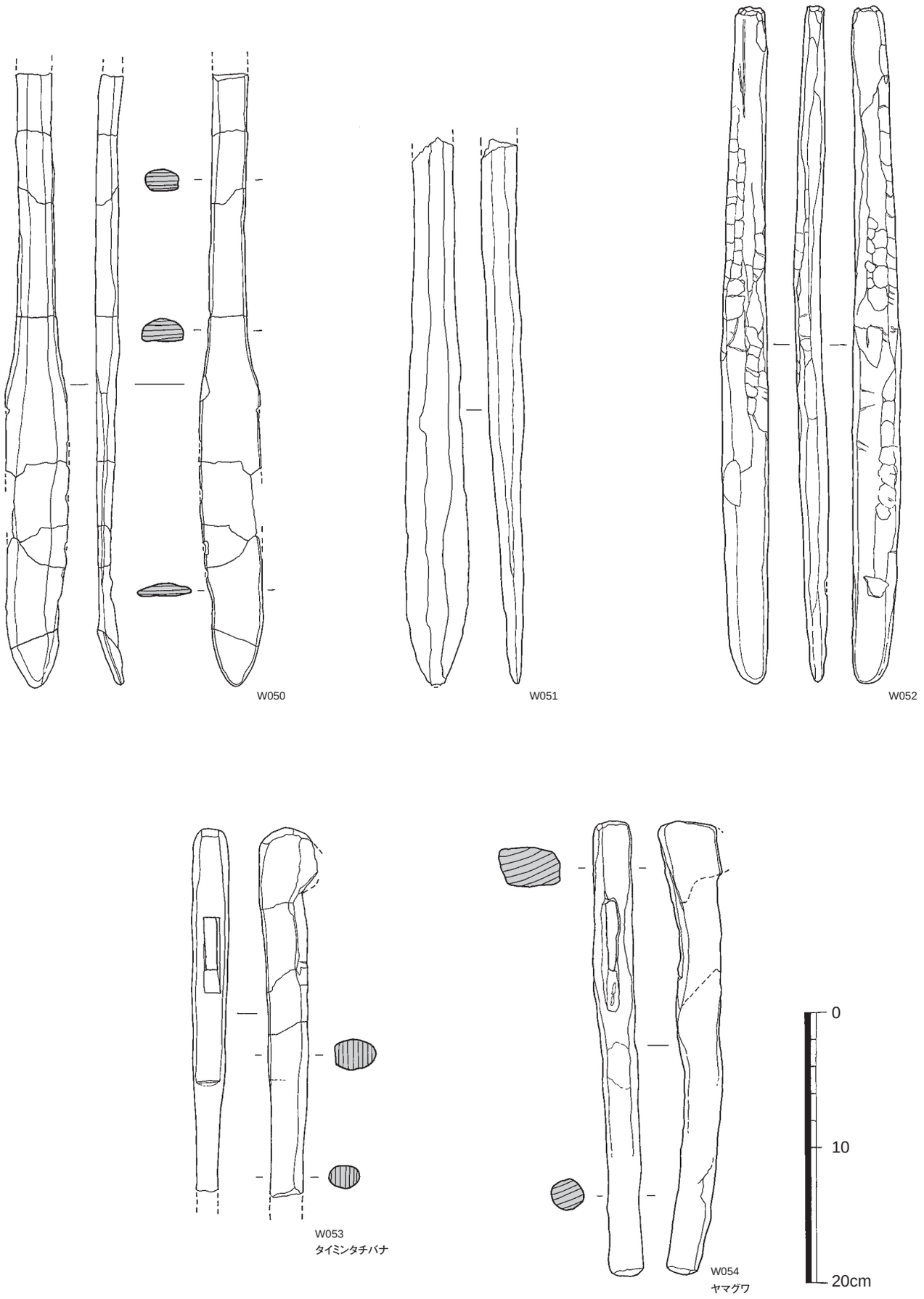


Fig.66　SD-01出土木製品実測図（1/4）

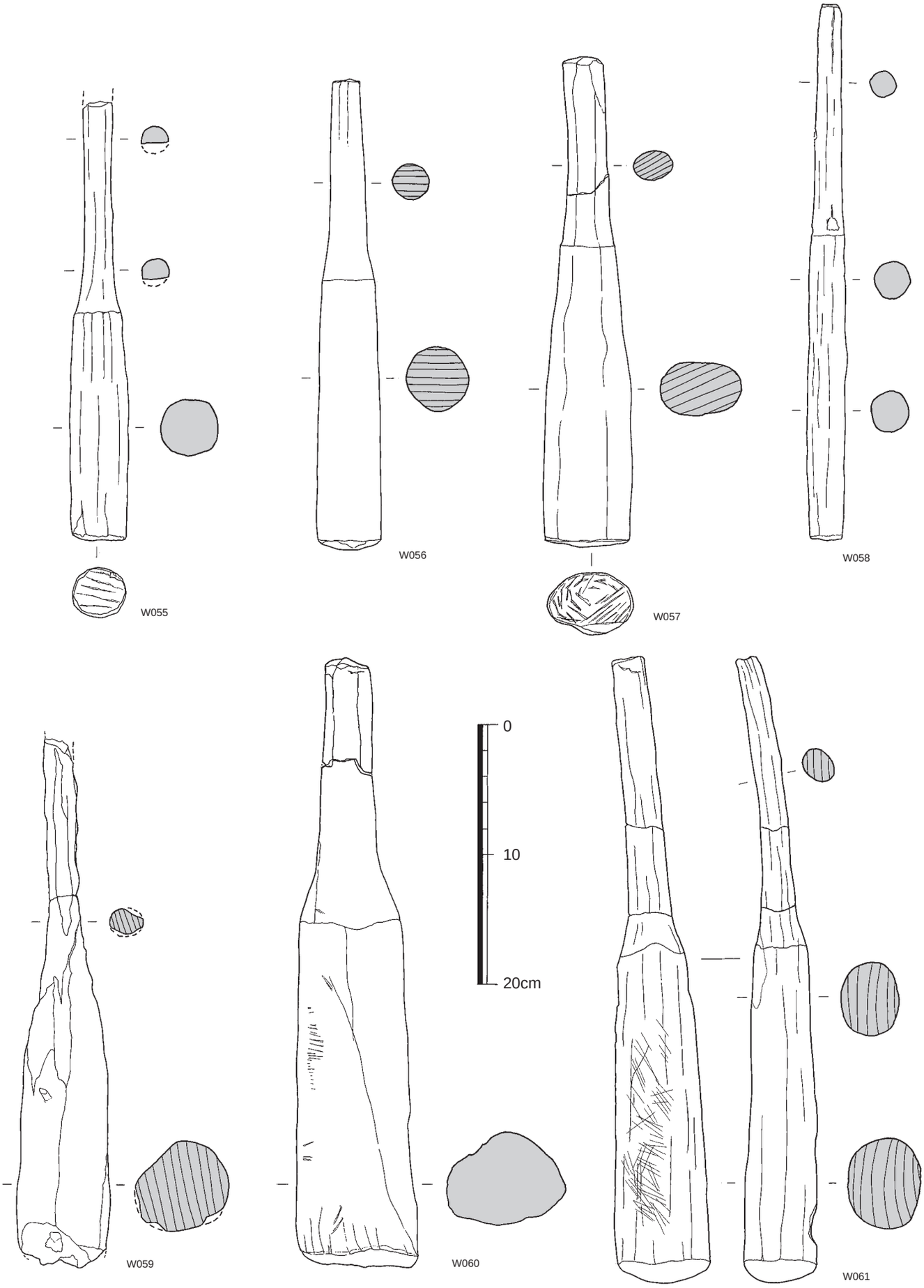


Fig.67　SD-01出土木製品実測図（1/4）

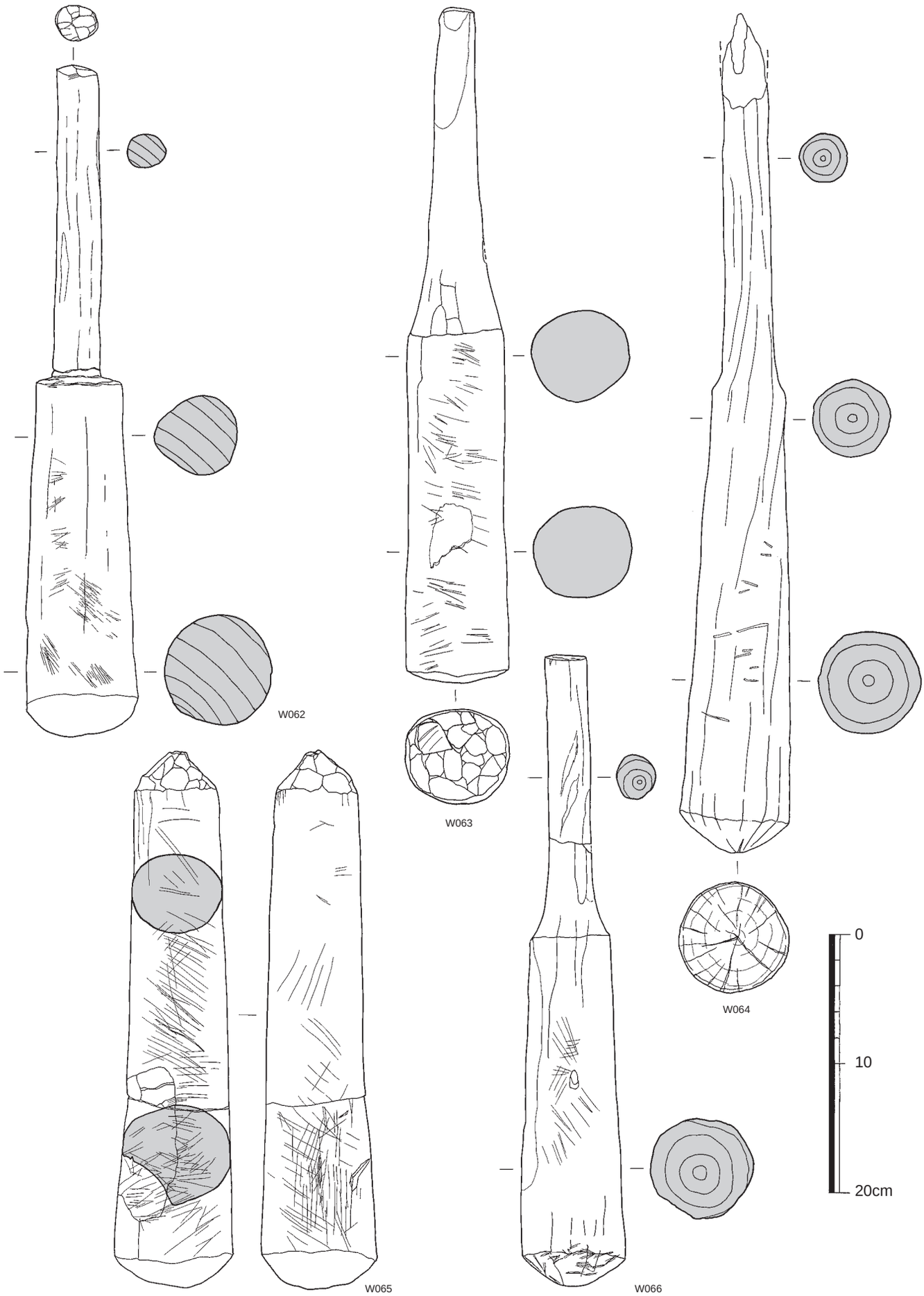


Fig.68　SD-01出土木製品実測図（1/4）

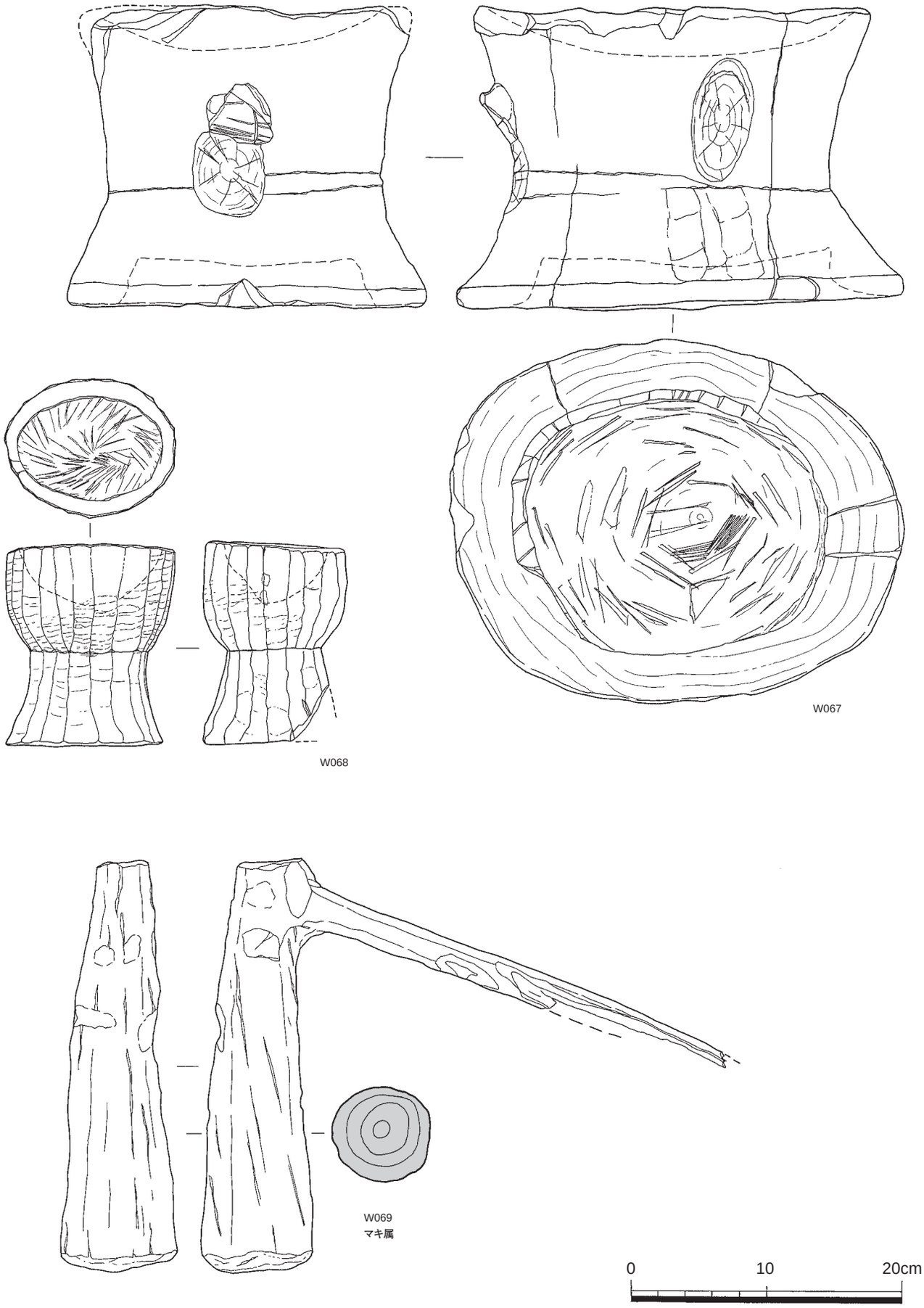


Fig.69　SD-01出土木製品実測図（1/4）

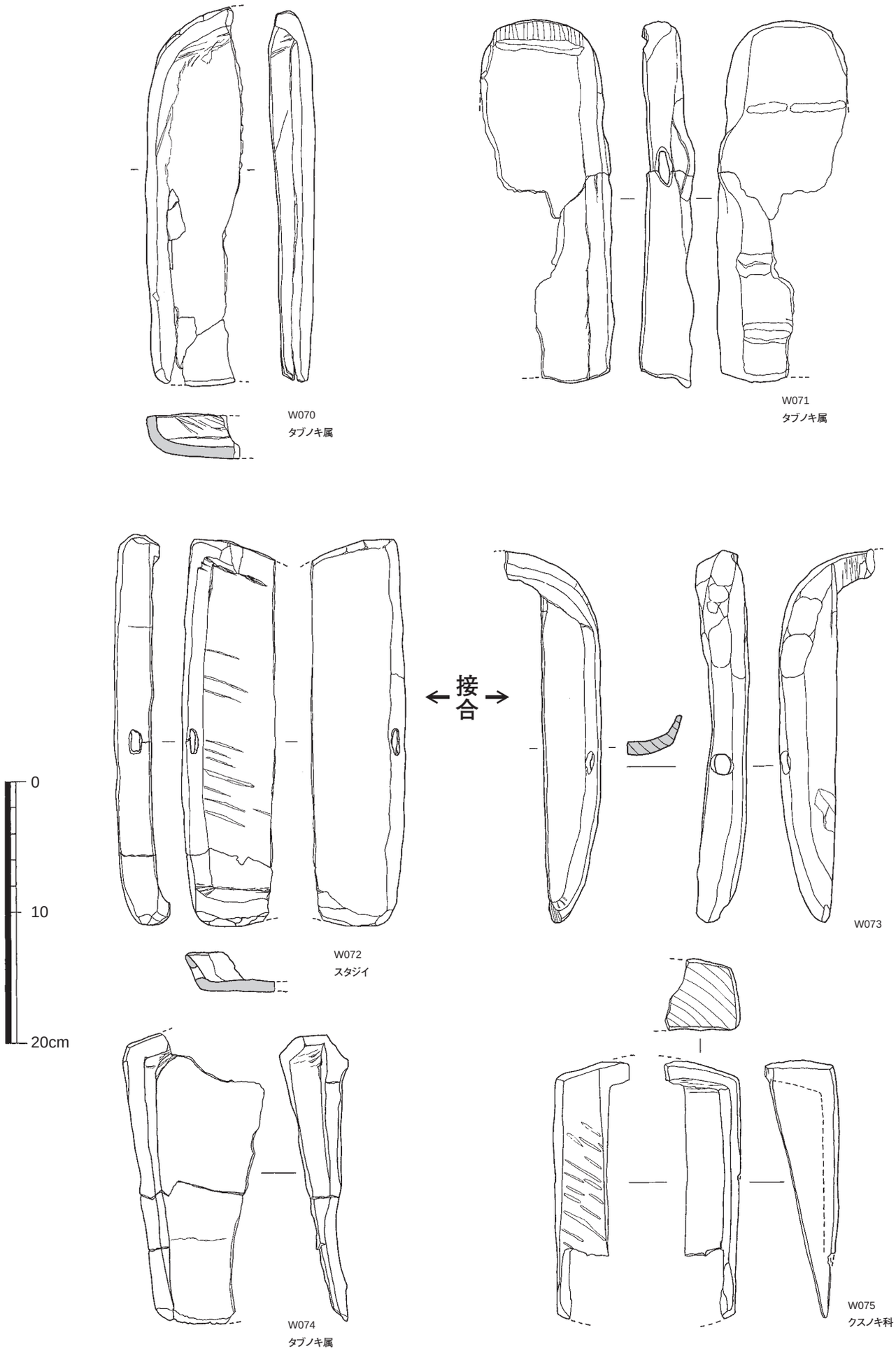


Fig.70　SD-01出土木製品実測図（1/4）

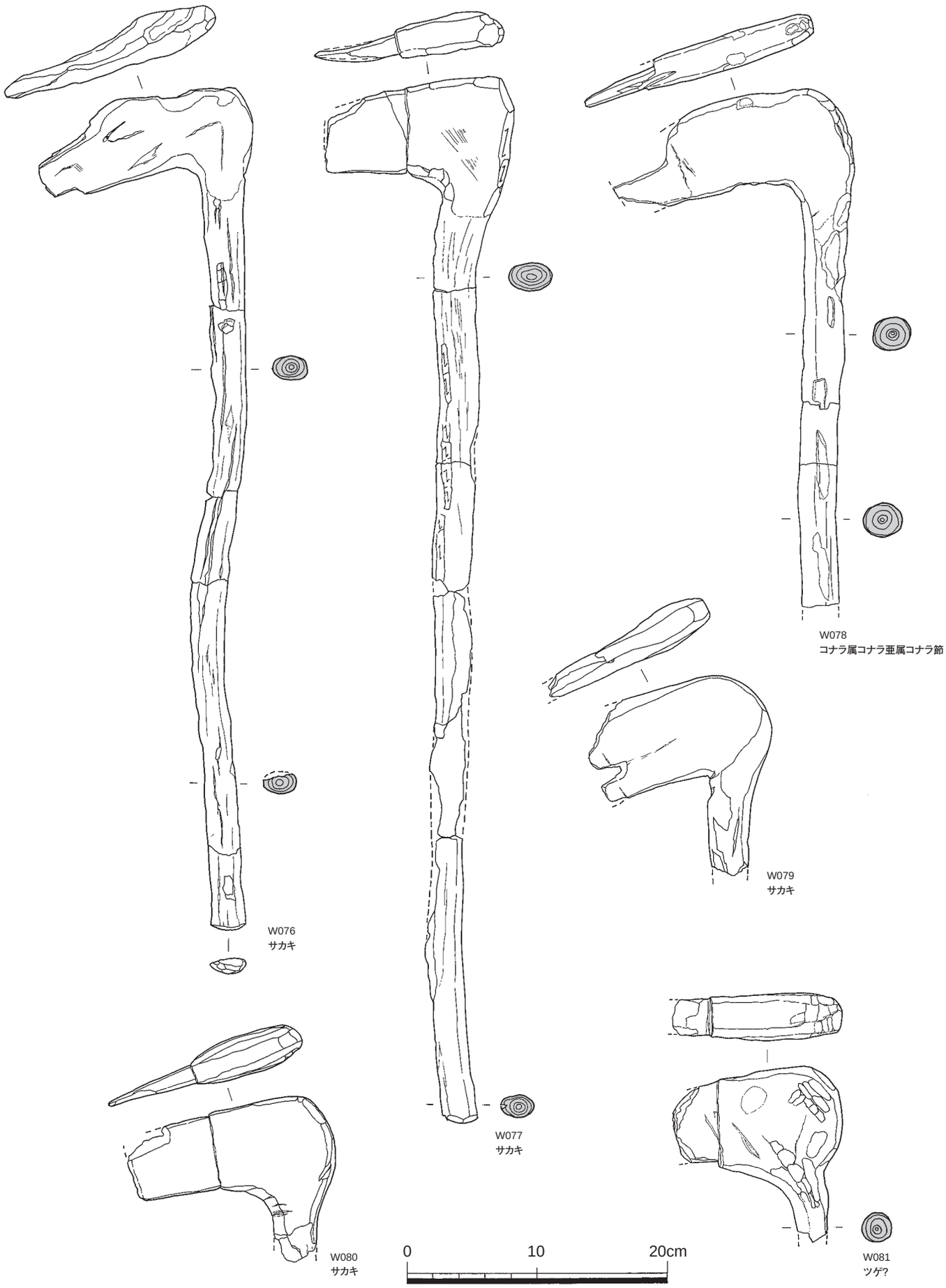


Fig.71　SD-01出土木製品実測図（1/4）

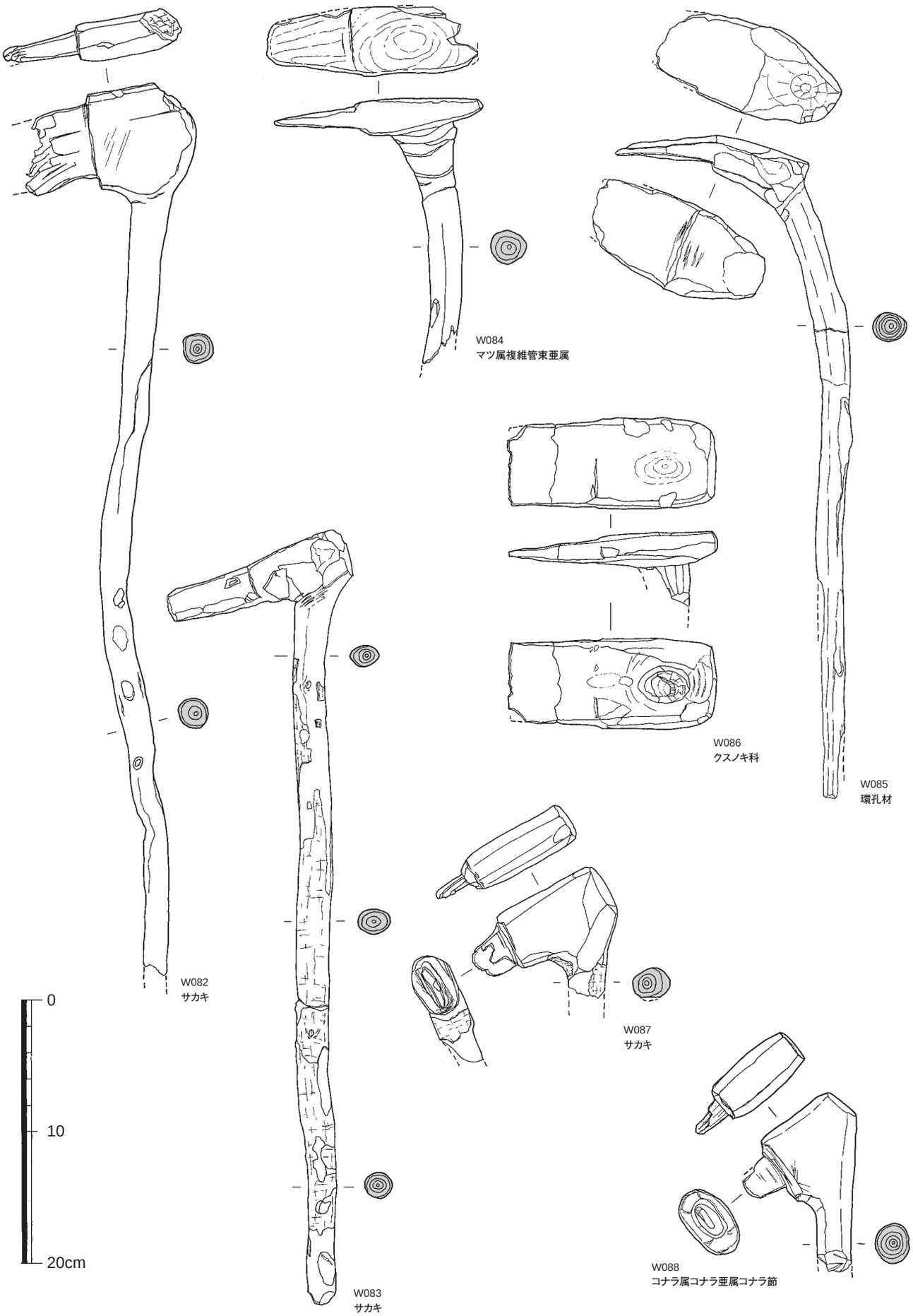


Fig.72　SD-01出土木製品実測図（1/4）

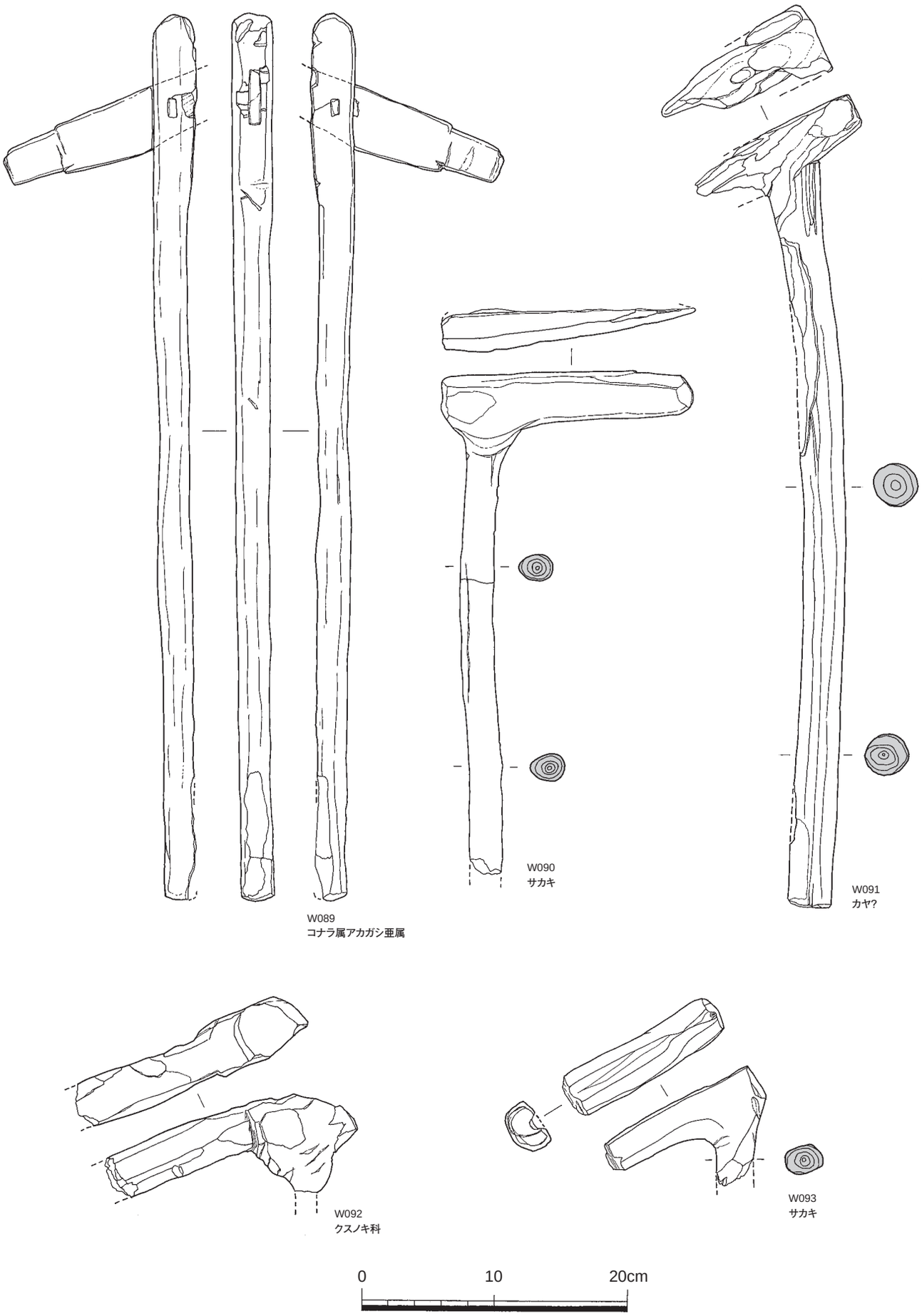


Fig.73　SD-01出土木製品実測図（1/4）

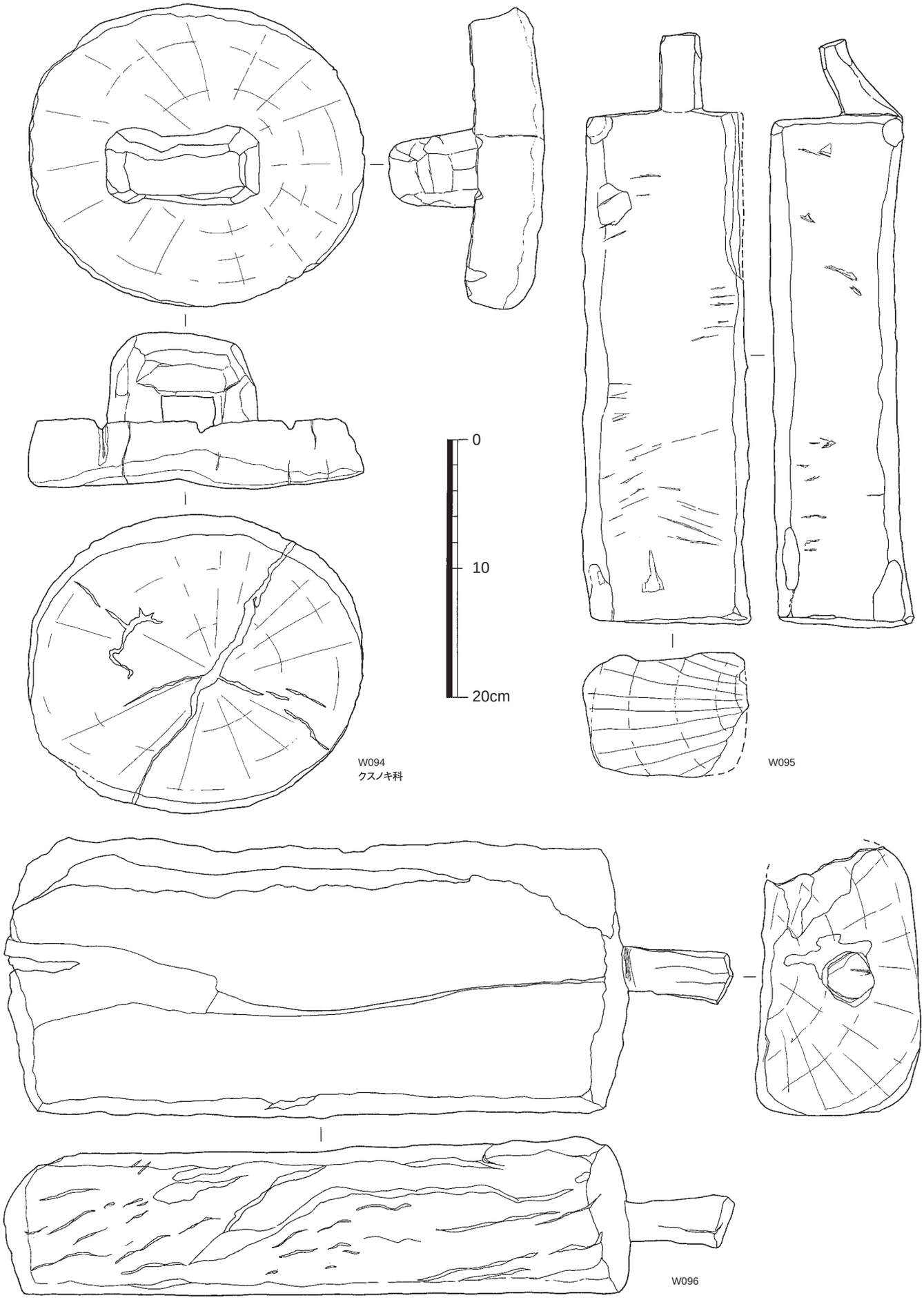


Fig.74　SD-01出土木製品実測図（1/4）

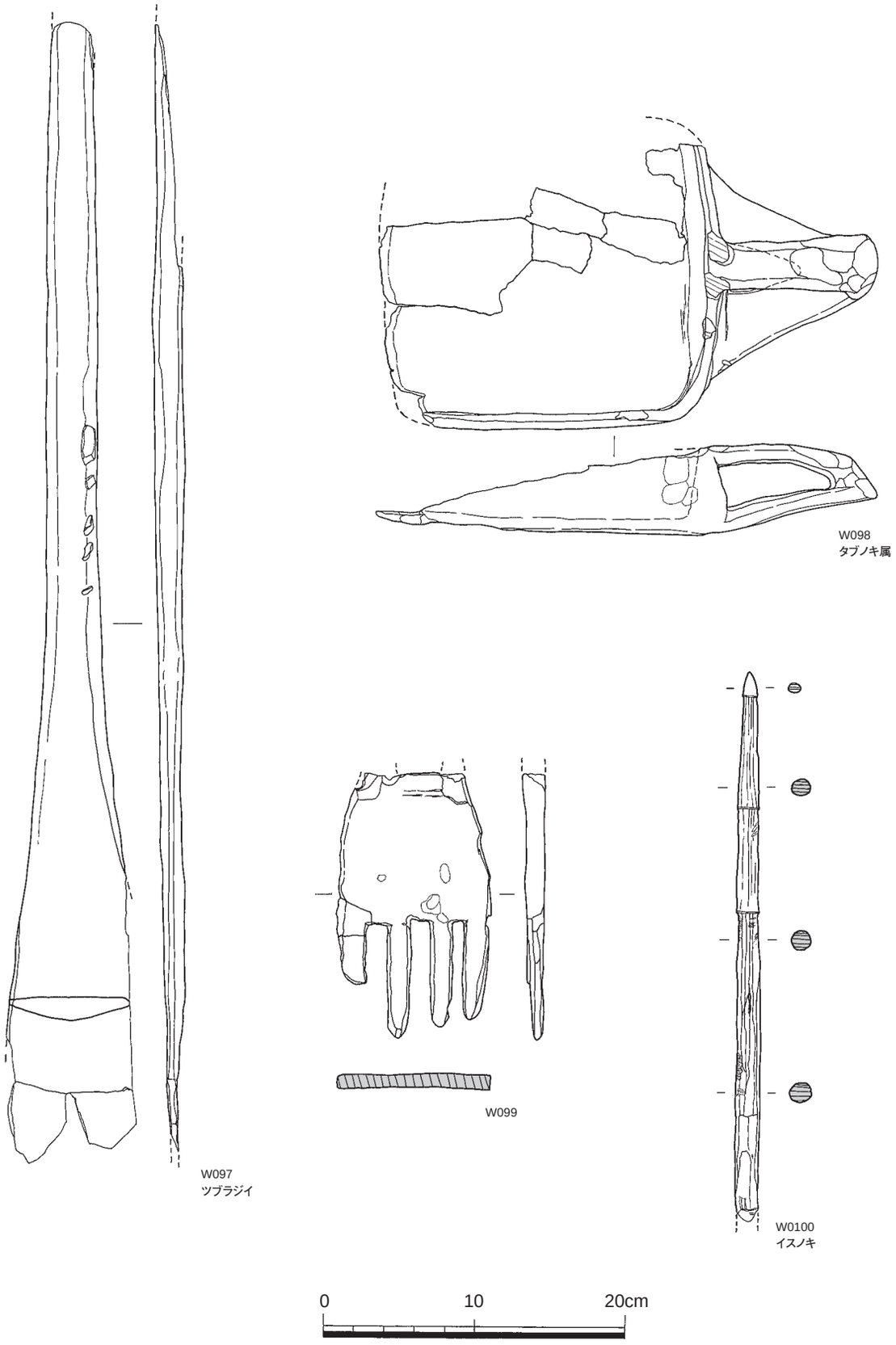


Fig.75　SD-01出土木製品実測図（1/4）

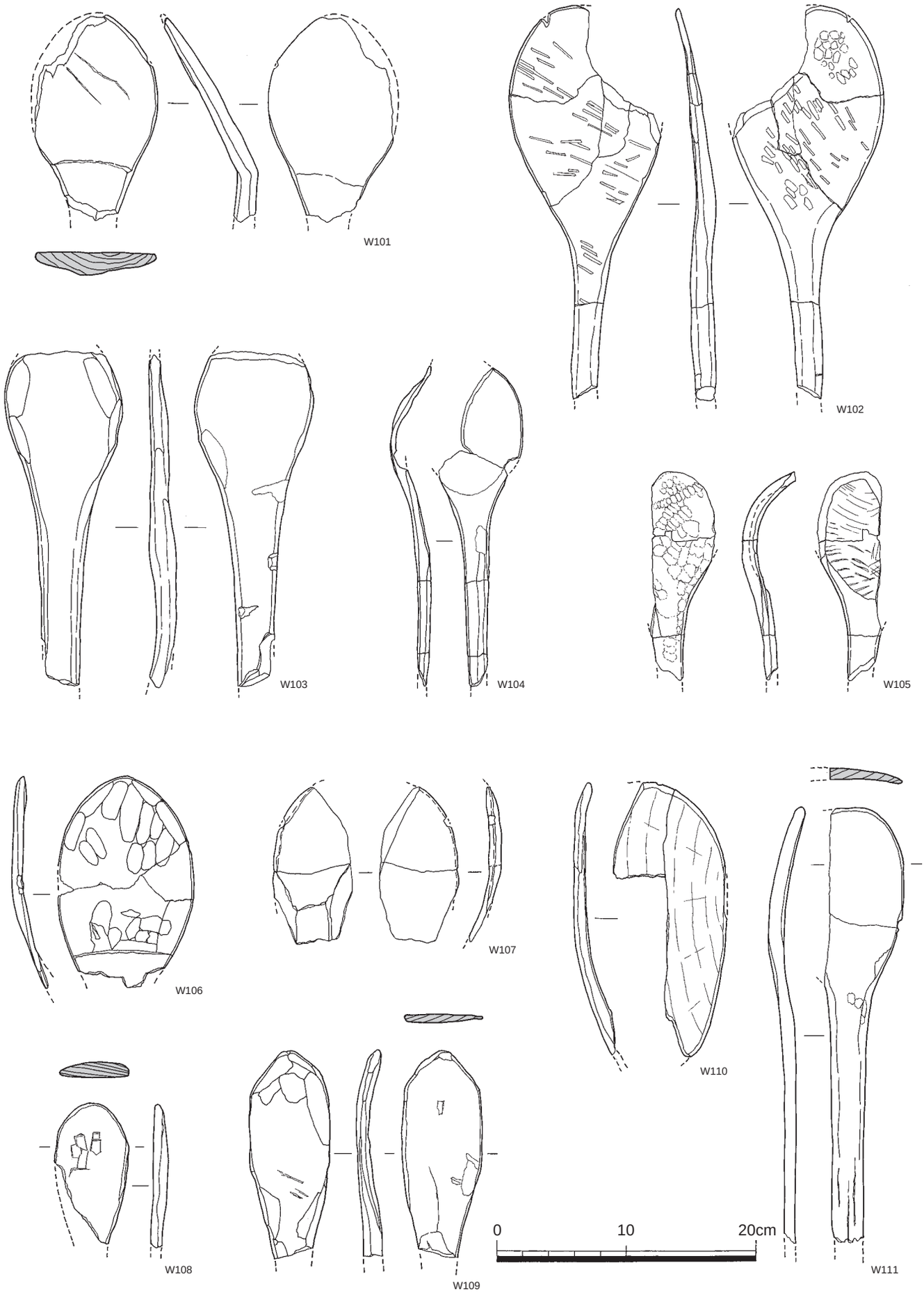


Fig.76　SD-01出土木製品実測図（1/4）

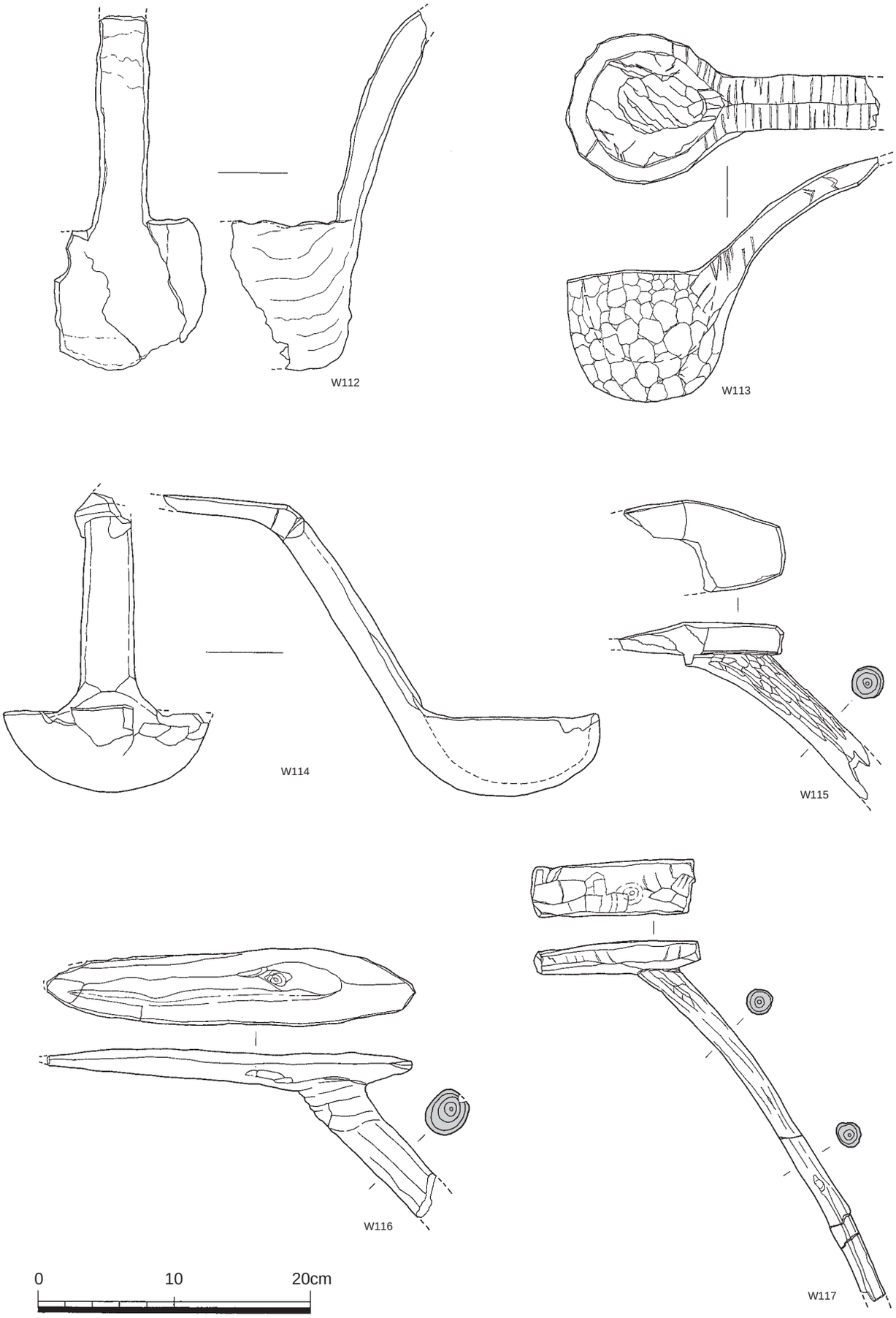


Fig.77　SD-01出土木製品実測図（1/4）

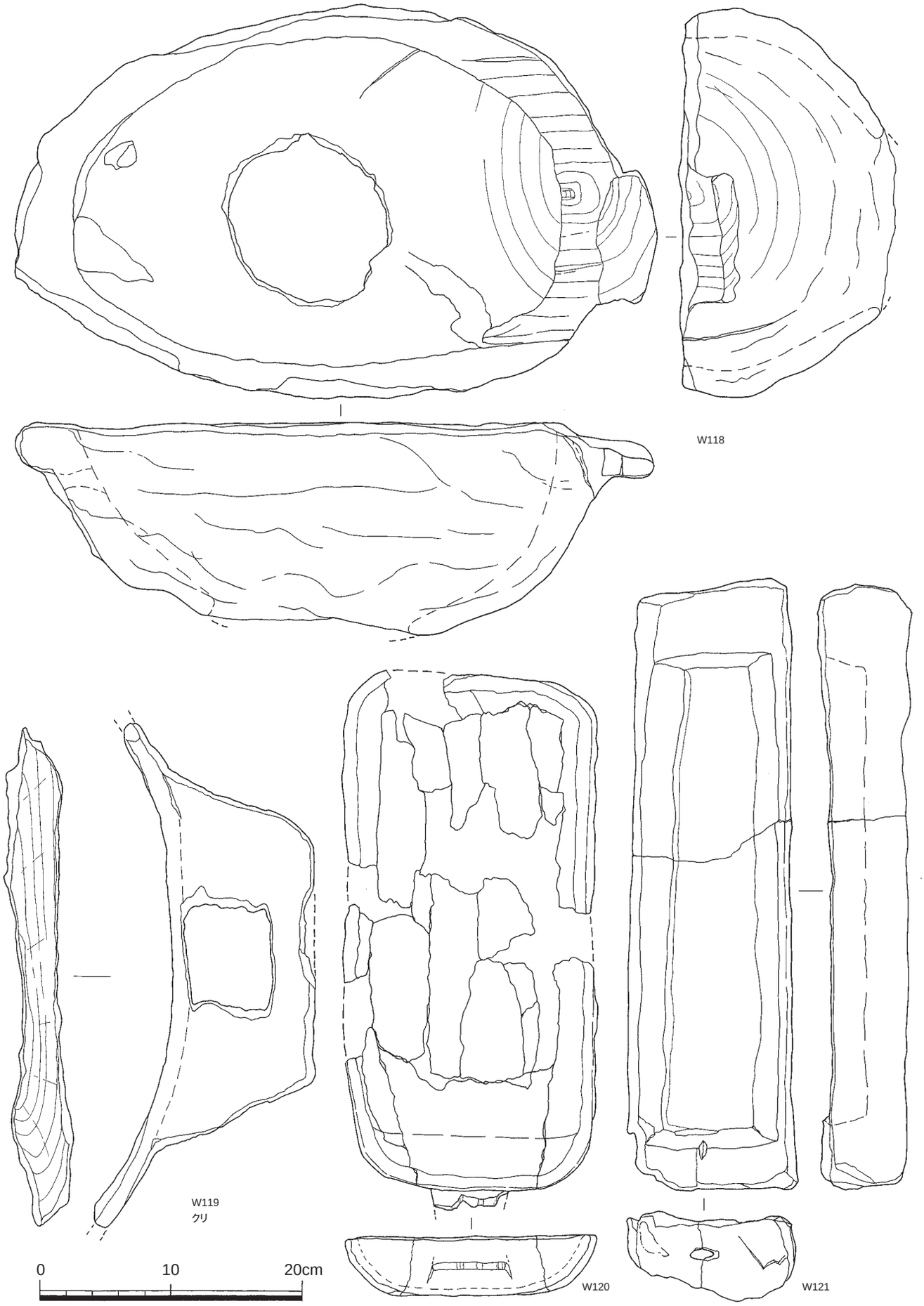


Fig.78　SD-01出土木製品実測図（1/4）

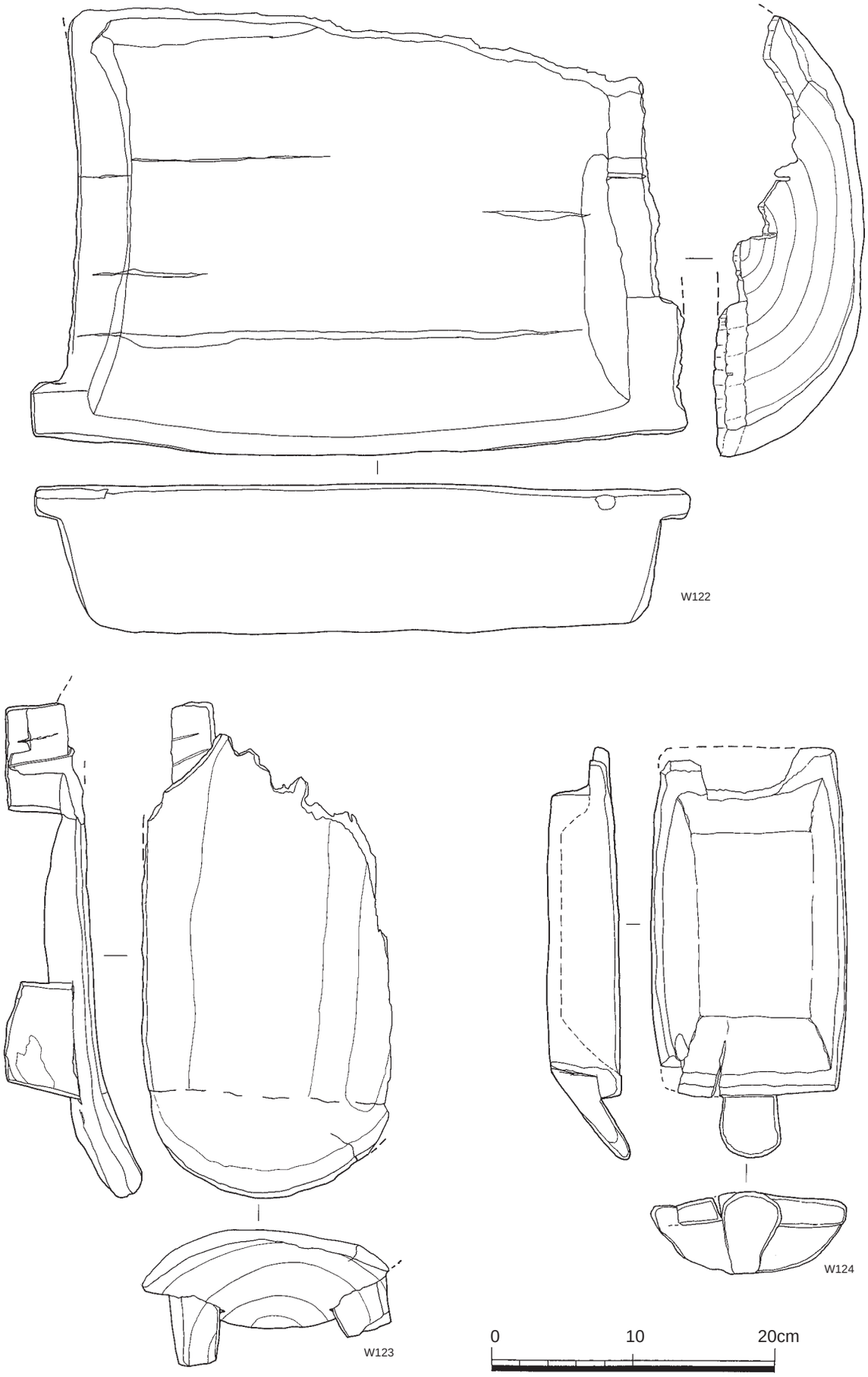


Fig.79　SD-01出土木製品実測図（1/4）

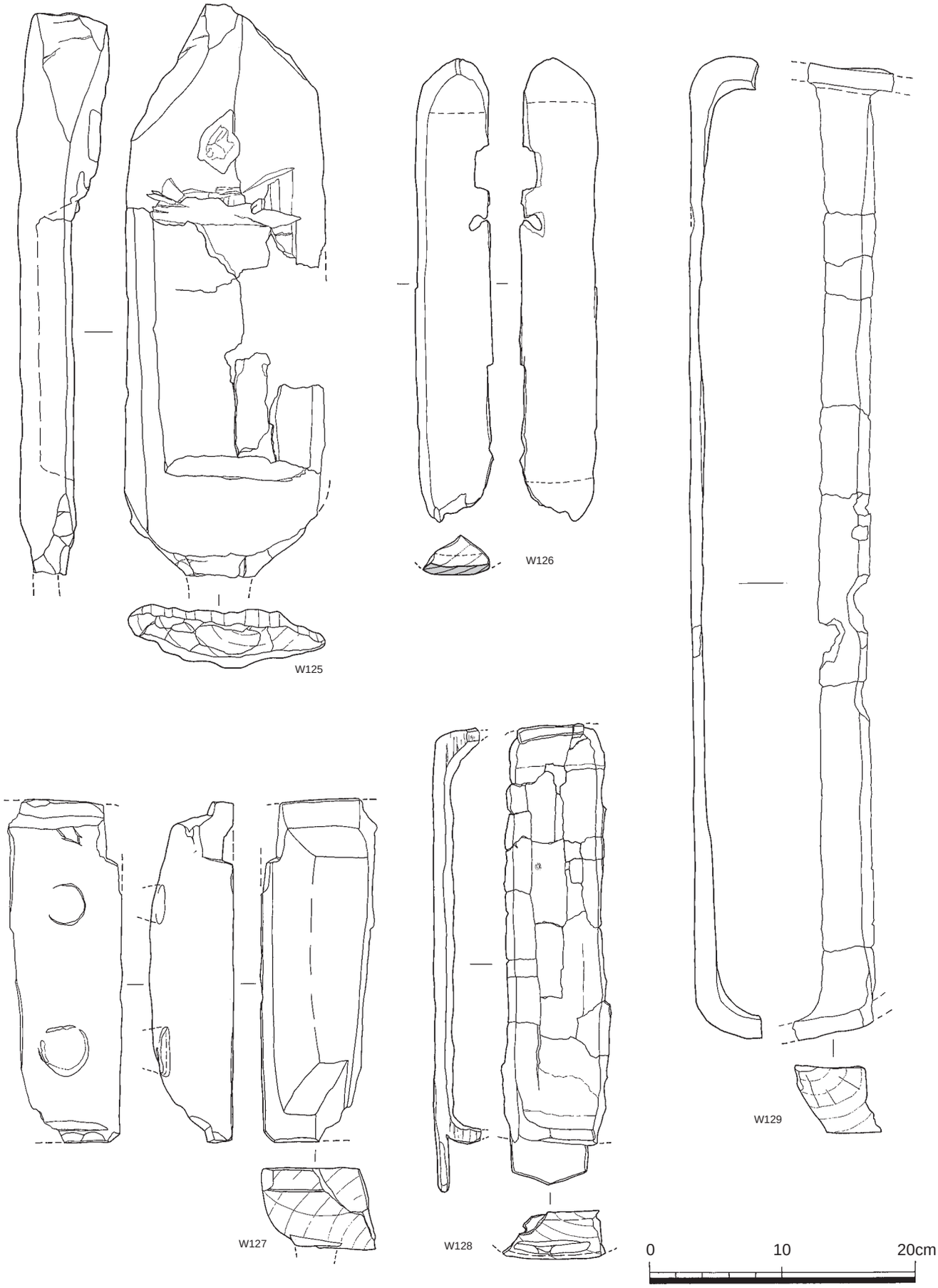


Fig.80　SD-01出土木製品実測図（1/4）

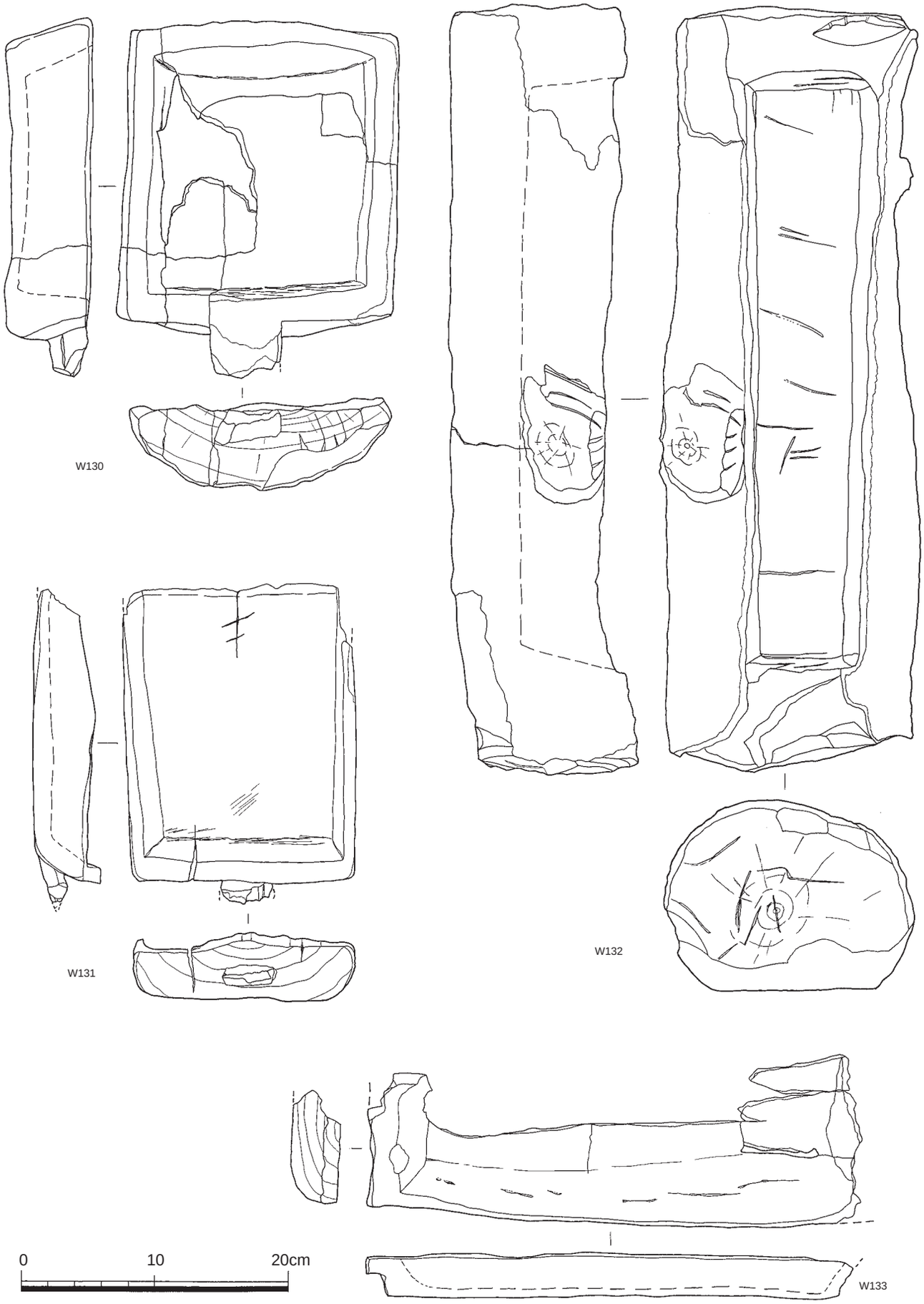


Fig.81　SD-01出土木製品実測図（1/4）

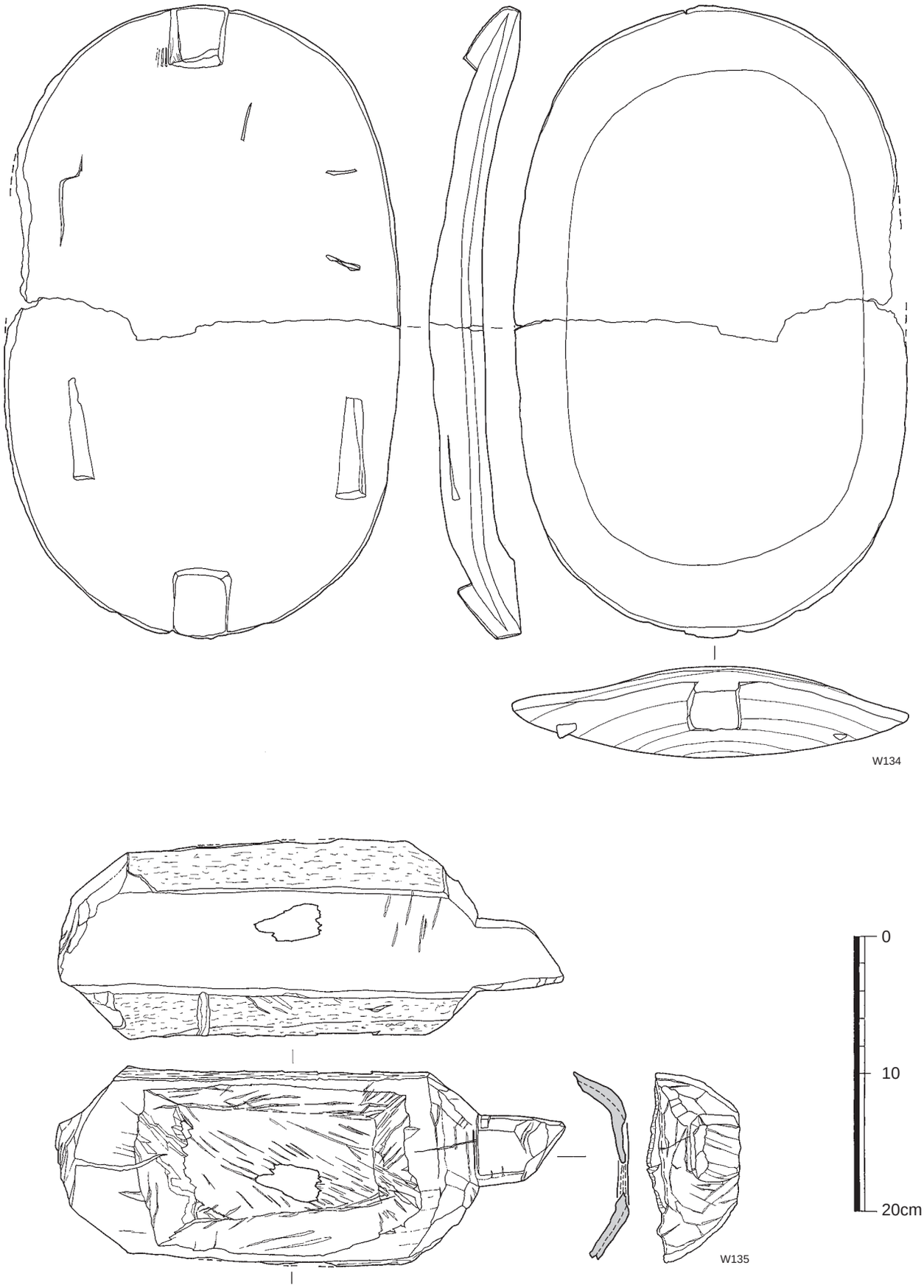
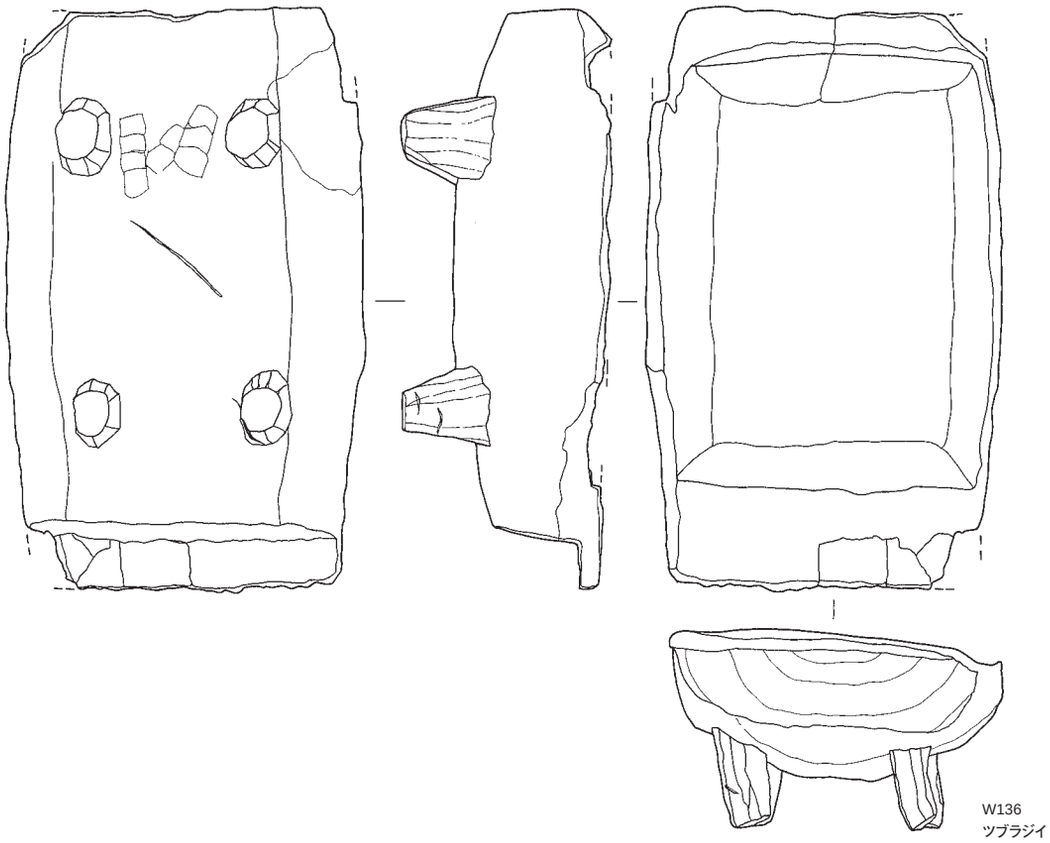


Fig.82　SD-01出土木製品実測図（1/4）



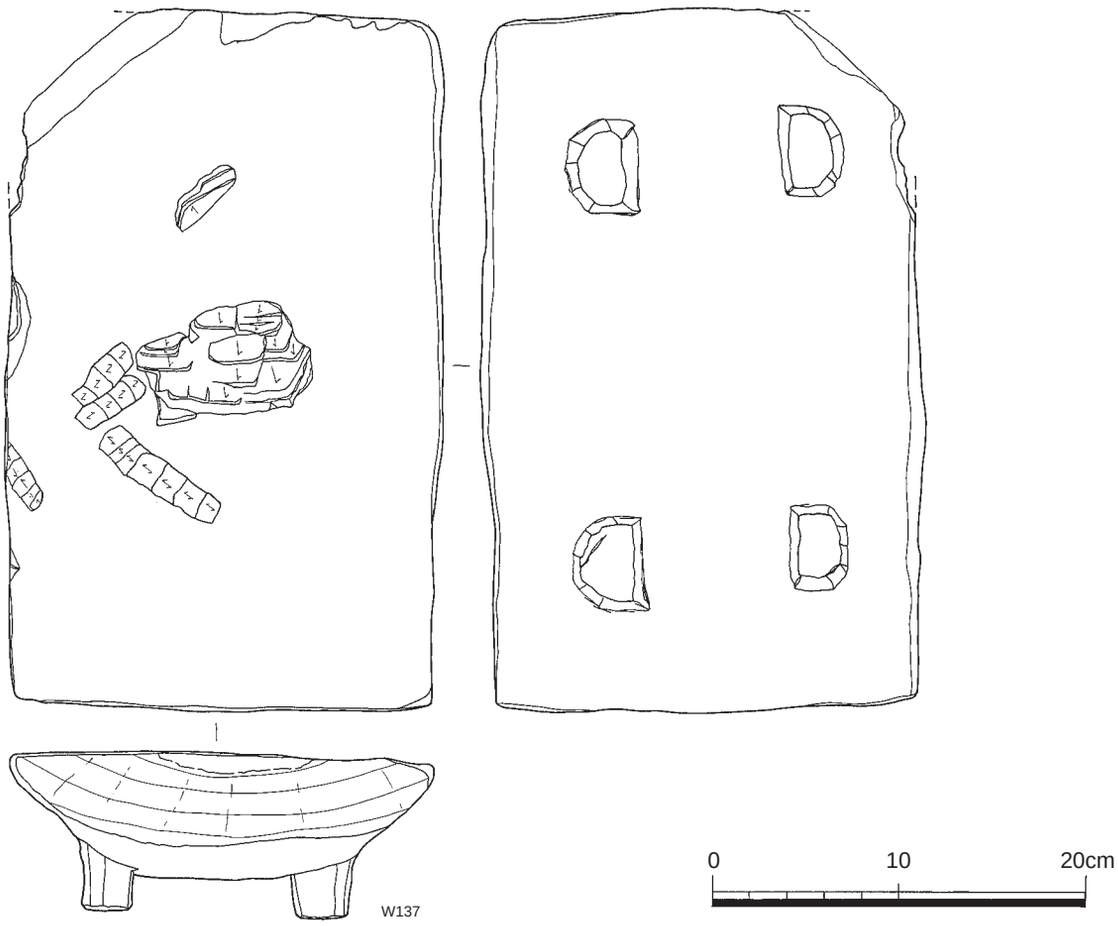


Fig.83　SD-01出土木製品実測図（1/4）

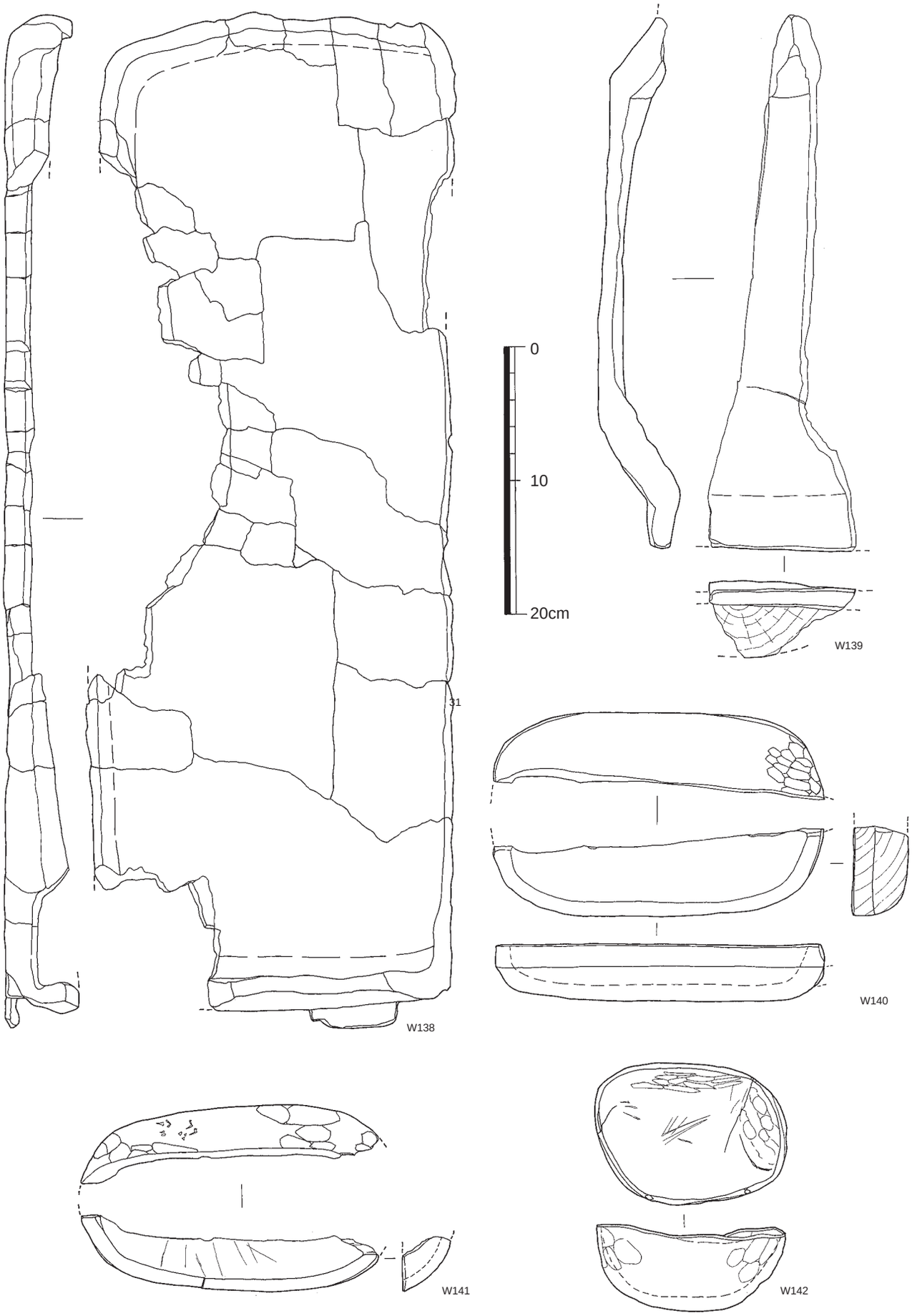


Fig.84　SD-01出土木製品実測図（1/4）

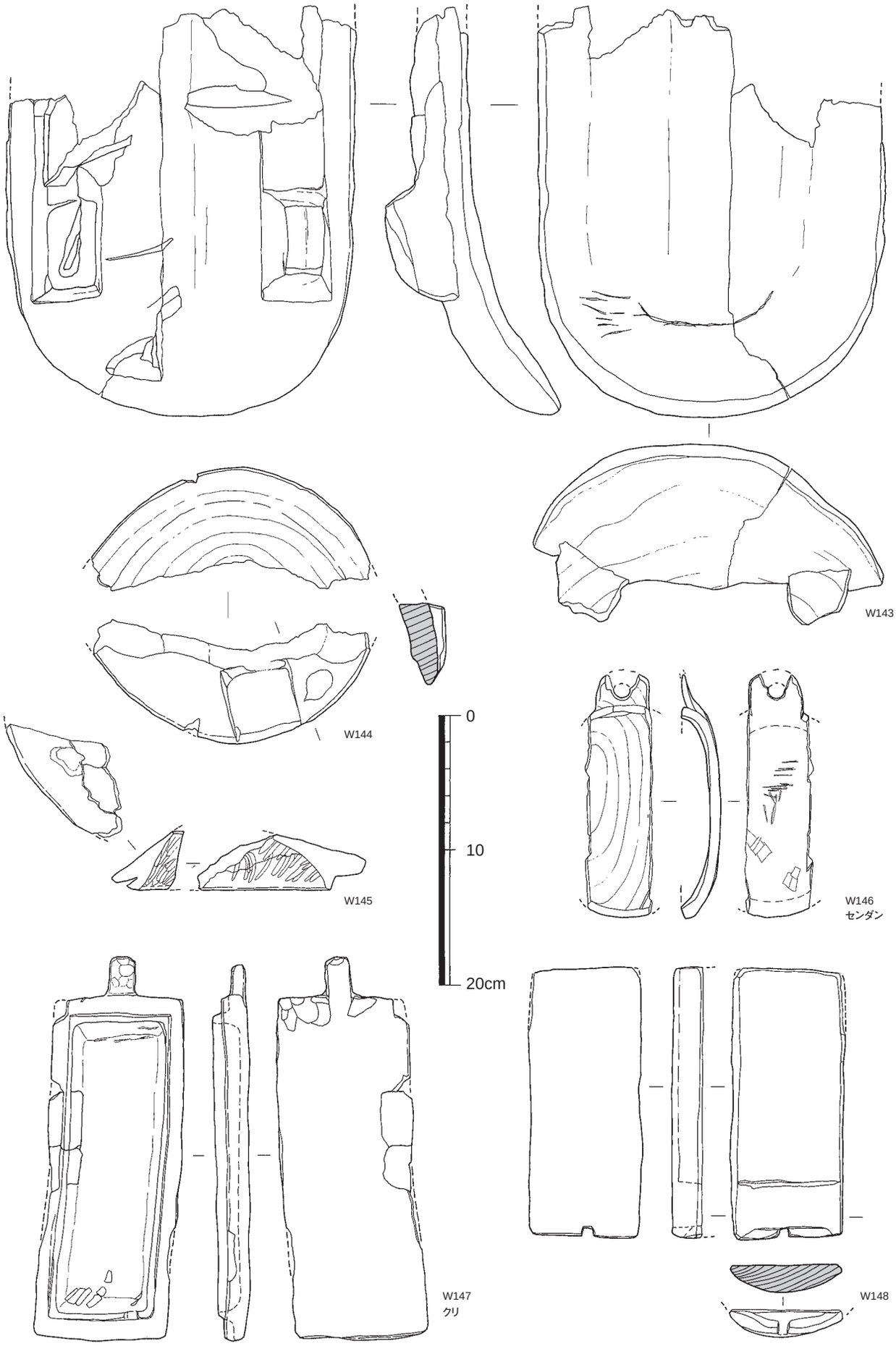


Fig.85　SD-01出土木製品実測図（1/4）

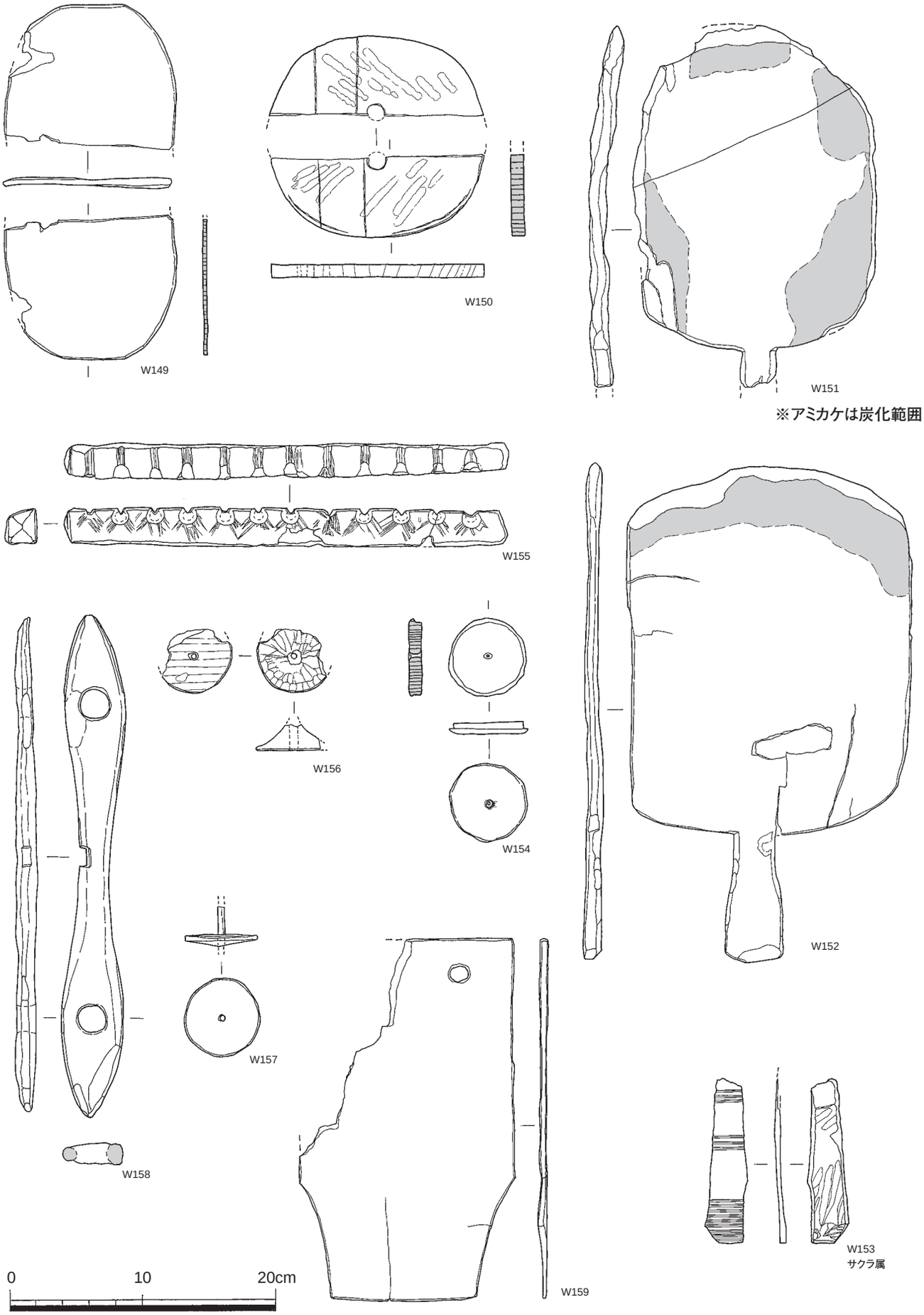


Fig.86　SD-01出土木製品実測図（1/4）

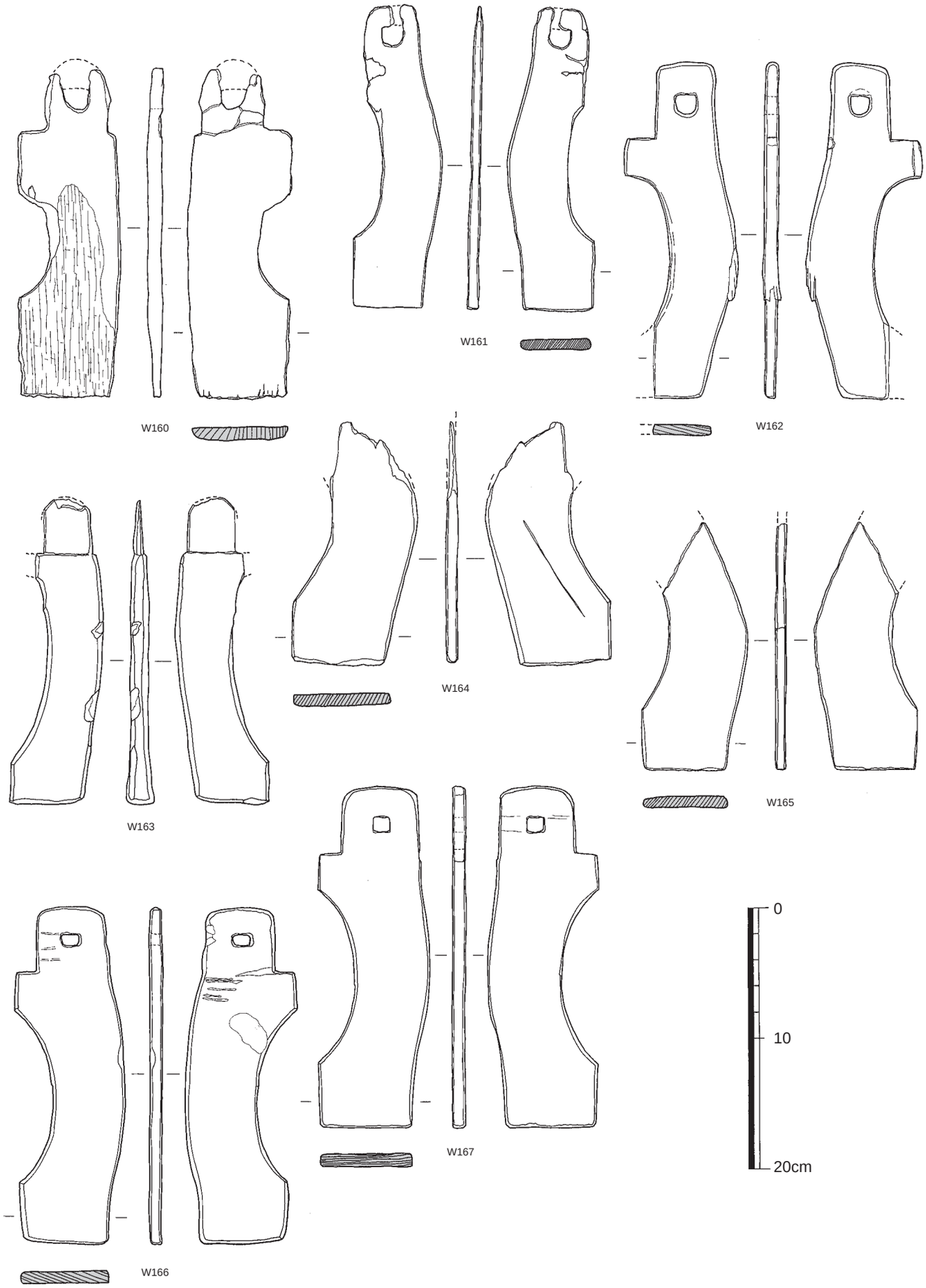


Fig.87　SD-01出土木製品実測図（1/4）

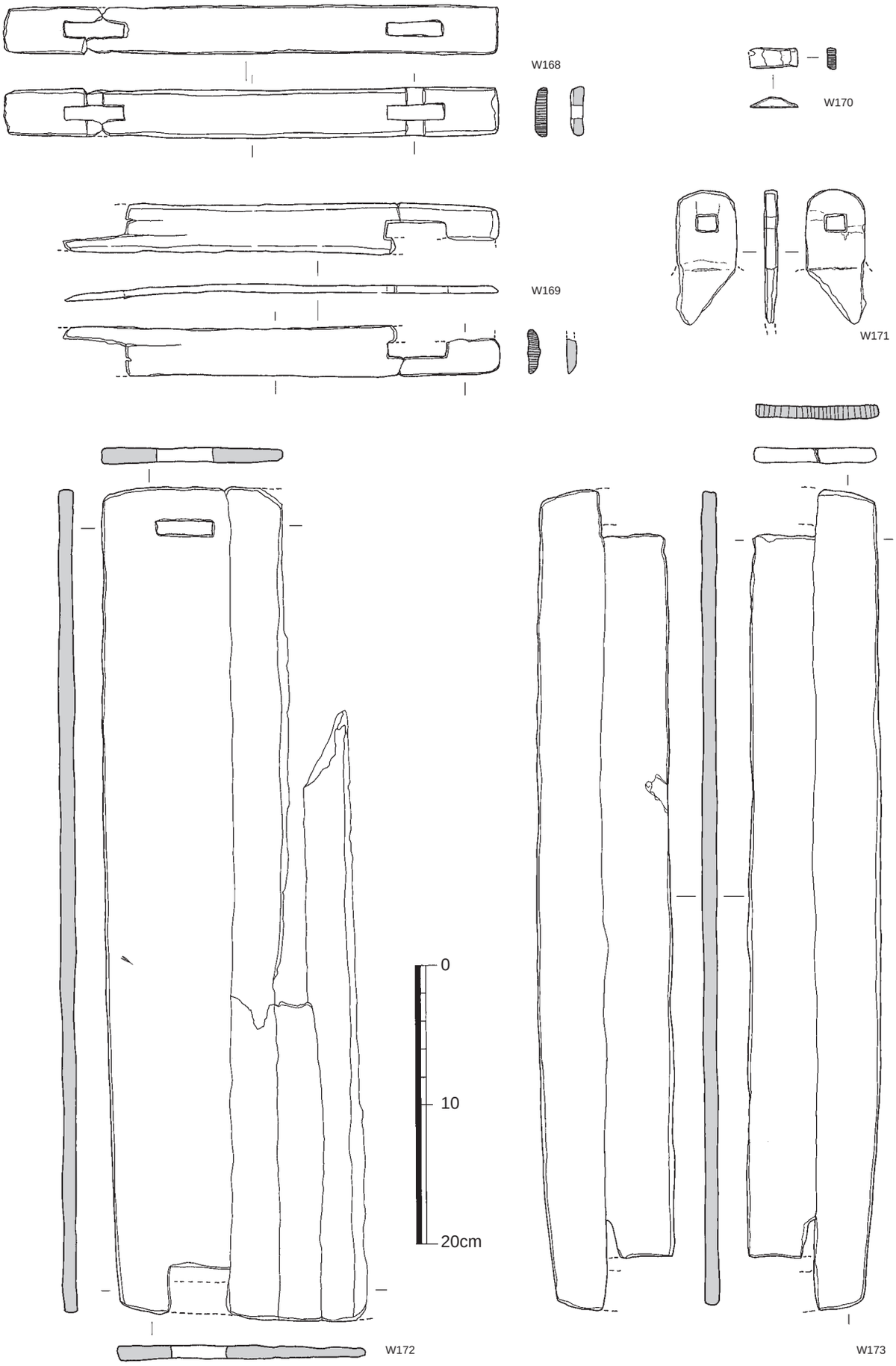


Fig.88　SD-01出土木製品実測図（1/4）

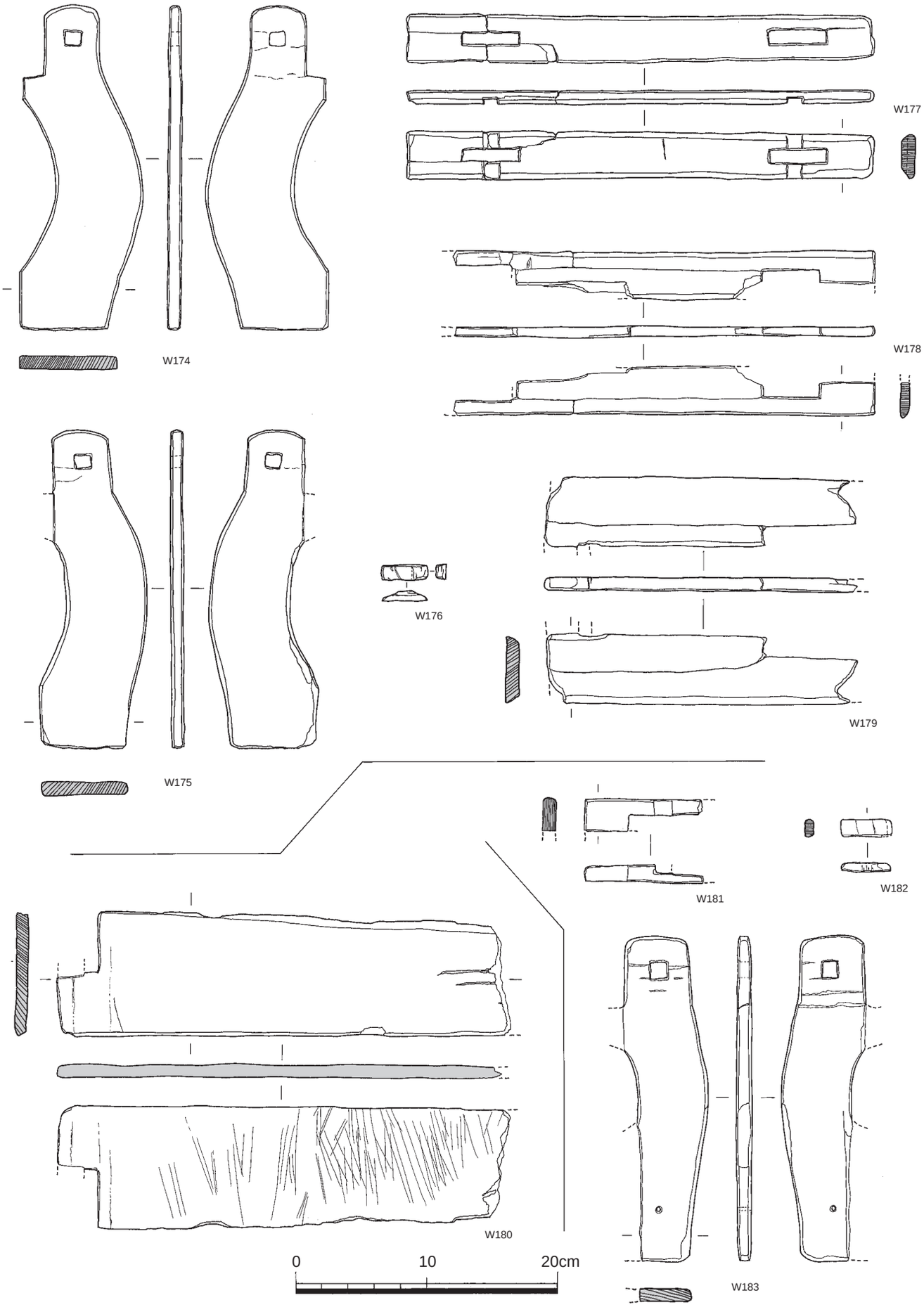


Fig.89　SD-01出土木製品実測図（1/4）

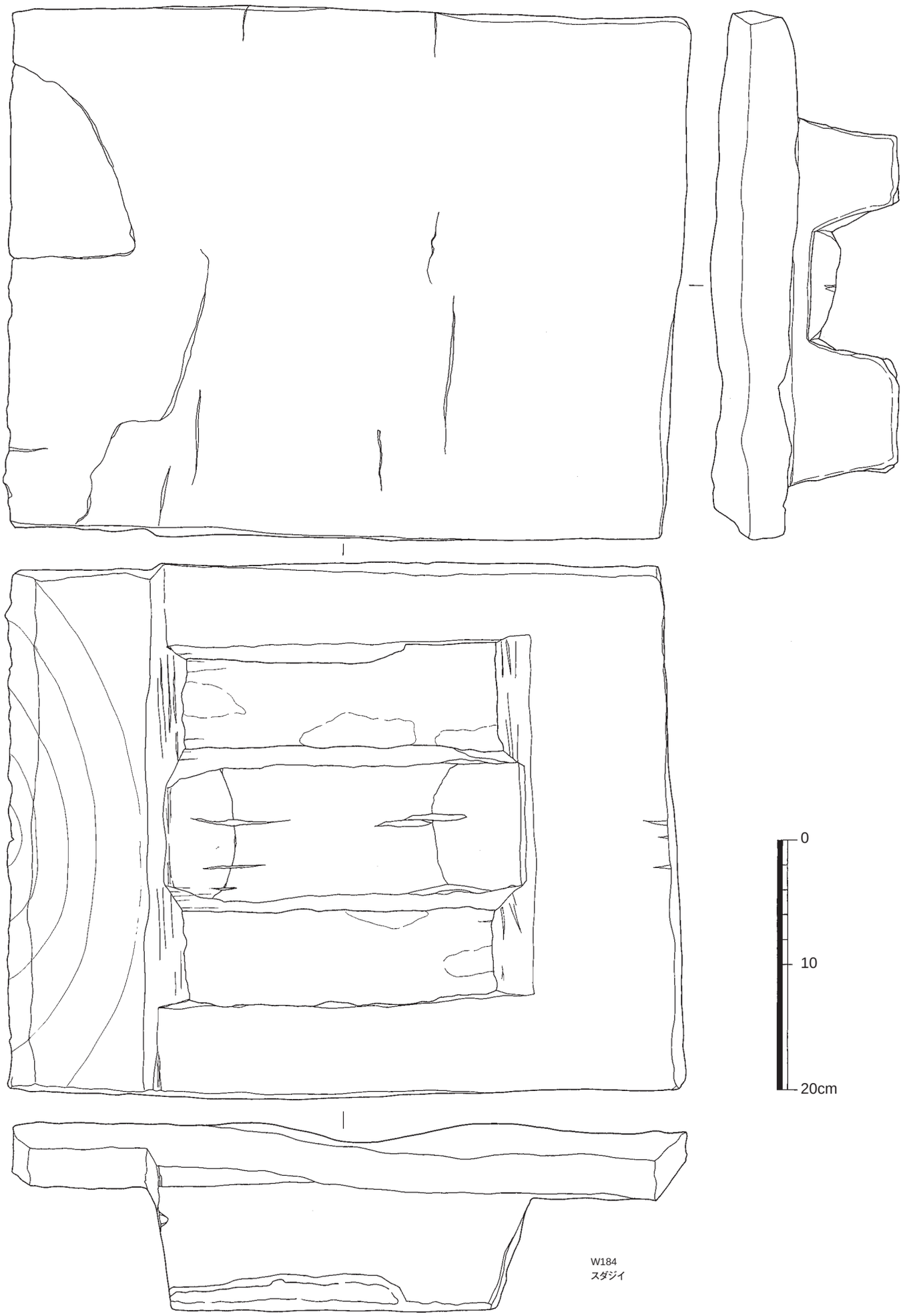


Fig.90　SD-01出土木製品実測図（1/4）

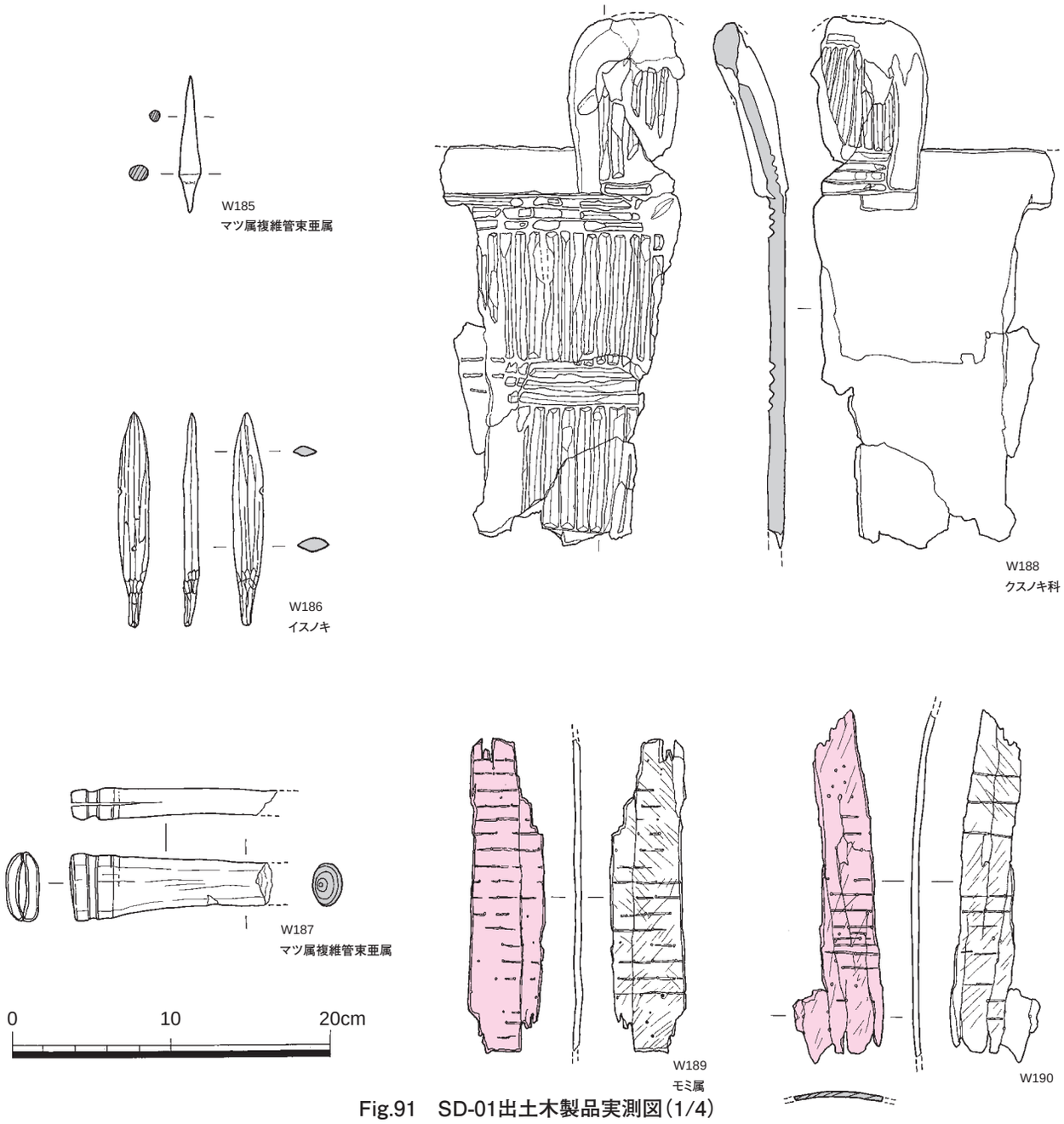


Fig.91　SD-01出土木製品実測図（1/4）

調査時には漆塗膜の保護のため周辺土壌と伴に取り上げ埋蔵文化財センターに移送し処理を行った。内外面に黒色漆を塗り、外面には赤色漆で文様を描いている。主文様は3本の線を一度に引ける道具により直線文と鋸歯文を描き、上段には1本単位による斜格子文様が描かれている。W154は漆塗筒形容器の底板である。W153の資料より口径が小さく、別個体と考えられる。W155は火鑽臼である。W156,W157は木製紡錘車である。W157には軸部が遺存している。W158は用途不明木製品である。W159は容器吊取手である。W160～W183は組合せ式の机である案である。W160～W167は案脚単独での出土資料である。W168～W172は組み合わさった状態での出土であり、W173はその近接地から出土した天板である。W174～W179も組み合った状態で出土した。W180は単体で出土した天板である。W181～W183も組まれた状態で出土している。保存処理後接合資料の検討を行い、W164、W165、W168～W173、W174～W179が同一個体であった可能性が指摘されている（PL.54）。W180の天板の片面には、顕著な刃物キズが見られる。他の天板にも同様の痕跡があるが、他のキズと区別できるだけの密度を持っていない。脚部の形状から3個体分以上の存在が考えられる。挟板には鼻栓を差し込む溝が彫り込まれており、鼻栓の長軸断面は台形を呈するなど、共通する古い技法様相を有している。W184は一木づくりの机。W185,186は木鏃、W187は鉄刃束である。

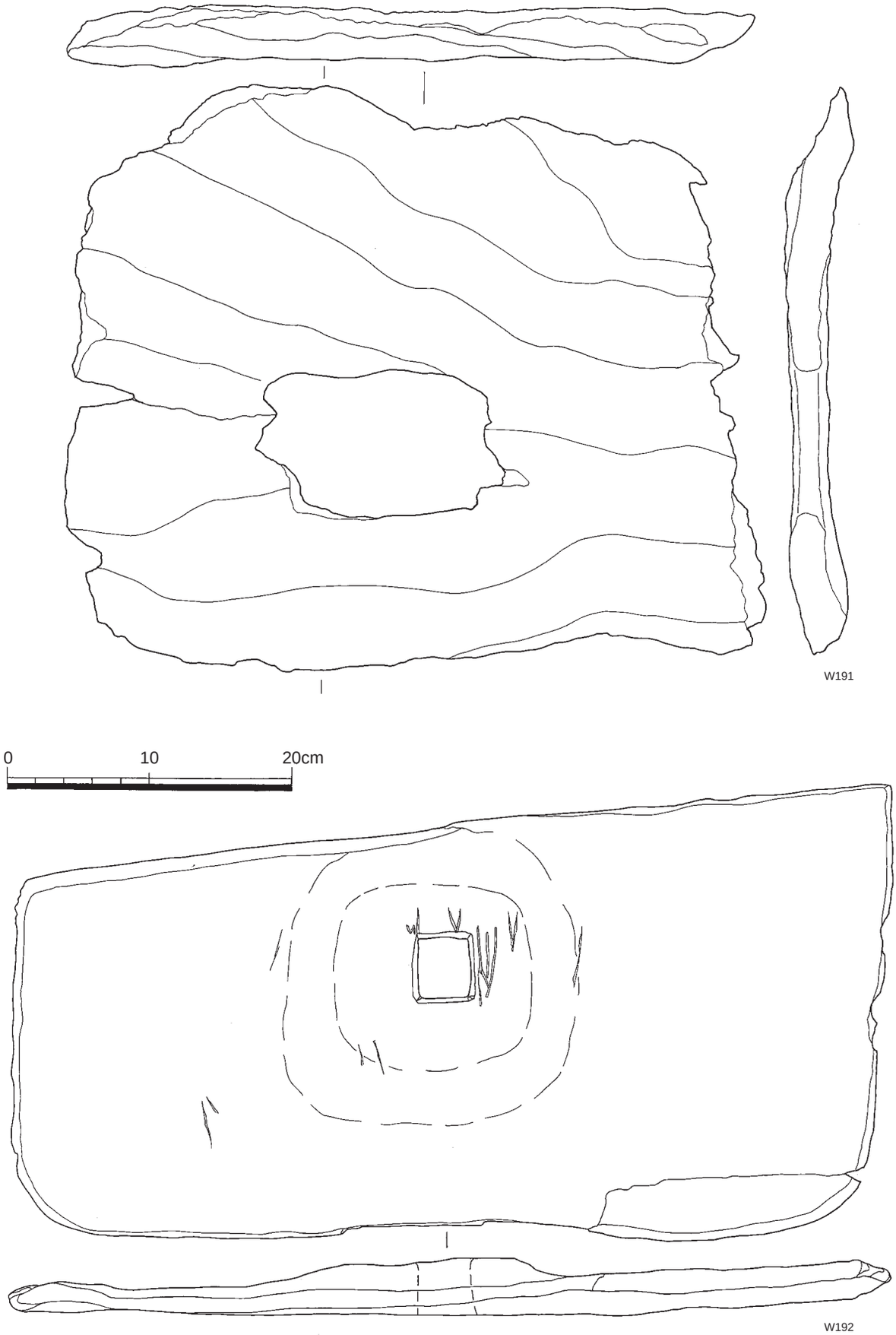
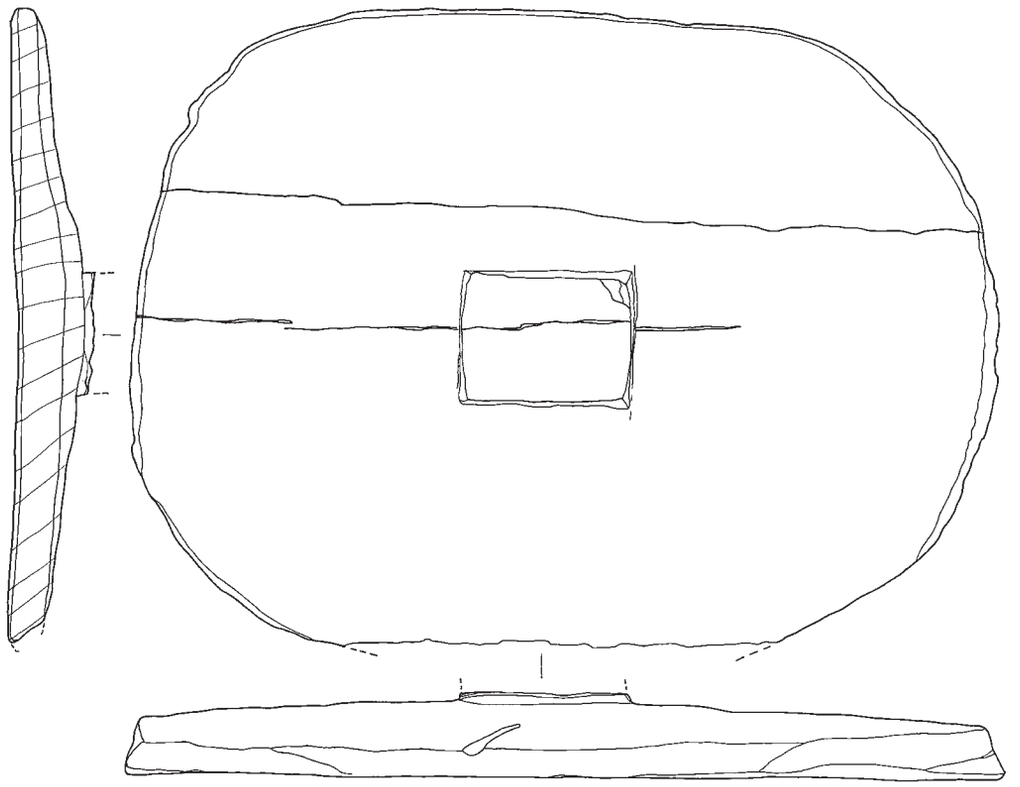
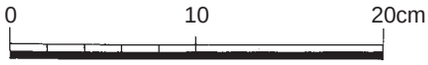
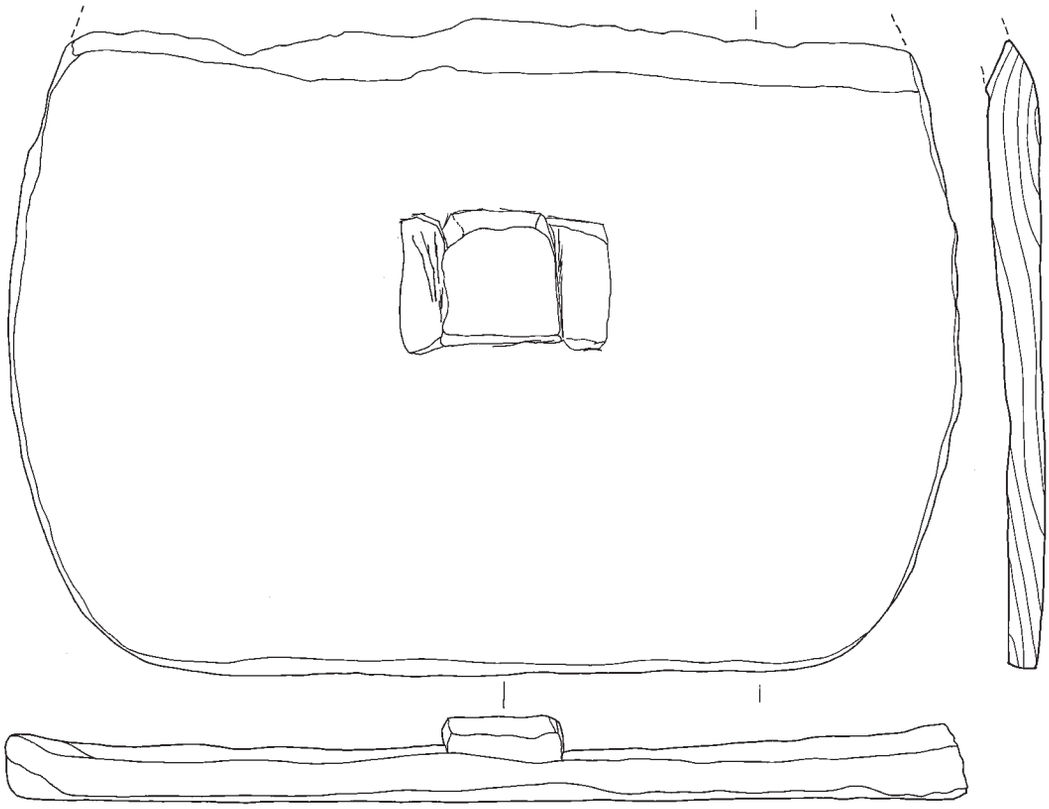


Fig.92　SD-01出土木製品実測図（1/4）



W193





W194

Fig.93　SD-01出土木製品実測図（1/4）

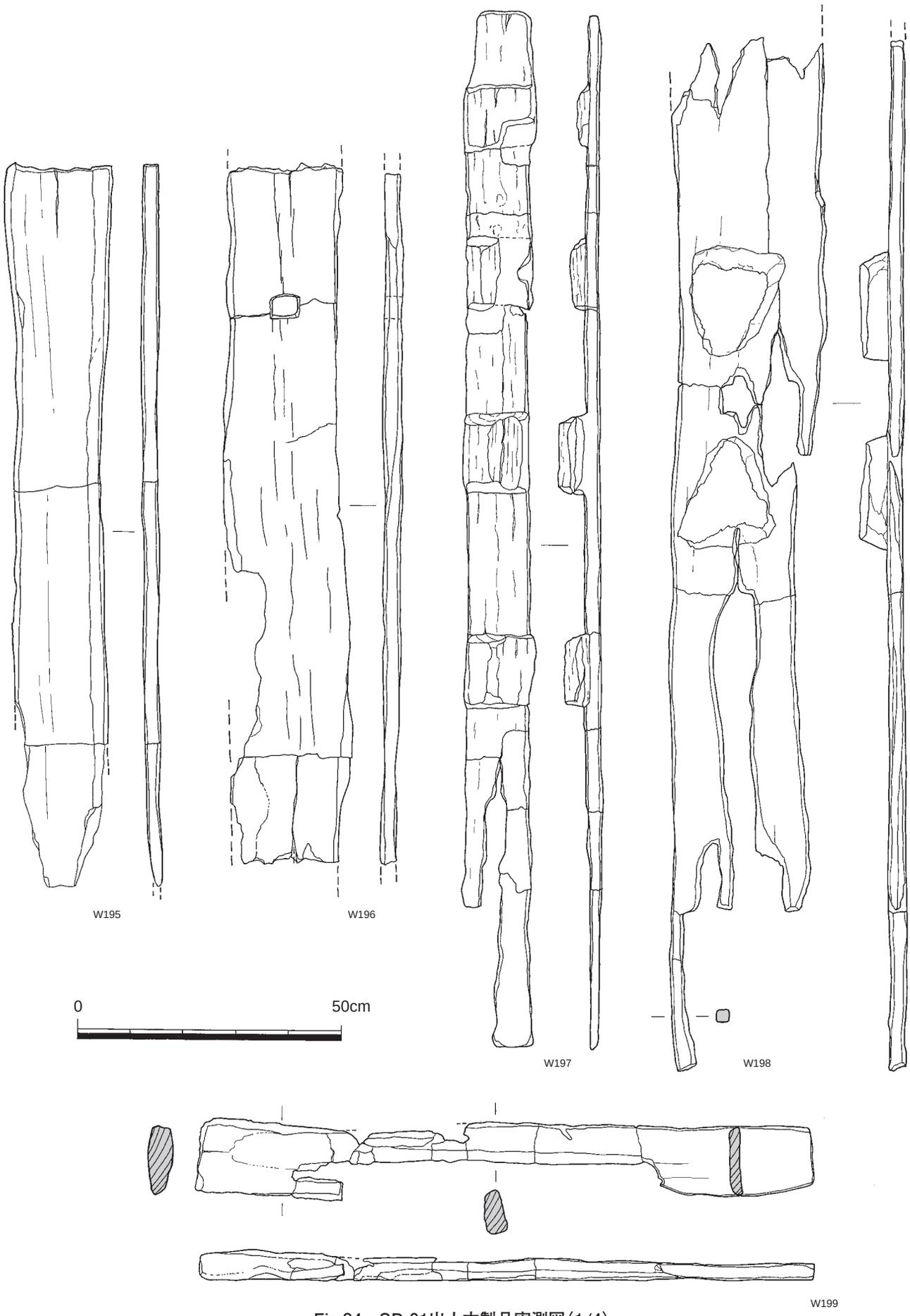


Fig.94　SD-01出土木製品実測図（1/4）

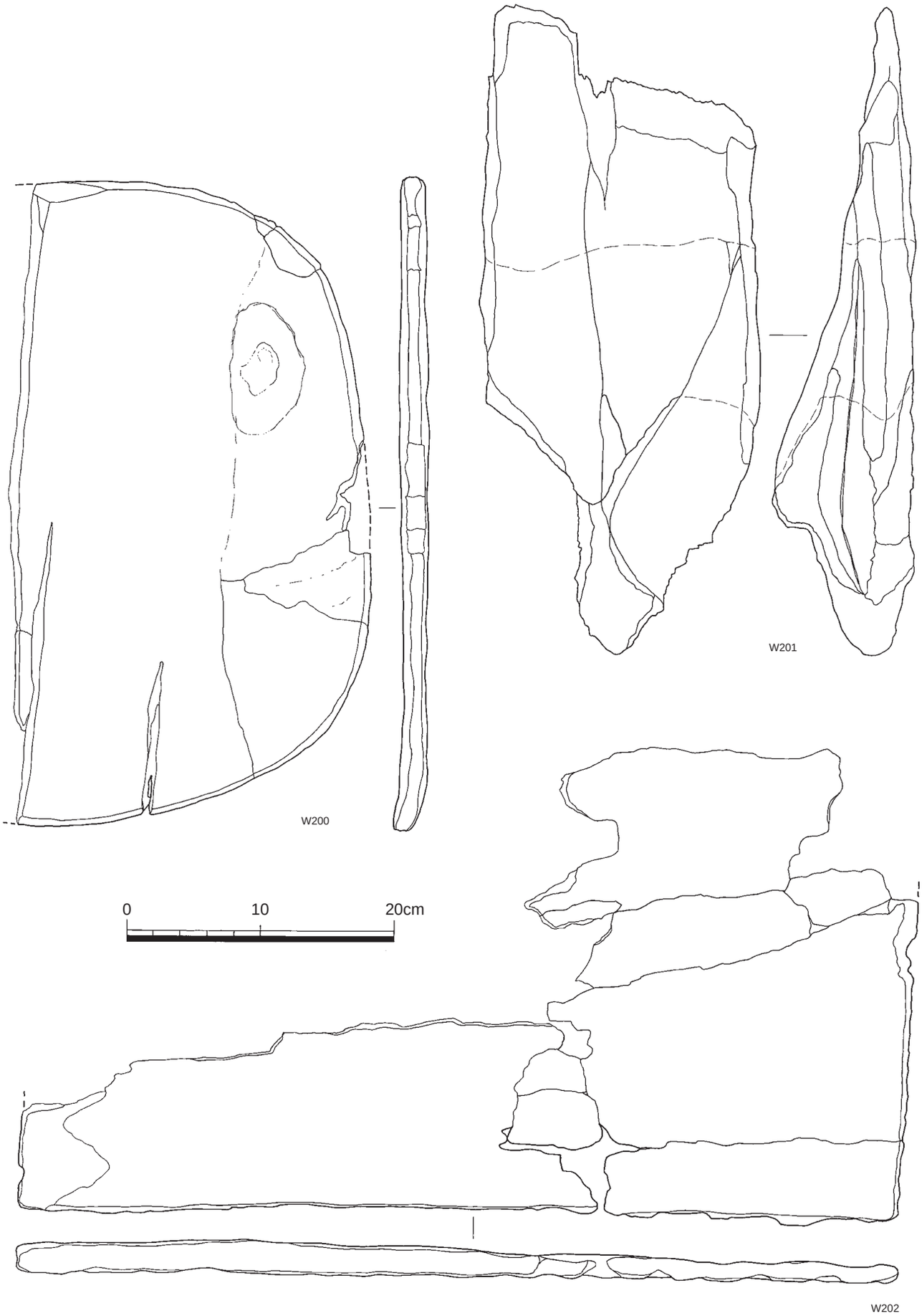


Fig.95　SD-01出土木製品実測図（1/4）

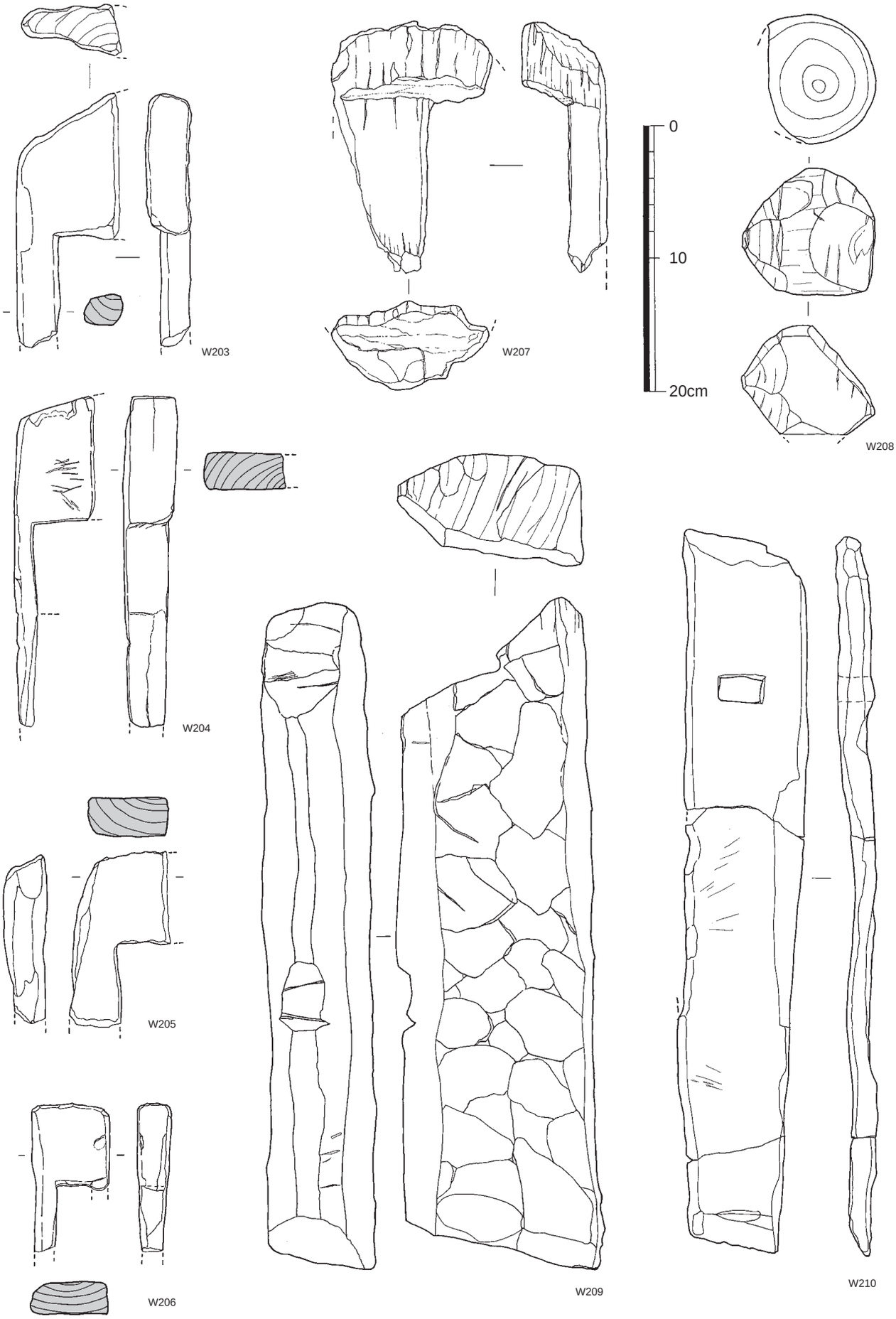


Fig.96　SD-01出土木製品実測図（1/4）

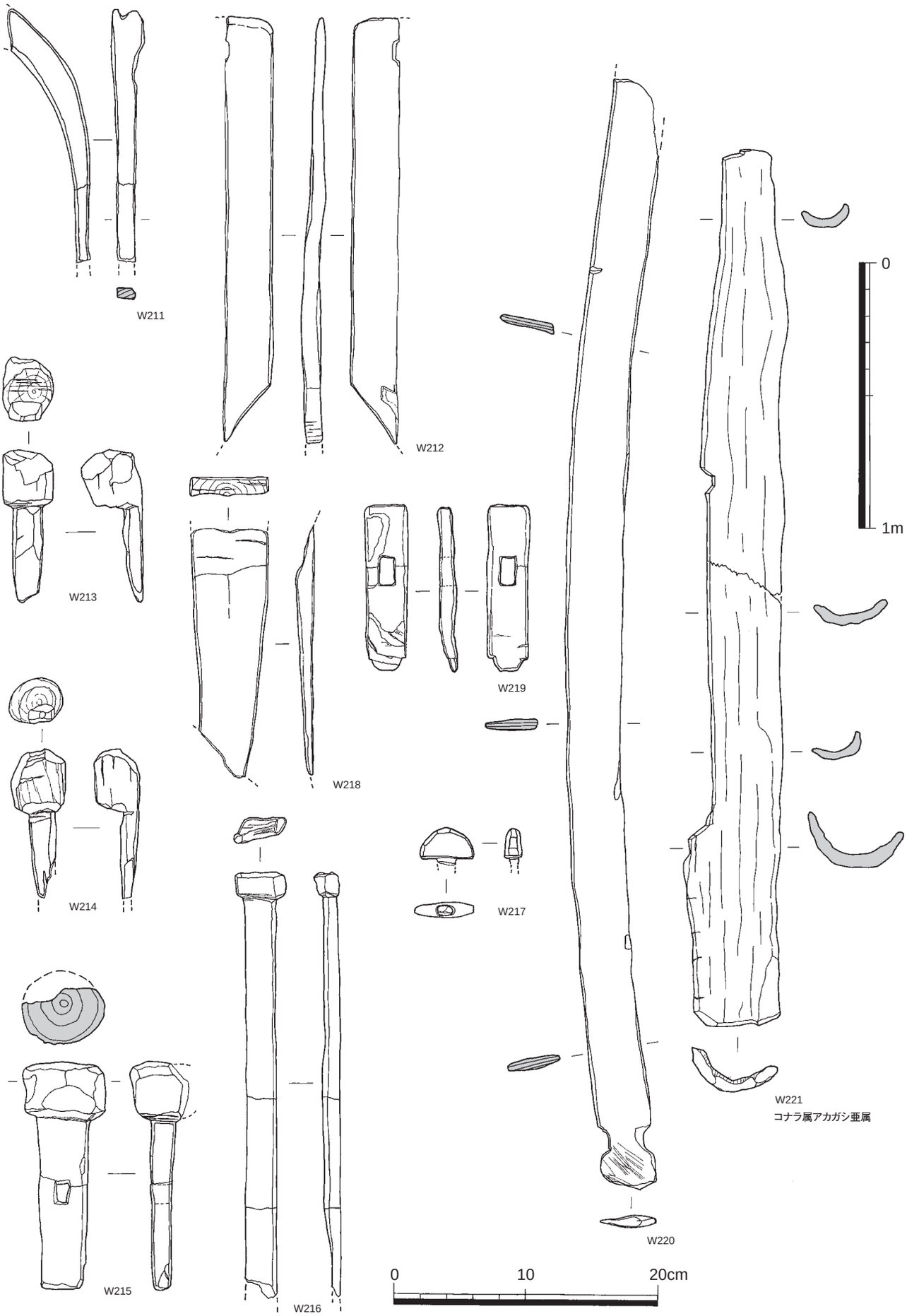


Fig.97　SD-01出土木製品実測図(1/4),(1/20)

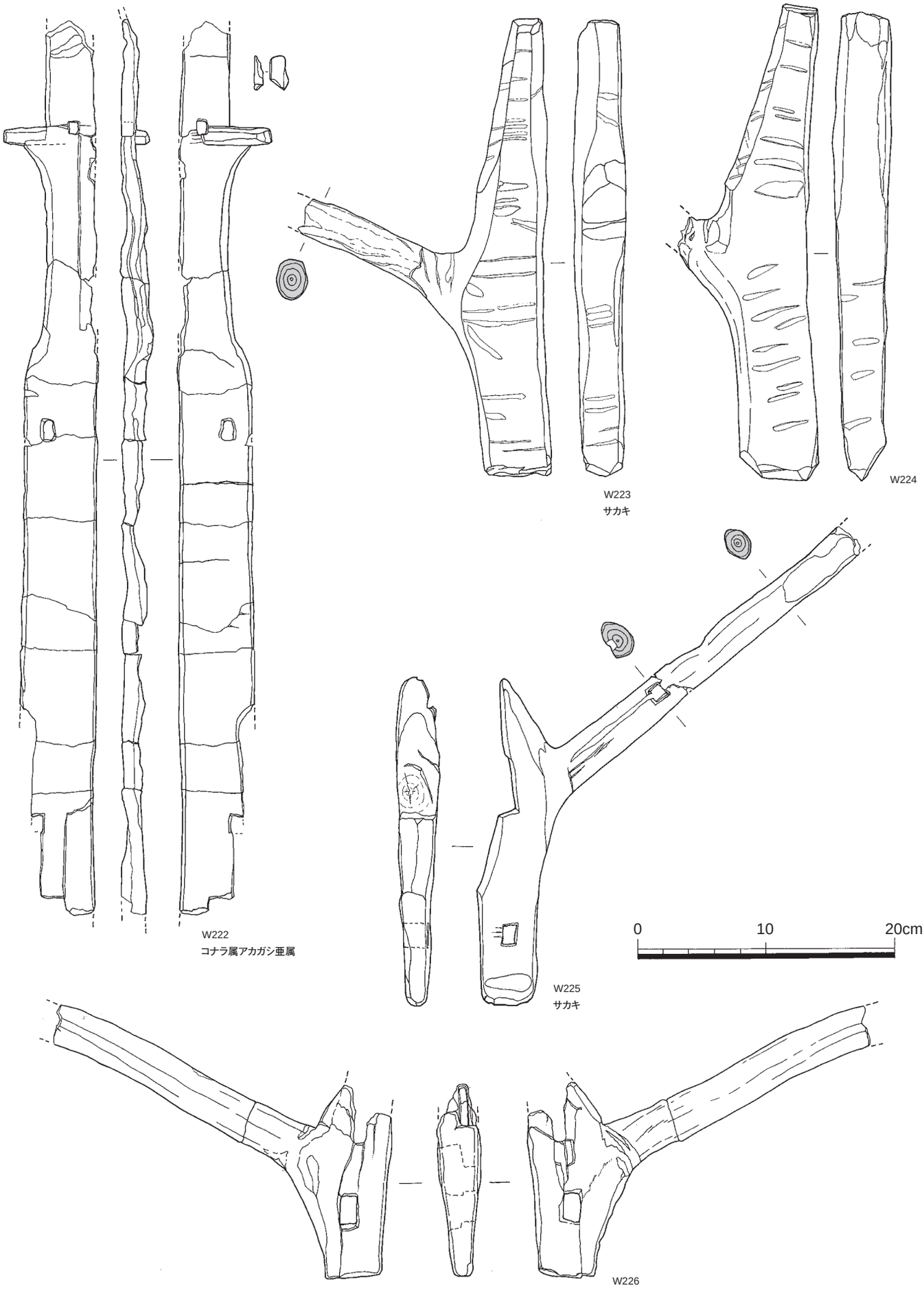


Fig.98　SD-01出土木製品実測図（1/4）

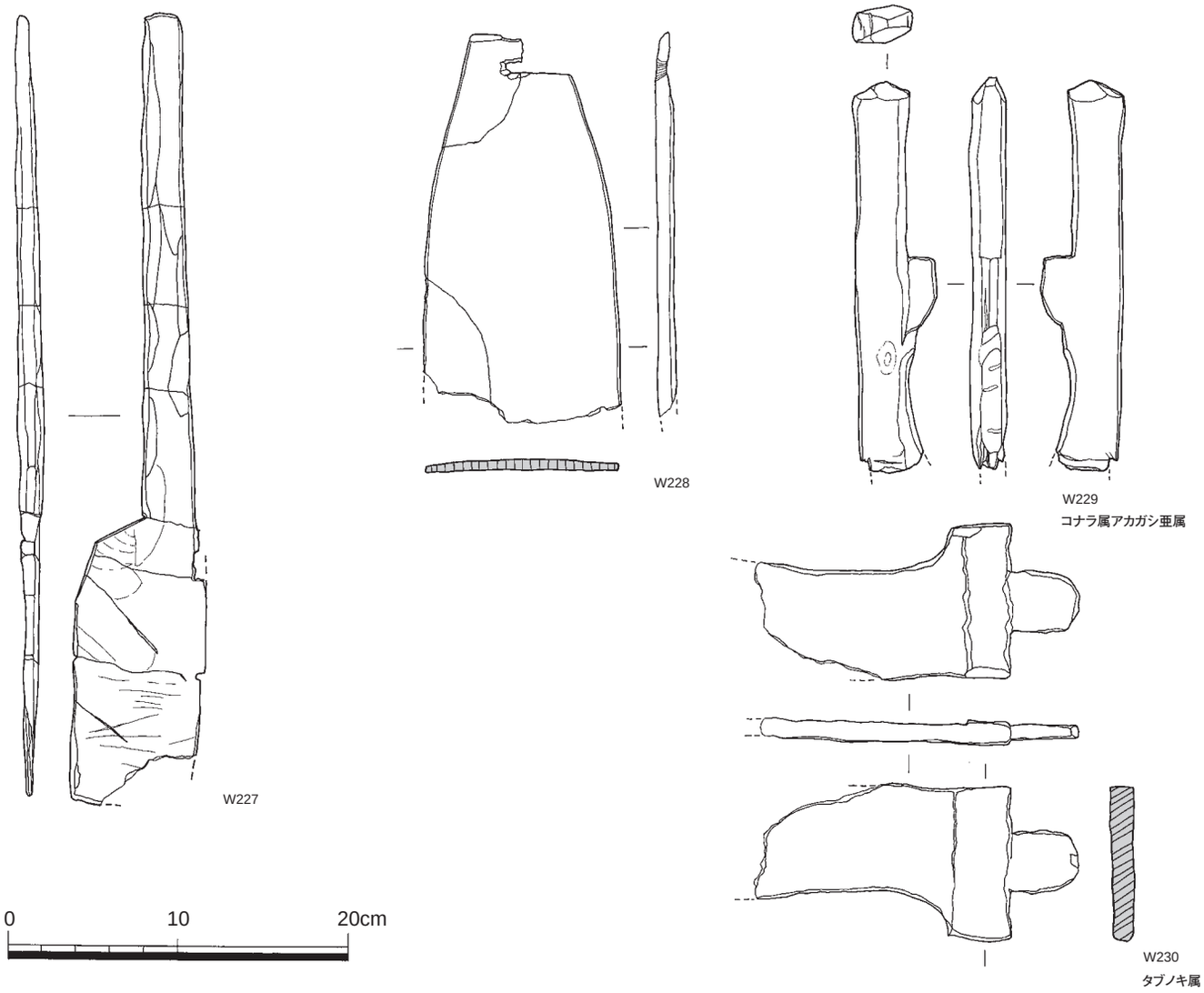


Fig.99　SD-01出土木製品実測図（1/4）

束の一方に切目を入れ、刃基部の厚身を削り込んだ後差し込み、タガ状のもので固定している。X線写真により、束の中に刃の基部が残存しており、目釘により固定されていることが確認されている。W188は短甲と考えられている。クスノキ科の樹種で、白木である。片面と突起部の裏には、断面三角形の彫り込みによる縦・横方向の直線文が施されている。突起部に見られる孔は破面で、孔の有無は不明である。W189,W190は盾である。第9次調査出土の盾には表裏に赤色顔料による文様状の塗布が見られたが、今回出土のものは片面にのみ見られる。部分による差異か。W191,W192はねずみ返し、W193,W194は蓋と考えている。W195,W196,W199は建物部材、W197,W198は梯子である。W200～W220は板状、有頭、ホゾ孔など加工木製品である。W221は井泉堤部に横たわっていた半裁木削出の材である。W222は、前原市上鑵子遺跡などで見られる各部をホゾとホゾ穴で組合せ、編物や縄で複合的につくられる背負子。W223,W224は爪付背負子の未製品と考えられ、2点重ねて井泉の下層に水漬けされていた。W225,W226は爪付背負子の製品と考えられる。W227は一方を板状につくるが、方側には展開せず左右対称形とはならない。W228～W230は用途不明の木製品である。W231～W243は棒状のものである。先端を尖らせるもの、刀形を呈するもの、両端を切り離すものなどがある。W244～W254は用途不明の加工木製品である。精緻なつくりのもの、何かと組み合わせて使用されたと思われるものがある。W249の片面には赤色顔料が塗布されている。

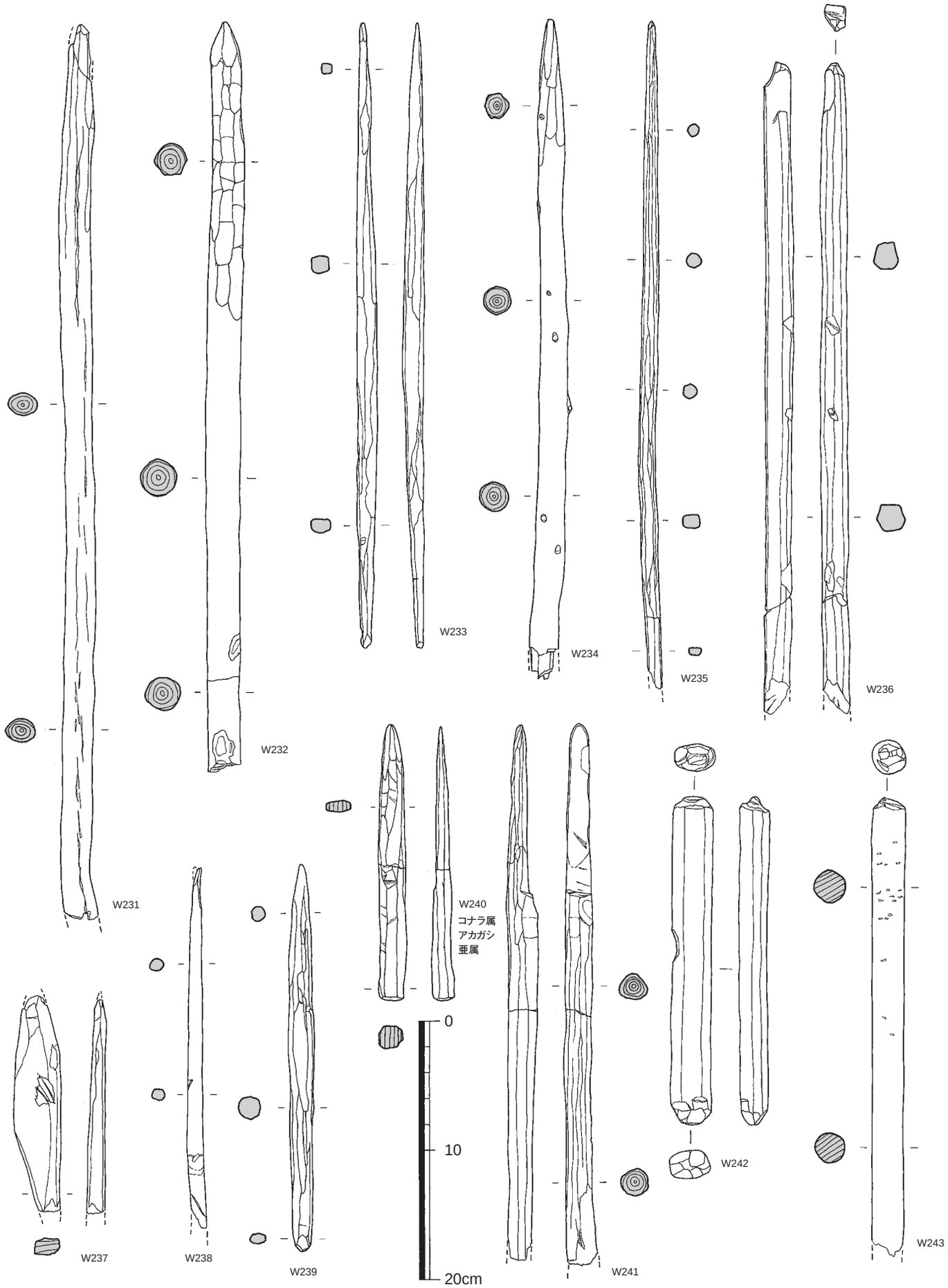


Fig.100　SD-01出土木製品実測図（1/4）

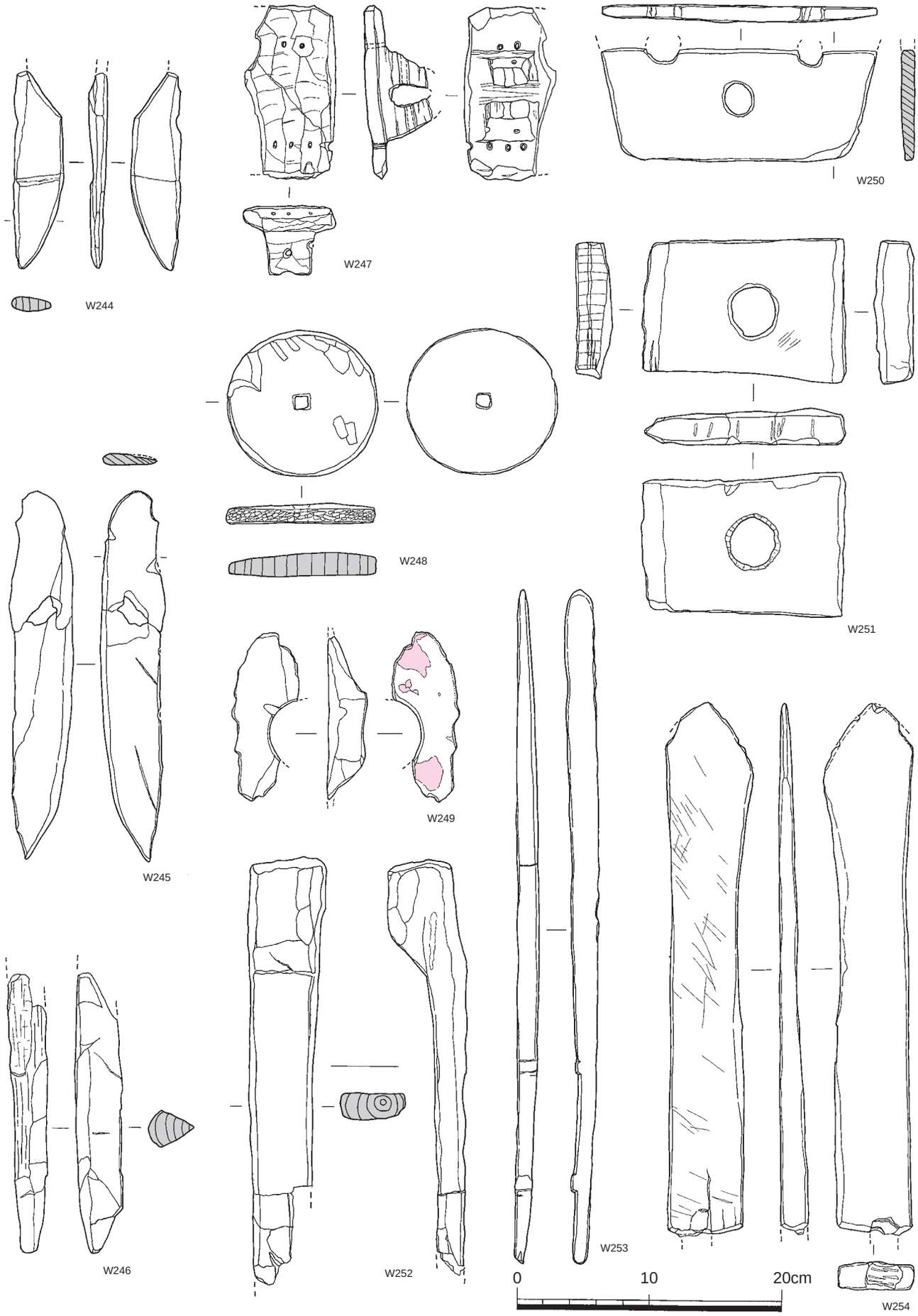


Fig.101　SD-01出土木製品実測図（1/4）

表3　第12次調査出土木製品観察表

（　　）は残存長・cm　　m

番号	地区	名　　称	木取り	最大長	最大幅	最大厚	備　　考	座標値(X)	座標値(Y)	標高
W001	3区	広鍬	柾目	28.9	14.7	1.6	カシ材（観察）	63491.50	-67366.30	4.68
W002	3区	広鍬		28.0	15.5	1.5	カシ材（観察）	63494.86	-67365.04	4.87
W003	3区	広鍬		36.1	15.9	1.7	カシ材（観察）	63495.10	-67364.67	4.88
W004	3区	広鍬	柾目	(31.5)	(10.3)	1.8	カシ材（観察）	63491.50	-67365.05	4.11
W005	3区	広鍬	柾目	(26.6)	(16.6)	2.0	カシ材（観察）	63512.32	-67366.79	4.36
W006	1区	広鍬	柾目	32.9	(11.2)	1.5	カシ材（観察）	63513.48	-67365.75	4.21
W007	2区	広鍬		(32.4)	(13.8)	1.2	カシ材（観察）	63500.20	-67363.56	4.88
W008	3区	広鍬	柾目	(29.0)	(14.2)	2.0	カシ材（観察）	63496.00	-67365.68	4.87
W009	2区	広鍬	柾目	(34.3)	(14.7)	1.6	カシ材（観察）	63508.11	-67365.31	4.52
W010	2区	広鍬	柾目	(33.8)	18.6	1.8	コナラ属アカガシ亜属	63506.52	-67364.89	4.67
W011	1区	広鍬	柾目	33.9	17.2	1.6	カシ材（観察）	63512.63	-67366.04	4.48
W012	3区	広鍬	柾目	(32.5)	17.0	1.8	カシ材（観察）	63496.36	-67365.37	4.77
W013	3区	広鍬	柾目	32.8	17.5	1.8	カシ材（観察）	63496.55	-67365.28	4.71
W014	3区	広鍬		(32.6)	(10.2)	1.8	カシ材（観察）	63496.30	-67365.19	4.63
W015	3区	広鍬	柾目	(31.3)	(15.9)	1.2	カシ材（観察）	63490.42	-67364.77	4.39
W016	3区	広鍬	柾目	(33.5)	(18.1)	1.5	カシ材（観察）	63492.15	-67364.02	4.62
W017	3区	広鍬	柾目	35.6	17.8	1.9	カシ材（観察）	63491.52	-67364.98	4.12
W018	3区	広鍬	柾目	(12.3)	(6.5)	1.7	カシ材（観察）	63517.57	-67365.00	4.52
W019	2区	広鍬		29.0	(5.9)	1.8	カシ材（観察）	63154.47	-67365.55	4.03
W020	3区	広鍬（有段	柾目	35.2	(12.5)	1.8	カシ材（観察）	63493.93	-67362.30	4.86
W021	1区	広鍬（有段	柾目	39.2	(11.5)	1.6	W022と接合カシ材（観察）	63514.18	-67366.27	4.20
W022	2区	広鍬（有段	柾目	(25.1)	(9.0)	2.0	W021と接合カシ材（観察）	63505.10	-67365.95	4.30
W023	3区	広鍬	柾目	36.6	(9.6)	0.9	薄い。狭鍬か？カシ材(観察)	63491.00	-67366.90	5.00
W024	2区	狭鍬	柾目	(30.4)	(12.8)	1.8	カシ材（観察）	63500.28	-67363.35	4.41
W025	3区	狭鍬	柾目	35.7	10.6	1.5	カシ材（観察）	63490.53	-67366.19	4.23
W026	3区	三又鍬	柾目	49.5	(10.4)	1.8	カシ材（観察）	63494.58	-67361.85	4.91
W027	1区	三又鍬	柾目	(32.1)	(9.5)	2.1	カシ材（観察）	63515.43	-67366.24	4.45
W028	1区	三又鍬		47.4	(9.0)	2.3	カシ材（観察）	63510.41	-67365.90	4.28
W029	2区	三又鍬	柾目	(31.0)	(9.1)	2.1	カシ材（観察）	63505.40	-67365.93	4.35
W030	3区	三又鍬	柾目	(34.1)	(6.4)	2.0	カシ材（観察）	63498.89	-67363.08	4.27
W031	3区	三又鍬	柾目	—	(9.9)	(2.7)	カシ材（観察）	63491.23	-67365.79	4.18
W032	3区	鍬取付具		9.3	3.7	3.7	カシ材（観察）	63491.80	-67365.58	4.19
W033	3区	鍬取付具		(10.3)	3.2	3.2	カシ材（観察）	63491.30	-67364.66	4.11
W034	2区	鍬取付具		(11.5)	3.0	(3.1)	カシ材（観察）	63500.29	-67365.50	4.62
W035	1区	鍬取付具	柾目	(23.1)	3.5	3.0	カシ材（観察）	63513.85	-67365.83	4.20
W036	3区	鍬柄		38.0	2.6	3.9	カシ材（観察）	63491.38	-67366.52	4.08
W037	3区	鍬取付具	柾目	15.8	3.1	3.1	カシ材（観察）	63490.70	-67364.25	4.51
W038	1区	鍬柄		(21.2)	3.0	2.6	カシ材（観察）	63515.65	-67365.94	4.18
W039	3区	鍬柄	芯去	(13.7)	3.9	—	カシ材（観察）	63490.38	-67366.19	4.27
W040	3区	一木鋤	柾目	48.5	(16.9)		カシ材（観察）	63494.11	-67365.01	4.83
W041	2区	一木鋤		(44.7)	(13.3)	1.2	カシ材（観察）	63500.85	-67364.18	4.12
W042	3区	狭幅鋤	柾目	(34.6)	13.9	2.1	カシ材（観察）	63499.15	-67362.69	4.30
W043	2区	二又鋤	柾目	(23.3)	(9.3)	2.2	カシ材（観察）			
W044	3区	一木二又鋤	柾目	(32.7)	(10.3)	2.5	カシ材（観察）	63498.35	-67362.61	4.84
W045	3区	鋤柄	芯去	(29.8)	9.5	3.0	カシ材（観察）	63496.00	-67364.90	4.76
W046	3区	一木鋤	柾目	104.5	14.1	2.6	カシ材（観察）	63490.44	-67364.25	4.75
W047	2区	一木二又鋤	柾目	84.6	(13.2)	3.0	カシ材（観察）	63503.37	-67366.29	4.11
W048	3区	鋤柄（把手部	柾目	(7.0)	12.0	3.1	カシ材（観察）	63490.92	-67366.40	5.79
W049	1区	鋤柄（把手部	柾目	(8.0)	(8.1)		カシ材（観察）	63514.00	-67366.16	4.15
W050	3区	掘棒	柾目	(44.9)	4.6	1.7		63494.75	-67365.05	4.73
W051	2区	掘棒		(40.2)	4.4			63499.84	-67362.46	4.93
W052	1区	掘棒か？(刀形)		49.6	3.4		先端マメツ	63512.16	-67365.73	4.40
W053	3区	鉄鎌柄	芯去	(25.1)	4.3	2.7	タイミンタチバナ	63495.62	-67365.57	4.71
W054	3区	鉄鎌柄	芯去	33.1	4.3	3.0	ヤマグワ	63497.70	-67363.69	4.88
W055		竪杵（細身		51.8	8.2					
W056	2区	竪杵	芯去	36.0	4.9			63506.41	-67364.73	4.71
W057	3区	竪杵	芯去	37.3	6.6			63492.50	-67365.72	4.78
W058	1区	竪杵（細身		41.0	2.9			63513.30	-67365.50	4.32
W059	3区	竪杵	芯去	(40.4)	7.2	—		63491.01	-67366.12	4.86
W060	3区	横槌	芯去	46.4	9.4			63490.45	-67364.76	4.44
W061	3区	竪杵・横槌	芯去	47.9	7.1			63494.89	-67366.98	5.00
W062	1区	竪杵・横槌	芯去	51.6	8.5			63514.20	-67365.38	4.45
W063	1区	竪杵・横槌		51.8	8.0			63511.72	-67365.10	4.48
W064	1区	竪杵	芯持	64.2	8.5			63513.66	-67366.01	3.95

（　　）は残存長・cm　　m

番号	地区	名　　称	木取り	最大長	最大幅	最大厚	備　　考	座標値(X)	座標値(Y)	標高
W065	3区	竪杵・横槌 転用		41.3	9.0			63491.59	-67365.92	4.45
W066	3区	竪杵・横槌	芯持	49.4	8.1			63495.20	-67365.35	4.89
W067	3区	臼		22.2	33.3			63491.90	-67365.82	4.66
W068	2区	臼（小型		14.8	12.5			63502.14	-67363.45	4.73
W069	4区	横杵	芯持	杵部長35.0	杵部幅8.3	—	マキ属	63481.74	-67359.68	5.23
W070	1区	沓		(29.0)	(7.6)	3.7	タブノキ属	63515.68	-67366.12	4.26
W071	3区	沓		27.5	(10.0)	4.4	タブノキ属	63491.50	-67362.85	5.02
W072	1区	沓		29.4	7.2	4.1	W073と接合　スダジイ	63514.95	-67366.78	4.47
W073	1区	沓		(28.6)	7.2	4.1	W072と接合	63493.25	-67365.01	4.57
W074	3区	沓		(22.2)	(10.8)	5.3	タブノキ属	63491.89	-67365.50	4.52
W075	3区	沓	芯去	(19.7)	(5.8)	5.6	クスノキ科	63492.14	-67367.95	4.72
W076	3区	縦斧屈曲柄	芯持	64.1	3.5		サカキ	63493.46	-67365.58	4.92
W077	3区	縦斧屈曲柄		79.8	2.8		サカキ	63493.06	-67365.33	4.88
W078	3区	縦斧屈曲柄	芯持	(39.4)	1.7	—	コナラ属コナラ亜属コナラ節	63491.65	-67356.59	4.70
W079	3区	縦斧屈曲柄頭		(15.4)	3.0		サカキ	63494.77	-67366.05	4.97
W080	3区	縦斧屈曲柄頭		(12.8)	3.0	—	サカキ	63496.23	-67364.93	4.80
W081	3区	縦斧屈曲柄頭	芯持	(13.4)	3.7		ツゲ？	63491.89	-67366.00	4.43
W082	3区	縦斧屈曲柄	芯持	(67.3)	3.0		サカキ	63490.02	-67364.68	4.58
W083	3区	斧屈曲柄	芯持	58.4			サカキ	63491.52	-67365.18	4.09
W084	4区	横斧屈曲柄	芯持	(19.4)	5.2		マツ属複維管束亜属	63480.76	-67359.53	5.07
W085	1区	横斧屈曲柄		(49.7)	6.8	3.0	環孔材	63512.22	-67365.88	4.60
W086	3区	横斧屈曲柄頭	芯持	—	6.9	—	クスノキ科	63495.83	-67364.33	4.76
W087	3区	斧屈曲柄頭	芯持	(9.9)	3.2		サカキ	63496.70	-67364.58	4.40
W088	1区	斧屈曲柄頭	芯持	(13.6)	3.5		コナラ属コナラ亜属コナラ節	63515.34	-67365.80	4.32
W089	1区	斧直柄（雇柄）		66.3	3.0		コナラ属アカガシ亜属	63513.12	-67365.99	4.27
W090	3区	斧屈曲柄	芯持	(37.5)	(3.2)		サカキ	63489.98	-67363.50	4.81
W091	1区	斧屈曲柄	芯持	55.5	5.5		カヤ？	63511.83	-67366.38	4.58
W092	3区	斧屈曲柄頭		(7.7)	4.2		クスノキ科	63491.35	-67366.14	4.49
W093	3区	斧屈曲柄頭	芯持	(9.1)	3.7	—	サカキ	63492.11	-67366.28	4.12
W094	3区	塗鏝か？	芯持	25.8	23.2	11.8	クスノキ科	63493.05	-67365.63	4.90
W095	3区	作業台	芯去	45.5	12.7	10.3		63495.70	-67365.47	4.90
W096	3区	作業台	芯去	(56.1)	(21.5)	12.0		63492.90	-67367.19	5.14
W097	3区	櫂状		(75.1)	8.5	2.0	ツブラジイ	63497.94	-67364.86	4.36
W098	3区	アカトリ		32.7	(17.8)	8.0	タブノキ属	63495.40	-67365.52	4.76
W099	3区	貝掘り具か？	柾目	(17.6)	10.5	1.5	カシ材（観察）	63491.97	-67366.63	4.85
W100	3区	銛	芯去	(36.1)	1.5		イスノキ	63491.32	-67364.91	4.12
W101	3区	匙	芯去	(15.8)	(8.5)	(7.3)		63493.20	-67365.40	4.96
W102	3区	匙		(30.1)	(11.6)	3.1		63491.33	-67364.07	4.87
W103	1区	匙		(25.6)	9.0	2.0		63515.83	-67365.78	4.52
W104	1区	匙		(24.5)	(6.4)	3.1		63513.56	-67365.19	4.48
W105	1区	匙		(16.1)	(4.9)	(4.0)		63513.03	-67365.33	4.49
W106	3区	匙		(16.3)	10.3	(2.7)		63495.47	-67364.89	4.71
W107	2区	匙		(12.1)	(6.0)	(2.6)		63500.24	-67364.90	4.52
W108	3区	匙	板目	(10.8)	5.7	(1.2)		63492.11	-67366.21	4.27
W109	2区	匙	柾目	(19.9)	6.2	(2.0)		63506.18	-67365.06	4.50
W110	3区	匙	芯去	(21.1)	(8.8)	(3.2)		63493.60	-67364.59	4.49
W111	1区	匙	柾目	(33.4)	(6.2)	2.7		63515.55	-67365.90	4.26
W112	3区	縦杓	芯去	(25.9)	(11.0)	(14.3)		63497.12	-67365.18	4.84
W113	3区	杓		(22.7)	11.0	(18.1)		63490.35	-67364.86	4.58
W114	2区	杓		31.9	15.0	—		63504.08	-67366.21	3.92
W115	3区	杓柄頭	芯持	(21.2)	(6.8)	—		63492.98	-67364.40	4.87
W116	3区	杓柄頭	芯持		5.7			63494.92	-67365.52	4.82
W117	3区	杓柄頭	芯持	(34.5)	4.0	—		63491.46	-67365.98	4.43
W118	2区	槽	芯去	48.5	29.6	16.0		63500.45	-67363.97	4.79
W119	3区	槽（脚付）椅子か？	芯去	(5.0)	(38.2)	(16.8)	クリ	63496.00	-67365.59	4.72
W120	2区	槽		(40.7)	(19.3)			63504.30	-67365.10	4.71
W121	3区	槽		46.1	12.9	7.0		63494.95	-67364.76	4.84
W122	2区	槽	芯去	46.0	31.5	10.5		63507.12	-67365.05	4.66
W123	2区	槽（脚付	芯去	(34.7)	(19.4)	9.7		63506.97	-67365.92	4.58
W124	2区	槽		28.9	13.7	5.8		63507.80	-67365.15	4.58
W125	3区	槽	芯去	(42.6)	15.0	7.0		63493.03	-67365.09	4.91
W126	2区	槽	芯去	34.7	(5.8)	(3.0)		63507.60	-67365.15	4.45
W127	3区	槽（脚付	芯去	25.5	(8.6)	(6.2)		63499.27	-67363.34	4.67
W128	3区	槽	芯去	34.5	(10.0)	(3.5)		63496.60	-67365.55	4.86

（　　）は残存長・cm　　m

番号	地区	名　　称	木取り	最大長	最大幅	最大厚	備　　考	座標値(X)	座標値(Y)	標高
W129	3区	槽	芯去	73.3	(6.4)	5.0		63496.50	-67365.17	4.66
W130	3区	槽	芯去	(26.5)	20.9	6.5		63491.52	-67366.03	4.40
W131	3区	槽	芯去	(23.8)	17.5	5.0		63490.56	-67365.34	4.41
W132	3区	槽未成品	芯持	57.0	19.3	13.9		63490.05	-67364.57	4.64
W133	1区	槽	芯去	(92.0)	(34.0)	(8.0)		63512.05	-67366.24	4.02
W134	3区	槽（脚付	芯去	45.8	28.4	6.5		63494.57	-67364.02	4.61
W135	3区	槽未製品	芯去	36.6	14.2	6.7		63491.07	-67365.15	4.45
W136	1区	槽（脚付	芯去	31.3	19.0	11.2	ツブラジイ	63514.98	-67365.68	4.01
W137		槽未製品（脚付	芯去	37.5	23.5	9.0				
W138	3区	槽		75.3	27.8	5.6		63491.44	-67365.86	4.21
W139	3区	槽	芯去	(39.6)	(11.2)	6.0		63491.44	-67365.02	4.11
W140	3区	容器？	芯去	(24.6)	(6.6)	4.2		63490.90	-67364.49	4.03
W141	1区	容器？		(22.0)	(5.6)	(3.5)		63511.18	-67365.69	4.32
W142	1区	木椀？		6.4	14.1	—		63515.37	-67366.14	3.91
W143	2区	盤（脚付	芯去	(30.3)	25.5	13.0		63507.97	-67365.75	4.41
W144	1区	盤（脚付	芯去	—	—			63513.46	-67365.53	4.37
W145	2区	用途不明木製品		(8.3)	(8.5)	4.1		63499.30	-67364.52	4.69
W146	1区	容器蓋	芯去	(18.0)	5.0	2.8	センダン	63512.66	-67365.97	4.48
W147	3区	容器蓋		28.3	10.1	1.7	クリ	63498.02	-67364.54	4.56
W148	2区	樽形容器	芯去	20.0	8.3	2.2		63507.70	-67365.35	4.65
W149	3区	板材	柾目	(10.8)	13.0	0.8		63494.20	-67361.53	4.71
W150	3区	円形板	柾目	(16.0)	(6.1)	1.0		63490.21	-67365.08	4.19
W151	3区	土器蓋	柾目	(27.1)	(18.2)	1.8		63492.85	-67365.71	4.79
W152	3区	土器蓋		37.1	20.5	1.4		63492.55	-67365.64	4.75
W153	2区	漆塗筒形容器		—	—	0.5	サクラ属	63507.80	-67365.35	4.65
W154	1区	容器蓋（小型	柾目	—	5.9	1.0		63496.06	-67367.37	4.45
W155	2区	火鑽臼		33.3	2.9	2.7		63506.93	-67365.38	4.18
W156	3区	木製紡錘車			(5.2)	(1.9)		63492.63	-67366.89	4.79
W157	3区	木製紡錘車			直径5.6	0.8		63491.98	-67366.87	5.70
W158	3区	用途不明		37.5	4.8	1.5		63495.98	-67364.50	4.76
W159	2区	容器吊取手		27.0	16.0	0.7		63506.59	-67364.82	4.67
W160	3区	案（脚	柾目	(25.2)	(7.8)	1.1	スギ材（観察）	63497.53	-67365.10	4.96
W161	2区	案（脚	柾目	(23.2)	6.6	0.9	スギ材（観察）	63504.30	-67364.73	4.73
W162	3区	案（脚	板目	25.7	(8.6)	1.2	スギ材（観察）	63498.34	-67363.49	4.83
W163	1区	案（脚		(23.4)	(7.1)	2.3	スギ材（観察）	63515.43	-67366.49	4.49
W164	1区	案（脚	柾目	(18.6)	9.6	0.9	スギ材（観察）	63515.36	-67365.99	4.53
W165	1区	案（脚	柾目	(18.9)	8.0	0.8	スギ材（観察）W171と接合	63513.65	-67366.20	4.56
W166	3区	案（脚	柾目	25.8	8.5	1.0	スギ材（観察）	63494.10	-67365.95	4.93
W167	3区	案（脚	柾目	26.0	8.5	1.0	スギ材（観察）	63491.00	-67366.40	4.57
W168	1区	案（挟板	柾目	35.2	3.5		スギ材（観察）	63514.25	-67366.19	4.55
W169	1区	案（挟板	柾目	31.5	3.6	0.5	スギ材（観察）	63514.25	-67366.19	4.55
W170	1区	案（鼻栓　一組	柾目	3.5	1.5	0.7	スギ材（観察）	63514.25	-67366.19	4.55
W171	1区	案（脚	柾目	9.5	4.3	0.9	スギ材（観察）W165と接合	63514.25	-67366.19	4.55
W172	1区	案（天板	柾目	59.1	(18.8)	1.1	スギ材（観察）	63514.25	-67366.19	4.55
W173	1区	案（天板	柾目	58.5	(9.3)	1.1	スギ材（観察）	63514.25	-67366.19	4.55
W174	1区	案（脚	柾目	24.5	9.2	1.0	スギ材（観察）	63516.24	-67366.62	4.48
W175	1区	案（脚	柾目	24.2	(8.2)	1.0	スギ材（観察）	63516.24	-67366.62	4.48
W176	1区	案（鼻栓		3.5	1.2	0.8	スギ材（観察）	63516.24	-67366.62	4.48
W177	1区	案（挟板　一組	柾目	35.4	3.8	1.0	スギ材（観察）	63516.24	-67366.62	4.48
W178	1区	案（挟板	柾目	(31.9)	3.7	0.8	スギ材（観察）	63516.24	-67366.62	4.48
W179	1区	案（天板	柾目	(23.5)	(5.3)	1.0	スギ材（観察）	63516.24	-67366.62	4.48
W180	3区	案（天板	柾目	(34.3)	9.4	1.0	刃物キズあり、スギ材(観察)	63491.81	-67367.72	4.79
W181	3区	案（挟板	板目	(9.0)	2.5	1.3	スギ材（観察）	63490.20	-67365.01	4.87
W182	3区	案（鼻栓　一組	柾目	3.8	1.3	0.7	スギ材（観察）	63490.20	-67365.01	4.87
W183	3区	案（脚	柾目	24.8	(6.4)	1.2	スギ材（観察）	63490.20	-67365.01	4.87
W184	3区	一木机		54.2	42.5	15.0	スダジイ	63491.90	-67365.18	4.81
W185	3区	木鏃		8.5	1.4		マツ属複維管束亜属	63495.10	-67363.95	4.93
W186	2区	木鏃		13.5	1.9	0.9	イスノキ	63507.10	-67365.13	4.01
W187	3区	鉄刃束	芯持	(13.0)	4.1	1.9	マツ属複維管束亜属	63496.49	-67365.23	4.76
W188	2区	飾板		(33.3)	(15.0)	2.3	クスノキ科	63508.08	-67365.38	4.07
W189	3区	盾		(19.7)	(4.7)	0.4	片面赤色顔料塗布　モミ属	63490.84	-67364.23	4.44
W190	3区	盾	板目	(22.2)	(5.5)	0.4	片面赤色顔料塗布	63492.85	-67364.99	4.75
W191	2区	ねずみ返し		49.1	40.8	4.2		63507.95	-67365.19	4.58
W192	3区	ねずみ返し		61.6	32.1	4.0		63491.20	-67364.45	4.62

（　　）は残存長・cm　　m

番号	地区	名　　称	木取り	最大長	最大幅	最大厚	備　　考	座標値(X)	座標値(Y)	標高
W193	3区	蓋状	柾目	46.1	(33.8)	(4.5)		63498.89	-67362.20	4.90
W194	3区	蓋状	板目	50.6	(34.0)	4.5		63492.29	-67367.05	4.85
W195	1区	建物部材		(137.0)	21.0	35.0		63511.20	-67366.13	4.05
W196	2区	建物部材		(132.0)	24.0	32.0		63507.40	-67366.08	4.15
W197	2区	梯子		196.0	135.0	80.0		63499.92	-67363.15	4.86
W198	3区	梯子？		(195.0)	30.0	(7.0)		63498.90	-67362.87	4.62
W199	3区	建築部材	芯去	115.8	(15.6)	5.2		63492.95	-67365.17	4.99
W200	3区	板材		47.8	(27.0)	2.2		63497.42	-67364.87	4.86
W201	3区	用途不明木製品		(48.1)	(20.8)	(10.5)		63491.00	-67363.83	4.63
W202	3区	板材		66.8	(35.2)	2.3		63494.36	-67366.52	5.04
W203	3区	建築部材	芯去	19.1	(7.7)	3.0		63493.25	-67365.49	4.82
W204	2区	部材	芯去	(24.9)	(6.1)	4.0		63499.97	-67362.80	4.77
W205	3区	建築部材	芯去	(13.2)	(7.6)	3.2	広葉樹（観察）	63492.95	-67367.30	5.09
W206	3区	建築部材	板目	(11.3)	5.9	1.6		63491.42	-67366.20	4.43
W207	3区	用途不明木製品	芯去	(18.9)	(12.1)	6.5		63491.35	-67356.40	4.69
W208	3区	部材	芯持	(10.0)	9.6	—		63490.47	-67364.65	4.20
W209	3区	部材	芯去	50.5	14.9	8.4		63490.85	-67363.75	4.47
W210	3区	建築部材		54.3	(9.9)	2.8		63490.58	-67364.82	4.43
W211	1区	把手	芯去	(19.2)	(2.6)	(5.8)		63514.64	-67366.53	4.23
W212	1区	用途不明木製品		(31.2)	(3.5)	1.5？		63514.95	-67366.78	4.47
W213	1区	有頭	芯持	11.5	3.8	4.5		63515.56	-67366.62	4.08
W214	1区	有頭	芯持	(11.4)	4.1	3.5		63513.49	-67365.99	4.23
W215	3区	有頭	芯持	17.1	6.1	(4.5)		63494.53	-67364.92	4.68
W216	1区	有頭		(32.0)	3.9	1.8		63513.50	-67365.37	4.39
W217	1区	有頭		(2.9)	4.0	1.3				
W218	3区	板材	芯去	(18.8)	(5.8)	1.3		63497.60	-67364.38	4.55
W219	1区	鍬のクサビ		12.6	12.2	1.3		63511.82	-67365.89	4.50
W220	1区	用途不明		(83.4)	4.1	0.9		63513.50	-67365.40	4.13
W221	3区	井泉の堰		330.0	(38.0)	5.0	コナラ属アカガシ亜属	—	—	—
W222	3区	背負梯子（組合せ）		(69.4)	7.0	2.0	コナラ属アカガシ亜属	63491.10	-67365.85	4.40
W223	3区	背負梯子(未製品)	芯持	—	4.0	—	サカキ	63492.27	-67366.30	4.33
W224	3区	背負梯子(未製品)		—	4.5	—		63492.27	-67366.35	4.33
W225	1区	背負梯子					サカキ	63516.24	-67366.62	4.48
W226	3区	背負梯子		(31.6)	3.5			63498.99	-67365.66	4.78
W227	3区	しゃもじ形		46.1	8.0	1.6		63490.65	-67364.18	4.10
W228	3区	用途不明	柾目	(22.8)	(11.6)	(1.2)	カシ材（観察）	63491.48	-67365.60	4.18
W229	1区	用途不明					コナラ属アカガシ亜属	63516.24	-67366.62	4.48
W230	1区	用途不明		(19.0)	9.0	1.5	タブノキ属	63515.82	-67367.73	4.64
W231	1区	棒状	芯持	(69.0)	2.5			63511.68	-67365.77	4.39
W232	1区	棒状	芯持	(57.5)	2.7			63511.50	-67364.89	4.41
W233	1区	棒状（ヤス？		48.1	1.5	1.5		63512.23	-67365.55	4.13
W234	3区	棒状	芯持	(50.8)	2.3			63490.05	-67364.15	4.73
W235	1区	棒状		51.2	1.3			63515.12	-67365.75	4.20
W236	3区	棒状		(50.0)	2.1	2.1		63492.90	-67364.12	4.39
W237	3区	棒状	板目	(16.7)	3.7	1.4		63497.00	-67364.58	4.44
W238	1区	棒状		(27.7)	1.2			63515.60	-67365.02	4.58
W239	3区	棒状（刀形		29.8	2.0			63492.08	-67366.38	4.26
W240	1区	棒状（刀形	芯去	20.1	2.1	1.7	コナラ属アカガシ亜属	63512.20	-67365.63	4.39
W241	3区	棒状	芯持	(41.5)	2.2	2.4	先端部平坦	63497.23	-67364.52	4.33
W242	2区	棒状		25.2	3.1	2.2		63517.69	-67365.99	4.31
W243	3区	棒状	芯去	(35.2)	2.6			63492.06	-67366.19	4.26
W244	3区	用途不明	柾目	(14.9)	(3.5)	1.3		63498.77	-67362.60	4.08
W245	1区	用途不明		27.7	4.7			63511.90	-67365.20	4.45
W246	3区	用途不明	芯去	(20.9)	3.6	2.8		63491.92	-67365.58	4.18
W247	1区	用途不明		13.0	(6.9)	(5.0)		63512.39	-67365.37	4.35
W248	3区	用途不明	柾目	—	11.2	1.6		63497.22	-67364.60	4.48
W249	1区	用途不明		(12.7)	(4.8)	2.9	赤色顔料塗	63513.97	-67365.35	4.47
W250	3区	用途不明	柾目	(20.7)	(8.4)	1.2		63492.13	-67366.90	4.69
W251	3区	用途不明	柾目	15.4	10.8	2.8		63491.40	-67366.02	4.06
W252	2区	用途不明	芯持	(32.0)	5.8	6.0		63500.79	-67364.47	4.55
W253	1区	用途不明		50.5	1.7	2.3		63514.87	-67365.90	4.16
W254	3区	用途不明		40.0	(6.6)	2.1		63495.19	-67364.76	4.57

3　まとめ

まず、調査終了後環状に巡る溝であると認識された環濠SD-01であるが、その環濠掘削に先行してSD-01(A)が存在していたことは明らかである。その先行する溝が人為的な掘削によるものか自然流路であるかは不明であるが、集落中心部の外側にあたる西側肩部からは丹塗磨研の祭祀土器が集中して出土している。

井泉は、環濠SD-01掘削と同時期に計画的に敷設されている。ただしその配置は、環濠の外側にとり付くように掘削していることに注意が必要である。環濠が埋没を始めても井泉部は幾度か掘り返され、使用目的の変化はあるものの窪み自体は古墳時代初頭まで継続していたようである。

環濠、井泉内からは大量の土器とともに多くの木製品が遺存しており、良好な資料を得ることができた。木製資料を概観すると、まず、多くの起耕具が目につく。広鍬の中には、五郎江タイプと呼称可能な段を有する特徴的なものが見られる。北部九州の広鍬生産地問題とも関係し、注目される。また、漆による装飾性の高い筒形容器、組合せ式で直柄の斧柄、複数の組合せ案、その他多くの農具、漁労具、生活具、武具などその種類は広範囲にわたる。

土器類については、特にSD-01が機能を失った後、溝の上面に堆積する土器群と溝を完全に埋没させた黒色土層から、多くの注目される遺物が出土している。まず、三韓系土器、楽浪系土器など半島系の土器が出土している。また、国内では、東海、畿内、山陰、北四国、瀬戸内などからの搬入もしくは影響を受けた土器も見られる。そして、赤色顔料である水銀朱の精製等に関係すると考えられている広片口皿の破片と水銀朱が付着した石杵が出土している。広片口皿片W381の外面には水銀朱の液だれが見られ、内容物が液状であったことがうかがえる。

石器類では、砥石、石包丁以外に石錘の出土が多い。石錘には、扁平な自然石に敲打を加えたものから、滑石を丹念に磨き穿孔を施す各種のものが多量に出土している。また、海岸に漂着したであろう軽石に加工を施し、網のブイに使用したと考えられるW410なども漁労方法の復元において注目される。

出土遺物における漁労関係資料の多さは、この集落の漁労に対する比重の大きさを表していると考えられる。そして、その主な活動海域は、今山より西側にあった古今津湾側よりも、博多湾から続く現在の今津湾側と推測される。当時、今山から東へ弧を描き伸びる砂丘上は、今宿遺跡での調査でも明らかなように古くから安定した地であり、その後背湿地の形成は著しいものであったと想像される。また、女原遺跡側から海側へ舌状に伸びる丘陵も、その成長を加速させるものと考えられる。つまり、後背湿地の形成状況と、今宿五郎江遺跡の立地を考えると、舟を海に直接漕ぎ出すには、現在の鯰川河口付近から現今津湾側へ向かう方が容易であったと考えられるのである。漁労具の使用方法の復元などから、漁場の環境などが推測される可能性も今後期待したい。また、伊都国域内では最も東に位置する拠点集落であり、漁場を共有したであろう奴国との交流を含めた影響がどのようなものであったかの解明も今後の課題の一つでもある。

今回確認された遺構は環濠とその外側であることから、掲載した資料は環濠と遺物包含層出土の遺物である。その遺構の性格もあり厳密な遺物の取り上げができず、ノイズの多いものとなってしまったが、今回の報告書では極力多くの遺物を掲載することに主眼を置いた。現在も、12次調査以外の出土品整理は続けられており、今後も継続的に資料は公表されていく。その資料総数は膨大なものであり、この遺跡に対する総括的なまとめは、後の報告書に譲りたい。

今宿五郎江遺跡第12次出土動物遺存体について

福岡市教育委員会埋蔵文化財第1課　　屋山　洋

弥生時代後期前葉から古墳時代初頭の環濠から数点の動物遺存体が出土した。これらは覆土のフローテーションや篩を使用した水洗選別法は行っておらず、掘り下げ時に気づいた骨を取り上げたものである。出土した動物遺存体はイノシシとシカで弥生時代から出土する動物としては一般的な種である。65505001はイノシシ下顎で、現在細片化しているが、元々は下顎枝を欠いた状態で出土した。M3が萠出中で若い個体である。右顎先端部舌側に解体痕があり、舌をはずした可能性がある。下顎枝を欠くのは上顎からはずすときに切断したものと思われる。65505003、65505004は上顎と下顎のM3の歯冠のみでいずれも咬耗は弱く比較的若い個体と思われる。出土地区が違うものの、溝から出土したのがすべて頭蓋部であることから何らかの祭祀が行われた可能性も考えられるものの、出土数が少ないため詳しいことは不明である。65505002はシカの橈骨である。遠位端を欠く。イヌの咬痕があり、塵穴からイヌが咥えてきたものであろう。

表　　今宿五郎江12次出土動物遺存体一覧

	地区	遺構番号	大分類	小分類	部位名	左右	部分１	部分２	成長度	切　痕	火熱	備　考
65505001	SD-01	1区壁	哺乳類	イノシシ	下顎		下顎枝欠損	M3・M4以外の歯冠は細片化	M3萠出中	下側に断面U字型の傷有り	なし	
65505002	SD-01	2区黒色土	哺乳類	シカ	橈骨	左	遠位端欠損		骨化済み	あ　り	なし	犬咬痕あり
65505003	SD-01	2区黒色土	哺乳類	イノシシ	M3 下顎	左	歯冠のみ		咬耗弱(成獣)	な　し	なし	
65505004	SD-d	3区土器溜まり	哺乳類	イノシシ	M3 上顎	右	歯冠のみ		咬耗弱(成獣)	な　し	なし	

65505001　右顎

65505001　左顎

65505001　右顎先端部

65505004

655005003

65505002

今宿五郎江遺跡第12次出土木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今宿五郎江遺跡は、今宿平野南端の丘陵末端から沖積平野に位置する。これまでの調査により、弥生時代後期や平安時代の遺構・遺物が検出されている。第12次調査区は、今宿五郎江遺跡の範囲西縁部にあたり、西に隣接する大塚遺跡の範囲と接している。

今回の分析調査では、弥生時代後期後半～終末の木製品を対象として、木材利用を明らかにするための樹種同定を実施する。

1.試料

試料は木製品48点で、当社技師1名が収蔵施設へ赴いて採取した。このうち、取上げ番号R42は、W225とW229の2点があり、接合関係を確認できなかったことから、それぞれから試料を採取する。また、遺物番号W089は、柄本体、軸、軸を止めるためのホゾ計3点の部品で構成されており、それぞれから試料を採取する。したがって、合計点数は51点である。このうち、W153、W189、W252の3点を除く48点は、PEGによる保存処理済みである。

2.分析方法

保存処理済みの木製品は、木取りを観察した上で、採取箇所を水で湿らせた後、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製する。保存処理をしていない3点は、木取りを観察した上で、3断面の徒手切片を作製する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3.結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹4分類群(マツ属複維管束亜属・モミ属・マキ属・カヤ)と広葉樹14分類群(コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ・ツブラジイ・スダジイ・ヤマグワ・タブノキ属・クスノキ科・サカキ・イスノキ・サクラ属・センダン・ツゲ?・タイミンタチバナ)に同定された。なお、W085(横斧柄)は、環孔材の道管配列を有する広葉樹であるが、組織の保存状態が悪く、種類の同定には至らなかった。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属（Pinus subgen. Diploxylon）　マツ科

いずれも木口面の切片が採取できないか、できても状態が悪い。軸方向組織は、仮道管と垂直樹脂道で構成される。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となり、1分野に1個。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・モミ属（Abies）　マツ科

試料は盾1点(W189)のみで、木口面の切片が採取できなかった。軸方向組織は、観察した範囲では仮道管のみで構成される。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

・マキ属（Podocarpus）　マキ科

軸方向組織は、仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・カヤ?（Torreya nucifera Sieb. et Zucc.?）　イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1～10細胞高。

観察された特徴や遺跡の位置からカヤの可能性が高いが、らせん肥厚の有無が明確ではないため、カヤ?とした。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（Quercus subgen. Quercus sect. Prinus）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属（Quercus subgen. Cyclobalanopsis）　ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・ツブラジイ（Castanopsis cuspidata (Thunberg) Schottky）　ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1～2個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと集合～複合放射組織とがある。

・スダジイ（Castanopsis cuspidata var. sieboldii (Makino) Nakai）　ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1～2個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。

ツブラジイとスダジイは、集合～複合放射組織の有無で区別されるが、ツブラジイの集合～複合放射組織は、個体によっては少ないことがあり、採取した切片の範囲では確認できない場合がある。そのため、スダジイとした試料の中にツブラジイが混じっている可能性があるが、本報告では観察した範囲で集合～複合放射組織が認められた試料をツブラジイ、認められなかった試料をスダジイとして区別した。

・ヤマグワ（Morus australis Poiret）　クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は3～5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2～5個が塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～6細胞幅、1～50細胞高。

・タブノキ属（Persea ）　クスノキ科

散孔材で、管壁は厚く、横断面では楕円形、単独または2個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状、翼状および散在状。柔細胞はしばしば大型の油細胞となる。

・クスノキ科（Lauraceae）

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

・サカキ（Cleyera japonica Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.）　ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2～3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1～20細胞高。

・イスノキ（Distylium racemosum Sieb. et Zucc.）　マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1～3細胞幅、１～20細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、放射方向にほぼ等間隔に配列する。

・サクラ属（Prunus）　バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または2～6個が複合、年輪界に向かって管径を漸減させながら散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～30細胞高。

・センダン（Melia azedarach L. var. subtripinnata Miquel）　センダン科センダン属

環孔材で、小片のため孔圏部の幅は不明。孔圏外の小道管は横断面では多角形で多数が集まって複合管孔をなす。大道管内に茶褐色の充填物が認められる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～4細胞幅、1～30細胞高。

・ツゲ（Buxus microphylla Sieb. et Zucc. var. japonica (Muell.Arg.)Rehd.et Wils）　ツゲ科ツゲ属

散孔材で、道管径は極めて小径、管壁は厚～中庸で、横断面では角張った楕円形、ほぼ単独で散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～30細胞高。

観察された特徴からツゲと考えられるが、道管内壁の壁孔など、一部観察できない組織があるため、ツゲ?とした。

・タイミンタチバナ（Myrsine seguinii Lev.）　ヤブコウジ科ツルマンリョウ属

散孔材で、道管は単独もしくは2個が放射方向または接線方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は大型の異性で、1～8細胞幅、100細胞高以上。

4.考察

木製品は、工具(斧柄・塗鏝)、農耕具(平鍬・横杵・鎌柄)、運搬具(櫂状・背負子・木樋の転用材?)、漁労具(アカトリ)、武器・武具(木鏃・束・盾・短甲)、服飾具(沓)、容器(槽・容器蓋)、調度(一木机)、祭祀具(武器形)、その他(用途不明等)に分けられる。これらの木製品には、合計18分類群が確認され、広葉樹のサカキ、アカガシ亜属等が比較的多い。

工具には斧柄と塗鏝があり、斧柄および斧柄の部品が今回の分析試料51点中20点を占めている。斧柄の本体18点のうち、直柄1点(W089)を除く17点は、樹木の枝分かれ部分を利用しており、装着部を幹(あるいは太枝)、柄を枝（あるいは小枝）とする木取りで、柄部分は芯持丸木となる。これらの斧柄にはサカキが多く、他に針葉樹の複維管束亜属、カヤ?、広葉樹のコナラ節、ツゲ?、クスノキ科、種類不明の環孔材が利用されている。斧の形態・用途別にみると、横斧(W085,086,084)でサカキが利用されていず、木材利用が異なる可能性がある。一方斧直柄(W089)は、柄の本体を分割材から削り出しており、ホゾにより斧軸を固定している。部品も含めて全てアカガシ亜属が利用されており、他の斧柄とは木材利用が異なる。塗鏝は、輪切りの芯持丸木を利用して、把手を削り出している。樹種は、広葉樹のクスノキ科であった。

農耕具では、平鍬、横杵、鎌柄がある。平鍬は、柾目板状を呈しており、アカガシ亜属が利用さ

れており、これまでの多くの調査事例とも調和的である。横杵は、枝分かれ部分を利用しており、幹(太枝)を打撃部、枝(小枝)を柄とする。打撃部と柄は、いずれも芯持丸木である。樹種は針葉樹のマキ属であり、比較的緻密で重硬な木材が利用されている。鎌柄は、いずれも分割材を削り出した棒状を呈している。樹種は、W054がヤマグワ、W053がタイミンタチバナであり、少なくとも2種類の木材が利用されていたことが推定される。これまでの調査事例では、拾六町ツイジ遺跡でヤマグワが確認された例があり、今回の結果とも調和的である(福岡市教育委員会,1983)。なおタイミンタチバナについては、これまで確認されていないが、今回の同定結果から農耕具に利用されていたことが明らかとなった。

運搬具では、櫂状木製品、背負子、丸木舟の転用材?がある。櫂状木製品は、柾目板状を呈しており、広葉樹のツブラジイが利用されている。背負子は、完成品(W222)と未成品(W223)とがある。前者がアカガシ亜属、後者がサカキであり、樹種は異なるが強度の高い木材を利用している点で共通する。また、背負子･用途不明木製品とされる2点(W225,229)もアカガシ亜属とサカキであり、樹種からみれば背負子と同様の木材が利用されている。丸木舟の転用材？or木樋とされる資料(W221)は、大型の半裁木状で、内部を刳り貫いている。強度の高いアカガシ亜属が利用されている。福岡県内では、近世の構造船を除けば、船材にアカガシ亜属が確認された事例は知られていないため、今回の資料も丸木舟以外の用途に利用された可能性もある

漁労具では、アカトリ1点がある。一木から柄と身を削り出しており、身の部分が板目となる木取りである。タブノキ属が利用されており、耐朽性のある木材を選択したことが推定される。福岡県内では、タブノキ属の利用例は確認できないが、辻田遺跡の弥生時代終末とされるアカトリにクスノキが利用されており(松本・林,1979)、タブノキ属と同様の木材利用例と考えられる。

武器・武具は、木鏃、束、盾、短甲がある。木鏃は、円錐形状となる資料(W185)と、柳葉状となる資料(W186)とがあり、共に削り出して作られている。樹種は、前者が複維管束亜属、後者がイスノキである。複維管束亜属は、針葉樹としては重硬であるが、広葉樹と比較すると軽く強度も低いため、実用品ではない可能性がある。一方イスノキは、日本産広葉樹の中でもとくに重硬で強度が高い木材である。木鏃にイスノキを利用する例は、拾六町ツイジ遺跡や比恵遺跡で確認されており、今回の結果とも調和的である(福岡市教育委員会,1983,1991)。また、今回の結果から、水系の異なる今宿平野でも木鏃にイスノキを利用したことが推定される。

束は、形状から鉄器用と考えられている。芯持材を削りだして作っており、樹種は複維管束亜属であった。盾は、板目板で、赤漆が塗布されている。樹種はモミ属であり、盾として最も一般的な樹種・木取りである。福岡市内では、那珂君休遺跡7次で古墳時代初頭～前期の資料が報告されているが、今回の結果から、同様の木合い利用が弥生時代後期～終末にも見られたことが推定される。短甲は、板目板状を呈しており、樹種はクスノキ科であった。

服飾具では、沓が5点あり、いずれも沓底が板目となる木取りである。5点の資料は、3点がタブノキ属で、他にクスノキ科とスダジイが各1点ある。この結果から、タブノキ属やクスノキ科を中心とした木材利用が推定される。タブノキ属やクスノキ科は、樟脳を含み耐朽性を有することから、こうした材質から利用された可能性がある。なお、沓については、拾六町ツイジ遺跡の弥生時代前期後半とされる資料にクスノキ、那珂君休遺跡7次の古墳時代初頭～前期とされる資料にクリが確認された例がある(福岡市教育委員会,1983;株式会社古環境研究所,1998)。

容器では、槽と容器蓋がある。槽は、円弧状～半裁木状の木材を木裏側から刳り貫き、木表側に4本の脚を削り出しており、刳り貫いた槽の底面が板目になる木取りである。樹種はツブラジイであり、比較的強度の高い木材が利用されている。槽については、クスノキの利用が比較的多く、広葉樹のハンノキ属、クリ、アカガシ亜属(カシ)、コナラ節、ヤブニッケイ、針葉樹のスギ、ヒノキ等が利用されている。ツブラジイの利用例は知られていないが、比較的強度の高い広葉樹の利用が多い

点は、今回の結果とも調和的といえる。一方、容器蓋(W146,147)は、いずれも板目板状を呈しており、W146が側面で半円形を呈し、W147は側面が平坦な板状で内部を刳り貫いている。前者がセンダン、後者がクリであり、いずれも広葉樹材が利用されている。

調度の一木机は、半裁木状の木材の樹芯側を平坦面として、外側に脚を削り出している。樹種は、スダジイであり、比較的強度の高い木材を利用したことが推定される。また、祭祀具は、武器形(戈？)木製品1点がある。板目板状を呈しており、樹種はタブノキ属であった。

その他のうち、W153は、板目板状を呈しており、表面には黒漆が塗布され、赤漆で細い線が書かれている。線は3本が1セットとなり、板の2箇所に3セット、端部に少なくとも9セットが書かれている。同様の資料は、これまでにもいくつか報告されており、容器の破片等と考えられているが、樹種に関する資料はほとんどない。今回の結果から、緻密で強度の高いサクラ属が利用されていたことが推定される。サクラ属を容器に利用する例は、福岡県内では確認できないが、佐賀県の菜畑遺跡から出土した弥生時代前期初頭の資料や大分県の下郡桑苗遺跡から出土した弥生時代前期後葉～中期前葉の資料等が知られている(嶋倉,1982;能城,1992)。

引用文献

福岡市教育委員会,1983,拾六町ツイジ遺跡　福岡市城原小学校建設地内遺跡調査報告書.福岡市埋蔵文化財調査報告書第92集,117p.（1983）

福岡市教育委員会,1991,比恵遺跡群(10).福岡市埋蔵文化財調査報告書第255集,246p.

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東　隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東　隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東　隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東　隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東　隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

株式会社古環境研究所,1998,福岡市，那珂君休遺跡出土木材の樹種同定.「那珂君休遺跡VII」,福岡市埋蔵文化財調査報告書第587集,福岡市教育委員会,69-80.

松本　昜・林　弘也,1979,辻田遺跡から出土した木材資料の樹種同定について.「山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第12集」,福岡県教育委員会,144-155.

能城　修一,1992,大分県大分市下郡桑苗遺跡（第2次調査）から出土した木製品の樹種.「下郡桑苗遺跡II」,大分県文化財調査報告書第89輯,122-143.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東　隆夫・藤井　智之・佐野　雄三・安部　久・内海　泰弘（日本語版監修）,海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地　謙・伊東　隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

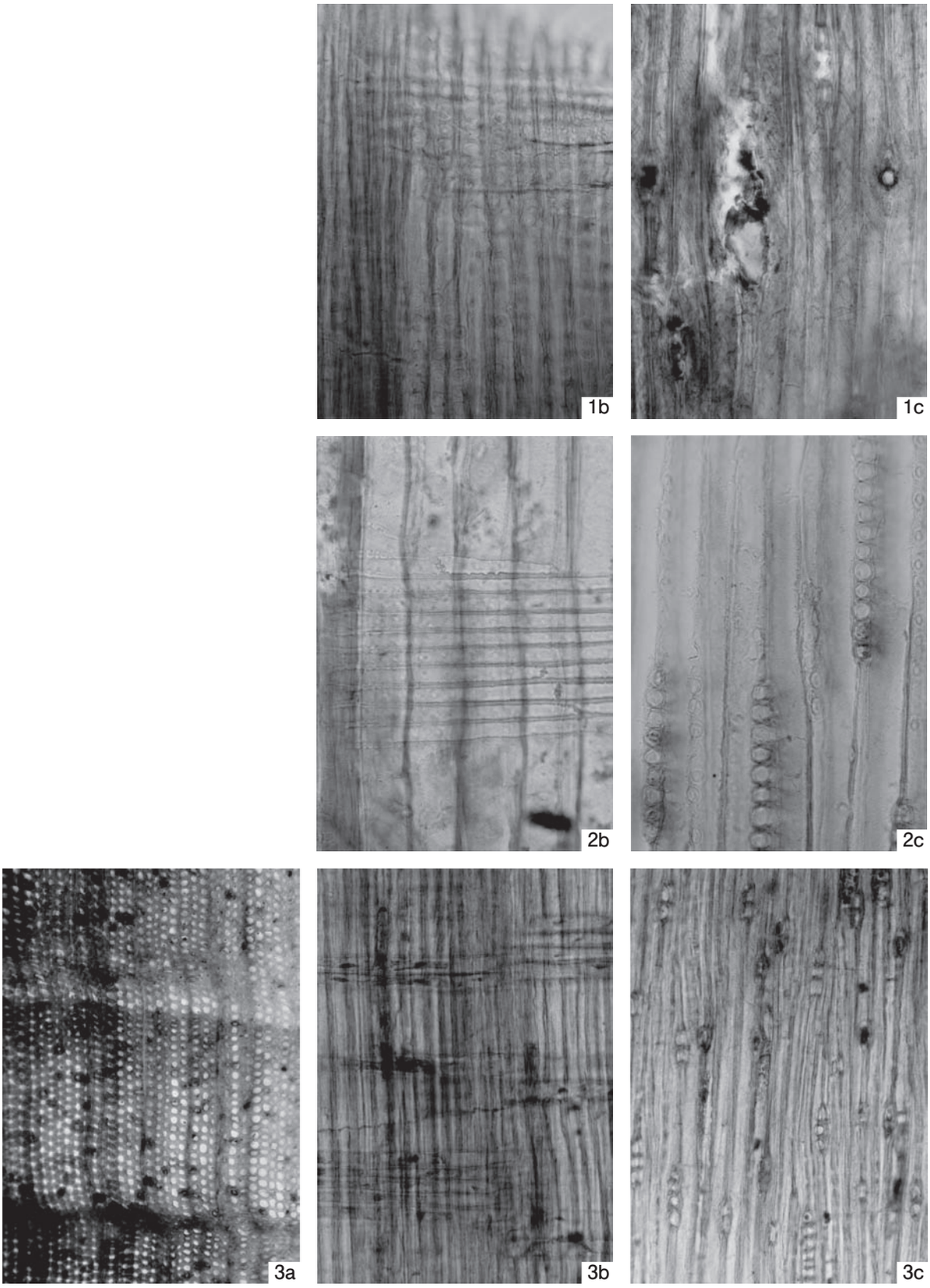
嶋倉　巳三郎,1982,菜畑遺跡から出土した木製品の樹種.「菜畑遺跡　唐津市菜畑字松円寺所在の縄文･弥生時代稲作遺跡の調査(分析･考察編)」,唐津市文化財調査報告書第5集,唐津市教育委員会,430-446.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東　隆夫・藤井　智之・佐伯　浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

表1　樹種同定結果

遺物番号	器　種・部　位		木　取　り	樹　　種
W010	広鍬		柾目	コナラ属アカガシ亜属
W053	鉄鎌柄		削出棒状	タイミンタチバナ
W054	鉄鎌柄		削出棒状	ヤマグワ
W069	横杵		芯持丸木	マキ属
W070	沓		板目	タブノキ属
W071	沓		板目	タブノキ属
W072	沓		板目	スダジイ
W074	沓		板目	タブノキ属
W075	沓		板目	クスノキ科
W076	縦斧屈曲柄		芯持丸木	サカキ
W077	縦斧屈曲柄		芯持丸木	サカキ
W078	縦斧屈曲柄		芯持丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
W079	縦斧屈曲柄頭		芯持丸木	サカキ
W080	縦斧屈曲柄頭		芯持丸木	サカキ
W081	縦斧屈曲柄頭		芯持丸木	ツゲ？
W082	縦斧屈曲柄		芯持丸木	サカキ
W083	斧屈曲柄		芯持丸木	サカキ
W084	横斧屈曲柄		芯持丸木	マツ属複維管束亜属
W085	横斧屈曲柄		芯持丸木	環孔材
W086	横斧屈曲柄頭		芯持丸木	クスノキ科
W087	斧屈曲柄頭		芯持丸木	サカキ
W088	斧屈曲柄頭		芯持丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
W089		柄	削出丸木	コナラ属アカガシ亜属
	斧直柄(雇柄)	ホゾ	柾目	コナラ属アカガシ亜属
		軸	柾目	コナラ属アカガシ亜属
W090	斧屈曲柄		芯持丸木	サカキ
W091	斧屈曲柄		芯持丸木	カヤ？
W092	斧屈曲柄頭		芯持丸木	クスノキ科
W093	斧屈曲柄頭		芯持丸木	サカキ
W094	塗鏝か？		芯持丸木	クスノキ科
W097	櫂状		柾目	ツブラジイ
W098	アカトリ		板目	タブノキ属
W100	銛		削出丸木	イスノキ
W119	槽(脚付)椅子か？		板目	クリ
W136	槽(脚付)		板目	ツブラジイ
W146	容器蓋		板目	センダン
W147	容器蓋		板目	クリ
W153	漆塗筒型容器		板目	サクラ属
W184	一木机		板目(半裁木状)	スダジイ
W185	木鏃		削出丸木	マツ属複維管束亜属
W186	木鏃		削出	イスノキ
W187	鉄刃束		芯持削出棒状	マツ属複維管束亜属
W188	短甲		板目	クスノキ科
W189	盾(赤色顔料塗布)		板目	モミ属
W221	井泉の堰(丸木舟の転用？		板目(半裁木状)	コナラ属アカガシ亜属
W222	背負子(組合せ)		柾目	コナラ属アカガシ亜属
W223	背負子(未製品)		芯持丸木	サカキ
W225	背負子		芯持丸木	サカキ
W229	用途不明木製品		板目	コナラ属アカガシ亜属
W230	用途不明木製品(武器形？		板目	タブノキ属
W240	棒状		柾目	コナラ属アカガシ亜属

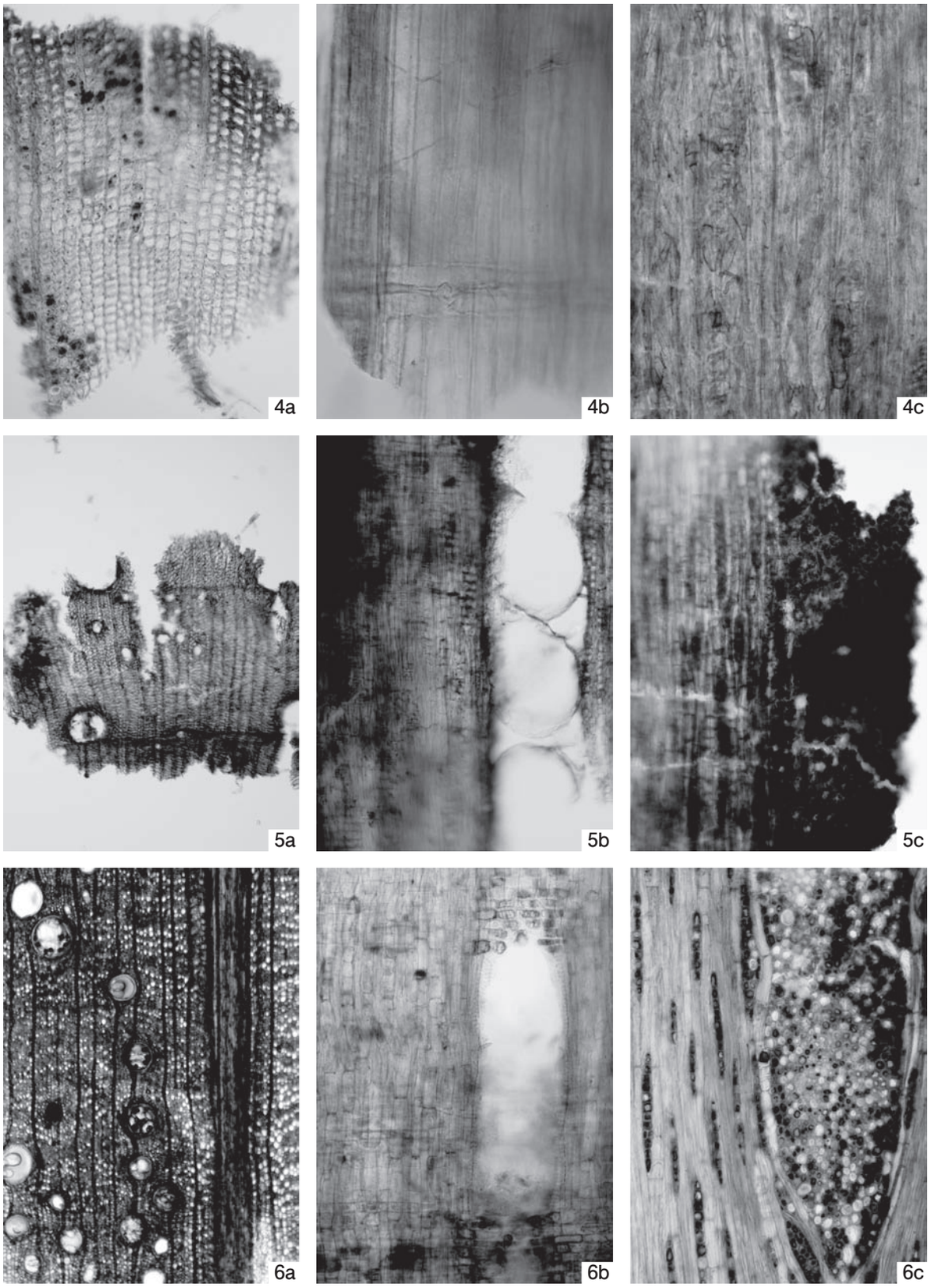
図版 1　木材(1)



1. マツ属複維管束亜属(W084)
2. モミ属(W189)
3. マキ属(W069)
　a：木口，b：柾目，c：板目

200 μm:a
100 μm:b,c

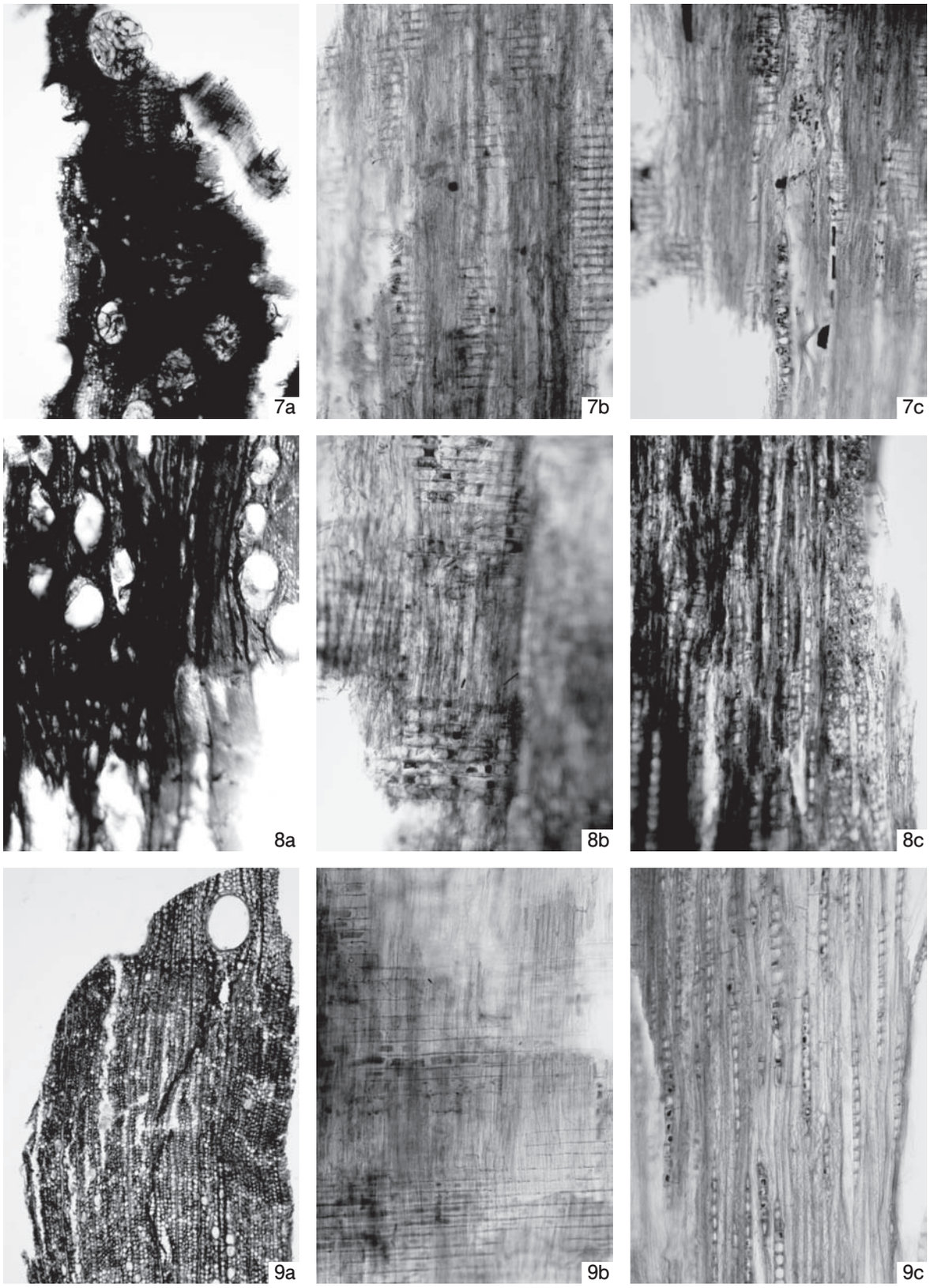
図版２　木材(2)



4. カヤ？(W091)
5. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(W078)
6. コナラ属アカガシ亜属(W221)
　a：木口，b：柾目，c：板目

300μm:5-6a
200μm:4a,5-6b,c
100μm:4b,c

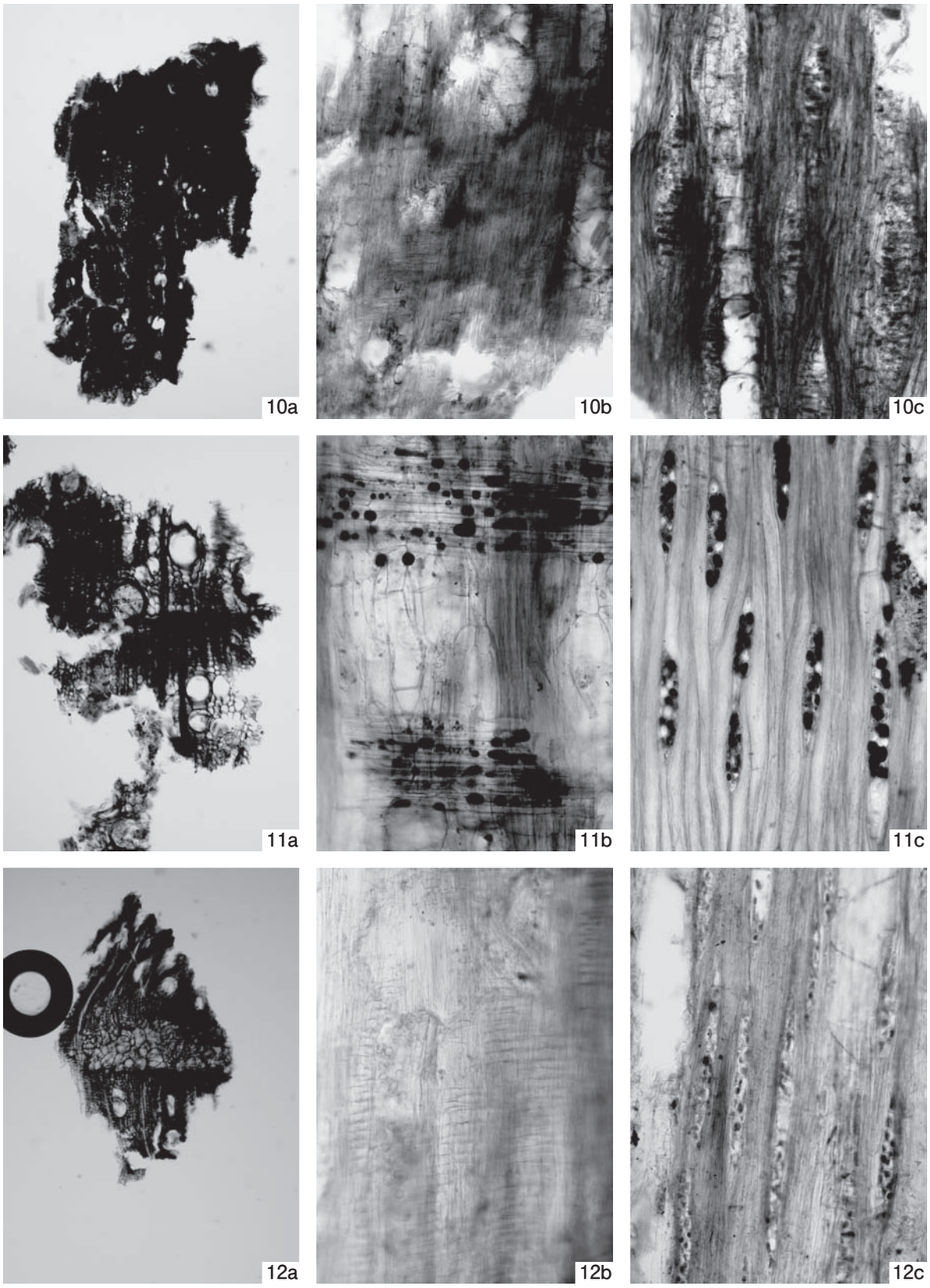
図版３　木材(3)



7. クリ(W147)
8. ツブラジイ(W097)
9. スダジイ(W184)
　a：木口，b：柾目，c：板目

300 μm:a
200 μm:b,c

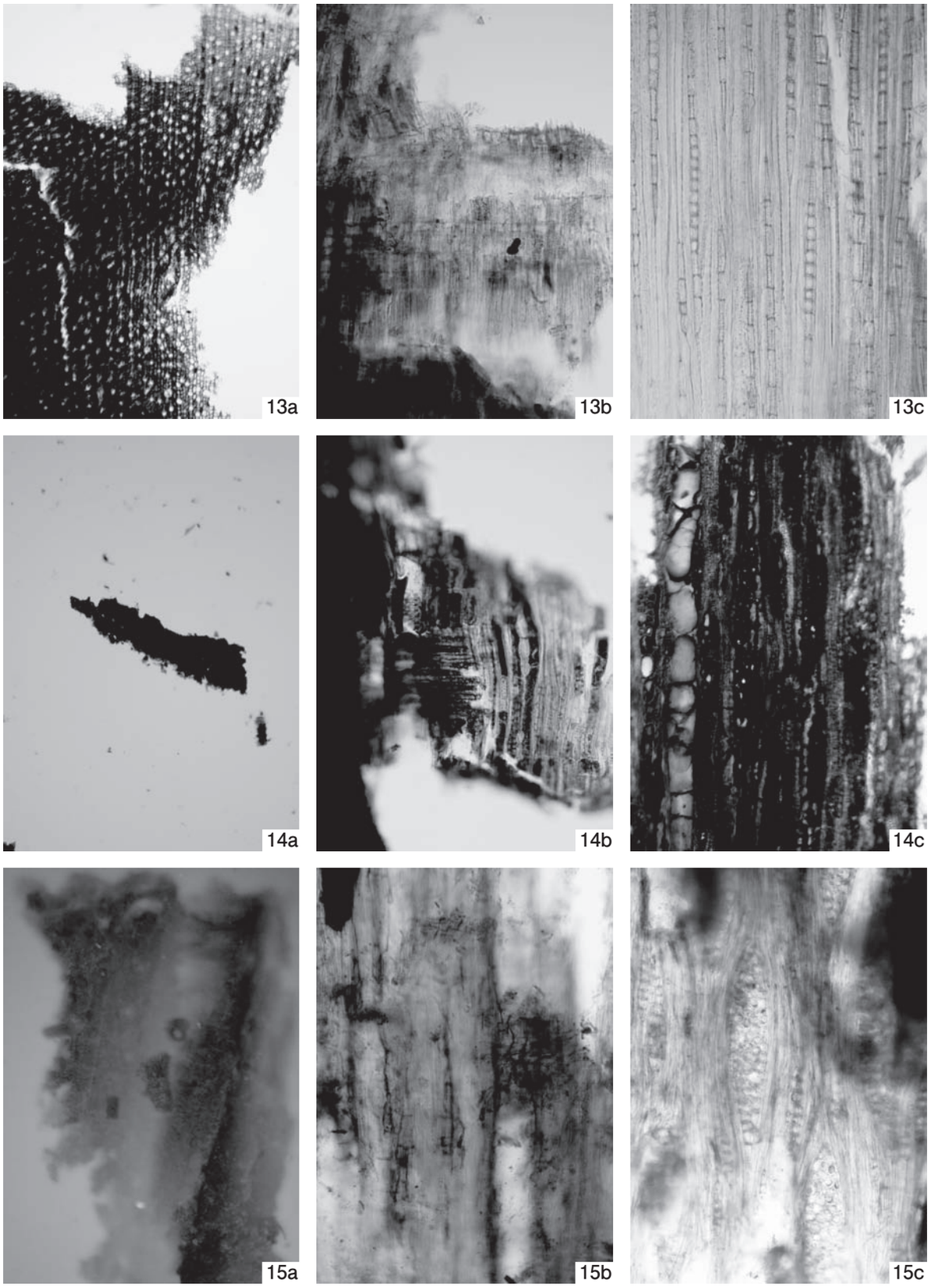
図版４　木材(4)



10. ヤマグワ(W054)
11. タブノキ属(W070)
12. クスノキ科(W092)
　　a：木口，b：柾目，c：板目

300 μm:a
200 μm:b,c

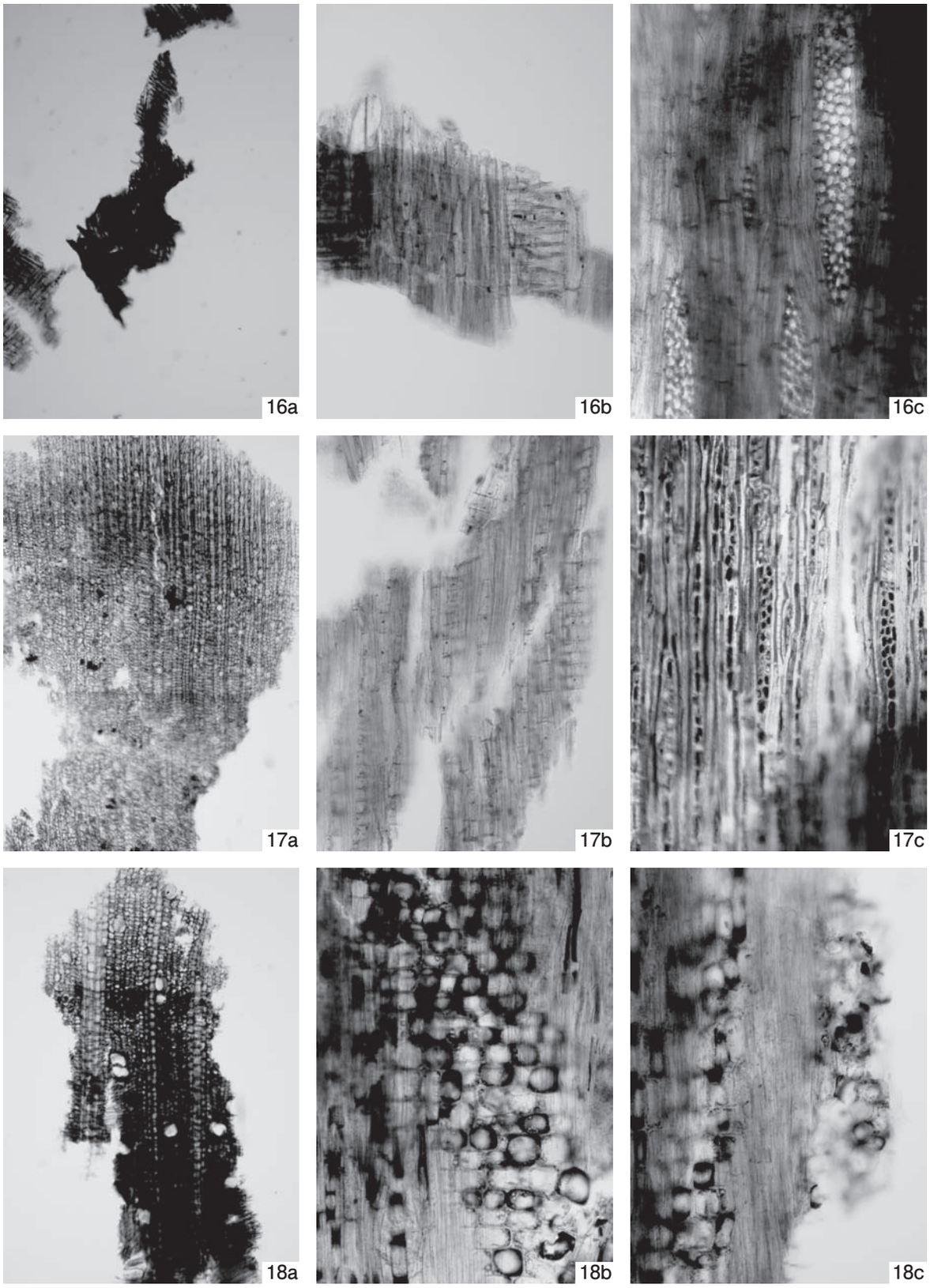
図版５　木材(5)



13. サカキ(W223)
14. イスノキ(W100)
15. サクラ属(W153)
　a：木口，b：柾目，c：板目

300 μm:a
200 μm:b,c

図版６　木材(6)



16. センダン(W146)
17. ツゲ？(W081)
18. タイミンタチバナ(W053)
　　a：木口，b：柾目，c：板目

300 μm:a
200 μm:b,c

1）第12次調査区全景（北から）　写真右側は大塚第6次調査

2）SB-04完掘状況（東から）

3）SK-01完掘状況（北東から）

4）SK-02調査状況（北東から）

5）SD-02調査状況（東から）

1）SD-01調査状況（北から）

2）SD-01黒色土掘削状況（西から）

3）SD-01井泉掘削状況（南から）

4）SD-01掘削状況（南東から）

5）SD-01掘削状況（南東から）

1）SD-01土器溜まり状況（南から）

2）SD-01土器溜まり状況（東から）

3）SD-01土器溜まり状況（北東から）

4）SD-01土器溜まり掘削状況（南から）

5）SD-01土器溜まり状況（北から）

1）SD-01掘削状況（南から）

2）SD-01掘削状況（南から）

3）SD-01木製品検出状況（南から）

4）SD-01木製品検出状況（南から）

5）井泉上層木製品検出状況（南東から）

6）井泉上層木製品検出状況（西から）

7）SD-01木製品出土状況（北から）

8）SD-01木製品出土状況（西から）

1）SD-01（B）完掘状況（北から）

2）SD-01（B）完掘状況（南から）

3）SD-01、井泉完掘状況（南から）

4）SD-01土層堆積状況（南東から）

5）SD-01土層堆積状況（南東から）

1）井泉掘削開始状況（南から）

2）井泉掘削状況（西から）

3）井泉上層遺物出土状況（南から）

4）井泉掘削状況（南から）

5）井泉完掘状況（西から）

1）井泉完掘状況（北東から）

2）井泉完掘状況（北から）

3）井泉完掘状況（北西から）

4）井泉完掘状況（南西から）

5）井泉完掘状況（南西から）

1）井泉完掘状況（南西から）

2）井泉構築状況（南西から）

3）井泉構築状況（北西から）

4）井泉横木切り込み状況（南西から）

5）井泉裏貨泉出土状況（西から）

1）SD-01（A）遺物出土状況（北東から）

2）SD-01（A）遺物出土状況（北から）

3）SD-01完掘状況（南から）

4）SD-01完掘状況（北から）

5）SD-01完掘状況（北東から）

1）現地説明会解説状況（西から）

2）現地説明会遺物展示風景

3）現地説明会遺物展示風景

4）現地説明会解説状況（南から）

5）大塚遺跡側現地説明会解説状況（南から）

001

002

003

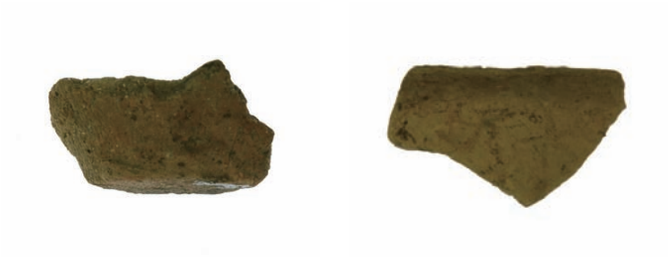
004

005

006

007

008


009 010

011

012

013

014

015

016

017

018

020

019

020

出土遺物（縮尺不同）

PL. 12

021

022

023

024

025

026

025

027

027

028

029

030

031

032

033

034

035

036

出土遺物（縮尺不同）

037

038

039

040

041

042

043

044

045

046

047

048

049

050

051

052

053

054

055

056

057

058

059

060

出土遺物（縮尺不同）

PL. 14

061

062

063

064

065

066

067

068

069

070

071

072

073

074

075

076

077

078

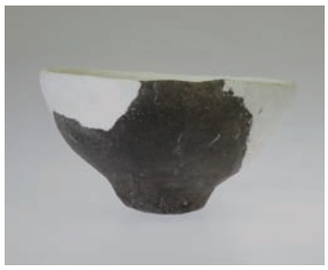
079

080

081

出土遺物（縮尺不同）

082


083

084

085

086

087

088

089

090

091

092

093

094

095

096

097

098

099

100

101

102

104

105

106

出土遺物（縮尺不同）

PL. 16

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

121

122

123

124

125

出土遺物（縮尺不同）

126

127

128

129

130

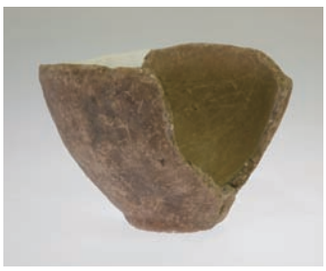
131

132

133

134

135


136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

出土遺物（縮尺不同）

PL. 18

149

150

150

151

151

152

152

153

153

154

154

155

156

157

158

158

159

160

161

162

163

164

165

166

出土遺物（縮尺不同）

166

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

179

179

180

180

181

出土遺物（縮尺不同）

PL. 20

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

191

192

192

193

193

194

195

196

197

198

199

200

出土遺物（縮尺不同）

201

202

203

204

205

205

206

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

出土遺物（縮尺不同）

PL. 22

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

244

245

246

247

出土遺物（縮尺不同）

248

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

出土遺物（縮尺不同）

PL. 24

268

269

270

271

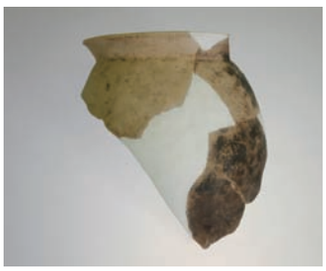
272

273

274

275

276


277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

出土遺物（縮尺不同）

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

出土遺物（縮尺不同）

PL. 26

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

330

331

332

333

334

335

336

337

338

339

出土遺物（縮尺不同）

340

341

342

343

344

345

346

347

348

349

350

351

352

353

354

355

356

357

358

359

360

361

362

363

出土遺物（縮尺不同）

PL. 28

364

365

365

366

367

368

369

370

371

372

373

374

376

377

378

379

380

381

381

382

383

384

385

386

出土遺物（縮尺不同）

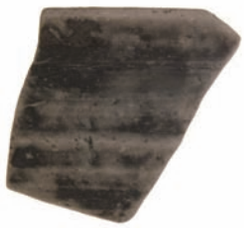
387

388

389

390

390


391

392

393

393

394

394

395

396

397

398

399

400

401

402

403

404

405

406

407

出土遺物（縮尺不同）

PL. 30

408

409

410

410

411

412

413

414

415

416

417

418

419

420

421

422

423

424

425

426

427

428

429

435

出土遺物（縮尺不同）

436

437

438

439

440

441

442

443

444

445

446

447

448

449

450

451

452

453

454

455

456

457

458

459

出土遺物（縮尺不同）

PL. 32

460

461

462

463

464 465 466

467

468

469

470

471

472 473 474

475

476 477 478 479

480

出土遺物（縮尺不同）

W001

W001

W002

W002

W003

W003

W004

W004

W005

W005

W006

W006

W007

W007

W008

W008

W009

W009

W010

W010

W011

W011

W012

W012

出土遺物（縮尺不同）

PL. 34

W013

W013

W014

W014

W015

W015

W016

W016

W017

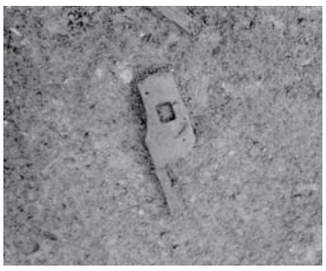
W017

W018

W018

W019

W019


W020

W020

W021

W021

W022

W022

W023

W023

W024

W024

出土遺物（縮尺不同）

W025

W025

W026

W026

W027

W027

W028

W028

W029

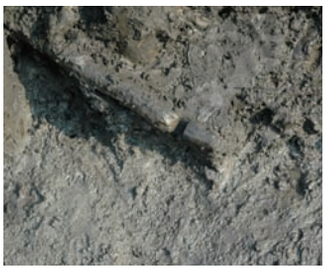
W029

W030

W030

W031

W031


W032

W032

W033

W033

W034

W034

W035

W035

W036

W036

出土遺物（縮尺不同）

PL. 36

W037

W037

W038

W038

W039

W039

W040

W040

W041

W041

W042

W042

W043-1

W043

W044

W044

W045

W045

W046

W046

W047

W047

W048

W048

出土遺物（縮尺不同）

W049

W049

W050

W050

W051

W051

W052

W052

W053

W053

W054

W054

W055

W055

W056

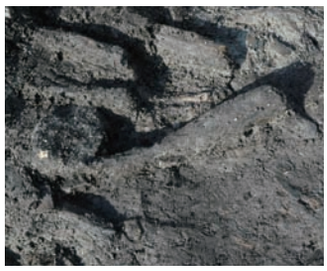
W056

W057

W057

W058

W058


W059

W059

W060

W060

出土遺物（縮尺不同）

PL. 38

W061

W061

W062

W062

W063

W063

W064

W064

W065

W065

W066

W066

W067

W067(裏)

W068

W068

W069

W069

W070

W070

W070

W071

W071

W071

出土遺物(縮尺不同)

W072

W072

W073

W073

W073

W074

W074

W074

W075

W075

W075

W076

W076

W077

W077

W078

W078

W079

W079

W080

W080

W081

W081

W082

出土遺物（縮尺不同）

PL. 40

W082

W083

W083

W084

W084

W084

W085

W085

W086

W086

W086

W087

W087

W088

W088

W089

W089

W089

W089

W090

W090

W091

W091

W092

出土遺物（縮尺不同）

W092

W093

W093

W093

W094

W094

W095

W095

W096

W096

W097

W097

W098

W098

W099

W099

W100

W100

W101

W101

W102

W102

W103

W103

出土遺物（縮尺不同）

PL. 42

W104

W104

W105

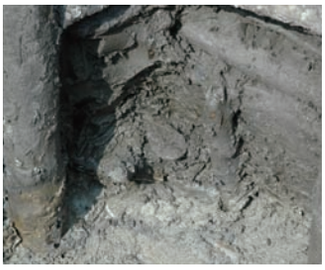
W0105

W106

W106

W107

W107


W108

W108

W109

W109

W110

W110

W111

W111

W112

W112

W113

W113

W114

W114

W115

W115

出土遺物（縮尺不同）

W116

W116

W117

W117

W118

W118

W119

W119

W120

W120

W121

W121

W122

W122

W122

W123

W123

W123

W124

W124

W124

W125

W125

W126

出土遺物（縮尺不同）

PL. 44

W126

W127

W127

W127

W128

W128

W129

W129

W130

W130

W131

W131

W131

W132

W132

W132

W133

W133

W134

W134

W134

W135

W135

W135

出土遺物（縮尺不同）

W136

W136

W136

W137

W137

W137

W138

W138

W139

W139

W140

W140

W140

W141

W141

W141

W142

W142

W143

W143

W143

W144

W144

W144

出土遺物（縮尺不同）

PL. 46

W145

W145

W146

W146

W146

W147

W147

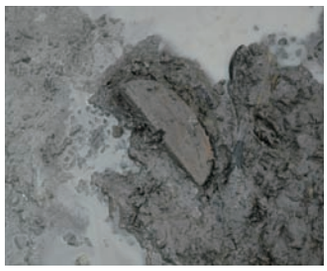
W147

W148

W148

W149

W149


W150

W150

W151

W151

W152

W152

W153

W153

W153

W154

W154

W155

出土遺物（縮尺不同）

W155

W156

W156

W157

W157

W158

W158

W159

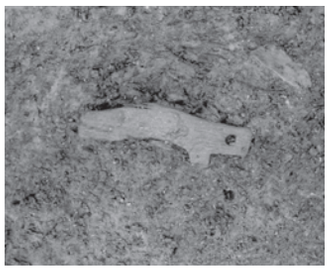
W159

W160

W160

W161

W161


W162

W162

W163

W163

W164

W164

W165

W165

W166

W166

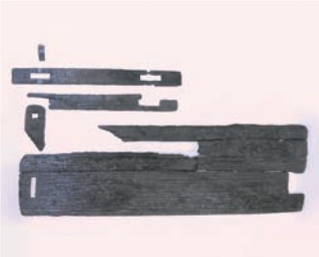
W167

出土遺物（縮尺不同）

PL. 48

W167

W168


W168

W174

W174

W180

W180

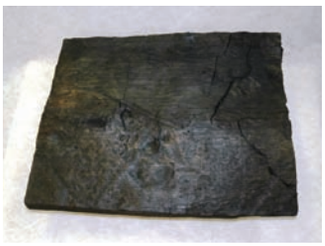
W181

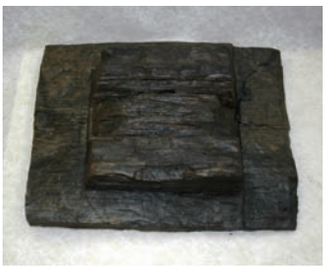
W181

W181

W181

W184


W184

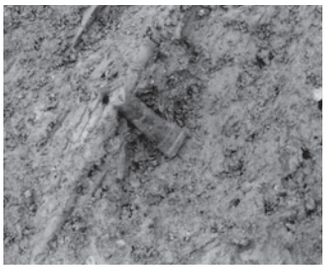

W184

W185

W185

W186

W186


W187

W187

W187（X線写真）

W188

W188

W188

出土遺物（縮尺不同）

W189

W189

W189

W190

W190

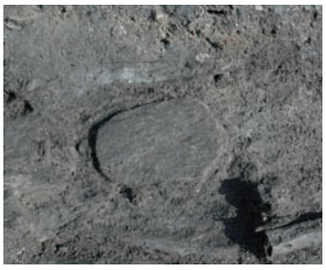
W190

W191

W191

W192

W192


W193

W193

W194

W194

W195

W195

W196

W196

W197

W197

W198

W198

W199

W199

出土遺物（縮尺不同）

PL. 50

W200

W200

W201

W201

W202

W202

W203

W203

W204

W204

W205

W205

W206

W206

W207

W207

W208

W208

W209

W209

W210

W210

W211

W211

出土遺物（縮尺不同）

W212

W212

W213

W213

W214

W214

W215

W215

W216

W216

W217

W218

W218

W219

W219

W220

W220

W221

W221

W221

W221

W222

W222

W222

出土遺物（縮尺不同）

PL. 52

W223

W223

W224

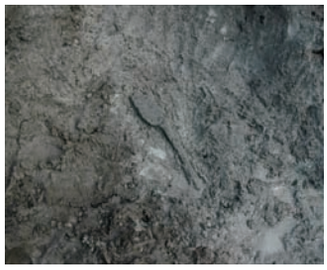
W224

W225

W225

W226

W226


W227

W227

W228

W228

W229

W229

W230

W230

W230

W231

W231

W232

W232

W233

W233

W234

出土遺物（縮尺不同）

W234

W235

W235

W236

W236

W237

W237

W238

W238

W239

W239

W240

W240

W241

W241

W241

W242

W242

W243

W243

W244

W244

W244

W245

出土遺物（縮尺不同）

PL. 54

W245

W246

W246

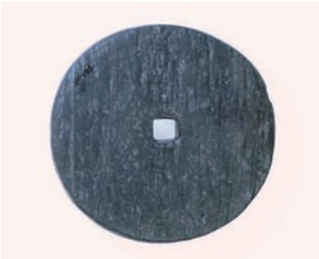
W247

W247

W247

W247

W248


W248

W249

W249

W250

W250

W251

W251

W252

W252

W253

W253

W254

W254

W021,W022

W072,W073

W164,W165,W168~173,W174~179

出土遺物（縮尺不同）

漆塗筒形容器裏

PL. 55

W153裏

木製短甲裏

W188裏

－ 報告書抄録 －

書　　名	今宿五郎江 8
ふりがな	いまじゅくごろうえ 8
副 書 名	第12次調査の報告
巻　　次	
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第1066集
編著者名	加藤隆也
編集機関	福岡市教育委員会
発行機関	福岡市教育委員会
発行年月日	20100201
作成法人 ID	40130
郵便番号	810-8621
住　　所	福岡市中央区天神1-8-1
遺 跡 名	今宿五郎江遺跡
ふりがな	いまじゅくごろうえいせき
遺跡所在地	福岡市西区今宿地内
市町村コード	40130　　遺跡番号 0688
北　　緯	33°34′31″
東　　経	130°15′53″
調査期間	20061201～20070309
調査面積	1,340㎡
調査原因	土地区画整理
種　　別	集落
主な時代	弥生時代中期末～古墳時代初頭
遺跡概要	竪穴住居1、掘立柱建物1、土壙11、溝2
特記事項	環濠内から半島系土器、朱精製土器を含む土器と伴に、大量の木製品が出土

調査終了後風景

表紙　写真：調査風景（北から）
裏表紙写真：調査地と能古島を望む
（伊都区画整理事務所 提供）

今宿五郎江 8

— 第12次調査の報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1066集

2010（平成22）年1月27日

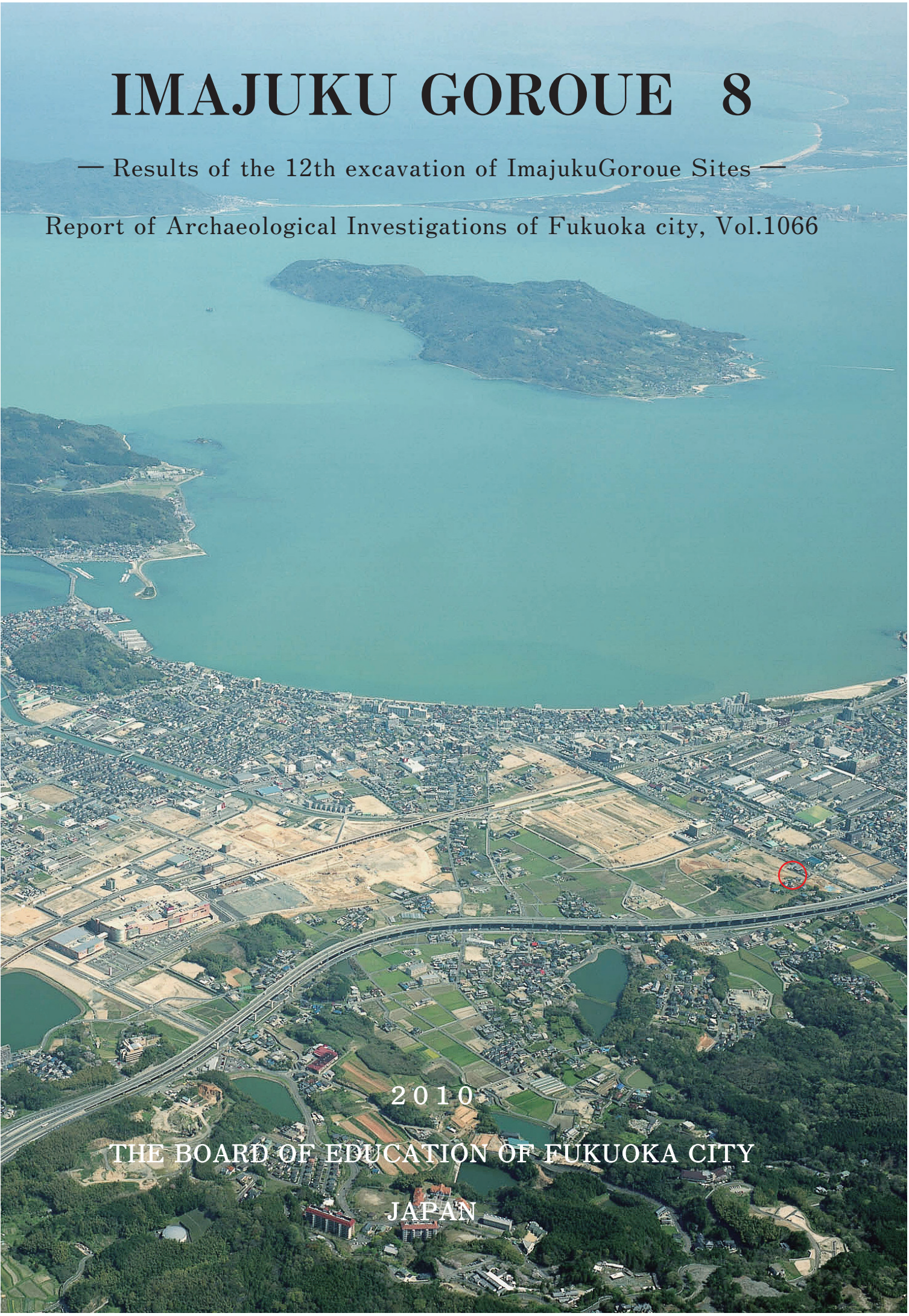
発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷　西日本印刷工業株式会社
福岡市博多区井相田3丁目2－1

IMAJUKU GOROUE 8

— Results of the 12th excavation of ImajukuGoroue Sites —

Report of Archaeological Investigations of Fukuoka city, Vol.1066



2010

THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

JAPAN

今宿五郎江8

—第12次調査の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第一〇六六集

二〇一〇

福岡市教育委員会